

徳島の剣道

特報

1. 新八段誕生
2. ふるさとトーク

第34号



八段審査（二次）玉田先生の胴が決まる

徳島県剣道連盟

連盟会員の作品欄

次号に向けての情報提供をお願いします。
今回は徳島支部の吉田昌彦先生の絵画です。



気にならる現象

徳島県剣道連盟 会長 三木 毅



我が国の基幹産業の一部で、平成二十八年と二十九年の二年続きで驚くべきことがあった。車の燃費データの偽造や鉄鋼産業の強度偽造である。これら産業は我が国のみならず世界的に見ても経済を牽引するほどの実力と信頼が高かっただけに犯した中身は恥ずべきものであり、啞然とさせられた。

戦後七十二年を顧みて、我が国が世界の先進国と位置付けられ、経済発展を成し遂げたと高く賞賛されたのは、その根底に日本人の誠実・勤勉・正確・緻密・根気・知恵・伝承など「人の徳」と言われる崇高な部分が世界の人たちの心に響き、高い信頼を得たものであり、鼻が高い思いと痛快さを覚えていたのであった。

しかし前述した様に、恥ずべき醜態が暴露され私たちが聞知することになったが、そのような不正をしなければ利益をあげ、多くの社員やその家族を養うことが出来ないのか、そしてその不正による利潤は高額だったのではないかなどの思いが脳裏を走った

のを覚えている。企業トップが深々頭を下げる姿がマスコミで報道される度に、この上ない不快感と頭を垂れた企業トップや幹部に憤慨の気分が高鳴るのを覚え、情けない、恥ずかしいを連発したように記憶している。

また、ここ数年の通信機器の発展はこれまた驚くべきものとなった。今や世界のメディアは瞬時に各国の出来事を世界に配信できる。また私どもが身近に使用している携帯電話もスマホへと移行し映像を瞬時に交換できる時代となった。

私が体験した前職では、現場の状況を撮影した写真を事件指揮官に届ける工夫に苦慮したことを思い出すと、通信機器で写真や動画のやり取りが瞬時にできる利しさは、映像送信技術の開発に携っている技術者に敬意を表する次第である。

ところでこの写真の即時送信に著しい変化が表れており、加工写真の送信が常態化し、娯楽の一部化している時代である。また意思を伝達する通信文が記号挿入による簡略化や文章の頭文字の結語を用いる新語が編み出され、「それって日本語か」と念を押

すことがあり、あきれることがある。心ある知識人や語源学者などは大いに嘆きの言葉を発しているところであり、美しいといわれる日本語の崩れる姿にこの上ない憂いを感じている。

世の中の変化変貌は多岐多様であるが、企業のデータ偽造、日本語の簡略化などを、今風と解して、やり過ぎすしかないのでかとさえ思う昨今である。

しかし一方で、「そう簡単にやり過ぎす訳にはいかんだろう」という思いを強くもつことは大事ではないかと思うのである。

そこで「剣道界は大丈夫か」との思いを向けて見ると気が付くことがあった。小学一・二年生のかわいい剣士が、先生の指導どおりに「提刀・帯刀」をして、基本通りの「礼」をして、きれいな姿勢で大声を出し剣道ができているのを目にした時、「剣道は、恰好いい」と誰もが思うに違いない。しかし学年が進むに従い、「提刀・帯刀」とそれに続く「礼」の動作が簡略化されている現状を目にすることが多くなったように思うのである。過去には、全国的な現象として、勝負に勝つために、「三所隠し」「時間空費」「不当鏢競り合い」などが現れ、数年をかけて是正したことを思い出している。

ことわざに「子供から教わる」というのがある。ここで述べた、「提刀・帯刀」の区分が出来ていない現状を見た時、出来ていないことについては、「きっちりしたことを教えていない」ことに気が付く必要があるのではないか。少年剣士たちは、教えればできるものであり、「出来ていないことは何故か」に気が付いていな

いことが重大であると解するべきと思うのである。

基本が崩れること、簡略が常態化すること、きっちり教えないことなどを、やり過ぎすと次代を担う剣士は大いに迷うことになりはしないか、基本を正しく伝承することに情熱をもって育成に努めたいものである。



『徳島の剣道 第三十四号』目次

巻頭言……………三木 毅……………1

《特報Ⅰ 新八段誕生》

玉田晋作先生の剣道八段昇段を祝して……………澤井 勝之……………5

祝 玉田八段……………鈴木 伸一……………8

八段合格おめでとう……………榊山 紹生……………10

剣道八段に合格して……………玉田 晋作……………14

《特報Ⅱ ふるさとトーク》

心のふるさと 徳島……………橋本 誠司……………16

顕彰一覽

剣道有功賞……………高島 稔之……………21

少年剣道教育奨励賞……………伊賀 雅人……………24

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………谷本 浩志……………30

体育功労賞……………中尾 正輝……………34

全日本女子学生優勝大会……………玉田理沙子……………36

第三十六回全日本女子学生剣道優勝大会を終えて……………岩谷 愛夢……………38

第三十九回全国スポーツ少年団剣道交流大会に出場して……………岩谷 潤哉……………40

第三十九回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加して……………岩原 潤哉……………40

お通杯大会……………平野 悦子……………42

「お通杯」に感謝して……………平野 悦子……………42

全国郵政大会……………久保 隆司……………44

第五十九回全国郵政武道大会に参加して……………久保 隆司……………44

平成二十九年度徳島県中学校剣道優秀選手……………久保 隆司……………46

平成二十九年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………久保 隆司……………47

先生を偲ぶ……………三木 毅……………48

盟友二人を偲んで……………三木 毅……………48

剣友・出葉成一先生の思い出……………中尾 正輝……………52

出葉成一先生を偲ぶ……………塩田 善治……………55

出葉成一先生を偲ぶ……………近久 寛……………57

笠井勝先生を偲ぶ……………高島 稔之……………60

笠井勝先生を偲んで……………出口 正春……………61

兄 西岡金若を偲んで……………福井 軍二……………63

剣友 西岡金若先生を偲ぶ……………東内 勉……………66

全国講習会報告……………吉田 昌彦……………67

第五十二回剣道中央講習会(西日本)に参加して……………森 将夫……………72

第四十四回居合道中央講習会に参加して……………山本 泰史……………74

徳島県剣道連盟春期講習会 藤原崇郎先生講習要録……………木原 資裕……………77

徳島の剣道史……………坂本 憲一……………81

阿波の刀剣(続新々刀編)……………坂本 憲一……………81

大会・行事所感……………佐賀 博史……………128

あと一步……………平野 悦子……………129

平成二十九年度女子剣道審判研修会(全剣連主催)受講報告……………福多 雅英……………130

第三十七回四国教職員剣道大会……………福多 雅英……………130

各種大会に参加して……………平野 誠司……………133

「自己表現の場にて」全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して……………平野 誠司……………133

第六十五回全日本都道府県対抗剣道優勝大会を終えて……………美馬 直行……………135

第七十二回国民体育大会に参加して……………	白木恒二郎	159
全日本居合道大会で学んだこと……………	満寿 良史	161
全日本剣道選手権大会に出場して……………	大石 洋史	163
四国四県剣道大会の監督として思うこと……………	美馬 勝行	165
全国警察剣道大会を終えて……………	山室 雅幹	168
平成二十九年徳島県高齡剣友会活動状況……………	乾 清孝	170
第四回四国高齡者剣道交流大会 優勝……………	美馬 勝行	174
第三十九回全日本高齡者武道大会……………	吉田 昌彦	178
「団体東京・兵庫を降しベストエイト!」……………	長崎 秀信	181
第三十回全国健康福祉祭「たそがれて、晴れ舞台」……………	長崎 秀信	181
随 想		
剣道と川漁師……………	井内 勝則	186
私の剣道・感謝……………	岡田 洋典	189
剣道に対して……………	安丸 孝生	191
私と剣道……………	日野 利之	193
稽古の中で……………	柳谷 照男	195
矯正の剣道……………	宮本 祐康	197
称号・段位合格者		
七段に合格して……………	岡田 豊	199
剣道七段合格にあたり……………	鈴木 敬三	201
七段審査に合格して……………	中尾 幸雄	203
七段に昇段して……………	馬見 和秀	205
七段に合格して……………	近藤 正章	207
七段審査に合格して……………	井村 行宏	209
七段に合格して……………	近藤 浩文	210
剣道七段に合格して……………	藤本 常己	211
二兎追わねば二兎を得ず……………	一村 昌和	213
剣道六段審査に合格して……………	森本 武夫	216
六段審査に合格して……………	大石 洋史	217
六段審査に合格して……………	松本 憲二	218
六段審査に合格して……………	松本 真治	219
出合いからの六段審査……………	下川 修一	220
六段審査に合格して……………	尾脇 広美	222

六段審査に合格して……………	内海 直弥	224
剣道教士(称号)筆記試験免除……………	武田 修典	225
剣道錬士に合格して……………	江口 大祐	227
称号・段位合格者一覧……………	江口 大祐	228
がんばろう徳島		
事務局取材レポート……………	藤川 和秋	232
頑張ってます! 半田剣道教室……………	藤川 和秋	232
専門部報告……………	藤川 和秋	232
事業部……………	佐賀 博史	235
審査部……………	佐藤 佳宏	236
強化部……………	平野 誠司	238
少年部……………	松村 和宏	239
女子部……………	竹内佳代子	240
居合道部……………	福井 勝	242
中体連……………	佐藤 浩	244
高体連専門部……………	玉田 晋作	246
大学連……………	木原 資裕	249
平成二十九年 大会記録……………	木原 資裕	250
徳島新聞に見る戦いの跡……………	木原 資裕	280
平成三十年 昇段審査学科試験問題・解答例……………	木原 資裕	305
平成三十年 徳島県剣道連盟行事予定表……………	木原 資裕	313
平成三十年 審査実施計画表……………	木原 資裕	315
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………	木原 資裕	316
剣連事務局について……………	木下 裕康	317
徳島県剣道稽古場所一覧……………	木下 裕康	320
居合道 道場案内……………	木下 裕康	323
編集後記		

表紙題字	堀江 幸夫
さし絵	村嶋 恒徳 (茨城県在住)

(元徳島県剣道連盟名誉会長・故)

特報Ⅰ 新八段誕生

玉田晋作先生の剣道八段昇段を祝して

富岡西高校剣道部 元顧問 澤 井 勝 之



数年前から、玉田先生が剣道八段の一次審査を五回も合格していたので、いつか、必ず、合格すると強く信じていました。昨年末に先生の十二回目の八段受審終了後、羽田空港から先生の携帯で合格の知らせを聞いた時、信じていたことが現実となり嬉しくて涙がこぼれました。総受審者二〇〇五人中、なんと合格者は十二人という超難関であったとか。すごいことです。本当におめでとうございます。

玉田先生が剣道を始めたのは小学校三年生の時でした。当時大ヒットした森田健作主演のテレビドラマ「おれは男だ！」を観て、剣道のカッコよさに憧れ、友達に「剣道やったら楽しいぞ。一緒に剣道せえへんか。」と誘われたのがきっかけで、阿南少年剣道教室に入会したのが八段への道の最初の一步でした。当時の指導者は清原先生、遠藤先生、有賀先生等でした。そこで基本からみっ

ちりと教えられ、めきめきと上達し、高学年では県下少年剣道大会で優勝を飾っています。中学校は阿南中学校でした。三年の時の県下中学校総合体育大会剣道で、個人、団体ともに準優勝でした。そのころ、私は富岡西高校の剣道部の顧問でした。「来年、強い選手が富岡西高校に入ってくるよ」と多くの人に聞かされていました。

待ちに待った、玉田先生等が入学したころの富岡西高校は、剣道の伝統校で、卒業生に西谷先生（八段）、河田先生（八段）をはじめとする立派な剣道の先生方が多いし、現役も強い選手が沢山いました。また、当時県下一という立派な剣道場が少し前の年に新設されたばかりでした。その年、剣道部に入部したのは、男子は玉田、布川、松本、北浦、原、女子は田井、野田、岡部、吉田でした。全員が強くて素晴らしい選手ばかりでした。当時の玉田先生はいがぐり頭で、落ち着いた、真面目で、しっかりとした生徒で、新入部員の時から風格を感じさせるものがありました。顧問の私の力量がなかったせいもあり、練習は極めてシンプルでした。基本は切り返し、面、コテ、胴、応じ技ぐらいで、当時流行していた、スピード重視のパターン練習などはほとんどやらず、基本練習は大きく、真っすぐ、強く打つという練習を一年間繰り返しました。そのあと、広い剣道場をいっぱいを使い、お互い同士の地稽古をたっぷりやっていました。そのころの玉田先生は、高校生とは思えないようなどっしりとした構えで、重心がぶれずに、大きく、真っすぐ、強い打ちの、正しい剣道をしてい

ました。監督の私が細かな指導ができなかったのが幸いしたのか、部員は、やらされる練習ではなく、自分で考え、自分から進んで、稽古を楽しむようになっていました。その中心となっていたのが玉田先生で、監督の私は剣道部員と同じメニューを一緒にになって練習してただけでした。玉田先生が二年の時、笹谷、井利元などの強い選手が新たに入部し富西剣道部は男子団体で鉄壁の布陣を組めるようになりました。玉田先生が二年の時、県下高校総体で団体優勝し、四国大会、鹿児島インターハイに参加しました。

その四国大会では同学年の布川選手が個人で準優勝しました。同じ部員に布川選手のような強力なライバルが存在し、このことが玉田先生を更に強くしていったと思います。また、この時の鹿児島インターハイでは男子団体でベスト十六に入りました。徳島県としては十数年ぶりの快挙でした。

玉田先生が高校三年生時の県高校総体男子団体メンバーは、先鋒・笹谷、次鋒・北浦、中堅・玉田、副将・松本、大将・布川でそれぞれが異なる剣風を持ち、個性あふれる、強力な布陣でした。当時は剣道人口も多く、ライバル校がひしめく中、男子団体は一回戦四一で、あとは決勝戦まで全て五〇で圧勝しました。男子個人は玉田先生が優勝しました。また、この時の四国大会は団体三位でこれも快挙でした。インターハイは愛知県でありましたが、予選リーグで敗退し、全国の壁の厚さを感じ、良い勉強になりました。

玉田先生の高校在学中は年間に沢山剣道の大会がありました。

富西はそのほとんどに優勝し、その都度、優勝旗を学校に持ち帰ってきていたので、校長室にあった、優勝旗を立てる穴がなくなり、校長が「もう優勝旗を飾る場所がないですよ」と嬉しい悲鳴をあげたのを思い出します。当時、富西剣道部は強い選手が沢山いました。その中で一年生から三年生まで通してレギュラーであったのは玉田先生一人だけでした。試合のメンバーは、監督の私が決めるのではなく、大会ごとに部内予選を行い、誰にでも出場のチャンスを与えていました。したがって部内で勝ち上がることが大変でした。その中ですべての試合のレギュラーであった玉田先生はすごかったと思います。

勝ち続けていたせいもありますが、剣道部の雰囲気は最高で、皆な仲が良く、明るく、楽しんで剣道をしていました。剣道の練習だけでなく、部員全員で香川県の鬼ヶ島へ水泳に行ったり、私の投げ網でアユ漁をしたり、剣道場で相撲をしたりで部員皆で遊びました。高校時代の玉田先生は真面目な顔で面白いことを言うので皆でよく笑いました。

玉田先生が高校一年生の時、富西卒業生であった福多先生（現城北高監督、全日本三位）が日体大から富西に教育実習生として来られ、剣道部の指導もしてくれました。また福多先生の後輩の上田先生（現富岡西高校監督）も夏休み期間などに剣道部の指導に来てくれました。そのお二人の先生から「日体大に行って、体育の先生になったら楽しいぞ!!」と言われ、玉田先生はその二人の先輩と同じ日本体育大学体育学科・武道学科に進学し、剣道

の専門家への道を歩み始めることになりました。

玉田先生が高校卒業して大学に進学した後も、私はいつも先生のが気になるっていました。玉田先生が大学一年の秋、私は富西の修学旅行で生徒引率教員として東京に行った際、剣道具と竹刀を持っていきました。そして、修学旅行の自由行動の時、こっそりホテルを抜け出して、玉田先生が練習している日本体育大学剣道部の道場に行き、玉田先生の日体大での練習風景が知りたくて、大学の先生の許しを経て、剣道部の練習に参加させてもらいました。練習の後、大学の監督から「玉田君は毎日、真面目に元気で、一生懸命練習をしていますよ」という言葉を頂き、ものすごく安心したことを覚えています。今から考えると、修学旅行引率の仕事を放棄して、よくこんなことが出来たなあと思います。

玉田先生は大学卒業後、脇町高校二年間、富岡東高校一年間の講師を経て、高校教員採用試験を受け、徳島県立高校と文理中高校の両方に正規教諭として合格しました。どちらに行く方が良いか、私も含めて周囲の方が悩みましたが、当時文理中高の剣道部監督であった中山繁輝先生の強い勧めと、中山先生の剣道に対する姿勢に感銘し、徳島文理中高教諭として現在に至っています。

平成四年、玉田先生が脇町高校の講師だったところ知り合った、真理さんと結婚しました。真理さんは川島高校の剣道部出身で、まさに剣道が取り持つ縁でした。私はお二人の仲人役を頼まれました。その時に、お二人からいろいろ話を聞きました。その中で、「お二人の初デートはどこに行ったの」と尋ねると、「二人ともジャ-

ジを持参してトレーニングジムに行きました」という答えでした。私はこの話に感動しました。やはり剣道に対する取り組みが普通の人は違うなと感じました。現在の玉田先生の家族は、奥さんの真理さんは剣道六段、日本体育大学に通う長女の理沙子さんは全日本学生剣道大会女子団体優勝、次女の真子さんは早稲田大学で文武両道を目指して奮闘中、まさに絵にかいたような剣道一家です。今回の玉田先生の八段昇段の大きな支えは先生の家族にあつたと思います。とりわけ真理奥様の理解と協力なくしての八段合格は難しかったでしょう。

玉田先生の大きな実績の一つとして、皆さんご承知の、平成五年、東四国国体剣道成年二部での、団体優勝です。先鋒・玉田、中堅・鈴木、大将・那倉のメンバーでした。剣道にかかわる人のみならず徳島県人みんなが喜んだ優勝でした。

七十六歳となった今でも、玉田先生と稽古をし、まるで家族のように長い付き合いをしている私としては、玉田先生の剣道八段昇段は、本人の小学校から現在に至るまでの剣道に対する真摯な取り組みは勿論ですが、三木会長をはじめとする県剣道連盟のご支援、多くの先生方のご指導・ご鞭撻、暖かいご家族の支え、文理中高剣道部、セント歯科剣道稽古会の皆様、夏休みなどにご指導いただいた東京の先生方、その他多くの関係者の方々に支えられたおかげと思ひ感謝の念に耐えませぬ。剣道八段合格を契機として、玉田先生のこれからの益々のご活躍をご祈念申し上げます。

祝 玉田八段

徳島支部 鈴木伸一



玉田君が、今まで八段審査に臨み一次審査を何回か合格していた実績もあり、八段昇段に最も近づいているような感じがしていましたが、この度、見事に八段昇段の偉業を成し遂げられたことに感激すると共に、心からお祝いを申し上げます。

改めて、「玉田先生八段ご昇段おめでとうございます。」

今までの、人並み以上の精進の積み重ねが最難関とも言える剣道最高段位八段に昇段されたことと思います。

後日、彼と会う機会があり、早速お慶びを伝えた時に、幸運にも一次、二次審査のビデオ録画を見せて貰うことができました。その時の感想は、「気位のある見事な立会」で、烏肌が立つほどの「気品と風格」にあふれた姿に感銘しました。

彼とは、平成五年地元で開催された、第四十八回東四国国民体育大会剣道競技（成年二部）団体メンバーの一員として出場しました。

彼が先鋒、次鋒に私、大将には那倉文夫先生と言うメンバーで大会に挑んだところ、彼は初戦から決勝まで四試合すべて全勝の快挙を成し遂げ、優勝に大きく貢献してくれました。

彼の活躍がなければ決して成し得なかったものです。当時を思い出すと彼とは幾つかの共通点がありました。

一、平成元年から共に強化メンバーとなって、互いに切磋琢磨しながら稽古に励んでいる最中、腰痛、アキレス腱痛等で身体が悲鳴をあげていた時、同じ整骨院へ長年に渡り通院していたこと。

二、「成年二部」三人全員の血液型が偶然にもB型でした。B型の特徴は、理性より本能で行動する「したいことはしたい、したくないことはしたくない。」と言ったスタンスを崩すことはまずないといった性格同士のため、三人の中でしたいこと、したくないことが一致しないときは、お互いの協調性に欠ける場面も多々ありましたが、逆に、考えが一致した時の結束力は、一段と強固になっていたB同士でいたこと。

三、後に、我々の思いが「三B会」と称する会が発足されることになり、現在に至るまで、親睦会を大切にしています。また、二次会では必ずといってよいほど、カラオケ三昧、特に彼は、マイクを持ったら離さないほどのカラオケ好きであったため、それに乗っかって、私と那倉先生も我を忘れて歌三昧、お互いに有意義な楽しい時間を過ごし合っていたこと。

以上のようなことが、彼との共通したところがありました。改めて「良き剣友」との出会いに心から感謝しております。



平成5年 東四国国体優勝（左より筆者・那倉・玉田）

最期になりますが、玉田先生におかれましては、今後、徳島県
剣道連盟及び全国剣道連盟の発展に貢献できることを期待すると
共に、益々のご活躍を祈念し、お慶びを申し上げます。



八段合格おめでとう

阿南支部 榊 山 紹 生



この度の八段審査合格に心からお祝い申し上げます。毎年合格率が厳しくなる中、徳島で『八段に一番近い男』と言われプレッシャーも大きかったことと思います。

私と玉田君は同じ年で、小学生の時、『阿南少年剣道教室』で出会い共に剣道を習い始めました。その頃、指導者として故清原栄先生、遠藤一美先生、故有賀秀敏先生方が中心となり、阿南市の剣道を普及発展させようと、中心街に少年剣道教室を立ち上げたと聞いております。素晴らしい指導者の中、阿南市各地から少年が集まり、厳しい稽古をしてまいりました。稽古終了後には、一般の稽古にも参加し、当時、血気盛んな先生方（現在六十歳過ぎ）との稽古で、心身共に成長したように思います。玉田君はその頃よりずば抜けたセンスと、剣道に取り組む真面目さが印象に残っています。

県下大会でも数多く入賞し、水戸東武館の全国大会へも参加しました。遠藤先生、有賀先生引率のもと、寝台列車で東京へ向かった楽しい思い出もあり、まさに修学旅行気分です。試合の記憶は早々に負けたことしかありません。

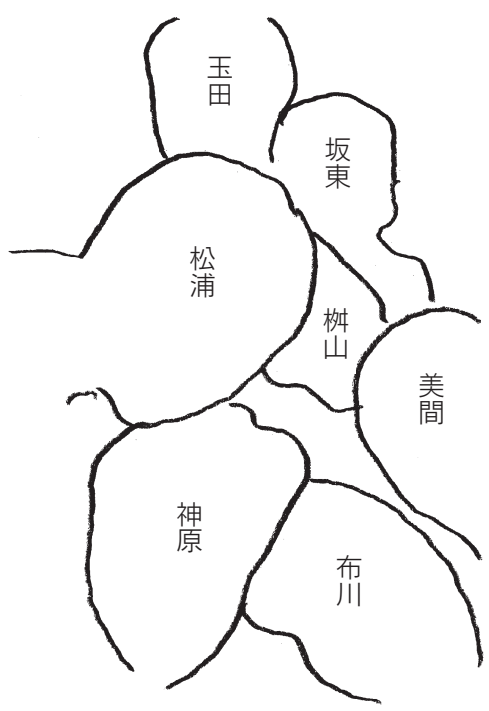
中学になり、自宅に遊びに行くと、中庭にタイヤの打ち込み台が設置され、部屋には、当時最先端のブルーワーカーをいち早く導入し、足にはパワーアングルを巻き付けて筋トレを行い、常にプロテイン飲料を持ち歩き、寝ている時も竹刀を抱いているほど、剣道に対する情熱は人一倍強かったように思います。

玉田君は、見能林小学校、阿南中学校、富岡西高校、日本体育大学と活躍し、そして体育教員となり、社会人になってからは、あまり剣を交えることも少なくなりましたが、私の勤務先に、小さな体育館があり、空いているときは一般開放しており、『楽しく自由に剣道をやろう』ということで毎週月曜日に、年齢、地域、段位等関係なく、軽い気持ちでセント道場稽古会が平成二十二年頃より始まりました。稽古があまり好きではない私にとって拘束される月曜日がやや苦痛ではありましたが、剣道好きな剣士が集まり、それぞれの目標に向かって稽古をしている姿には熱いものを感じます。その中で玉田君は自分の稽古と若手剣士の指導と、熱心に気を緩めることなく皆の見本として剣道に取り組んでおりました。この八段合格はセント道場での稽古仲間にとっても大変喜ばしいことであり、皆の大きな目標になったように思います。

これから、八段としての歩みは、今まで以上に大変かと思いますが、自分の剣道を忘れず、徳島県の剣道の発展、また後輩の指導にと、今後益々のご活躍をお祈りしてお祝いの言葉といたします。本当におめでとうございました。



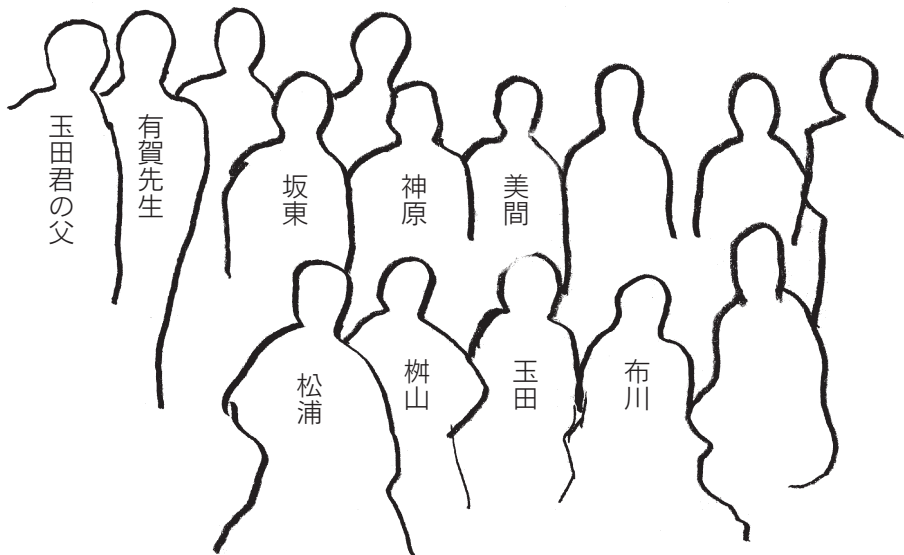
セント道場稽古会



水戸東武館 全国選抜大会へ向かう寝台列車の中

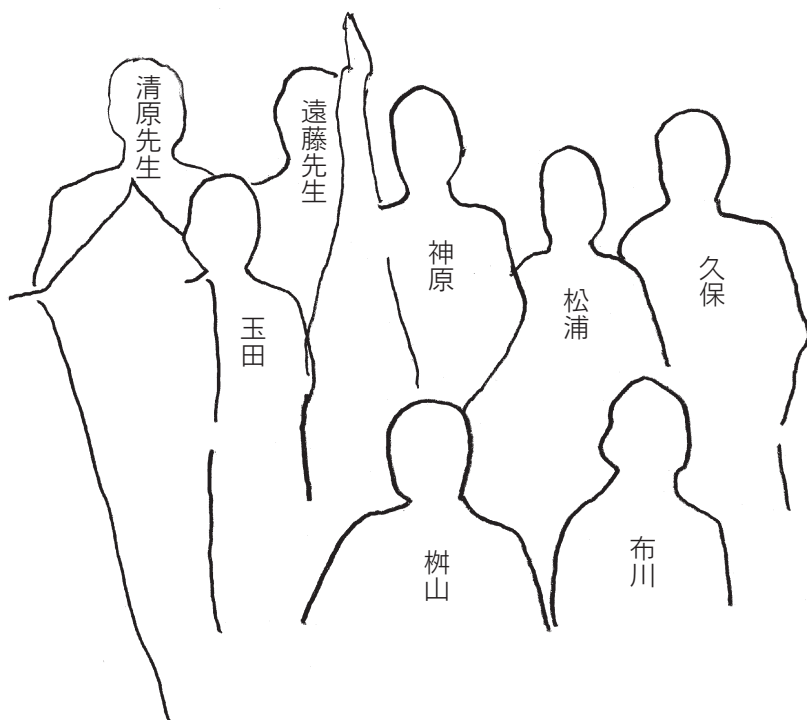


水戸東武会 全国選抜大会会場にて





阿南市長に表敬訪問後（阿南市役所前にて）



剣道八段に合格して

玉田晋作



平成二十九年十一月三十日、東京都日本武道館で行われた審査会において剣道八段に合格することができました。

振り返ってみれば、

・小学校三年生で阿南少年剣道教室において剣道を始め、剣道の基本と礼儀作法を手取り足取り教えていただいた清原栄先生、遠藤一美先生、有賀秀敏先生をはじめとする阿南支部の先生方。

・阿南中学でお世話になった日下旭先生。

・富岡西高校では、自ら求めて稽古する精神と、剣道の指導者への道に導いていただいた澤井勝之先生。

・日本体育大学では、剣道の専門家になるべく、専門的な教養を教えていただいた志澤邦夫先生、袴田大蔵先生をはじめとする指導陣の先生方。

・大学卒業後から現在まで社会人としての剣道をご指導いただいた堀江幸夫先生、大沢孝彰先生をはじめとする徳島県剣道連盟の先生方また全国各地の先生方。

・小学生から現在まで、切磋琢磨してきた多くの剣友の皆様。

・教員としての私と一緒に試行錯誤しながら修行してくれた多く

の教え子達。

・気持ちよく剣道ができる環境を提供していただいている職場。

・剣道はやらずとも、体や心の支えとなっていたいただいている多くの方々。

・最も近くで応援してくれた家族・親族。

等々

これまでお世話になった方々は枚挙にいとまがありません。全体的に愛情をもって育てられ、現在の私があります。これまでお世話になった全ての方々に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

私は、体格にも恵まれず、また特別な運動能力を持ち合わせているわけでもありません。私がここまでこれた唯一の理由があるとするならば、剣道を愛し、自ら求めて稽古を続けてきたからだと思います。私が愛するこの素晴らしい剣道を、後世に伝えるため微力ではありますが全力を注いで参りたい、そして、剣道を愛する心を持った人々を愛情を以って育てたいと、この場をお借りしてお誓い申し上げます。

まだまだ未熟なところが多い私ではありますが、剣道八段という段位に恥じることはないようさらに精進を重ねてまいります。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



二次審査で立ち合う（左・玉田）



二次審査 引き出して返し胴を打つ（左・玉田）



二次審査 時間間際にコテを決める（右・玉田）

特報Ⅱ ふるさとトリーク

心のふるさと 徳島

岡山県警察本部警務部教養課 橋本 誠 司

(鳴門第一中学校出身)



この度、原稿依頼をいただき大変光栄に感じています。私の剣道の原点は徳島にあるからです。

昭和三十九年九月に鳴門市で生まれた私は、小学校三年生の時に親に連れられ鳴門剣道クラブ(現・光武館)に入門しました。当時は、鳴門警察署の小さな道場で週三回の稽古を行っていましたが、入門当初の私は、雨が降っては休み、風が強いとっては休むといった不真面目な生徒でした。そんな私が、小学四年生になって初めて出場した鳴門市の大会で個人戦三位に入賞し、銅メダルをいただいたのです。今思えば、それがきっかけとなり、少しずつ稽古に真剣に取り組むようになっていったように思います。

当時の鳴門剣道クラブは、県内では正に「敵無し」といった感じで、大会に出れば必ず優勝を収めていました。それもそのはず、館長の故寺西慶裕先生の指導の下、私の一学年上には平野先輩

(現・徳島県警師範)、榊先輩(現・東海大浦安高校剣道部監督)、松尾先輩(現・大阪府警)といったそうそうたる面々がいたので。また同級生を見ても、同級生で編成する団体メンバー五人のうち私以外は皆、県大会での個人タイトルを持っているような強者揃いで、その中に混じって優勝させてもらっているという感じでした。

中学校に進学すると、学区の関係で、共に試合に出ていた同級生の四人が鳴門第二中学校に進学し、私一人が鳴門第一中学校に進学することとなりました。しかし幸運にも、そこには平野、榊、松尾先輩が揃っており、さらには佐賀先輩(現・徳島県警)も加わって充実した稽古ができました。

当時の顧問は、若くて熱血漢の吉田輝昭先生でしたが、稽古の最期に先生が元立ちとなって受けてくださる掛かり稽古が私たちにとっては格別のご馳走だったことが思い出されます。平野先輩、榊先輩などは楽しそうに掛かっていました。私は自分の順番を待っている間、胃液が逆流し嘔吐えずは佐賀先輩に叱られていたものです。吉田先生の掛かり稽古は、連続体当たりを腰の低いところでしっかり受け止めてくださり、フラフラになれば、馬乗りになって面をはぎ取って休ませてくれる非常に愛情のこもったものでした。

他にも屋外で稽古着に袴姿という裸足でタイヤを引っ張ってダッシュを繰り返すトレーニングもやっていました。

トレーニングは、主にキャプテンの平野先輩の思いつきによる

ものが多く、運動公園の陸上トラックを走っていたかと思えば、ある日突然、中学校から鳴門公園まで走るという長距離メニューもありました。トレーニングは厳しく辛いものでしたが、先輩方は、翌日、筋肉痛で稽古をサボっていた私を、わざわざ家まで迎えに来てくれる優しさも持ち合わせていました。

こうして先輩方のおかげで数々の優勝旗を勝ち取りましたが、中学三年時には、すべての優勝旗を返還することになってしまいました。何とか一本でも優勝旗を残そうと、鳴門剣道クラブと一緒に通っていた高島君、小川君、中学から始めた初心者の宮田君、山口君という同級生に、一年後輩の中井くんを加えて頑張りました。最初の大会では一回戦負けでしたが、自分たちで工夫して稽古を重ねるうち、ベスト八、ベスト四と徐々に成績が上がっていききました。しかし、最後の中学校県総体では決勝まで進んだものの、無念にも宿敵鳴門第二中学校に敗れ、準優勝に終わりました。

強い先輩の下でプレッシャーもなく思いつきり楽しく試合ができた一、二年時と、チームワークで貴重な一勝を皆で積み重ねた三年時の経験は今でも忘れることはありません。

その後、高校は縁あって岡山県立西大寺高校に進学したため、十五歳で徳島の地を離れることになってしまいました。徳島の地で培ったものがその後の剣道人生に大きく役立っています。

また、高校を卒業する際、西大寺武道館で指導されていた故石原忠美範士（岡山県警剣道名誉師範）からの勧めで、岡山県警察官を拝命しましたが、当時、徳島県出身の故松井明範士（脇町高

校出身）が岡山県警の剣道師範をしておられたことにも徳島との深い縁を感じました。

現在、私は岡山県警で教養課師範として警察官に剣道を指導する立場にありますが、今もなお、徳島の先輩方の背中を追って剣道修行に努めています。

岡山県警では、富岡東高校出身の近藤陽香さん、工藤麻美さんが活躍してくれています。私の高校時代の恩師である桜間建樹先生（現・環太平洋大学）から大学で指導を受けた二人が、岡山県警に入って活躍してくれていることを大変うれしく思います。

私は、毎年、阿波踊りの時期に家族で帰省していますが、その途中に香川県の白鳥神社に立ち寄って、小学校当時の優勝奉納写真を見ては初心を思い出しています。前々号の榊先輩の投稿にその写真が添えられているのを拝見し、先輩も大事にされていることに感動しました。

徳島を離れて四十年近くになります。阿波踊りの囃子、眉山の景色、鳴門海峡の波音などを思い出すと、懐かしさを感じるとともに、昔の県立武道館で土用稽古の後にポリバケツからすくって飲んだ砂糖水の味も忘れられません。

写真は、平成二十三年二月に吉田輝昭先生の退職祝いのため、当時の教え子が鳴門第一中学校の剣道場に集まり、久しぶりに指導していただいたときのものです。

当時と同じように、稽古の最後には吉田先生が元立ちに立たれ、一人ひとりの掛かり稽古を受けていただきました。



平成23年 2月 吉田輝昭先生退職祝い稽古会



稽古風景

昔と違って、稽古終わりに元立ちの吉田先生の方が少々お疲れのようでした。

徳島での剣道を原点に今後も精進を重ねていく所存です。これからも徳島の先生、先輩方にはご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、徳島県剣道連盟の今後益々のご発展を祈念申し上げます。

平成二十九年 顕彰一覽

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○ 高 島 稔 之 (徳島県剣道連盟審議委員長)

中学校教員として長期にわたり徳島県中体連剣道の指導育成に尽力したほか、徳島県剣道連盟においても審議委員長を務めるとともに、徳島県高齢者剣友会の会長も務め徳島県剣道連盟の発展に大きく寄与した。

少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○ 北島少年剣道教室 (指導者代表 伊賀雅人)

昭和五十二年四月に創設され四十年間にわたり青少年の剣道育成に尽力してきたほか、地域との交流も重視し、その活動は県北部の中核として他の模範となっている。

○ 佐古剣道クラブ (指導者代表 谷本浩志)

昭和四十九年四月に創設され、四十三年間にわたり少年剣道の指導育成に尽力してきた。基本に忠実な将来につながる剣道を目指し、クラブ員は中学、高校に進学しても継続して剣道を続け選手として大いに活躍している。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○ 中 尾 正 輝 (徳島県剣道連盟審議員)

徳島県剣道連盟常任理事及び審議員を二十七年間務め、徳島県剣道の普及発展に大きく貢献した。

○ 中 川 正 (美馬支部)

徳島県剣道連盟の理事及び支部長のほか美馬市体育協会の役員を十年以上務め、徳島県剣道の普及発展に大きく貢献した。

○ 村 井 正 志 (中体連)

徳島県剣道連盟の理事のほか中体連の役員を十年以上務め、徳島県剣道の普及発展に大きく貢献した。

スポーツ特別優秀者表彰 (徳島県体育協会)

○ 玉 田 理沙子 (日本体育大学)

平成二十九年十一月十二日愛知県において開催された第三十六回全日本女子学生剣道優勝大会において選手として出場し、優勝に貢献した。

徳島県剣道連盟会長賞

○第三十九回日本剣道少年団研修会体験・実践発表会

☆小学生の部優秀賞

西村 葵（鳴門市光武館）

☆中学生の部 最優秀賞

北林 葵（鳴門市光武館）

○第三十九回全国スポーツ少年団剣道交流大会

☆小学生団体の部 小松島市チーム 第五位入賞

橋本和馬 岩原千佳 原拓海 松山若樹 岩谷愛夢

☆中学生個人の部敢闘賞

岩原潤哉（徳島中学校） 河野菜々子（那賀川中学校）

○第十六回宮本武蔵顕彰女子剣道大会「お通杯」

☆個人の部 優勝 平野悦子 第三位 竹内佳代子

○第五十九回全国郵政武道大会剣道競技

☆個人の部 優勝 敦賀晋平

☆個人OBの部 準優勝 久保隆司

☆団体の部 四国チーム 第五位入賞

敦賀晋平 切中克樹 鈴木敬三 久保隆司

○第十四回国際親善剣道大会

☆個人の部 準優勝 磯部健治

☆団体の部 近畿Aチーム 第三位

米倉 滋 磯部健治



剣道有功賞

剣道有功賞を受賞して

徳島県剣道連盟審議委員長
徳島県高齢剣友会会長 高島 稔 之



この度、全日本剣道連盟から平成二十九年度の剣道有功賞を授与され、有り難く心より感謝致しております。これもひとえに、徳島県剣道連盟会長の三木毅先生をはじめ関係役員の先生方の御推挙と、これまで御指導・御支援賜りました多くの方々のお陰であると思っております。

私が剣道を始めたのは、附属中学校を卒業して城南高校へ入学する間の春休み中のことです。祖父に連れられて二軒屋町にある竹原常雄先生の「親道館道場」へ行きました。当時、祖父（範士八段・高島永吉）は、竹原先生に請われて親道館へ剣道の指導に行っていましたので、私も、そこで教えてもらうことになりました。竹原常雄先生の他に、その頃、稽古にお出でいた勝浦守先生、西野四郎先生等にも、御指導頂きました。城南高校へ、入学してみると、剣道部にはあったのですが、指導者の先生はいなくて、先輩も三〜四人しかおらず、新入部員も五〜六名で、

計十名前後という現状でした。先輩がいない日は、私がこれまで教わったことを見よう見まねで、新入部員に伝授しながら稽古を続けました。二年時・三年時にも、新入部員も少しは入部しました。道場と学校と、剣道連盟が実施する稽古会（初稽古・寒稽古・暑中稽古等）で練習したお陰で、卒業時には、二段を取ることができました。私は、稽古会ときは、意識して下村富夫先生（当時は徳島農業高校教諭）に稽古をしていただけ機会を持つようになりました。このスタンスは、徳島大学の学生時代、卒業して教員になってからも、先生の御存命中は変わりませでした。それには、私なりの悩みがあったからです。非常に多くの人から、「高島は、お祖父さんから色々教えてもらえるけんえーなあー。」と言われました。しかし、本当に祖父を知る人は、「高島は、お祖父さんにも、誰にも全然教えてもらえなくて大変だなあー」と言ったはずです。（しかし、現実には誰も、そうは言いませんでした。）祖父は、口べたで控え目な性格の上に、「表面的・技術的なことは、そのようにして教えられるが、本質的なことは、そのようにして教えることの出来るものではない。」と言う考えを根底には持っていたと思います。『徳島剣道三十年の歩み』の中で、祖父は、「剣術でなく、剣道であれ。剣道修行の目的も刻々と高まるものであれ。つまづけば、基本にもどれ。時として、師に問いかけるも良し。しかし、道の追求は、師の後ろ姿を見て、自分自身が修行する以外に最終の方法はない。」と言うことを述べています。

下村先生は、口ではなく稽古を通して、「中心を取って攻め、

打突に繋げることの大切さ」を体で教えてくれました。「中心が取れていない・剣先が効いていない時」には、必ず強く突かれました。そこで私は、どうすべきかを考え、挑戦しました。逃げるのではなく、「私自身が中心を取り、剣先を効かして攻めることこそ」が、最大の策であることを知りました。

大学の卒業時（昭和四十年三月）までに四段、教員になってしばらくして五段を取得することができました。その後、徳島中学校在勤中の七年間は、剣道部の指導に力を入れ、徳島市・徳島県の大会で、多くの優勝を納めることができました。また、この間は、県・市中体連の剣道専門部長と徳島県剣道連盟の常任理事、学校剣道連盟の事務局長（後に副会長）も務めました。その後、学校現場を離れ、徳島市の教育委員会勤めを八年間しました。この間も剣道の稽古は細々と続けていました。昭和五十六年十一月の東京での審査で六段、昭和五十七年五月の京都での審査で教士の称号を、昭和六十二年五月の京都での審査で七段を取得しました。特に、五段から六段を取るまでの間が十五年ほど空いています。実は、県外へ審査を受けに行くのが何となく億劫で行きませんでした。沢谷小中学校（川成分校）・木沢中学校勤務時代の教子である富田正氏（現存教士七段で審議員）に、「先生が何時までも五段でいると、私が五段に進めません。」と言われ、慌てて六段を受審し合格（昭和五十六年十一月）、その後、七段も取得することが出来ました（昭和六十二年五月）。

急に時が流れた話になりますが、教員退職前（平成十五年二月

頃）に、東内勉先生が、わざわざ城西中学校の校長室までお越しください、徳島県高齢剣友会への入会をお勧め頂いたお陰で、『生涯剣道』への道が開けたことを心から感謝しています。事務局長、理事長、会長（現）と務めさせて頂く内に、当初、五十数名ほどであった会員数も、今では百十名を越える大組織となり、剣道連盟の重鎮である六十歳以上の先生方の殆どが御加入頂いている現状となっています。

その活動成果の主なもの挙げると、平成十五年十月十九日～二十日に阿南市総合スポーツセンターで開催されました「全国ねんりんピック徳島二〇〇三剣道交流大会（全国から五十九チームが参加）」に、徳島県Aチームの選手として私も出場し、全国優勝を成し遂げることが出来たことは、感動的な思い出となっています。

高齢剣の定期的稽古会としては、毎月二回（第一・第四土曜日、十四時～、松茂町武道館）で、また、宿泊を伴う稽古会を年二回（七月（美郷）、十二月（阿南）で実施しています。それ以外に、高齢剣行事としての大きな大会が二つあります。一つは、四月の「四国高齢者剣道交流大会」で、もう一つは、九月の「徳島県健康福祉祭とくしまねんりんピック剣道交流大会」です。前者の大会は、本来は県内の大会でしたが、四国の他の三県と兵庫県の先生方も参加する大会へと発展してきたために、私（当時は理事長）が、遠藤一美会長をはじめ会員の方々の御了解を得て、四月の県下大会は第二十八回大会（平成二十五年四月）でもって終了とし、

四国各県の代表とも協議して、平成二十六年四月十二日(土)に「第一回四国高齢者剣道交流大会」を徳島県立中央武道館で開催しました。その後、高知・愛媛・香川と一巡し、第五回大会は、(平成三十年四月二十一日(土))に、徳島県立中央武道館で開催されました。過去四回の大会の内、徳島県が三回、愛媛県が一回、優勝していました。今年は地元開催ですので、会員一同、「優勝を！」と決意を新たに挑戦し、見事に四回目の優勝を成し遂げることができました。

上記以外にも、毎年六月に日本武道館で開催される全国高齢者武道大会にも、毎年十名余りの会員が出場しています。遠藤一美先生の過去通算優勝(四回)は、我々会員に勇氣と目標を与えてくれています。

また、高齢剣の役員以外に、平成二十一年から、徳島県剣道連盟の審議員(審議委員長)をさせていただいていることもあって、今回の有功賞を頂いたものと拝察致しております。

終わりにりましたが、今回の受賞を励みに、修練を重ね、多くの剣友と剣道連盟のために御恩返しをしなければと決意を新たにしています。その気持ちを、『修練報恩』の四文字に込めた「日本手拭い」を作成致しました。本当に有り難うございました。今後一層の御指導・御鞭撻をお願いし、お礼の言葉とさせていただきます。

剣道有功賞受賞記念

修練報恩

平成29年11月吉日

高島稔之

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

北島少年剣道教室 伊賀雅人

一、はじめに

受賞のお知らせを大阪の勝野晴孝先生（元北島少年剣道教室指導者）から、剣道教室練習日に佐野後援会長さんへお祝いの電話を頂戴しました。その場で子ども達・先生方・保護者後援会へご披露しました。体育館では全員が受賞の喜びに拍手大喝采で、剣道教室中が喜びの渦となり湧きに湧きました。

今回の荣誉ある受賞につきましては、これ一重に徳島県剣道連盟の三木毅会長様始め、連盟の先生方には一方ならぬご尽力とご推薦を頂戴し、受賞の運びとなりましたこと誠にありがたく、北島少年剣道教室の指導者として唯々感謝申し上げる次第で、熱く御礼申し上げます。

さて北島少年剣道教室は、昨年開設四十周年を迎えるに当たり、平成二十九年八月二十日（日曜日）に北島町サンフラワードームにおきまして、北島少年剣道教室四十周年記念大会を開催させて頂きました。

大会については日頃御指導を頂いている剣道教室の剣士諸君、大勢の保護者の方々や先生方にご参加を頂き、賑々しく盛大に開催して頂き成功裏に盛り上げて頂きましたこと、誠にありがとうございます。また開催に当たり、物心両面の心温まるご支援を頂きました事、深く感謝申し上げます。

折しも開催日は、四国の国体予選と重なっておりましたにも関わらず、多くの剣道連盟重鎮の方々には特別のお運びを頂き、御指導頂きましたことに深く御礼申し上げます。

二、北島少年剣道教室の開設

昭和五十二年に元北島警察署長さんの故伊丹要先生が発起人となり、北島町の北方に剣道教室がないと言う事で町内の剣道家有志に呼びかけ、町長始め町の有志の方々のご協力により、北島北小学校をお借りして開設されました。

初代会長に故伊丹要先生、顧問に元徳島県剣道連盟会長の故三木只雄先生、指導者は有段者五名が当たり、当初は小学校三年生以上の生徒を対象に募集し、開講の運びとなりました。

稽古内容としては毎週月曜と木曜日を稽古日に指定し、練習時間は午後七時から八時三十分までで、最初に礼式後に全員で北島少年剣道教室道場訓五箇条を唱和し、基本練習を実施しています。六年生が交代でその日のリーダーを勤め、準備体操や基本の足捌き、面打ちなどで正しい打突方法を身につけていきます。その為六年生はスポーツ少年団卒団式を迎えるまでには、それぞれの

リーダーシップが養われて卒団し、このリーダーの経験は子ども達の自信となり、将来の数多くの場面で生かされていると考えています。

また毎月一回は、板野東支部先生方の合同練習会を道場で実施するようにし、第一月曜日に先生方の研修も兼ね支部合同の稽古日に指定しているので、他の教室の先生方にも掛かり稽古を御願いできる良い機会となっております、より多くの経験や子ども達の良い交流の場となっております。

生徒数の推移については、昭和六十年頃の全盛期には在籍生徒も五十名を超えていた時代もありましたが、多様なスポーツ現象と少子化の現代社会の現れであると捉えています、生徒も次第に減少の一途をたどり、現在の生徒数は十五名と減少し寂しい思いをしています。

生徒募集については、当時の三年生以上の募集範囲を見直し、現在では低年齢の幼稚園児まで拡大し募集しているが、なかなか集まらない現状に苦慮しており、これからの生徒確保に向けて大きな課題の一つです。

三、北島少年剣道教室の大きな特色

次の文章は故伊丹要先生が北島少年剣道教室創設時に作成された道場訓です。

【北島少年剣道教室五訓】

「一つ、 礼節の心」

「一つ、 親切な心」

「一つ、 融和な心」

「一つ、 忍耐の心」

「一つ、 感謝の心」

「私達は剣道の修練に励み、道場訓の心を養い、心身を鍛えて勉強します。」

この剣道教室五訓を、生徒、先生方、保護者が共に整列して唱和し、心一つにするのです。

六年生のその日のリーダーの発声で一訓ずつ唱和し、その後全員が続いて一斉唱和します。生徒には幼稚園児もいるために平易な言葉でリーダーに説明をさせます。私が説明して下さいと促すと「礼節は挨拶をすること、融和は皆と仲良くすること、親切な心は誰にでも優しく親切にすること、忍耐の心は何事にも耐えること、感謝の心は常にありがたうの気持ちを持つこと。」と説明をしてくれます。この言葉はリーダー間に受け継がれ、自分たちの体に五訓の説明言葉が染みついているのか、しっかりと唱和してくれています。

私は折に触れて、礼節とか、八月のうだるような熱いときの土用稽古の時や、一月・二月の厳しい寒さで足の裏が切れる様な時の寒稽古の時に、忍耐について説明します。また、「親切な心について実行した例について報告して下さい。」と、時々上級生に聞いてみることで、実際に五訓を生活の場に活かすように指導しています。

この道場訓の内容の実践は、大人社会の中でも、世の中のあらゆる事にも通用すると、北島少年剣道教室最高齢七十六歳指導者の吉田節雄先生は、実践居合道練習後の会話の中で、北島少年剣道教室五訓が社会の中で実行出来ることは、世の中のあらゆる場面に通用すると語気を強くして語ります。また五訓を、吉田先生の建設会社の新入社員教育に引用して生かしてくれているという嬉しい話を語り、正に五訓を実践的に生かしてくれていることに、喜びを噛みしめております。

四、北島少年剣道教室の 特色ある練習内容

練習最初に、キャプテンによる登城太鼓の打ち鳴らし合図から始まり、その日のリーダーによって準備体操・素振り後に、足捌き、面打ち・小手面・小手面胴打ちの竹刀捌きを体育館を一往復し、足の踏み込みと気剣体の一致が実践できることを目標に実施しています。その後は、面返し胴打ち五十本、剣道基本稽古法裏表九本を幼稚園から六年生全員で、大声で基本技を発声しながら打突練習することにより力を入れております。低学年の指導には生徒が先生になるという私の持論から、上級生が低学年に指導することにより、上級学年の生徒の意識が向上し自信



剣道大会

H29.8.20 於サンフラワードーム

を持って指導していることにうれしさを感じます。

春から夏の稽古の場合は、気温が高くなってくるので日本剣道形や竹刀捌きだけの基本打突を多く取り入れ、形を大事にした練習に力を入れているのが特色です。その為、面を付けないで小手抜き面、面抜き胴、出鼻技に対する瞬間打突や、鐺競りからの引き技等の応用技にも力を入れております。

冬場の稽古は体を温める必要がありますので、基本稽古法裏表、小手抜き面と面抜き胴は必ず行い、後は直ぐに面を着用し、中結いに入っの面打ち四本から始まり、切り返し、相面四本打ち五回、地稽古五回により体を温め、先生方も寒いために面を着用頂き、生徒・先生の二十秒間の回り稽古を三十分程度行い体を温めます。その後は先生方への十秒連続打ち込みを実施し、丹田を養うようにしています。

試合の近づく場合は、回り稽古後に勝ち抜き試合稽古を実施し、その後団体戦を行い試合礼法とか宣告等における所作等の確認のための指導をしています。

練習後の締めは、その日のリーダーの名前を指名すると、リーダーの発声により、切り返し、面打ち一本交代で終わり、締太鼓を打ち鳴らして合図し、終わりを告げて礼式後には簡単な講話をします。



北島少年剣道教室創立40周年記念

先生方個々への掛かり稽古希望者は残り、個人的に教えをこう時間帯とし、その後の時間は先生方の稽古に当てており、現在は最終を午後十時までとしています。

五、私の北島少年剣道教室の関わりと

指導者・卒団生

私が剣道教室に関わりを持ちましたのは、かつて高校剣道大会と言えbaumも徳農（現城西高校）で開催されており、私も塩田善治先生のお手伝いで大会のお世話をさせて頂いておりました。昭和五十四年の高校剣道大会の会場でお手伝いをしている時に、三木只雄先生よりお声を掛けて頂き、「伊賀君、隣の小学校で剣道教室をやっているのに、手伝いにいかんかい。」と、おしかりを受けて剣道教室に顔を出すように促されました。その時には私も高校の勤務もありますし、部活動もありますし大変忙しい状況にあり、時間的余裕が見いだされなく即答は出来ませんでした。後日長男を伴い見学に行くと、長男が剣道をすると言う事になり、私も先生方のお手伝いをする事になり、その事が私の北島少年剣道教室に籍を置かせて頂くきっかけとなりました。

今回の創立四十周年記念大会の事や、少年剣道教育奨励賞受賞に当たり振り返ってみましたら、三木只雄先生にお導きを頂き、私の北島少年剣道教室の関わりは早くも三十七年が経過をしているのでございます。北島中学校の時に剣道を始めた時に、田中則夫先生に御指導を頂き、この時から三木只雄先生には機会ある度にお声を掛けて頂きました。北島少年剣道教室に在籍することの

喜びと、先生のご指導のありがたさをしみじみと噛みしめているのです。

現在の北島少年剣道教室の指導者陣は、かつて剣道経験者であり、ご子息の剣道教室入門を機会に再会された先生方がほとんどで、後援会長経験者の方も二名います。段位最高者は七段を取得する者が現れたり、四段・五段に挑戦し着実に力を付けてくれている若い指導者も誕生しています。その若い指導者の先生方の熱心な指導力によって、子ども達に力がついていることを感じます。この様な指導力は、これからの北島少年剣道教室の発展を担って頂けると、私の期待の思いの中にありますし、深く感謝も致しております。

卒団生の中には、「国立大学に合格しました。」「大学の助教授をしています。」「小学校・中学校の先生をしています。」「との嬉しい報告もあります。一昨年には城ノ内高のキャプテンと北高のキャプテンが生徒達の前で挨拶してくれ、「僕は警察官に合格しました。」「僕は広島大学教育学部に合格し、先生になります。」「との話は、子ども達に大きな感化を与えてくれました。昨年末には二名の生徒が来まして、「徳島県警に合格しました。」「との話に、私は嬉しい正月をさせて頂きました。この様な、北島少年剣道教室を巣立っていった生徒達が、新たな指導者として継続してくれる事を願っています。

最後に少年剣士には常に「清く、正しく、たくましい」人材に育って欲しいと思うのです。まさに「文武両道たれ」の言葉のよ

うに、北島少年剣道教室の五訓の最後に締めくくる言葉は、「私達は剣道の修練に励み、道場訓の心を養い、心身を鍛えて勉強します。」と結びます。

剣道教室の子ども達や保護者や指導者に願うことは、今後共に一丸となり、北島の有為な人材を排出して社会に寄与してもらいたいと願っております。

私自身も高齢期に入って参りましたが、体力的には少しの猶予があるように思いますので、これからも北島少年剣道に関わり精進する覚悟の所存でございます。



少年剣道教育奨励賞を受賞して

佐古剣道クラブ 谷 本 浩 志



この度は全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞を受賞し、指導者ならびに係者、少年剣士一同大変喜んでおります。今年で四十三周年という伝統に新たなページが加わりました。

思い返せば、私が幼稚園、兄（晃成）が小学生の当時、家の納屋にあった鉄の面金が茶色く錆びた古い面を二人で交互にかぶってはチャンバラごっこをして、「剣道ってかっこいいなあ」「おっちゃん、教えて」が佐古剣道クラブの始まりでした。

佐古剣道クラブの創立者で師匠でもある叔父、谷本修は、徳島農業高校で下村富夫先生に師事し、ひたすら「先」を求める剣道を目指し、刑務官として剣道を続けながら少年指導をはじめられました。下村富夫先生が亡くなったのちは「武道における師はひとり」という姿勢で剣道に関わり取り組んでおりましたが、親道館の竹原常雄先生に導かれ、第二の師のもと少年指導の在り方も含め修練に励み、いま徳島の剣道界を牽引されている西谷肇先生、近藤巨先生、米倉滋先生らとともに徳島県チームの大將として都道府県大会へのぞむ姿は、幼き私たち兄弟のあこがれであり誇りでした。叔父が七段に昇段した当時、よく「草魂よ」という

ことばを聞いたこと。近鉄バファローズの鈴木啓示投手の引退の際このことばが話題になりましたが、それよりずっと前から知っていたとひとり思ったものです。

当クラブの草創期、稽古の場所といえばもっぱら佐古小学校の中庭や外の廊下です。アスファルトやコンクリートの上を運動靴ですり足や踏み込み、送り足など長い廊下を足さばきだけ半年以上一年近く行い、やっと竹刀を持たせてもらって半年、「面や胴は？」と言ってもまだまだだと・・・、それでも稽古が楽しくて仕方がありませんでした。そのうちに体育館を使わせてもらえるようになり、当時、少年少女はバレーボール、なぎなたと私たち佐古剣道クラブ、あとは体協の大人の人達との割り当てによる共用でした。火、木、日の週三日の稽古は現在そのままです。

体育館を使うことはいよいよ剣道具を持たせてもらえるようになりました。業者の方がバンにどっさり剣道具を積んで体育館の前にあらわれたときは本当に夢のようで、ひとりずつサイズを合わせてもらい名前を書く白い部分にマジックで自分の名前を書いてもらったときは嬉しくてたまらなかったことを昨日のように思い出します。

ここから佐古剣道クラブの剣道の稽古が実質的に始まるわけです。あれだけあこがれた剣道。初夏の体育館での初めての稽古。その日のうちに剣道が大嫌いになりました。

面のなかの顔が痒くてもかけない・・・。「嫌だ」、滝のように流れる汗が目に入り目が開けられないほど痛い・・・。「嫌だ」、

みんなへたくそで面でなく肩を叩かれる・・・「嫌だ」、胴はわきや太ももを叩かれて・・・「嫌だ」

いま、佐古剣道クラブに入門し剣道を始める子ども達も剣道具をつけるとなると大喜びするのに、稽古になると泣きべそをかいている。当時の私と全く一緒なんだろうなあとニヤニヤしながら叱咤激励する毎日です。

佐古剣道クラブの剣風と言いますか師匠からの教えは「先」をとる、につきます。「面」なのです。中心とって起こりをとらえる。初太刀で決まらなければ二つめ三つめとお互いの技のつきたところで先をとる、でした。技は大きく、竹刀は早く強く振る。

稽古は基本打ちの後、地稽古（まわり稽古）などが一通り終わると指導稽古から掛かり稽古。この掛かり稽古がとにかくきつくと、過呼吸などは当たり前、外に飛び出し面を着けたまま吐いては急ぎ戻ってまた掛かる。よくついていけたものです。そんな苦しい稽古でもそれをすべて忘れられる瞬間がありました。苦しい掛かり稽古の最後の一本。しっかり打ち込めたとき、まっすぐに体当たりしていく私たちをドンッと受け止めた後しっかりと抱きかかえ「よう頑張った。」と背中をトントンと叩くのです。この瞬間、「今日もボクは頑張れた・・・」と半ベソになりながらも満足していました。もう一つの教えは、「ちゃんと叩かしてやらんと強うならん。竹原先生は体の大きい力の強いもんにもちゃんと面をたたかして頭の形がかわってしもとった。良い打ちを覚えさすんにはちゃんと打たさないかん。自分がしてもらったことをお前達

にさせる。」といって腕が腫れ上がったも頭にたんこぶができても掛かり稽古を受けてくれました。

いま私は師匠・兄から引き継いで佐古剣道クラブの指導にあっています。試合会場に行くときよく聞こえてくる声があります。本当によく聞きます。「佐古の子は面やけんなあ」「佐古やけん面に応じて・・・」と子どもにアドバイスをする保護者の方々の声です。「いい面を打つこと。大人になればなるほど面を打てんようになる。子どもは前で勝負、先じゃ、面よ」これは師匠の言葉です。案の定、返され出ばなを押しえられ啞然として負けて帰ってくる子ども達ですが「先」で勝負をかけた子に私は「相手が上手だったなあ。今度は面を打って来るって相手に読まれつつも、それでも面で一本とれるように稽古しようなあ。」といつも言います。こんな感じですが、私は本当に恵まれていると思います。まずは、このような教えをいただけた師匠に恵まれ、佐古剣道クラブの伝統をつなぎ、私に引き継いでくれた兄にも恵まれました。またこのような指導方針「佐古の子ども達の完成は小学校じゃないから、なかなか試合で勝たしてあげる剣道は教えられないけど、中学校、高等学校、大学・社会人と成長していく剣道の基本を教えるから将来に期待して欲しい。」と、こんな指導者のわがままに納得し、頑張る子ども達と受け止め支えてくれる保護者のみなさんにも恵まれています。このタイミングで表彰していただけたことも恵まれています。

最後になりましたが、この度の受賞にあたりご推薦いただいた



徳島県剣道連盟には心より感謝申し上げます。この賞に恥じぬよう、日々愚直に稽古に励み精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



日本武道館 平成29年 7月22日



体育功労賞

体育功労賞を受けて

徳島支部 中尾正輝



徳島県体育協会（会長・飯泉嘉門徳島県知事）の、二〇一七年度表彰式が、二月十一日（日）徳島市内のホテルで行われました。

私は、「体育功労賞」という過分なる賞を戴くことになりました。

ご推薦を頂きました、三木毅会長はじめ、表彰委員の先生方へ感謝の誠を申し上げます。概賞を受賞したのは、三十七名でした。受賞対象は、競技団体の役員、指導者として一〇年以上従事した四十歳以上が対象です。

今年度は、功労・優秀者二八六人が表彰され、会長から一人一人に「おめでとうございます」と声をかけられ表彰盾などが贈られました。奨励賞として、小学生の全国大会で活躍した八人が堂々と受賞していた姿が印象に残りました。

○役員歴

私の、徳島県剣道連盟役員歴は、常任理事一〇年（昭和五十六年～平成二年）・審議員二〇年（平成九年～平成二十九年）であります。この間、連盟会員の皆様方には、特にお役立てなかった事をお詫び申し上げます。

○指導歴

一般及び青少年剣士の指導

主に、平成九年から本県剣道の強化方策として警察学校体育館に於ける稽古会です。週二回少年剣士などの指導に当たりました。

警察官の指導と成果

本県警察の特別訓練生の現役を退いた後、特練の監督、師範・術科指導官として警察官の指導に当たりました。この間、四国管区内警察剣道大会優勝・全国警察剣道大会（第三部）優勝等が思ひ出されます。

全国規模の大会出場歴

全日本剣道選手権大会（第十九回大会）

国民体育大会

選手八回・監督六回です。



むすび

同じ道場で切磋琢磨した多くの剣友の中でも特に、米倉滋・近藤巨・平野誠司・吉田茂生各八段は、私の誇るべき剣友です。

このたびの受賞を契機として、自己修煉はもとより徳島県剣道連盟発展のため更なる向上を目指したいと思っています。

終わりにりましたが、祝賀会を開催していただきました高齢剣友会の有志の先生方に厚く御礼申し上げます。



全日本女子学生優勝大会

第三十六回全日本女子学生剣道

優勝大会を終えて

日本体育大学 玉田 理沙子

「日本一になる」という目標を本気で叶えようと思ったのは、大学に入ってからでした。小学校一年生で剣道をはじめ、ずっと続けてきましたが、残せた戦績は全国大会出場、四国大会入賞が精一杯でした。口では「全国大会で活躍したい。」とは言うものの、実際どうすればいいのか、わかりませんでした。

大学一年生の春合宿で女子全員が集められて行ったミーティングで先生から言われたことは、「私たちは、毎年、日本一を目標に活動している。」という内容でした。その頃の私は、「日本一」といわれても実感はないし、正直なところ、「偶然」で得られるものであると考えていました。しかし、先生、先輩方は本気ででした。日々の稽古や生活は、高校までには味わったことのないほど濃密で、何を取っても意識の高いものでした。もちろん、楽しいことばかりではなく、涙を流した日もありました。しかし、それは全て日本一を目指す集団としては当たり前のことでした。

私たちは、昨年の三十五回大会で、準優勝という悔しくも大き

な結果を残しました。その際の四年生二名を除いた五名が今年のチームに残りました。当然、周囲の期待は大きく、プレッシャーがあったのだと思います。昨年よりもうまうまいかなということがたくさんありました。そこで、今年のチームのテーマを「みんなのために」と定め、試合や稽古はもちろん、生活態度など、選手だけでなく女子部員四十名全員がそれぞれ「日本一を獲る」ためにできることを探し、実践しました。

大会では私が実際に試合場に立つことはありませんでしたが、下から見上げる応援席は、どの大学の応援席よりも一体感がありました。仲間の応援が選手の力になったし、自信にもなりました。優勝が決まった瞬間は、本当に素晴らしいもので、感動しました。世界で一番の景色でした。大学最後の大会だったので、自分も試合に出たい気持ちもあったし、正直悔しいと思うこともあります。しかし、試合場に立つチャンスを受けなかったことをきちんと「悔しい」と思えるほど、これまでしっかり努力し、自分にもチームに本気でぶつかり向き合ってきたということだと思います。

「みんなのために」部員全員が妥協せずに創り上げた今回のチームで得た日本一は決して「偶然」ではなく「掴み取った」日本一です。表彰式で頂いた金メダルは非常に重みのあるものでした。これまで苦しいこともたくさんありましたが自分たちだけでなく、多くの人に支えられ、勝ち取ることができました。日体大に行って本当によかったです。

何よりも、これまでの徳島での取り組みや、先生方のご指導が

あったからこそ、私は日体大でも結果を出すことができませんでした。大学四年間と今回の経験をまだまだ続く私の剣道人生に存分に生かしていきます。そして、何年かかるかわかりませんが、一流の選手を育てられる指導者となり、今度は自分が「徳島のために」力を尽くし、徳島県から日本一の剣士をたくさん輩出していきたいです。



全日本女子学生優勝大会での優勝（筆者前列右端）

全国ス。ポーツ少年団大会

第三十九回全国ス。ポーツ少年団

剣道交流大会に出場して

小松島少剣クラブ 岩谷愛夢

平成二十九年三月二十五日から二十九日に、第三十九回全国ス。ポーツ少年団剣道交流大会が愛知県武道館で開催されました。

僕が出場した団体戦は、三チームによる予選リーグ、そして決勝トーナメントという形でした。

徳島県代表として

先鋒 橋本和馬（小松島少剣クラブ）

次鋒 岩原千佳（小松島少剣クラブ）

中堅 原 拓海（小松島少剣クラブ）

副将 松山若樹（小松島少剣クラブ）

大将 岩谷愛夢（小松島少剣クラブ）

のチームでした。ぼくはこの大会のためにチーム一丸となって日々稽古に打ち込んできました。

いよいよ試合の日がきて、すごく緊張していました。予選の相手は、石川県と埼玉県でした。

まず、一試合目の石川県戦。先鋒が引き分けたが、次鋒二本勝、

中堅引き分け、副将一本勝ち、大将一本勝ちという結果でした。僕の相手は、身長が高く、強いと聞いていたので、気持ちで負けず、自分の剣道をしようと思っていました。試合が始まって二分ぐらいは相手のペースでしたが、相手が面を打ち込んできたところを返し面で先取することができました。そのまま一本勝ちで勝ちました。


二試合目の相手は、埼玉県。一試合目で勢いがついたので、先鋒引き分け、次鋒二本勝ち、中堅一本勝ち、副将二本勝ち、大将一本勝ちでした。そして、予選を一位で通過し、決勝トーナメントに進出しました。

二日目の決勝トーナメント一回戦は山口県でした。幸先よく先鋒が一本勝ちすると、次鋒から大将まで全員勝ちました。びっくりでした。

二回戦、この試合で勝てば、ベスト四というところでした。この相手が、僕が一番気にしていた岡山県でした。チームで心を一つにし、試合に臨みました。先鋒は一本負け、次鋒が相面ととり一本勝ち、中堅引き分け、副将が二本勝ちとつないでくれました。大将戦、僕が小手にいったところを相小手面一本とられました。勝っているのに、攻めすぎてしまい、もう一本取られました。ここで代表戦となりました。中堅の原君に僕はすべてをたくししました。しかし、負けてしまいました。結果は五位でした。おしくもベスト四に入れなかったのはすごく悔しいです。これから、目標に向かって一步一步、歩んでいきたいと思えます。

この大会に際し、指導してくださった先生方、支えてくれた保護者の方々、一緒に頑張った仲間感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

第39回全国スポーツ少年団
剣道交流大会
平成29年3月25日(土)～27日(月)
愛知県武道館




○主催
公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団
一般財団法人全日本剣道連盟
公益財団法人愛知県体育協会愛知県スポーツ少年団
一般財団法人愛知県剣道連盟

○主管
第39回全国スポーツ少年団剣道交流大会愛知県実行委員会

○支援
独立行政法人日本スポーツ振興センター

○後援
スポーツ庁
愛知県教育委員会
名古屋市教育委員会

○協力
公益財団法人スポーツ安全協会


公益財団法人
日本体育協会
スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

第三十九回全国スポーツ少年団 剣道交流大会に参加して

小松島少剣クラブ
(中学生) 岩原潤哉

私は、平成二十九年三月二十五日(二十七日までの三日間、愛知県武道館で開催された第三十九回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加しました。以前、小学生の団体戦には二回出場しましたが、中学生の個人戦は初めての出場でした。しかも今回は、妹が団体戦、父が監督ということもあり、全国大会に家族三人で出場できたことがとても嬉しかったです。

この大会に出場することが決まってから、全国大会での目標を「予選リーグ突破!ベストエイト以上!」と設定しました。毎日の部活動での練習に加え、小松島少剣クラブでの練習、県外の遠征などを行い大会に向けて備えました。

大会初日は、開会式やレクレーションなどがあり、リラククスした雰囲気の中で、四国をはじめ多くの人と友達になることができました。なかでも、九州学院中の相馬選手と知り合いになり、全国のトップレベルである九学の練習内容やレベルの高さについて知ることができ、自分にとってとても勉強になりました。

大会二日目、いよいよ試合が始まりました。予選リーグ一試合目は、東京の選手と対戦しました。私は男子の初戦だったので、少し緊張していましたが、試合中盤に一本先取すると、その後は

リラククスして臨め、二本勝ちを収めることができました。二試合目は、福島の選手と対戦しました。最後まで自分のペースで試合ができましたが、一本の技もなく引き分けでした。でも一勝一分けで予選リーグを突破することができました。また、小学生団体・中学女子個人と徳島県の選手全員が予選リーグを突破することができ、明日も全員で頑張ろうとみんなのテンションも上がりました。ちなみにその日は宿舎に帰ったあと、ごほうびとして監督が選手全員を名古屋テレビ塔に連れて行ってくれました。

大会三日目、試合前のアップではいつも通り体も動き、適度な緊張感を持って試合に臨むことができました。相手は京都の選手です。練習試合を通して知っていた選手でした。試合中盤に面を打ったところ、あまされて引き小手を打たれました。その後、取り返しにいきましましたが、時間となり一本負けでした。表彰式では敢闘賞をいただきましたが、悔いの残る試合となってしまいました。

この大会に向けて練習し、最低限の目標は達成できました。しかし、もっと上を目指し来年も頑張りたいと思います。今までご指導いただいた徳島中学校豊田佳男先生、兼松佳史先生、小松島少剣クラブ青木博志先生はじめ諸先生方、大変お世話になりました。そして会場まで応援に来ていただいた小松島少剣クラブ長池文武会長、ありがとうございます。



五位入賞の小学生（前列）と敢闘賞の中学生（後列）



お通杯大会

「お通杯」に感謝して

鳴門支部 平野悦子

宮本武蔵の生誕の地、岡山県大原町で開催される通称「お通杯」。私自身が岡山県出身ということもあって、身近に感じながら第一回大会から出場してきました。お通杯の名のとおり、五〇〇名以上の女性剣士が全国から集まり、団体戦と個人戦が行われる大きな大会です。何といってもこの大会は年齢別に区分けされているところが嬉しく、歳を重ねても無理なく出場できます。

女性は男性に比べて体力の低下も早く、思うような剣道がなかなかできなくなります。気持ちはあっても体が動かないことがだんだん多くなってきます。下手は下手なりに剣道を続けてきた私ですが、一番感じていることは剣道は基本が大切ということです。足が出ない、手が上がらない、体が安定しない中でどうやって有効打突にできるかということを思いながら続けています。

私が出場した「五〇歳から五九歳までの部」には七十六名が参加していました。この上は最高峰の「六〇歳以上の部」しかありません。毎年これだけの女性が剣道を続けているということに励まされます。

台風の中、特別措置で選手変更もありながら、年齢の枠を超えた大会は今年も盛り上がりました。女性がこうして剣道が続けていくには、家庭、仕事、身体など多くの問題をクリアしていくなければなりません。周りの人の理解や支えがあって実現していくのだと思います。私も今は週一回（連盟稽古会）の稽古を大切にしていますが、それ以上はなかなかできそうにありません。

今年の大会では、日頃の稽古の賜物かどうか、基本の面打ちを続けてきた甲斐あって、「五〇歳から五九歳までの部」の頂点まで駆け上がってしまいました。こうして五〇歳を超え剣道ができ、そのうえ優勝という経験をさせていただき、この大会には本当に感謝しております。

女性らしい凛とした剣道を目指し、また健康のバロメーターとして一年間頑張っていこうと思っています。いつもご指導してくださる剣道連盟の先生方、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



開会式風景

全国郵政大会

第五十九回全国郵政武道大会に参加して

日本郵便(株)川内郵便局 久保隆司

平成二十九年十月一日奈良県ならでん武道館において、第五十九回全国郵政武道大会が近畿郵政武道会主管、全国郵政武道会主催で開催されました。

この伝統ある大会にも、昭和六十一年第二十八回大会四国郵政主管松山市愛媛大学で開催された大会を初出場して以来十六回参加致しました。

私事ですが昭和五十年四月に、旧郵政省四国郵政局今井郵便局に入局以来、四十二年間郵便局一筋で、平成二十九年三月三十一日無事退職致しました。職場では、永年勤続の感謝状等をいただき、これまで私を支えて頂きました職場や剣道の諸先輩、仲間また家族のお陰と深く感謝致しております。

思い出深い中には、第五十三回大会四国郵政武道会主管徳島渦潮大会で実行委員長を拝命し、徳島県剣道連盟、徳島大学医薬剣道部、城北高校剣道部の多くの皆様にご協力をいただき、また地元四国郵政A、Bが優勝・準優勝の栄冠を受賞し大盛会に終えることが出来ました。

今回は、四月より川内郵便局に高齢者再雇用社員として採用されて十七回目の参加となりました。団体戦は、前回第五十八回大会東京武道館開催では、五年ぶりの第三位入賞を果たし、今回は優勝をと挑みました。

二回戦で、今回優勝候補地元近畿郵政A、大学卒業間もない二十二歳から三十二歳と若い元気なチームを激戦の末僅差で勝ち、ベスト八入りしました。しかし、ホッとした油断か、準々決勝で負けると思わなかった中国郵政に三対一で敗戦しました。

個人戦は、OB戦に出場となりましたが、試合前に全国郵政武道会顧問の原嶋茂樹教士八段から、前回・前々回優勝と二連覇中の信越郵政OB高橋先生(二刀流)の三連覇を阻止するように指示され、プレッシャーを感じながら一戦一戦に集中して戦い、ついに決勝戦となりました。

日本一をかけて対戦相手は、準々決勝で高橋先生に勝った、九州郵政・鹿児島県福島先生でした。前半から中盤にお互いの攻防から後半に入り、終了時間数十秒の時に私が相手の表から中心に鰐元を攻め、相手の手元が上がる瞬間、思い切って出小手に出ました。「バク！」手心え有り、主審の旗がパッと上がりました。

「やった！」と思った瞬間副審を見ると旗が上がっておらず「イカン！」と思い、焦って間合いに入ろうとする瞬間相手の竹刀が、私の面に飛んできて旗が三本上がりました。「主審が二本目」と発声の後、残りの時間が数秒で打ち間に入らせてくれず、一本負け試合終了となりました。一瞬の気の緩み自分の心の弱さが出た、



個人の部優勝の敦賀選手（左）とOBの部準優勝の筆者

日頃道場で弟子に注意していることが実践出来ず、良い勉強になりました。

また、次回第六十回記念大会（仙台市あおば武道館・平成三十年九月二十三日）への課題と目標が出来ました。

この度は大会出場へのご協力頂いた、川内郵便局の社員の皆様、今日までご指導頂きました先生、先輩、道友の皆様方のお陰と深く感謝申し上げます。

今後とも、暖かいご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。



団体戦ベスト8の四国郵政チーム

平成29年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名	No.	女 子	学 校 名
1	松 本 喜 起	徳 島	1	飯 田 奈 々	那 賀 川
2	岩 原 潤 哉	徳 島	2	福 田 優 那	那 賀 川
3	大 空 航 己	徳 島	3	二 宮 彩 海	那 賀 川
4	江 口 弘 純	徳 島	4	土 井 直 子	石 井
5	大 城 穂 高	那 賀 川	5	佐 藤 祐 理	石 井
6	宮 田 惣 太	那 賀 川	6	森 本 乃 愛	石 井
7	朝 桐 弘 崇	那 賀 川	7	大 西 千 晴	石 井
8	福 本 哲 郎	那 賀 川	8	井 本 萌 香	徳島文理
9	小 畠 涼	那 賀 川	9	山 形 ほのか	徳島文理
10	兼 松 凌 真	阿 波	10	東 内 萌 々	徳島文理
11	大 岩 恒 輝	阿 波	11	田 邊 望 恵 瑠	阿南第一
12	岡 田 飛 鳥	阿 波	12	垣 内 菜々香	阿南第一
13	松 田 匠 輝	小 松 島	13	桑 村 有 妃	阿南第一
14	川 口 新 太	小 松 島	14	福 山 花 純	鳴門第一
15	辻 成 将	小 松 島	15	北 林 葵	鳴門第二
16	北 林 翔	鳴門第二	16	蔭 山 愛	鷺 敷
17	津 山 幸 也	阿南第一	17	武 藏 千 咲	小松島南
18	住 友 太 洋	小松島南	18	上 田 美紗輝	小松島南
19	原 田 和 佳	徳島文理	19	増 金 いおり	大 麻
20	後 藤 田 凜	市立川島	20	正 木 彩 加	江 原

平成29年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	服 部 比加留	富岡西
2	田 上 雄 大	富岡西
3	後 藤 雄 喜	富岡西
4	田 上 将 大	富岡西
5	井地岡 勇 人	富岡西
6	木 内 捷 人	富岡西
7	熊 橋 凌 司	城 北
8	西 條 賢 太	城 北
9	西 名 晴 輝	城 北
10	喜 多 佑 輔	城 北
11	安 澤 樹 一	城 北
12	金 森 祥 太	徳島文理
13	矢 代 宗一郎	徳島文理
14	藤 本 隆	徳島文理
15	豊 田 耕 平	徳島文理
16	古 川 勇 真	鳴門渦潮
17	青 木 羽 海	鳴門渦潮
18	井 川 友 暉	鳴門渦潮
19	中 村 隼 人	阿南工業
20	小 谷 怜 史	城ノ内
21	池 田 圭 吾	城ノ内
22	和田津 皓 也	城ノ内
23	村 田 拓 郎	城ノ内
24	岡 本 和 真	城ノ内
25	赤 川 笙	城ノ内
26	坂 野 弘 気	徳島北

No.	女 子	学 校 名
1	山 崎 舞	富岡東
2	片 岡 瑞 季	富岡東
3	富 田 瑠 莉	富岡東
4	生 田 朱 音	富岡東
5	西 角 春 那	城 北
6	猪 口 育 秀	川 島
7	森 本 夢	川 島
8	田 口 ひかり	川 島
9	堀 本 麗央奈	城ノ内
10	添 木 葵	城ノ内

先生を偲ぶ

盟友二人を偲んで

徳島県剣道連盟会長 三木 毅



月に、崩れてしまった。

二月には、「デーさん」の愛称で呼んだ出葉成一さんが六十九歳で、六月には「カーさん」の愛称で呼んでいた笠井勝さんが七十四歳で極楽浄土に旅立ったからである。

われら仲の良い八人の仲間は、職種が異なり、歳の差がありながら、若き頃から気心の知れた仲で、人生行路を歩んできた仲間である。ここでデーさんというのは、剣道教士七段出葉成一先生のことであり、カーさんとは剣道錬士六段笠井勝先生である。私ども八人の仲間は、剣道を離れた仲間の生活では、デーさん、カーさんの愛称で長年絆を築いてきたのである。この二人の盟友は、こよなく剣道を愛し、多くの剣士を育成し、剣道に関する意気込

みや技能を確実に伝承されたと思っている。

若き頃は、仕事に邁進し、子育てを楽しみながら将来への期待をもち、我武者羅に突っ走っているうちに、歳を重ね、孫たちの成長を目のあたりにして微笑んでいると、いつしか職場の後輩から送別の宴を開いてくれる年齢となった。これを境に、職場を去り、仲間との疎遠の時期を迎えることとなった。そこで編み出されたのが、八人の誰かに吉報が生じると即刻集まり、酒を酌み交わすことを習わしたしたのである。

その八人の内のデーさんとカーさんは私と同じく警察官であり、また刑事警察官であったこと、そして剣道家であったことからこれを共通項として、歩調を合わせて人生行路を共にした仲間なのである。

カーさんこと笠井勝さんは、私より一歳下の弟分で、昭和三十五年、阿波高校に入学し剣道部に入学してきたので親交がはじまり、もう五十八年を数えている。カーさんとは、高校剣道部時代に懸命な稽古をし、結果として県下ベスト四にこぎつけ、高知県での四国大会に参加できたことは画期的な成長の証となった。

彼は、私が徳島県警察官を拝命後一年遅れで徳島県警察官を拝命したのです。

五年後の昭和四十一年一月のこと、彼は私と同じく刑事警察官を目指しており、刑事警察官登用の専門教養に合格して私と同期生となり、その教養を終え、昭和四十一年四月から二人は念願の刑事警察官の道を歩み始めたのである。

デーさんとの出会いは、昭和四十一年のこと、彼が剣道四段の受審をした時であった。四段受審者が彼一人であったため、急遽五段の私が受審相手に指名され、剣を交えたことが始まりである。顧みると五十一年前のことである。彼は、脇町高校卒業後徳島県警察官を拝命し、間もなく警察剣道特錬生となり県警剣道選手として活躍した。

その後、彼が特錬生を終え、私と同じく石井警察署で勤務するようになり、一段と親交度合は深まっていった。

彼は誠実で、正義感や挑戦心が強く共感をもつべき成年警察官になっておりました。私は親交を深める中で、たびたび「刑事警察官への道」を勧め、巡査部長に昇進したことを機に暴力係主任に推薦したのです。その後、彼とは捜査第一課・牟岐警察署で刑事警察官として難題事件の捜査に従事した仲間となりました。

その後の長い警察官生活のくだりは割愛させていただきます、共に退職の時期を迎えるころからのことを振り返ることとしたい。

私が定年退職したのは、平成十五年三月であったから、もう十五年前のことになる。私は計らずも、剣道連盟の理事長に推挙されその責を始めた頃、笠井勝さんことカーさんは、阿波市吉野町の自宅近くの吉野町少年剣道教室の指導員の一人として、剣道への還り咲きをはたしていた私は平成十九年四月に高齡剣友会の事務局長の要職に推薦しました。それを機会に彼は高齡剣友会の稽古会では、厳しい修練を続け、熱心に剣道修練に没頭していた。

必然的に昇段への挑戦心が強まり計画的な稽古を続け、平成二十

二年、見事に六段に昇段した。

私どもは当然カーさんの昇段祝いを開いた。彼は昇段の喜びの中で稽古の在り方や技の出し方など修練努力の中身を熱く披露してくれ、次への挑戦を固く誓ってくれた姿が印象に残っている。

吉野少年剣道教室が休止となったことで、土成少年剣道教室の指導員に移り、さらに、鴨島第一中学校剣道部指導員も務めることとなった。

高齡剣友会事務局長を長年務め、四国大会の開催を軌道に乗せたお世話役は大きな功績の一つであった。高齡剣友会は全国的な名称であり、毎年日本武道館で全国大会があり、常連の参加選手であった。平成二十八年六月の全国大会にも元気いっぱい参加したのである。彼のトレードマークは、大声で会話することであり、常に元氣のバロメーターを知ることが出来る剣士であった。

一方、デーさんこと出葉成一さんは平成十八年三月に徳島県警察を退職し、住まいを鴨島町山路に構えていた。そこで私が上浦少年剣道教室の指導員に推薦したところ、二つ返事で快諾され、道場長として情熱をもって子供達に接していただいた。

また、その指導は自分が経験した剣道技能を余すことなく伝承しようと思死な思いがあり、子供たちの実力が高まり、大会で好成績を残すことができるまでに育て上げた功績は高く評価され、平成二十八年には、全剣連の「少年剣道教育奨励賞」の受賞につながった。

その傍ら、剣道連盟麻植支部長に就任し、支部運営を見事に務

め上げ、支部稽古を活性化させたことは、大きな功績の一つである。

デーさんも、昇段への挑戦に燃えており、平成二十六年三月の高段位受審者研修会の講師先生から「厳しい剣道するな。いけるぞ」との評価を受けたことは大きな励ましになったとの心境を話した時の彼は生き生きとしておりその顔は今も鮮明に残っている。県警の剣道特錬生時代に堀江幸夫先生の教えに忠実であったこと、妥協を許さない剣道は自分のものになっていると、身振り手振りで熱く語るのが彼の定着した姿となっていた。

我々は、若き時から声を掛け合い、支えあってきた歴史を共有しており、退職の齢を迎えて、これからの生甲斐をどうするかという単純明快な思いが新たな「絆」を生み出し、吉報を理由に参集し、称え合う仲間となったのである。

その中で、常に口にしたのは、「健康長寿」「趣味を生かす」「元氣への挑戦」であったと思っている。この気持ちを実現してくれるのは、老いてもできる剣道は最上のものである。体力が湧いてくる、老いてもできる、気迫が生まれる、挑戦心が旺盛になるなど「生涯剣道」という言葉はよく言い当てたものだ、言葉の中身を噛みしめていたものでした。

私もデーさんもカーさんも生涯剣道の意味することを共有し、自分の体で体現しようと取り組んだ日々を過ごしていたはずなのであるが生身は測り知れないことが起こるものである。それは病魔である。

デーさんと約束事をしたのは、平成二十七年十二月二十七日の夜、私の家で年越しの会を計画し、当日その準備中に、彼から電話があり、「都合で行けない。」とのこと。理由を聞かないままその時をやり過ごしたが、後刻のこと「内臓が悪く、精密検査をする」とのことであった。それが彼の闘病生活の始まりとなった。カーさんは平成二十八年六月の東京での全国大会の約一ヶ月後のこと「精密検査を受けることになった」との電話があった。その後時々電話での会話を続けていたが、いつもどおり大声での応対で安心していたのである。

ところが、平成二十九年の新たな年を迎え間もなくのこと、デーさんの病状やカーさんの病状が耳に入るようになり、見舞いに足を運んだ。二人とも病状の悪化は口にせず治療内容を詳しく説明をするのが常となった。

病気治療は専門医に任せるしかなく、医師の力を信じそれを守るしかない。時が過ぎ、二月四日にデーさんが極楽浄土に旅立ち、六月一日にカーさんも旅立ってしまった。

顧みると、私が盟友と記した二人とは、半世紀の絆であり、私は二人を弟分として接してきた。半世紀の中身は人生生活のあらゆる面での深い思い出が満載である。この絆・思い出は非常に重みと値打ちに溢れていると自負している。これからの私の残余の人生を思う時、五十年の絆を築ける盟友は絶対に現れることはない。それだけに二人の旅立ちには非常に痛恨な思いである。

しかし、痛恨の思いは、私よりデーさんやカーさんであったと

思う。今の世は「人生八十年時代」いや「人生百年計画の時代」と称されるようになり、二人とも「もっとやることがある、もっとやれる」との思いを大声で叫びたかったに違いない。

この投稿に当たり、盟友八人組とのアルバムを紐解き、教え教わった数々の場面に見とれてしまった。その中で出葉成一さんと笠井勝さんとの一場面を添えることにした。ここに長年に亘りお付き合いしていただいた盟友二人に心からお礼を申し上げお別れいたします。



左より 出葉・笠井・三木（筆者）

剣友・出葉成一先生の思い出

徳島支部 中尾正輝



平成二十九年二月六日早朝、出葉成一先生の訃報に接す。ご遺徳を偲び心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌

出合

昭和四十年（一九六五年）四月小柄であるが澁刺はつらつとした一青年が本県警察学校に入校した。出葉先生である。中学校、高校で剣道をやっていたとのことで、私との会話も弾んだ。そんな中で、温厚で芯の強さを感じた。以後、警察の職務・剣道訓練などを通じ、性格は清廉、潔白、剛直にして誠実とみた。

先生は、脇町高校出身、阿讃山脈清水峠の麓、西俣名で昭和二十二年（一九四七年）三月に出生。中学校時代は、悪路を自転車で往路四十分、復路はその倍を要して江原中学校に通学した。高校では、滝下勝先生・柴田稔夫先生に師事す。

活躍

○本県剣道特練の第一期黄金時代を築く

先生は警察学校卒業後、警察激務の傍ら特別訓練生として、修行に励み、昭和四十五年四国管区内警察剣道大会において初めて団体準優勝の主力選手として活躍した。全国警察剣道大会・第二十二回全日本剣道選手権大会での活躍然り。

○徳島県警察機動隊創設五十周年記念式典

平成十四年十一月十三日記念式典を挙行了した。その中核として、式典立案及び記念誌を刊行する。

エピソード

○手旗信号

先生は、昭和四十六年十一月結婚披露宴を徳島市幸町「ホテル千秋閣」で挙行。我々にとってこの頃、極めて多忙な日々が続いていた。この日も緊急出勤事案が有り、徳島東警察署で待機中であつた同警察署屋上から披露宴会場に向けて、手旗で祝辞を発す。「結婚を祝し、出葉君の武運長久を祈る」その後、会場から先生の両腕が頭上上がり左右に揺れるのが確認できた。懐かしい思い出の一齣ひとまじである。

別れ

○最後の稽古

前立腺癌が発覚した頃と思われる、先生から「兄あんにゃ、一本お願いできるで。」久し振りに松茂第二体育館武道館での稽古が最後となった。

○葬儀・告別式

平成二十九年二月六日(月)「ベルモニー鴨島」において、多くの会葬者により盛大なる葬儀が挙行された。三木毅会長が弔辞を述べられた。稽古着姿の凜とした先生の遺影が多くの教え子を暖かく迎えていたのが心に残る。

先生と飲みながら高唱した脇高校歌。

見よ彼の蒼天 雲行く処

凌ぎて聳ゆる 高越の山を

我らの意気は たかかれと諭す

有象の訓を 銘ぜよ肝に

また、いつの日か、二人で歌いましょう。先生、安らかにお休み下さい。



昭和45年度四国管区内警察剣道大会で準優勝
後列左から2人目出葉先生



昭和49年度全国警察剣道大会（二部）で試合前の挨拶を終えて
前から3人目出葉先生



平成14年機動隊創設50周年において分列行進する部隊
機動隊旗後方出葉警部

出葉成一先生を偲ぶ

塩 田 善 治

平成二十九年二月、出葉成一先生がご逝去されました。私が高校入学の昭和三十八年からのつきあいであり、もう半世紀近くになります。私より一学年上であり、自分にも後輩にも厳しい人でありました。

先日、奥様に先輩の眠っている所に案内して頂きました。墓前で手を合わせると若き日の思い出が走馬灯のように次から次へと懐かしく甦って参りました。

長いつきあいの中から特別印象に残っている事を書いてみます。出葉先生は本当に剣道が好きで、中学時代から香川県境の清水の自宅から脇町の柴田稔夫先生（柴田宗忠氏の父上）のもとへ自転車通って一生懸命に剣道を習っていたとのことでした。

その後、脇町高校に進学され、私が入学した年の二年生の夏から伝統ある脇町高校の剣道部の主将を務め、昭和三十九年県下高校剣道新人大会では優勝しました。また生徒会会長選挙に進んで立候補し、全校生徒を前に堂々と大きな声で立会演説をしたことも、今でも忘れられない思い出として残っています。常に主将として先頭に立って部を引っ張って行ってくれるその姿は、我々後輩にとっては誇りでありました。

卒業後は、徳島県警に奉職し、特錬生として好きな剣道の道に

打ち込んでいました。厳しい精進により、昭和四十九年には第二十二回全日本剣道選手権大会に本県代表として出場を果たされました。

出葉先輩と剣を交えた方はご存知のように、真っすぐの色を見せない剣道をなさり、人柄も実直そのもので勇気があり、人から頼まれ事があれば、決して否と言わずに世話をしあがる性格の人物でした。

私もいろいろとお世話になりました。忘れもしない昭和五十二年、私が担当をしていた生徒が暴力団に入り登校しなくなり、親ともども困り果てた事がありました。当時、東署刑事二課暴力団担当主任をしてもらった先輩に「生徒に家に帰るよう」に話をし、欲しいと依頼をしました。その後、十日程して「二三日内には帰す」との連絡があり、その言葉どおりに生徒も無事に帰ってきました。その時、先輩は有難いなあとつくづく実感しました。

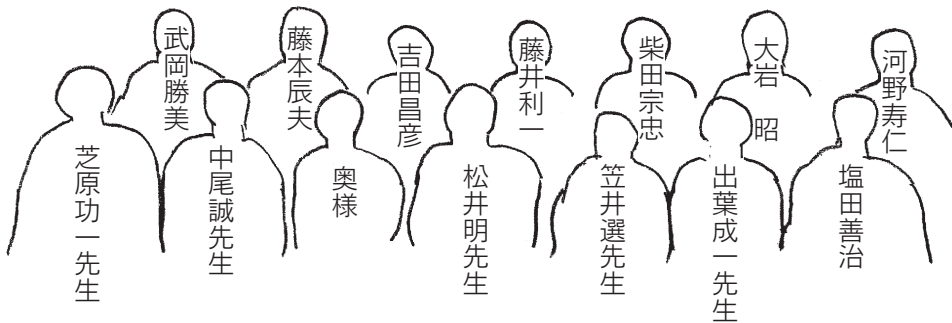
また、私と二人でパチンコ店に行っていた時に店内で客どうしが喧嘩を始めたので先輩が仲裁に行った所、仲間が来たと慌てふためいていた店員に「わしは警察じゃ」と言って、まるくその場を納めました。その時の服装はアロハシャツという出立ちでした。そんな笑い話のような出来事もありました。

退職されてからは、高齢者剣友会で試合を楽しんでおられ、暇を見つけては野菜づくりを生き甲斐とされておられました。また、青少年育成にも力を注がれ、上浦剣道教室を熱心に指導され、礼儀・基本を重視した教えて、入室希望者が毎年増加し大変喜ばれ

ておりました。さらに脇町高校卒業生で
つくる芳越剣友会の会長として会員をよ
くまとめておられました。亡くなられる
一か月前の十二月三十日も、例年のよ
うに、滝下、柴田、下村各先生の墓参り
をされ、稽古はされませんでした。総
会・懇親会と最後までお付き合い下さり、
心から楽しそうに剣道談義をされていた
のが最後となりました。

今は天国でここ十年内で亡くなられた
細川昭典、岡山の松井明、中尾誠、弟の
芝原功一各先生等と酒を酌み交わしなが
ら剣道の話で盛り上がっていることでは
う。遠からず私も仲間に入れてもらう時
を思いながら筆を置きます。先輩安らか
に。

合掌



出葉成一先生を偲ぶ

上浦剣道教室 近 久 寛

巖武院護修成岳居士と書かれた位牌に向かい手を合わせて、瑞宝双光章のとなりの凜とした表情の遺影を目にしながらも、奥の部屋から先生が出てこられる様な気がしてなりません。教室の事務的な用事を口実に、先生の御自宅や入院先へおじゃまする機会が多くなり、癌発症後も、苦しい治療や剣道に前向きに取り組まれ、自分らしく生きる事を最後まで貫かれる御姿を間近で観させて頂きました。

執筆の御依頼を賜り、私の書けるのは出葉先生の闘病の様子についてだと推察し、奥様にお話を聞かせて頂いた事など報告させて頂きます。(本誌三十二号の随想で出葉先生自ら述べておられる内容と重複する所もございます。)

平成二十六年一月末

・前立腺癌。全身骨や直腸に転移あり、ステージ五の診断と共に、早ければ三ヶ月長くて二年の余命宣告を受ける。

「わしは、あきらめとれへん。どれぐらいやれるか、やれる事をやる。『剣道はもう止めた。』って言われても無理。」と退院後も剣道具を付けて稽古に来られる。

平成二十六年五月

・人工肛門造設手術

「腹に穴あけて袋つつかかなあかんのなら左側にしてって言うたんじゃ。右は胴打たれるでーな。」と笑顔。

平成二十七年六月

・腸閉塞発症

入院中、育てている野菜の様子が気がかりで帰ると言いだされるが、奥様が写真を撮ってくるなどして止める。

「痛いせこいのでまいったわ。」と、退院後二週間ほどから稽古に来られ、「やっ」と貰うてもらえるような、ええのが出来た。」と立派な大根を下さる。

平成二十八年五月

・抗癌剤適応検査入院

「エレベーターの鏡でちよいちよい構えの確認しよんじゃ、まだいけるで。」と私に向かって杖を構える。「大丈夫です。今、ビリッときました。」と答えると、「ほうで、ほなけんどもあんまり人がおったらでけんじゃ。」と笑顔。

六月中頃から稽古に来て下さるが、「意味や道理を知ってやるのと知らずにやるのは大ちがいじゃ。」と黒板を用いての座学が増える。

「座って観るだけ、と想着て来てもどうしてもやってしまうんじゃわ。」と稽古に来られると二日ぐらい寝込んでしまわれる様になる。(全身に痛み)

平成二十八年十一月

・抗癌剤適応検査入院

前回と別の薬を試すため入院。近くの道場（大学）へ稽古を
観に行かれる。（杖がなくては歩行は出来ない。）

平成二十九年一月

・痛みを和らげるため転院

一月二十九日、昇級審査合格報告に子供たちや御父兄が来院
する

「ぬくうになったら、また孫つれて行くけんな。」としばら
く談笑。

二月一日、お気に入り店の店のぜんざいを食べたいとおっしゃ
り、ご兄弟といっしょにあがられるが本人は三口ほど。

「ここのは旨いだろ。」

と笑顔を見せられるがその後、体調悪化、意識レベルも低下。

平成二十九年二月

・昏睡状態となり家族の呼び掛けにも反応がなくなったが、近
藤巨先生が見舞いに来られ「近藤です。」と声を掛けられる
と、パッ！と目を開き、起き上がろうとされる。御家族、担
当医もビックリされる。

平成二十九年二月四日〇時二分

・前立腺癌のため死去

御家族に見守られ静かな最後

平成二十九年二月六日

・告別式

羽ノ浦町でお住まいであった実弟、教士七段・故芝原功一先

生の告別式と同じ日付。（芝原先生告別式・平成二十五年二
月六日）

奥様から頂いた手紙の抜粋

主人は、剣道大好きで剣道一筋の人でした。そんな主人に
対して剣道に焼きもちを焼いたり時々は体を休めて欲しいと
願ったりした時もあります。でも何時も前向きで頑張ってい
た主人を思っていますと、今更ながら誇りに思えて来ます。
最後まで武士だったように思います。有難い叙勲を頂きました
たのも、支えて下さった周りの方々のご理解と愛情無くして
は頂けなかったと感謝の念に堪えません。六十九歳で亡くなっ
た事は早過ぎるとおっしゃる方も居ますが、目標を決めて何
時も挑み続けた人生は、何倍も凝縮した人生でしたので本望
だったと思います。剣道を通して良い友を沢山得られた事が、
主人の最大の幸せだったのではないのでしょうか？本当に有難
うございました。

皆様のより一層のご発展を心よりお祈り致しております。

出葉 純子

出葉先生の最後の生きざまを心に深く刻み、精進したいと存じ
ますので今後とも御指導宜しくお願い申し上げます。

合掌



稽古着姿の出葉先生



ありし日の出葉先生



左より、出葉先生、筆者、藤川先生

笠井勝先生を偲ぶ

徳島県高齢剣友会 会長 高 島 稔 之



私が高齢剣友会に関わることになった事情については、「剣道有功賞を受賞して」の内容の中でも少し触れた通りです。そこで、事務局長から理事長になって以降のことを中心に、述べることにします。

私は、平成二十年度から有賀秀敏先生の後を受けて高齢剣友会理事長を務めることになり、剣道連盟理事長（当時）の三木毅先生の御紹介で、笠井勝先生が事務局長をしてくれることになりました。笠井先生を見て、「礼儀正しく、律儀で・真面目そうな方だなー。」と感じたのが、私の第一印象でした。そして、遠藤会長、有賀副会長、私が理事長、笠井先生が事務局長という新体制がスタートしました。特に、笠井先生は、理事長としての私を本当に良く支えてくれました。（平成二十年度～二十六年度）

先生には、高齢剣友会日々の雑務から、毎月隔週（第二・第四）土曜日の稽古会及び西部地区・南部地区での宿泊稽古会、毎年六月に日本武道館で行われる「全国高齢者武道大会」、県内・外での「ねんりんピック」・「四国高齢者剣道交流大会」等、非常に献身的に世話をして頂きました。

前述の「剣道有功賞を受賞して」の記事の中で紹介しました平

成二十六年四月の「第一回四国高齢者剣道交流大会」の開催も、多くの関係者の御協力を頂く中で、二人三脚で立案・準備・当日の大会運営等に携わったことが、懐かしく思い出されます。そして、高知県で開かれた第二回大会では、選手として第三試合（対・香川戦）に出場し、見事な小手の二本勝を納め、第一回に続いて徳島県を優勝に導いてくれました。

平成二十七年からは、会長（高島）・理事長（美馬）・事務局長（乾）の新たな体制となり、愛媛県で開かれた第三回大会にも、選手として第四試合（対・愛媛B戦）に出場し、またもや見事な小手の二本勝を納めました。

しかし、この大会出場後しばらくして体調を崩し、長期の入退院生活を送るようになり、平成二十九年六月一日、帰らぬ人と成ってしまいました。六月二日（お通夜）・三日（告別式）と、気丈に振る舞っておいでの奥様（和子婦人）と二人の御息様（誠・悟さん）のお姿が、今も脳裏から離れません。告別式当日には、多くの高齢剣友会会員・警察関係者・御近所の方々等に見送られて、住み慣れたお宅を旅立って行かれました。

笠井勝先生との思い出は尽きません。本当にお世話になりました。安らかに眠りください。そして、心血を注いで頂いた徳島県高齢剣友会を、これからも、しっかりと見守り、陰から支えてくださることをお願いし、先生を偲ぶ言葉とさせて頂きます。

合掌

笠井勝先生を偲んで

阿波支部 出口正春



笠井先生に出会ったのは、先生が退職され板野西支部の稽古会に始めた頃でした。年齢は私より七つほど年上の先輩で、その頃笠井先生は、吉野町の少年剣道教室に所属し、指導されていたと思います。

平成十七年四月に阿波市が誕生し、板野郡の土成・吉野両町はその一部になりました。その時、板野西支部から阿波支部に、何名かの方々と共に私も支部を変わりました。

そののち数年が経ち、地元吉野町の剣道教室が畳まれ無くなりました。そうしたことが有り、笠井先生は私達土成町の少年剣道教室に来てくれるようになりました。

一緒に教室で子供に接するようになった頃、笠井先生が六段の審査を受けられていることを聞き、私はすごいことに挑戦されていると思いました。

また先生は退職後、再就職し、何年かを確か美馬市で相談員のような職に就かれ、同時に県の高齢者剣友会の事務局として会員の世話をされていました。

そんな公私ともに忙しい中、以後ずっと熱心に子供達の指導を

していただいております。

一昨年の平成二十八年秋頃「少し具合が悪いので、しばらく稽古を休みます。」と言われて来られないようになりまし。その口調から当時私は、一時的なものだろうと軽く考えていました。しかし、この後剣道場でお元気な姿を見ることはなくなりました。今振り返ってみて、先生が剣道に関し言われたりされていたことを、私の思いも加えそのままに記してみます。

先生が、いつもよく注意というか強調されていたことの一つは、大きな声を出して竹刀を振るといふことをよく言われていました。その当時はさして気にかけていませんでしたが、自分自身が六段審査に臨むようになってから、これはとても必要なことだと痛感するようになりました。

そしてもう一つ、「木刀による剣道基本技稽古法」を稽古の始めにしていねいに指導されていたことが、懐かしく思い出されます。これも今振り返ると、竹刀の扱いと日本刀のそれは微妙に違う点の有ることが少年剣士の心に、知らず知らずの間にしみこみ定着したと確信しています。

そして、話が前後しますが、先生の入会より遅れること数年後、私自身も六十歳になり高齢者の剣友会に入会しました。

当時笠井先生は、会員への連絡などの庶務で、今考えると忙しい状態であったかと想像しています。

私はといえば、時々少剣教室で顔を合わせるのいいことに、そういう先生に会の返事や会費の納入を頼むなど、どちらかと言え

ば迷惑のかけどおしであったと今になって反省している次第です。さらに又、毎年秋に一度ある会員同士の試合に出るようになったのも、先生の呼びかけによるものでした。

最初に出た試合では、泊先生と一緒にした。この方は平成二十一年十一月に六段に合格され、以後六段審査を目指しかけていた私が目標とした最初の先生です。

そして今一人は、平成二十二年五月に六段に合格された笠井先生でした。

そんな訳でたまに参加していた松茂町での稽古会でも、機会があれば目標としていた、この二人の姿に注目しては参考にしていました。

私が、平成二十六年春の審査を受ける直前の地元少剣の稽古の時に、笠井先生にお願いして稽古をつけてもらい、運よく合格した時のことは、今でも昨日のごとく深く心に残っています。(心から感謝申し上げます。)

また、笠井先生には長い間土成町の少年剣道教室のご指導をいただき、大変お世話になりました。重ねてお礼申し上げます。

先生には、まだまだ剣道で活躍して頂きたかったのと、七段を目指されていたことなど、心残りなことばかりですが、どうか安らかにお休みください。先生のご冥福をお祈りいたします。



心
あらびき
礼
あや



兄西岡金若を偲んで

福井 軍 二



旧木頭村は阿波のチベットと言われる大変な僻地でした。自給自足の生活で必需品は海部の皆ノ瀬から霧越峠を越えて人々が背負い運搬していました。当時木

頭村は海部郡に属しており、西岡家は旧

木頭村大字南宇にあり、兄弟姉妹は男六人・女二人の八人で、私・軍二が末弟です。戦争に四人行き、次男が戦死、七人になり、それぞれ元気に暮らしていましたが、年輪にはかなわず次々と他界し、私より九歳年長の兄・金若と二人になっていました。兄は元気でしたが、数年前より体調が優れず、平成二十九年十一月、八十七歳で永眠しました。

私は高校時代、田宮にあった兄の自宅で共に生活しておりました。兄の性格は、自分の気に入ったことは、忍耐強く継続する人でした。仕事はNTTに勤務していました。剣道は昭和三十九年（三十四歳）の初秋から病気ががりの運動不足の解消に良いと始めましたが、やり過ぎて医者に止められてしまいました。

一年ほど経て、故大澤善二郎先生の所に行くと「おまえはもういい年だから剣道はどだい無理じゃ、居合ならやれるから」と言われ剣道を諦め、居合に専念することになりました。そして、先

生と一対一の稽古に明け暮れた、昭和四十一年木頭村百段突破記念大会で初段享受、大澤先生を先頭に有志と共に演武を行ったのが兄・金若の最初の演武でした。

その当時は、剣道の稽古の後で居合をやっていたので、居合専門の兄は剣道の稽古が終わるまで待っていなければなりません。それで先輩の稽古ぶりを見る機会に恵まれた訳ですが、そのうち兄は剣道をやってみたくてたまらなくなり、四十一年の夏頃から再び剣道を始めることになりました。善二郎先生のご配慮のお陰で勤務の空き時間には昼間でも武道館・市高・徳農・東警察署等各道場を回って稽古することができたようでした。四十一年の盛夏厳しい頃、初段審査に際して、日本剣道形を身体で覚え込むまで善二郎先生より徹底的に指導を受けたそうです。先生も兄も全身汗みどろで時間を忘れての猛稽古であったとよく話していました。

剣道を初めて三十年余り黙々と稽古を忍耐強く続けて、六十六歳で七段を享受された時は無上の喜びであったと思います。

その頃より各種大会、四国四県高齢剣交流練成会等に、何回か参加、私も運転手で行き稽古をしました。また平成二十年十月、「第二十三回ねりんピック鹿児島」で剣道は出水市開催に参加する。選手は、先鋒・松浦武信先生、次鋒・日野利之先生、中堅・谷博先生、副将・福井軍二、大将・西岡金若でした。兄弟で大会に参加して生涯の記念に成りました。蛇足ながら、私も故「大澤善二郎先生」には小学校の頃から剣道をご指導頂き特に切り返し・

懸かり稽古は忘れません。

おわりに大変お世話になりました、徳島県高齢剣友会・徳島錬心館・木頭錬心館の皆様に見「西岡金若」に代わり心より感謝申し上げます。



剣道交流大会にて



西岡家の法事にて 兄・金若（左端）と筆者（右端）



第23回ねりんピック鹿児島大会にて



徳島県高齢剣友会（南部地区）稽古会 阿南スポーツ総合センター 平成17年7月16日

剣友 西岡金若先生を偲ぶ

研修道場東内会館館長 東 内 勉



私が西岡金若先生の訃報を知ったのは、新年も明けた一月の寒い日のことでした。毎年頂く年賀状が、今年はまだ届かないことを気掛かりに思っていた頃、寒中お見舞いのお手紙が届いたので。西岡先

生のご長男である宏さんから、金若さんが昨年十一月三日にご他界されたという、思いもかけぬ悲しい知らせでした。まさに青天霹靂と申しましょうか、言い知れぬ寂しさが胸に込み上げてきました。人生には出会いがあれば、また、別れもあるといった言い伝えを耳にします。そう心得てはいるものの、やはり大切な最愛の剣友を亡くした悔しさは一人です。思い起こせば、彼との出会いは昭和三十六年七月に遡ります。当時私は、恩師大澤善二郎先生が、那賀郡木頭村から居を徳島市内へ移された時、先生の門を最初にたたきました。その後、昭和四十二年に徳島錬心館を建築した時、同郷のよしみで入門してきた彼と共に汗を流し、いつしか固い絆で結ばれました。

剣聖宮本武蔵が千を鍛とし万を錬とするとの教えを座右の銘としていた彼の稽古熱心は尋常ではなく、まさに剣道の鬼のごとく激しいものでした。しかし、剣道の鬼のような反面、非常に人付

き合いの良い人でした。亡き西岡さんとは、高知へ試合に行っるとき、本場のカツオのたたきに舌鼓を打ち、共に杯を傾けました。京都で六段昇進試験を受ける際には、審査日より早く行き、稽古の後に酒を酌み交わすなど非常に楽しいひと時を過ごしました。私が五回目にして念願の七段合格を果たした際には、我が事のように喜び、その夜、錬心館の旧友柳本敏夫氏と三人で祝賀の宴を催してくれました。

剣道と同じく何事にも人一倍熱心でした。大澤先生が城南町に大和錬心館を開設した時には、道場の建設や新弟子の指導に汗を流してくれました。その他、錬心館の協力会会長として会の運営、年間行事、諸々の雑用なども精力的にこなしてくれと共に、剣道連盟の各種大会の参加にも情熱を注ぎました。当時は、一般社会人の試合の機会が少なかった時代で、阿土剣道大会や西日本勤労者剣道大会などに、チームを編成して試合に参加させてくれたことも、今では懐かしい思い出となっています。

また昭和五十二年の東内道場の開設に際しては、日本剣道形を私と共に披露してくれると共に、その後も少年の指導や大人の稽古にも汗を流してくれたことにより、多くの剣士が育ち、現在も道場が続けられる礎となっています。西岡先生には、今でも感謝の念で一杯です。

このように五十二年間、共にやってきた西岡先生に先立たれたことは、敬愛する兄を失ったような心境で、悔やんでも悔み切れません。在りし日の面影を偲びながら、心よりそのご冥福をお祈りいたします。

合掌

全国講習会報告

第五十二回

剣道中央講習会（西日本）に参加して

徳島支部 吉 田 昌 彦



講習会である。

今年度も西日本にあっては、平成二十九年度（第五十二回）剣道中央講習会が四月一日（土）から二日（日）の二日間にかけて神戸市立中央体育館で実施された。

指導陣は全日本剣道連盟から副会長兼専務理事の福永修二先生、担当常任理事の奥島快男先生はじめ、講師として、範士八段の網代忠宏・小坂達明・三宅一志先生が当たられ、諸先生方から直接指導をいただく有意義な講習会である。参加者は西日本の各府県及び学剣連・高体連・官公庁等の関係団体より、年齢四十八歳以上六十五歳未満の五十七名（内教士八段が二十三名）が召集され、

本県からは高木壽史先生と私の二名で参加させていただいた。初日の講習会最後には参加者による稽古会が企画されており、福本先生はじめ範士八段の指導陣と受講生が入り交えての稽古会があり、受講生の教士八段とも数多く稽古ができ、私自身にとって、この講習会に参加できた意義は非常に大きいと感じている。この講習内容は、各都道府県で伝達講習することが義務づけられており、徳島県剣道連盟においても、平成二十九年五月七日に鳴門ソイジョイ武道館において、伝達講習を実施したが、特に、今年度は「剣道講習会資料」が五年ぶりの改訂となっていることから、伝達の必要性が非常に大切なものであった。

一 平成二十九年度の全日本剣道連盟の事業計画

（一）基本方針

「剣道の理念」に基づき、社会から高く評価される活力ある剣道界のさらなる発展の実現を目指し、国内外各層への普及を図る。

（二）指導委員会の重点方針

指導・教育体制の強化を通じて、質の高い剣道を育てる。

（三）指導委員会の重点事項

剣道を正しく普及させるための指導法についての研究及び検討を行う。

①「剣道の理念」、「剣道修練の心構え」、「剣道指導の心構え」に係わる制定経緯の理解を深め、その内容の具現・具象化を

推進する。

②本連盟刊行の「剣道指導要領」、「剣道講習会資料」、「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」、「剣道社会体育教本」、「剣道授業の展開」の活用を図る。

③講師要員（指導法）の講習・研修を実施し、指導法講師の育成を図る。

④女子指導者講習会を開催し、より高い剣道の技術ならびに指導力の向上を図る。

⑤「日本剣道形」の位置づけと内容の理解を踏まえた指導法の研究を行う。

⑥「木刀による剣道基本技指導法」を基盤にした効果的な指導法の普及を図る。

二 平成二十九年度の「指導目的」「技能の目標」

(一) 指導目的／我が国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道を目指す。

(二) 技能の指導目標

①初心者／剣道を楽しく受け止められるよう興味や関心を高める。剣道の基本的な動作や作法を正しく身につける。

②初級者／生涯を通して剣道に親しみ、修練を通して、豊かな生活をつくり出すための基盤的な態度や安全に対する態度を養う。対人的技能を身につけさせ、気剣体の一致した、しか

け技を主に指導する。

③中級者／現代社会に必要な社会的態度の向上につとめ、自己の確立を図る。熟練度を高めることにより、技に対して自信を持ち、懸待一致の剣道ができるようにする。

④上級者／人格を高め、社会貢献と剣道の正しい伝承に寄与する態度を養う。理合を熟知し、高段者に相応しい心気力一致の剣道を目指すとともに審判能力・指導力を高める。

(三) 指導の手立て

①全剣連刊行文献を活用した指導

「剣道指導要領」、「剣道講習会資料」、「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」、「剣道社会体育教本」、「剣道授業の展開」、その他 試合や称号段位級規則書等

②講話を通して剣道への意欲・関心・態度の向上を図る指導。「剣道理念」、「剣道修練の心構え」、「剣道指導の心構え」の理解を図るとともに対象者の資質を勘案し、意欲・関心・態度などを高める。

三 実技指導

(一) 区分別指導事項／礼法・基本動作・応用動作等

(二) 剣道実技／礼法・基本稽古（素振り・切り返し等）

(三) 木刀による剣道基本技稽古法の展開

①制定の趣旨等について

②全体指導と対人指導（基本一〜九までの打突の仕方、打たせ

方、受け方)

(四) 剣道実技(剣道具を着装しての実技)

- ①木刀による剣道基本技稽古法を活用した指導等
- ②稽古法(切り返し・打ち込み稽古、掛かり稽古等)

四 日本剣道形

○共通理解

- ①中段の構えの延長とは、棟の鏝元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。
- ②太刀一本目、打太刀正面打ちを抜かれた剣先の高さは下段程度。
- ③太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ刀の中央部、剣先は、正面の高さ。
- ④太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一挙前に出し刃先は、やや斜め下。
- ⑤太刀六本目、仕太刀がすり上げ小手を打った時、右足を踏み出し左足を引きつけるを原則とするが、間合いによって引きつけなくても、踏み出したと解釈する。
- ⑥太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つ時の方法。

○右足を右前に開いたとき、刀を左肩上に振り上げ左足を踏み出すと同時に胴を打つ。

○右足を開いても(体は移動させない)刀を振り上げず、左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす一拍子で打つ方

法。(修練者の錬度に応じて指導する)

⑦小太刀半身の構えの刃先の方向

- 中段半身の構えは、刃先をやや斜め下に向ける。
- 下段半身の構えの刃先は、真下とする。

五 審判法

○試合・審判の意義・目的

元来試合は、試合者にとって、それまでの修行の集大成の場である。すなわち試合に至るまでに習得した「心・技・体」を最高度に発揮して、勝敗を決する場であると共に、今までの修行の在り方を稽える場であると同時に、今後の修行の在り方を検討する場でもある。

一方審判員は、「剣道の理念」に基づき、試合・審判規則を正しく運用し、試合者による総ての事象を適確に判断して、勝敗を決する重大な役割を担っている。

剣道が如何に勝敗を超越するものであるとは云え、最終の決定をくだす審判の適否は、今後の剣道の在り方に重大な影響を及ぼす。

「審判が良くなれば、試合が良くなる。試合が良くなれば、剣道が良くなる。」

と云われる所以はまさにここにあると考えられる。

したがって、審判員は試合者が「剣の理法を全うしつつ、公明正大に試合を行っているか否か」を試合状況全体を把握しながら

ら適正公平に審判を行い、勝敗の事実や事象を正確に判定する必要がある。そして、試合審判を通して試合者に技術の得失や、行為の適否を自覚させ、正しい剣道の善導と、人間形成の醸成に努めることに深い意義がある。

○伝達講習の講師としての感想

剣道中央講習会の伝達講習を受講し、その後、本県で講師として多数の受講生に講義をすることは初めてであった。しかし、伝達講習をすることに対しての責任感により長期間に亘り自分の勉強や研究を繰り返し実施した。結果として木刀による剣道基本技稽古法・日本剣道形・審判法等の自信につながることもあった。

本県での伝達講習会では、平成二十九年度剣道中央講習会（西日本）神戸市立体育館で二日間での受講したことを一日間で伝達しなければならぬことで時間配分がむずかしいと感じられた。

今回の受講生がこの機会に「剣道を正しくする。」との認識をもって生涯剣道を目指して欲しいと思います。





第四十四回居合道中央講習会に参加して

居合道部 森 将 夫



平成二十九年九月二日(土)と九月三日(日)に京都市武道センターにおいて、全日本剣道連盟主催の第四十四回居合道中央講習会に坂本憲一先生と私が参加させていただきました。

この講習会は、各都道府県で指導的立場の者を対象に全剣連居合と審判実技の講習を行って技能の向上を図ることを目的としたもので、居合道界としての最高の講習会として位置付けられているものです。そして、この講習会の受講者は自県において講習内容を正しく伝達する為の講習会を実施することが義務付けられており、参加者は第五十二回全日本居合道大会審判委員候補者も含めて一〇三名でした。

講習一日目(九月二日)は午前九時より全剣連奥島副会長はじめ役員・講師が参列し、開講式が行われました。居合道委員長小倉範士より、新体制のスタートがこの中央講習会であり「全剣連居合のレベルアップ」「正しい居合道界の発展」をテーマとしており、各県代表の受講生はしっかり学び、しっかりとした信念を持って稽古をして欲しいとの挨拶がありました。引き続き、日程と講師の役割分担が説明され講習に移りました。まず全剣連居合

について解説を迫野講師が担当し、技の一本一本について、要義、着眼点、指導要点が解説され、東講師の演武で模範が示されました。懇切丁寧な説明のあと質疑応答に移り、三本目の受け流しの質疑も詳細に解説されました。「全剣連居合は解説書の通りで何も変わったところはありませぬ」との事です。続いて、受講生を五班に分け、各講師による個別指導が行われました。私は五班で東講師の指導を受けました。この実技講習では全剣連居合が正しく伝達できるようにと、講師の先生から熱心な指導を受け、受講生も真剣に稽古を繰返し行い、又最後にはその成果を見るべく八段以上と七段以下の二班に分けて全体の演武を行い、小倉委員長の講評で一日目の講習が終わりました。

講習二日目(九月六日)は午前三谷講師、草間講師の担当で審判講習が行なわれました。まず、最初に三谷講師から勝敗を明確にする事が試合者にやる気を起こさせ、審判の所作、姿勢を厳に正す事によって、人に感動を与えられ正しい判定ができる。それには、自らが稽古して技量を高めなければならない等の訓示がありました。

実技指導は受講生が選手役となり、第五十二回全日本居合道大会の審判員候補者全員が主審、副審と立場を替えながら、旗の上げ下げから立ち居振る舞いの基本動作の指導、しかも判定理由を聞いただされる等、厳しい講習が繰り返されました。又、試合中の負傷に関する対応の実技指導もありました。その他の受講生も二会場にわかれ選手役と審判実技を交互に体験し緊張の中にも充

実した講習となりました。

その後、各流派に分かれての古流の研究の講習が行われ、無双直伝英信流は三谷講師が指導し、八段の先生と七段以下の先生が向かい合う形式で正座の部、立膝の部の交互抜きを行いました。「道場によって多少異なるところがあっても大差がないので教わったとおり稽古してください」とのことでした。

流派別の講習終了後は、主会場にて各流派の代表者による演武が行われました。少数流派の人達が演武する姿を見て、伝えられている貴重な技を、末永く伝承する事の必要性を強く感じました。閉講式は午後四時にあり小倉委員長より二日間の成果が充分にあった。受講生は全剣連居合をくれぐれも正しく伝達して欲しいとの挨拶があり、その後散会となりました。

受講内容は九月十七日(日)に松茂第二体育館において坂本憲一先生の解説、私が実技を担当し、伝達講習会を実施する予

平成 29 年度(第 44 回)居合道中央講習会 日程表

平成 29 年 9 月 2 日(土)～3 日(日)

(於・京都市武道センター)

全日本剣道連盟

	9月2日(土)	9月3日(日)	
9:00	開 講 式		9:00
9:30	全剣連居合	審判実技	11:30
12:00			質 疑 応 答
13:00	昼 食	昼 食	13:00
17:00	全剣連居合	古流の研究	16:00
		閉 講 式	

定であったが台風十八号接近のため順延となり、次週の九月二十四日(日)に石井町の前川体育館で伝達講習会が実施されました。さらに、十一月十二日(日)に松茂第二体育館で行われた秋季講習会でも補足の意味で伝達講習を行いました。

第五十五回

剣道中堅剣士講習会に参加して

徳島支部 山本 泰史



各都道府県剣道連盟の中核となる剣士の錬成強化と指導力の養成を図ることを趣旨とした表題の講習会が、平成二十九年六月十四日から十八日までの五日間にわたって、おこなわれました。全国から約六十名が奈良市中央武道場に集結し、中には全日本選手権の常連選手も参加しており、荘厳な緊張感のある雰囲気の中おこなわれました。このような歴史ある講習会への参加機会を与えていただきました。三木会長をはじめ徳島県剣道連盟の先生方に厚く御礼申し上げます。

〔講習会の基本的な考え方〕

- ・ 剣道理念に基づいた修練
- ・ 有効打突を競い合う中で「気を練り、技を磨き、体を鍛える」
- ・ 対人対応能力を養う
- ・ 切磋琢磨「志を同じくする者が、互いに良いものは認めあって欠点や誤りを直しあって向上をはかる」
- ・ 交剣知愛「剣道を通じてお互いを理解しあい、人間的な向上をはかること」

会場に向かう道中で、防具をもった先生方お二人とお会いしました。険しい顔を見て、すぐに講習会に参加する先生方だと直感しました。昼食の折、「昨年は靱帯断裂した人がでた」「講師の先生から君はこの講習を甘くみている。もう帰ったほうがいいと叱咤を受けた」ことなど、不安を煽るような情報を先生方が矢継ぎ早に繰り出してくるので、自分の士気は下がりがつありました。しかし、「郷に入れば郷に従え」徳島県の中堅剣士としての誇りを持ち、そして一本一本 大切に気を抜かず、「自分の限界に挑戦」と開講式前に改めて決意しました。

限界の言葉どおり五日間を通して、手足は血豆だらけ、学生時に断裂したアキレス腱の炎症や肉離れに近い状態になりました。特に三日目、深夜に脱水症状のような状態に陥り、ベッドを抜け出しこっそり数時間トイレにこもって回復を待つなど精神的にも追い込まれました。最終的には、自分に負けることなく訓練を最後までやり遂げることができました。精神的に一番こたえたのは、審判法の講習です。自分が選手となって二試合おこないつつ、主審・副審それぞれの審判技量について、ご指導いただきました。約三十名ずつ二試合場でおこなったので、講師の先生方の目が存分に光っており、一瞬たりとも気の抜けない状態でした。

四日目途中で秋田県の先生がアキレス腱を断裂されましたが、最後まで参加され、他の先生方に励ましの言葉をかけられている姿に心打たれました。最終日前日の懇親会では福本先生をはじめ講師の先生方から激励の言葉をいただき、二次会では、同部屋で

あった九州の先生方と焼肉をたらふく食べ、飲み、剣道談議で盛り上がりました。先生方の多くが全国トップレベルの道場の指導者であったため、少年指導のポイントや勝負へのこだわり法など参考になる点が多く、知見を広げることができました。

当講習の指導内容や先生方からのアドバイスはすべてノートに書き留めました。そして、自分が迷った時など、ことあるごとに確認し、内省しております。このノートそして人脈は私の一生の財産です。

〔印象に残っている言葉〕

着装には「品」があらわれる

礼には「格」があらわれる

構えには「品格」があらわれる

初太刀には「覚悟」があらわれる

この講習会を通じて体得した剣道観をもって、今後も徳島県剣道連盟発展のため尽力する決意です。

第五二号

修了証

徳島県 山本泰史

あなたは本連盟主催の平成二十九年(第五十五回)剣道中堅剣士講習会に参加し、その課程を修了したのでこれを証します

平成二十九年六月十八日

全日本剣道連盟

会長 張富士夫



平成29年度(第55回)剣道中堅剣士講習会日程表

平成29年 6月14日(水)～18日(日) 於：奈良市中央武道場

全日本剣道連盟

	6月14日(水)	6月15日(木)	6月16日(金)	6月17日(土)	6月18日(日)
起床 6:00					
6:30		稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師
7:30					
9:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:30		指導法	審判法	指導法	スポーツ医学 佐本講師
10:30		網代講師 他全講師	三宅講師 大嶽講師 他全講師	石塚講師 他全講師	質疑応答
10:45					閉講式
11:00					
12:00		昼食	昼食	昼食	
14:00	講師打合せ会議				
14:30	集合(事務連絡)		木刀による 剣道基本稽古法 上垣講師 寺園講師 他全講師	日本剣道形	
15:00	開講式	指導法		中田講師 松田講師 他全講師	
15:20	講話 松永副会長	石田講師 他全講師	指導法 古川講師 他全講師 (区分稽古)		
15:30					
16:00	指導法 亀井講師 他全講師				
17:00	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	
17:30					
18:30	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 夕食	
19:30					
消灯 22:00					

◎講師の都合により変更の場合もあります。

徳島県剣道連盟春期講習会 藤原崇郎先生講習要録

広報部 木原資裕

平成二十九年三月十九日に鳴門ソイジョイ武道館において、徳島県剣道連盟春期講習会（高段者研修会）が藤原崇郎先生をお迎えして、実施された。以下にその概要を列記する。

一、開講式での藤原先生挨拶

三年前にも講習会にお呼びいただき、爽やかな稽古とともに、気持ちよく帰った記憶がある。本日も講習会に参加して下さい。先生方と一緒に真摯に剣道の向かうべき姿、方向性を考える講習会になればいいのではないかと思う。



二、講話

○自分の剣道に自信を持つ

それぞれの個性があつて良い。剣風が違つても良い。審査は自分の持っている良さを出せるかどうかである。自分の良さがわか

らない人は自分の精一杯を出すことである。自分の剣道に自信がない人が審査に合格できるはずがない。まずは一生懸命剣道をする姿勢になることが大切である。

○審査の気持ちを生活に

「自分が試されている」「さあ、どうする?!」自分が試されている状況は剣道に限らず生活のいろいろな場面にある。「よし、やってやる!」と自分にやる気を持たせることである。審査もそのやる気を持って臨むことである。

○八段の先生に稽古をお願いして

七段の者が八段の先生に稽古をお願いすると何か違うと感じる。これが入り口である。しかし、いつまで経っても違うなと思うだけではダメ。自分も稽古を重ねることにより、それなりに力が付いてきているという自覚ができてくるのが大切。構えただけで相手の力を感じるようになると良い稽古ができるようになる。

○有効打突を生み出していくために

まずは、打つ機会、一番いいのは出頭。出てもよし、引いてもよし、応じてよし、年代に応じた総合力が大切。自分の剣道の特徴を自分で知っておく必要がある。

○自分に対するペップトーク (PEP talk) を生かす

今年の勝浦での部活指導者研修会で聞いた「ペップトーク」の講演内容をお伝えしたい。ペップとはもともと「元氣、活力」という意味である。生徒に前向きな積極的な話をせよとの趣旨であり、「やるな」ではなく「どうすればいいのか」を具体的に話す

ことを求めている。例えば、高速道路の男子トイレには「こぼすな」との張り紙をしているところもあるが、「一步前へ」との張り紙もある。同じことを求めるにもかかわらず、表現の違いによって、その成果には明らかな違いが見られる。

この講習会に参加している人にとって大事なものは、自分に対するペップトークをすることである。いい方向に自己暗示をかけていく。自分に対する言葉がけ「お前ならできる！」とペップトークし、自分が自分に対して自信を持たせることである。覚悟を決めて立ち合うことが肝要。

○質疑応答1 「打ち出す機会をどのように考えればよいか」

剣道は一方通行ではダメ、何とかして打とう・打とうとする気持ちは相手に写る。攻撃力が強くとも相手に打ち出す機会がわかると通じない。「こいー」という気持ちで先をかけ、相手の攻撃・気力を受け止めて、さらにその上の攻撃力を出す。合気の中で相手の動きをどう捉えて、どう対処するか。相手を乗り越える気持ちで、相手と立ち向かうことが肝要である。

○質疑応答2 「審査での立会の際、膝が悪く蹲踞ができない場合はどのようにすればよいか」

立て膝でも良いし、中腰でもよい。最近の審査員の申合せでは、審査員に蹲踞が十分できないことを申告する必要はない。ただ、審査前に順番を待つ際に自分と立会う相手に蹲踞ができない旨を伝えておいた方がよいと思う。

三、実技指導

○竹刀の先を振るためには

藤原先生よりの問題提起

「正座をして、竹刀の先を床につけて、竹刀を振り上げる際にどのようにしているか。」

藤原先生の持論

右手の中指で竹刀を跳ね上げ、その際に左手に若干の空間ができ、そこを左手の小指・薬指で締める。柄がしらの動きは小さいが、竹刀の先は大きく振れる。最小の力で最大の力を生み出す。

・竹刀の先を振る段階的指導法

- ①左手を右手につけて竹刀を握った状態からの面打ち。
- ②左手を柄がしらの位置に戻して右手中指で跳ね上げを意識した面打ち。
- ③竹刀の振り上げを四十五度ぐらいにして面打ち。
- ④顎まで切るつもりで振り下ろす、そのことで打ちの強さが出る。
- ⑤手に向こうに伸ばすのではなく、下へ打ち下ろす。



○面打ち指導

・中段の構えからの面打ちの留意点

- ①手が先に動かないように足から動いて面打ち。
- ②構えをそのままにして、右足を浮かせ、そこから面打ち。
- ・間を詰めての面打ちの留意点

- ①足の乱れがないように面打ち。
- ②スツと間をつめてすぐに面打ち。
- ③スツと間をつめて五秒我慢して面打ち。
- ④「来い！」という気持ちで五秒我慢することが大切。五秒は結構長く感じるものである。

・踏み込み足の段階的指導

- ①左上段から間合いを詰めて、右足前で面打ち。



- ②その際に息を吐きながら

一拍子で行う。息を吸う動作があると二拍子となる。

- ③打った姿勢がバランスのとれた良い姿勢であること。

- ④中段遠間からの息を吐きながら、一拍子の面打ち。

・残心の取り方

- ①面を打った後は小幅で勢いをつけ、打ち抜ける。

- ②打った後、背中で「どうだ！」と気持ちをみせる。

・打つ前の工夫

- ①刀の鑓を使うイメージで相手の竹刀へ擦り込ませ、相手の竹刀を中心からはずす。押さえるのではなく、竹刀を上下直線的に使う。

- ②打てる距離になって、我慢することで、攻めになり、出鼻技、返し技への変化ができる。

- ③突きの攻めがあってもよい。突きを突かなくとも相手の崩しになる。

- ④ヘソを三センチ前に出して、右足を浮かせ、面に出る。

- ⑤その際、竹刀を擦り込ませる場合もある。



⑥竹刀は振り上げだけでなく、振り下げて、表から面・裏から面。

⑦竹刀は振り下げるだけではなく、下から攻めるつもりで相手に向かう。

⑧竹刀は下から、気持ちは上から攻める。

・対応技について

①稽古の中で見事に打たれることが大切、その中で打たれるタ

イミングを学ぶ。

②相手に打たれるリスクを負わなければ、技は決まらない。

相手を引き出して、技を決めることができれば最高である。

四、閉講式での藤原先生挨拶

今回の講習会は私個人の立場で招聘を受け、私個人の考え方で講習を進めさせていただいた。内容として不十分な点もあらうとは思いますが、本日参加いただいた先生方のこれからの稽古に何かしら取り入れていただいたり、省いていただいたり、今後の剣道の在り方に参考となれば幸いです。



徳島の剣道史

阿波の刀剣（続新々刀編）

居合道部 坂本 憲一

はじめに



これまで『徳島の剣道』に、本県の郷土刀を古刀・新刀・新々刀・現代刀に分類、その上に阿波の刀剣外装を加え、五

ヶ年、五回に別けて執筆した。
平成二十一年度に「新々刀編」を、平成二十二年度には、現代刀匠二名の去就もあって、取り急ぎ「現代刀編」をまとめ、翌年の平成二十三年度には「新刀編」を、平成二十四年度には「古刀編」、そして、平成二十七年に「阿波の刀剣外装編」を執筆した。

嚆矢となった「新々刀編」は、この時代、阿波の新々刀期の動向が二期に区分できるため、その一期目の動向をとらえ、『阿波刀の歴史』『阿波国十代藩主蜂須賀重喜の派遣刀工（新々刀編）』と題し、重喜を取り巻く刀工を中心に記述した。ために内容が極

めて狭義なものとなり、多くの新々刀工を割愛せざるを得なかった。

この度、上梓する「続新々刀編」は、そうした新々刀編の不備を補うのが最大の目的である。従って、今回は先の『新々刀編』の内容をも含め、新々刀期の刀工を総合的に捉えることとし、以下、内容が多岐に渉るため、(一)海部系、(二)水心子系、(三)尾崎助隆系、(四)森岡朝尊系、(五)その他の諸派に分類して記述する。

一、全国的にみた新々刀期の動向

今日、幕末から明治維新、すなわち天明（一七八一〜八八）以降、明治九年（一八七六）までの期間に製作された刀剣を新々刀または復古刀・攘夷刀と呼ぶが、この期の特徴は、復古刀の名称からも知られるように、新刀の延長でなく、鎌倉・南北朝時代の刀剣を目標に古い鍛刀法を探り、実用的に優れた刀を造ろうとしたところにある。

この時代は大刀と脇差を帯びる姿が廃れ、脇差に変わり短刀を帯びる形が流行、ために古刀然とした短刀が多く造られるようになる。また、大刀には、鎌倉・南北朝期に流行した大長刀巻に範をとった実戦的な長刀直しの形を生ぶとした刀が出現する。この時代の典型作といわれる攘夷刀は長さが二尺五・六寸から二尺八寸で反りが少なく、勤王派の志士たちが好んで指料にするなど、刀剣風俗からも騒然たる世情を窺い知ることが出来る。

全国的に見た著名刀工には、復古刀説を唱えた江戸の水心子正秀、土佐から京に出た南海太郎朝尊、長野より江戸にて活躍し



写真1 水心子正秀の墓
宗福寺（東京都新宿区須賀町）にある正秀の墓。



写真2 源清麿の墓
宗福寺（東京都新宿区須賀町）にある清麿の墓。

た源清麿等は、この時代の典型作を多く遺す。また、大坂には尾崎助隆が助麿の涛乱刃を狙い、月山貞吉・貞一は各伝に通じ加えて巧みな彫刻を施す。

東北各地では、会津の兼定や、手柄山正繁が出て、美濃には御勝山永貞が、京には伊賀守金道の後代、備前には横山祐永や祐包。そして、薩摩には奥大和守元平、伯耆守正幸が出て個性ある相州伝の作品を残している。

二、阿波に於ける新々刀期の動向

幕末は内憂外患、風雲急を告げる時代であったことから、徳川幕府は旧来の軍備を早急に近代化する必要に迫られた。この改革は全国的に銃砲の需要を増大させ刀剣軽視の風潮が蔓延した。阿波もこうした世相を反映して鉄砲鍛冶二八〇有余名を産む。しか



写真3 光明真言供養塔
裏面に石川一門の鉄砲張立ての記録がある。

し、一方では四十有余名に昇る刀工をも輩出した。このことは、黒船が日本近海に出没するなど物情騒然とした世相の中で徳島藩がとった日和見的政策が、むしろ国情を穏やかなものとしたため、新刀期の作刀思想がそのまま踏襲されたことに他ならず、この時代にあって、雨乞神事の奉納刀製作のためにわざわざ九州から駐槌刀工を迎えるなど、阿波ならではの現象を呈している。

とかく武器は乱世の中でこそ高められるが、阿波の新々刀期の始動はまさに武器発達の常識とは少し異なる形で始まる。阿波の新々刀を語るとき、その黎明期に十代藩主蜂須賀重喜が果たした役割は実に大きい。

重喜は秋田の新田佐竹壱岐守義通の四男で、宝暦四年（一七五四）十代徳島藩主の座につく。同年、重喜は、「宝暦御直し」と呼ばれる藩政改革に着手するも、門閥層の抵抗に遭い挫折、「国政平ならず、士民艱困」（『徳川実記』）の理由で幕府より隠居を命じられる。以後、八万の大谷邸に籠もり、広く文人・墨客・諸職集を待らし趣味の世界に没頭する。ともあれこの時期から「国政平ならず」に相反して阿波の文化は大きく花開く。絵画・金工・陶芸・漆芸しかり、そして刀剣である。

刀剣分野では、重喜の命により江戸の水心子正秀のもとへ作刀修業のため派遣されたのが石川正守兄弟・川島の笠井尊輝と徳島の近藤宗利。重喜の元に召し出されたのが上佐那河内村の安芸佐之、その一門の佐壽・佐重、矢野佐真等である。彼等は大いにその技倆を発揮し、重喜の庇護のもと阿波における新々刀期の中心

的刀工へと成長する。

その他にも、阿波の新々刀期には四代藩主光隆（一六三〇〜一六六六）の代からすでに藩工に列し、古来の伝統「海部伝」を保持する海部氏吉の後代、新々刀界随一の多作家吉川祐芳、また、その系統と思われる正重・祐薫。那賀郡山口村（現阿南市山口町）で作刀した田村次郎国親、遠く九州まで出かけ豊前小倉藩工となった長谷川藤四郎吉廣（紀政廣）、九州から駐槌した田守國やその系統と目される守光等がいる。以下それぞれの刀工についてその系統、出自、作風および作例について述べてゆく。



写真4 徳島藩十代藩主重喜の需葬墓
万年山蜂須賀家墓地にある重喜の墓。墓碑銘「阿淡二州太守源元公之墓」。

三、阿波の新々刀工の系統と作例・出自

(一) 海部系

南北朝時代から県南海部川筋を拠点に栄えた名門海部鍛冶も、江戸期に入ると需要の関係か、分派現象を呈してくる。すなわち地場に残る者、阿波国内所々、隣国土佐に移る者、召されて徳島城下に移り住む者等である。

氏吉派を例に挙げれば、西山氏吉は地元海部の地で代を重ね、一派は土佐へ(土州氏吉)、一派は徳島城下へ(徳島氏吉)と進出している。氏次派もまた氏吉派同様で、一派は木頭村へ移住し北川氏次を名乗る。文久頃に名を馳せた中島氏詮は、土佐へ移住した海部氏次の末流で、初代中島弥三左衛門から数えて八代目の中島門蔵がこの刀工である。氏詮は、土佐の有名刀工、左行秀・



写真5 海部氏吉の碑
海南町笹無谷にある刀匠海部氏吉の記念碑。

森岡朝尊とも同地で交流を持ち、陸援隊の中岡慎太郎や、勤王党の武市半平太、野根山二十三士の一人、清岡道之助等の佩刀を鍛えている。

作例

- 1 刀 銘 阿州住氏吉
- 2 脇指 銘 阿州海住市兵衛
- 3 脇指 銘 阿州海部郡穴喰住氏次
- 4 脇指 銘 海部住氏次 八十一歳
- 5 刀 銘 「字」神代文字で「うちのり」(花押)

(二) 水心子正秀系

十代藩主蜂須賀重喜は、江戸の水心子正秀のもとへ鍛刀修業のため四人の藩士を派遣する。石川正守・同正直・笠井尊輝・近藤宗利である。このうち三名は修業後帰参してそれぞれの派をなし、その一門は明治の廢刀令まで多いに繁栄するが、ひとり近藤宗利だけは以後の継承をみない。石川一門には、久隆・守一。笠井一門には、近義・近重・尊護・真信・信忠・真次・尊一がいる。

(詳細は『徳島の剣道』『阿波国十代藩主蜂須賀重喜の派遣刀工』参照)

作例

- 6 刀 銘 阿州眉山麓石川正守造 寛政六歳二月日



写真6 石川一門の墓所
石川小平正守等石川一門の墓標が寄墓の後ろに並ぶ。

- | | | | |
|----|----|---|----------------------------------|
| 15 | 槍 | 銘 | 阿州二星丸尊一 |
| 14 | 太刀 | 銘 | 阿州臣忠信真次兄弟両作相州傳以落鉄鍛之
萬延二酉年二月吉日 |
| 13 | 脇指 | 銘 | 阿州臣笠井真信 嘉永二酉年二月日 |
| 12 | 脇指 | 銘 | 阿州臣笠井尊護 明治二年二月日 |
| 11 | 脇指 | 銘 | 阿州笠井尊輝造 |
| 10 | 短刀 | 銘 | 笠井近義造 |
| 9 | 槍 | 銘 | 阿州石川守一 |
| 8 | 槍 | 銘 | 阿州土石川久隆 |
| 7 | 脇指 | 銘 | 石川正直作「金象嵌」堀江興成(花押) |

- | | | | |
|----|---|---|----------------|
| 17 | 刀 | 銘 | 近藤宗利造 寛政十年八月日 |
| 16 | 刀 | 銘 | 阿州源真次 萬延二酉年二月日 |



写真7 笠井一門の墓所
東禅寺山にある笠井一門の墓。近義他歴代の墓が並ぶ。

(三) 尾崎助隆系

尾崎助隆は、東の水心子正秀、西の尾崎助隆と称され、大坂新刀の代表刀工津田助廣の作風に私淑、見事な涛乱刃を焼く。本国は播磨で、後に大坂に出て寛政十年に長門守を受領。新々刀前期の大坂鍛冶を代表する名工であり、西国一円の刀工たちに多くの影響を与えた。阿波からも数人の刀工が弟子入りをしており、芸佐之・矢野佐真等がそれで、水心子一門で著名な石川正守も一



写真8 安芸一門の墓所
八万町法華の三昧墓地にある安喜一門の墓。

時期助隆の門を叩いている。幕末期の阿波刀工の多くが、刀工銘を楷書で、年紀銘を草書で切る手法は助隆の影響が大である。

作例

- 18 脇指 銘 阿波国住安芸佐之作 寛政七乙卯春二月日
- 19 脇指 銘 応佐藤為成子需安喜佐寿造
文政寅二月日正阿彌孫平田長美彫之
- 20 刀 銘 阿州住安喜佐重作之 慶応元年五月吉日
應奥山高姓需
- 21 短刀 銘 阿州住佐延 慶応四年竹穂日
- 22 刀 銘 阿州住矢野佐真 弘化二乙巳年二月日 以神水
作之

- 23 刀 銘 矢野佐道作之 慶應三年卯八月日

(四) 森岡朝尊系

森岡朝尊は隣国土佐の人で、新々刀期大坂の尾崎助隆と共に有名を馳せた刀工である。朝尊は理論家として知られ、阿波にも若干ながらその門につながる刀工がいる。世に園瀬鍛冶と称される集団である。園瀬鍛冶の祖は、大坂新刀特伝の小林伊勢守國輝の縁続きといわれる助信で、この助信が大坂から阿波の園瀬に移住して代を重ね、それぞれが作品を残し、新々刀期に至っている。しかし、新々刀期に朝尊門となった助信の作品は少ない。これは、作風が酷似することから新刀期の助信に混同されているためである。

園瀬鍛冶には、他に助重・助国・助平・祐平等がいるが、このうち助国が助重の門をでて朝尊に弟子入り、作刀期は嘉永頃と伝えるも、作品を見ず作柄等は不明である。

成岡祐平は、淡路に住居し、阿波藩洲本城代稲田家臣の佩刀を多く鍛えている。祐平は、元々備前長船横山祐永の門人であるが、一時期、朝尊の門を叩く、森岡朝尊の『新刀銘集録』には、本名成岡長次郎と記載されている。

作例

- 24 刀 銘 阿州住助信
- 25 刀 銘 阿州住祐平 天保七年二月日

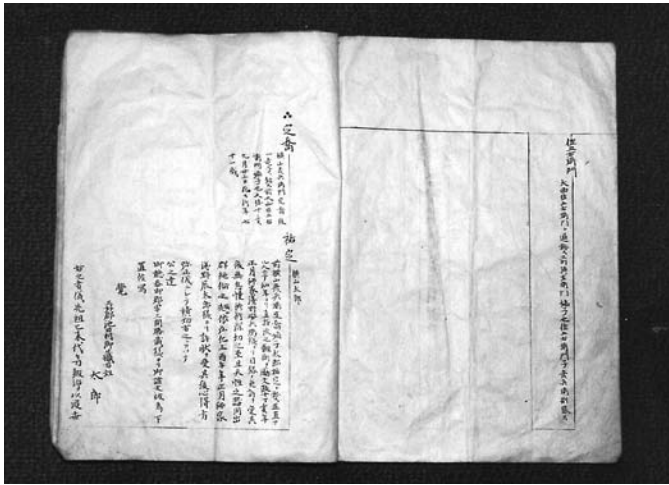


写真9 横山家系図
横山彦兵衛尉祐定から定慶に至る歴代の記載がある。

(五) 備前長船系
室町末期に備前から阿波に駐槌した彦兵衛尉祐定は、慶長三年（一五九八）に大西城番になった中村右近の処遇を得てその抱工となり、同武将の佩刀を作るなどして数ヶ年池田に滞在、以後その子供が代々「祐定」を名乗り幕末まで続く。幕末期の刀工には、祐定・定喬・慶定がいるが、定喬の作品は多く、祐定と慶定は少ない。定喬は晩年「一龍子」と号している。なお、最近まで一族によって「吹子祭」が営まれていたという横山家の屋敷神の若宮祠には、御神体として備前鍛冶特有の「石槌」が納められている。

もう一つの横山家の神棚にも同型の石槌と焼刃土の調合時に使われたと思われる小型で石製の杵臼が祀られている。鍛冶場は同家の文書から大西城門前（三好市池田町）にあったことが分かる。

作例

- 26 刀 銘 阿州住横山定喬 文化九年八月日
- 27 短刀 銘 阿州横山彦兵衛慶定 享和元年二月日

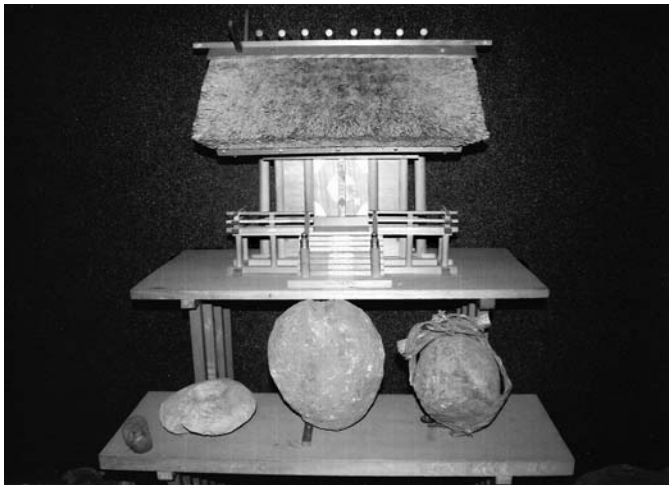


写真10 長船鍛冶の象徴 石槌
横山家の神棚に祀られている石槌。

(六) その他の諸派

新々刀期の阿波刀工には、遺作のみで、出自・系統が不明な刀工も多くいる。また、他国の著名な刀工の門を叩かず、地方鍛冶に入門し鍛刀技術を学んだもの、他に僅かながら他国へ移住したものもある。これらの刀工を列挙してみると、吉川祐芳・吉川正包・佐藤義清・長谷川藤四郎吉広・井上正国・刀剣子正宗・田村次郎国親・永久・貞光・岡本源太夫吉正・田守国・宮田守光・正重・祐薫等である。なお、文献などに登場するものの実刀を見ない刀工には、佐国・佐房・佐光・永久・貞光・吉正・永順などがある。これらの刀工については今後の研究に委ねたい。以下、現存刀の刀剣押形を掲げ、可能な範囲でその刀工の出自・系統を明らかにする。



写真11 田村国親の墓
稲妻鍛で知られる山口次郎国親の墓、戒名 法亮通円信士。

38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	作例
刀	脇指	短刀	脇指	刀	刀	短刀	短刀	刀	脇指	脇指	
銘	銘	銘	銘	銘	銘	銘	銘	銘	銘	銘	
阿州源祐董	阿州住正重	阿州住宮田守光	於南紀阿州守国造之	阿州吉川六郎源祐芳	南海阿国住菊一文字藤原国親作	阿州正宗作	阿州藩井上(以下不明)	越藩士大宮左門政醇	阿州住人源吉廣作之	阿州住佐藤徳次郎義清	
文久三年八月	文政二巳卯年八月日	嘉永四八月日	元治元年二月日	安政四年二月日	於豊前小倉表為作之	元治二年正月吉日	文化三年八月日	文化九年五月日			



写真12 吉川祐芳の墓
新々刀界随一の多作家祐芳の墓、戒名 清浄院研鐵祐芳居士。

(一) 海部系

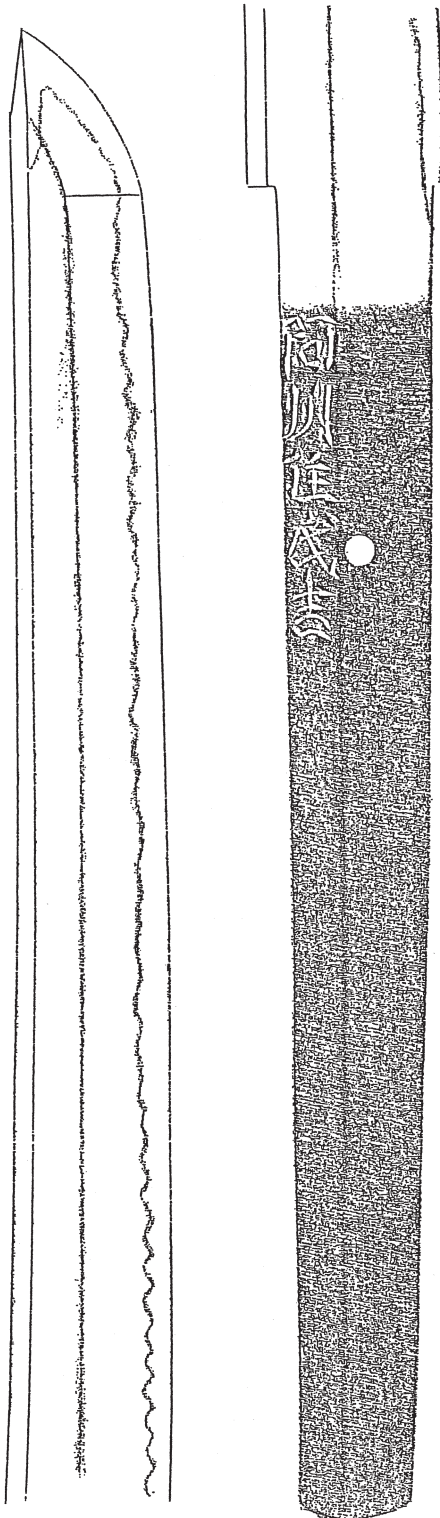
1 刀銘 阿州住氏吉

法量 刃長八一・九^セ、反り一・九^セ、鋒長三・六^セ、元幅三・八^セ、先幅二・四^セ、元重〇・八^セ、先重〇・四^セ、茎長二八・一^セ。

解説 形状は、庵棟、鑄造、身幅広く長寸で典型的な幕末体配。地鉄は、小板目肌がよく詰み無地風を呈する。刃文は、短い直ぐの焼き出しから極めて小さい互の目を横手筋まで規則的に焼き上げ、匂い口締まりごころで足わずかに入る。帽子は、直ぐに小丸で返りはやや深い。茎は生ぶ、鑢目は勝手下がり、目釘孔一個、刃方は平、棟方や小肉、茎尻は浅い栗尻、目釘孔上、鑄地に研ぎ溜め近くから作者銘を太刀銘に切る。

作者は、その銘振から江戸初期藩工になった海部実兵衛氏吉から数えて六代目にあたる益平氏吉と鑑せられ、阿波の新々刀期を代表する海部刀工である。本刀には、同工の手になる特注の鉄製金具（鐔・縁・鏢）を装着、朱鞘に蜻蛉をあしらった無骨で豪快な幕末拵が付けられている。

押形

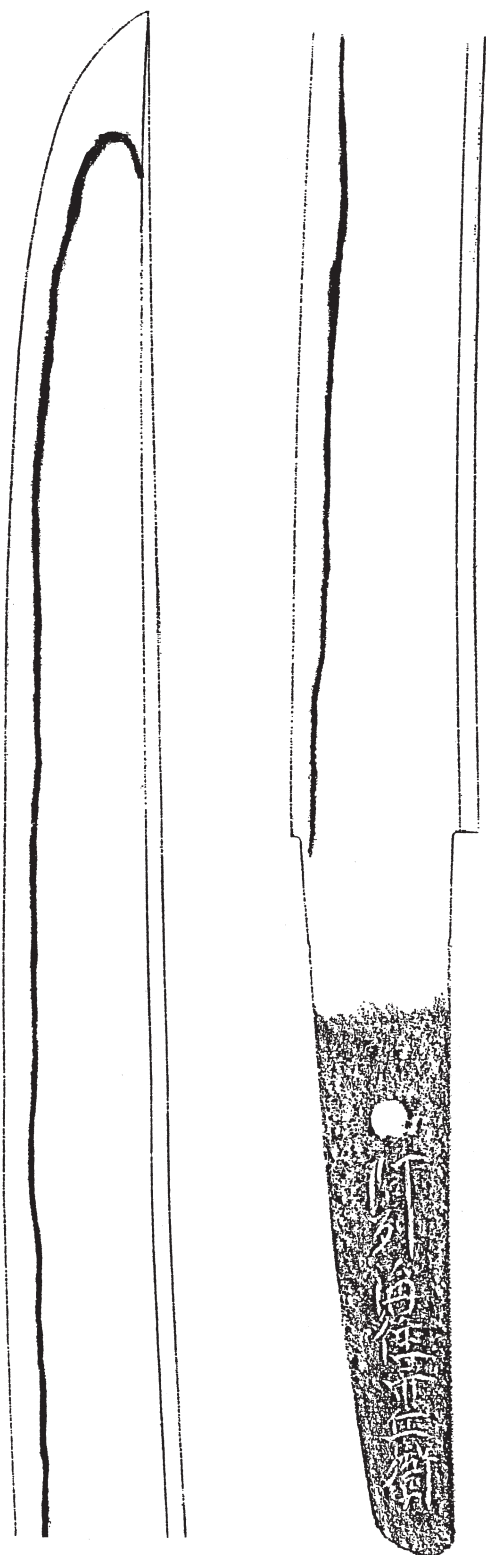


2 脇指 銘 阿州海住市兵衛

法量 刃長四七・〇サ、反り〇・八サ、元幅三・二サ、先幅二・五サ、元重〇・六サ、先重〇・四サ、茎長一三・六サ。
 解説 形状は、丸棟、平造、身幅やや広く、重ねやや厚め、先反り、ふくらつく。地鉄は、柃流れ肌立ち、わずかに地沸つく。刃文は、中直刃、小湾たれ交じり、匂い出来、匂口沈む。帽子は、表裏共に直ぐに小丸、茎は生ぶ、鑓目は勝手下がり、目釘孔一個、茎尻は、刃上がり栗尻、銘は目釘孔下に、太鑿で俗名を切るが、海部の「部」の一字が抜けている。

西山氏吉は、海部川筋に居住した海部氏吉の末流で初代を市郎右衛門氏久といい、二代目のときに氏吉を名乗る。三代・四代・五代は不詳ながら、以後十九代まで連綿と続いている。新々刀期に該当するのは十代氏吉（俗名市左右衛門、寛政十年没）、十一代氏吉（俗名市右衛門、没年不詳）、十二代氏吉（俗名市兵衛、天保十年没）、十三代氏吉（俗名市兵衛、没年不詳）、十四代氏吉（俗名市郎兵衛、安政元年没）、十五代氏吉（俗名市太郎、明治十三年没）である。本刀は、西山氏吉十三代の作ながら俗名入りの作品は極めて少ない。

押形



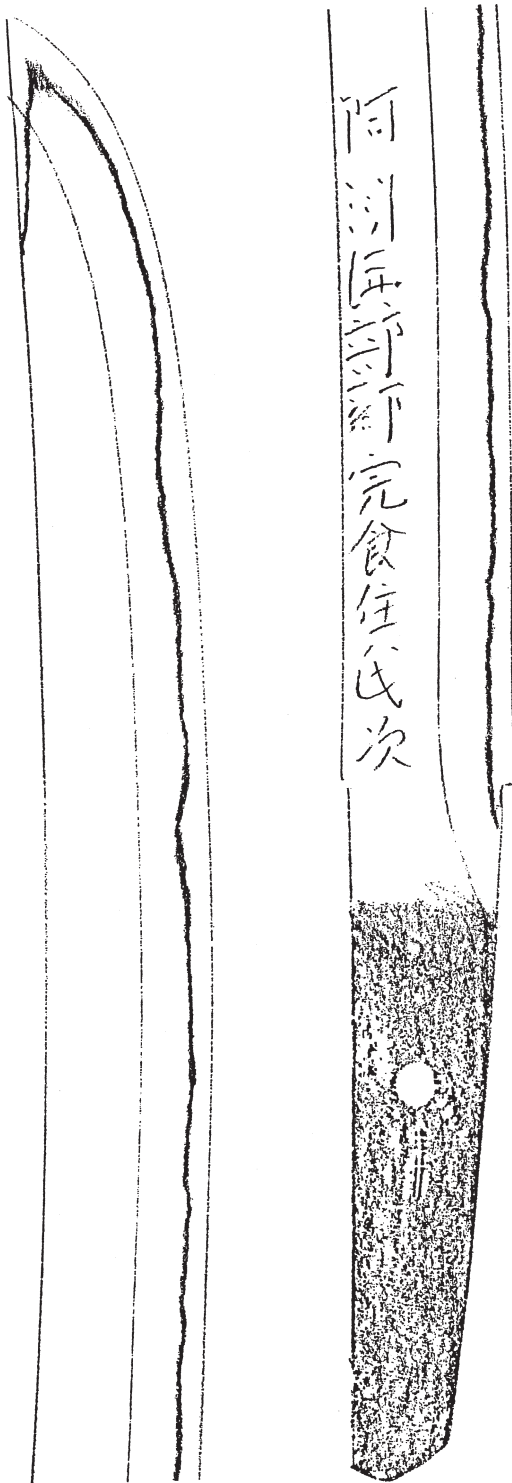
3 脇指 銘 阿州海部郡穴喰住氏次

法量 刃長三八・八^サ、反り一・一^サ、元幅三・一^サ、先幅二・七^サ、先重〇・五^サ、元重〇・六^サ、茎長一一・七^サ。

解説 形状は、丸棟、片切刃造、身幅広く、重ね厚く、反り高く丸棟。地鉄は、板目肌に柃目肌交じり、表肌立ち、裏よく詰む。刃文は、表は細直刃調で小湾たれ交じる、裏は広直刃調に小湾たれ交じる、表裏共に匂口締まる。帽子は、浅く湾たれ込んで小丸、先掃きかける。茎は生ぶ、目釘孔は一個、鑓目は大筋違い。茎尻は丸みこころの入山形、指裏に刀身銘がある。茎には工房を示す鑿の打ち込みがある。

氏次を名乗る刀工は数名いるが、この氏次は海部の穴喰で鍛刀した中島氏次である。中島氏次は、初代から数えて二十一代を継承するが、十二代以降は作刀が耐えたという。『阿波志』（文化十二年〓一八一五）には「藤原氏次 中島源太夫と称す 好く刀を作る世々姓名を襲い冶工となる。」とある。

押形

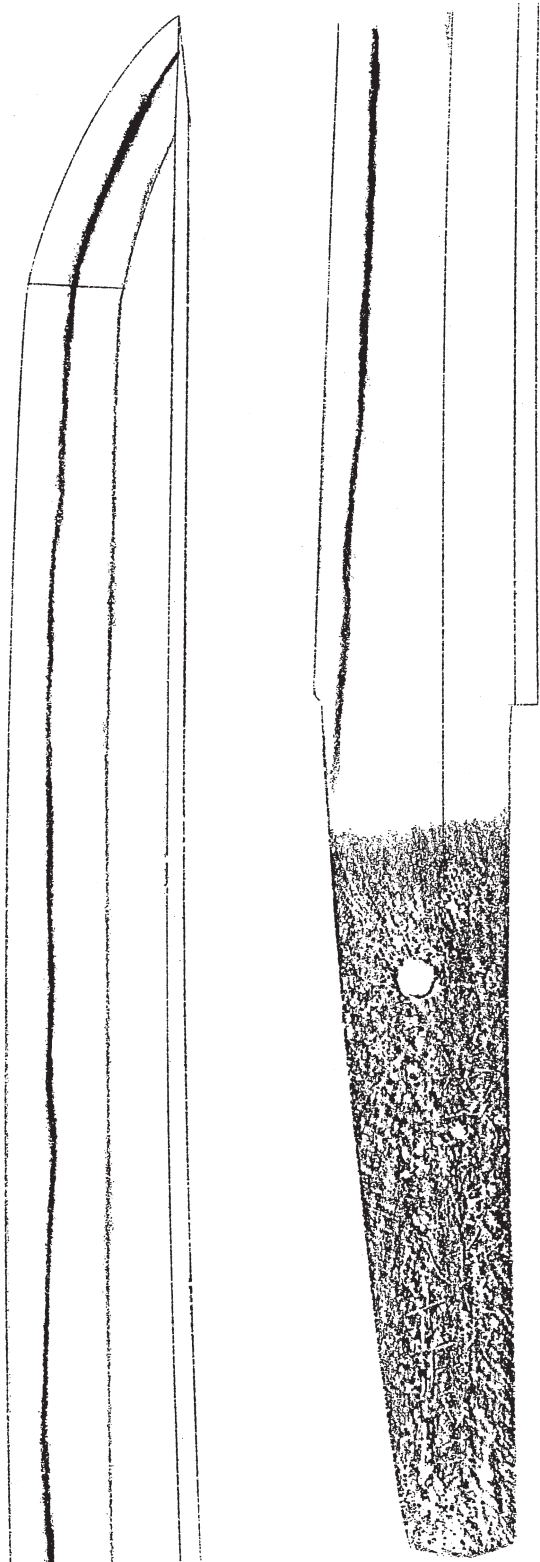


4 脇指 銘 海部住氏次 八十一歳

法量 刃長五二・九^サ、反り〇・八^サ、元幅三・四^サ、先幅二・五^サ、鋒長四・五^サ、先重〇・五^サ、元重〇・七^サ、茎長一三・六^サ。
 解説 形状は、鑄造、庵棟低く、幅広、重ねは厚い、反り浅く鑄地広く、茎はやや寸詰まり、地金味古く初期新刀を想わす。地鉄は、指表、柃流れ肌立ち、処々墨籠もりの巢入る、指裏は柃目肌やや詰み、処々無地風で沸づく。刃文は、直刃で足入り、匂口やや沈みごころ、刃縁わずかに沸える。帽子は、表は直ぐに焼詰、裏は直ぐに小丸ごころに返り、匂口やや沈む。茎は生ぶ、目釘孔は一個、鑢目は勝手下がり、茎尻は極めて浅い栗尻、銘は目釘孔下二行にわけて細整で作者銘と行年銘を切る。

本刀は、海部から木頭村へ移住した氏次の作である。子孫の家に伝来しており同家には、この氏次が六十九歳の時に書き残した秘伝書が今に伝わる。

押形



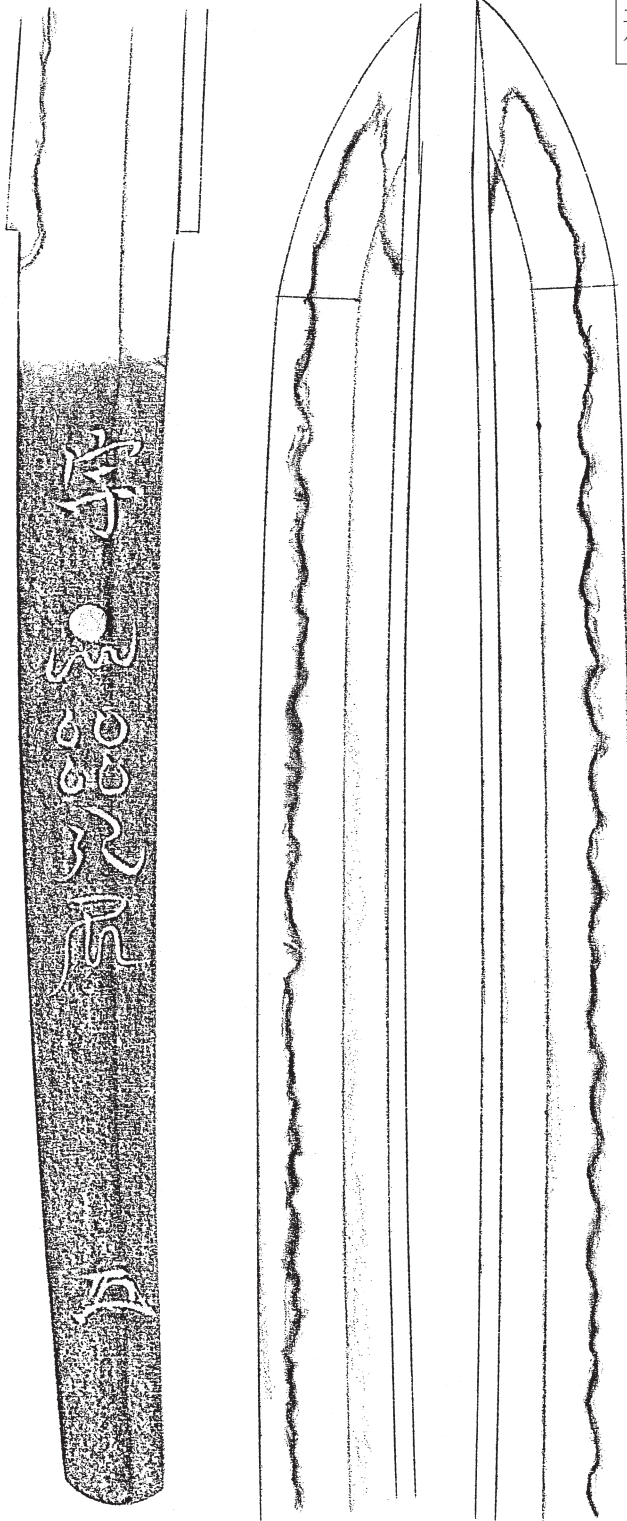
5 刀銘 「宇」神代文字で「うちのり」(花押)

法量 刃長七一・七^サ 反り一・七^サ 元幅三・二^サ 先幅二・四^サ 鋒長五・五^サ 先重〇・六^サ、元重〇・七^サ、茎長二四・二^サ。

解説 形状は、庵棟、身幅広く、重ね厚く、反り浅く、鳥居反り、大鋒、姿豪壮。地鉄は、小柰目肌流れ肌が交じり、中程より下、やや肌立ち上半は詰む。地沸は上半細かく下半は荒い。刃文は、直ぐの焼きだしから互の目乱れ、足長く刃縁長い砂流かかる。帽子は、表、直ぐに入り先わずかに掃き掛けて深く返る。裏はわずかに乱れ込み先小丸。茎は生ぶ、目釘孔は一個、鑢目は切、茎尻は刃上がり栗尻、目釘孔上に「宇」の文字、目釘孔下、ほぼ中央に「神代文字」による「うちのり」の作者銘とその下に「花押」がある。

中島氏詮は、室町末期、海部の穴喰より土佐へ移住した中島氏次(氏善とも)を先祖にもつ。幕末、再び穴喰の中島氏次家より土佐中島家に入ったのが、初代中島弥三左衛門から数えて八代目の中島門蔵氏詮である。氏詮は、土佐勤王党の武市半平太や陸援隊の中岡慎太郎、野根山二十三士の一人、清岡道之助の佩刀を鍛えたことで知られる。本刀に見る神代文字による刀工銘は、国学の影響を受けた氏詮ならではのものです、この銘による作刀期は、刀工自らが記録した『鍛造控帳』によると、慶応年間から廃刀令後数年に集中している。ちなみに本刀は、鍛造控帳所載のもので、注文主については「中山村門下西岡銀次」とある。

押形



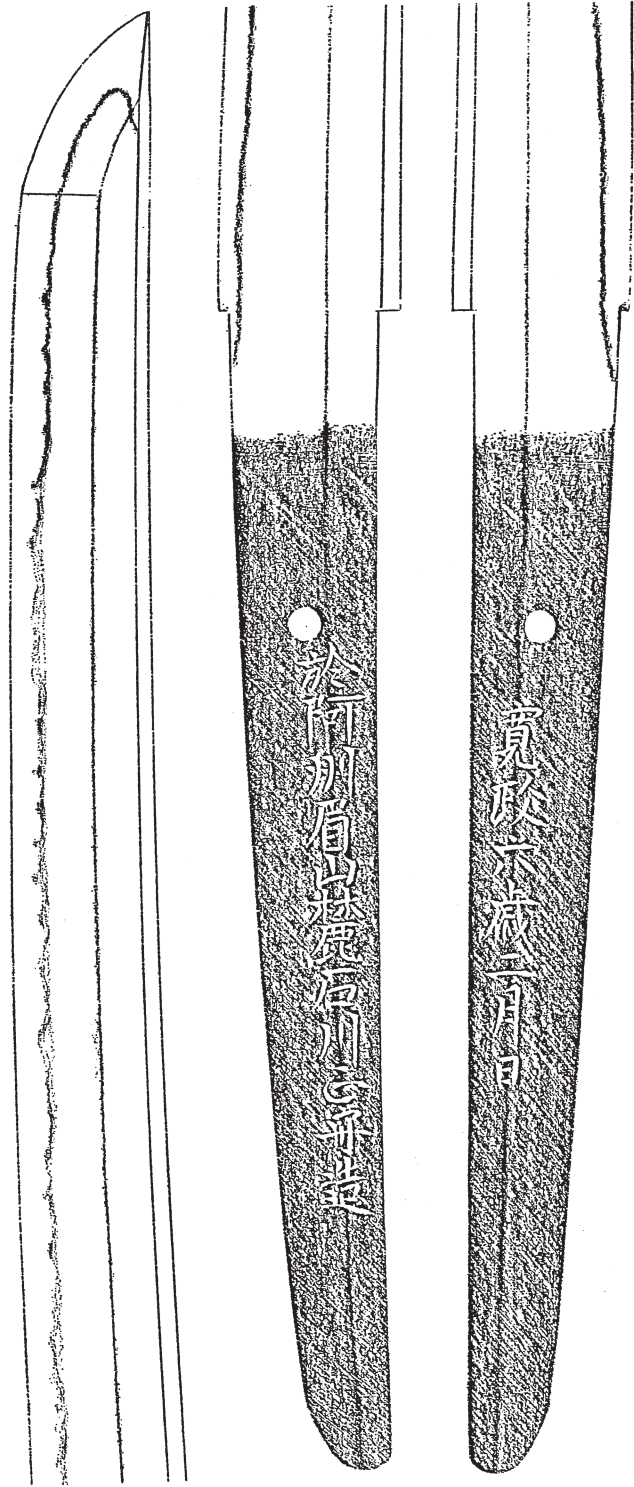
(二) 水心子正秀系

6 刀 銘 阿州眉山麓石川正守造 寛政六歳二月日

法量 刃長六九・六糶、反り一・二糶、鋒長三・七糶、元幅三・八糶、先幅一・四糶、元重〇・七糶、先重〇・六糶、茎長二一・二糶。

解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く、中切先、身幅広く、重ねは薄い。地鉄は、板目肌よく詰み無地風となるが、表裏とも中ほどよりハバキ元にかけて異鉄による大肌が交じり、地わずかに沸える。刃文は広直刃調で処々浅い湾れ刃交じり、刃中物打ち辺より長い砂流し入り変化に富む。帽子は、直ぐに小丸で表裏見事にそろう。茎は生ぶ、ヤスリ目は化粧ヤスリ以下筋違い、目釘孔は一個、刃方平・棟方丸。茎尻は急な刃上がり栗尻、目釘孔下、鎗筋上に大振りの作者銘がある。徳島藩十代藩主蜂須賀重喜の派遣刀工、石川正守の作としては年紀の古い部類に属する。水心子正秀門になる以前の作で、「眉山山麓」の銘文は鍛造地を示すものとして貴重である。

押形



7 脇指 銘 石川正直作 「金象嵌銘」堀江興成（花押）

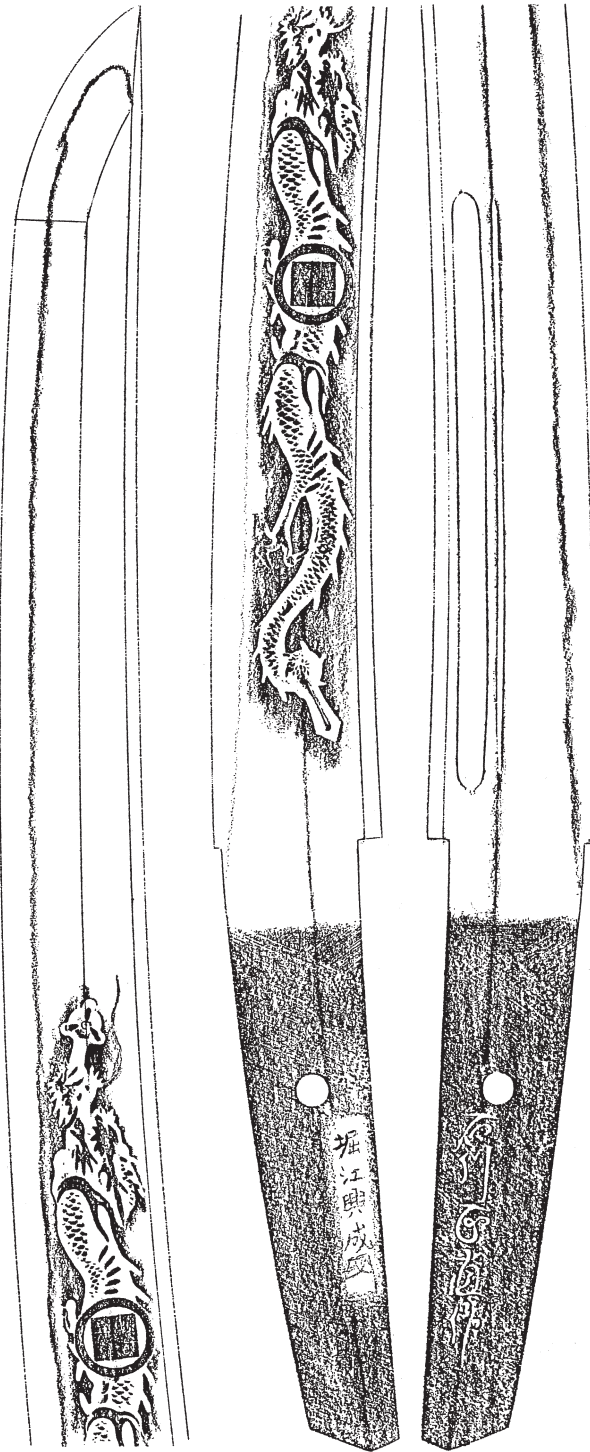
法量 刃長四〇・〇^サ、反り一・二^サ、鋒長四・四^サ、元幅三・四^サ、先幅二・六^サ、元重〇・八^サ、先重〇・六^サ、茎長一三・二^サ。

解説 形状は、鑄造、庵棟、鳥居反り、身幅広く、重ね厚く、姿豪壮にして堂々としており、中鋒延びる。地鉄は、小柰目肌よく詰み、地沸厚くつく、細微な地景がむらなく付き、地肌は極めて精美。刃文は、中直刃、匂口深く、小沸豊かにつき冴える。帽子は、表は直ぐに緩みごろに大丸、裏は直ぐに大丸。彫刻は、裏に真の登り竜、中央に蜂須賀家の丸に卍の家紋、裏は腰樋に添樋がある。茎は生ぶ、鑢目は化粧鑢以下筋違い、目釘孔は一個、先入山形、茎の棟方は庵状、これは正直の特徴の一つ。刃方は平、裏に作者銘、表に金象嵌銘がある。

徳島藩十代藩主蜂須賀重喜の派遣刀工、石川正直の傑作刀である。水心子正秀に入門後、報恩に報いるため藩主重喜に献上したもので、重喜の愛刀の一つであった。後、江戸詰めの際抱え金工師堀江興成が拝領、所持者銘として金象嵌を施したと伝える。地刃共に優れた会心の作である。

正直は若くしてこの世を去る。師匠である水心子正秀は、正直の去就について「(前略)常に恐るるは病氣也 人身不慮の災難無量なれば 常任の愼怠たるべからずは勿論、猶旦夕心掛くべきは養生也 既に門弟なる阿州の石川分弥正直(中略)是等は数人に秀たる奇用にして修行を積みなば、上工に至るべきなりしが共、いずれも湿毒の病深く未だ壮年にして命を落せり 惜しむべし 惜しむべし」(『剣工秘伝志』)と述べている。

押形

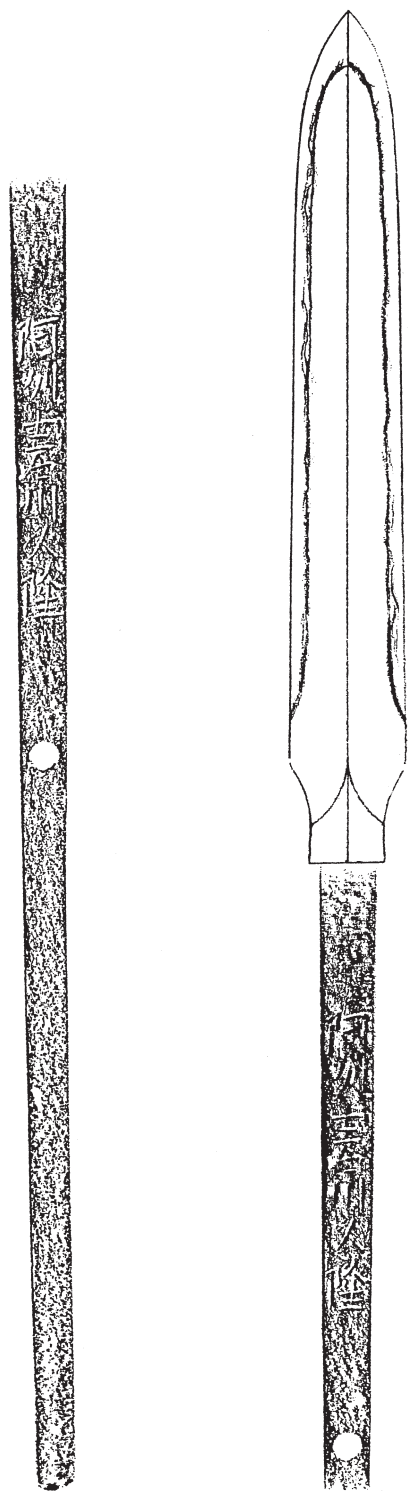


8 槍 銘 阿州士石川久隆

法量 刃長一四・五セ、元幅二・〇セ、先幅一・六セ、元重〇・七セ、先重〇・七セ、茎長二一・八セ。
 解説 形状は、平三角槍、ほぼ正三角形を呈し重ねは厚い、けら首は六角で寸が詰まる。地鉄は、板目肌が流れ詰み地沸よくつく。刃文は、上半は細直刃、下半小互の目交じり、わずかに小沸つき処々砂流入る。帽子は、表は焼つめ、裏は直ぐに掃掛ける。彫刻は、裏に棒樋。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑓目は筋違い、目釘孔上にやや太鑿でしっかりした銘がある。

石川久隆は、鉄砲鍛冶として多くの作品を残すが、刀剣類はほとんど見ない。銘に「阿州士」と入れていることから鉄砲鍛冶として藩工に列したのか。槍を数振を経眼するが、それぞれに出来がよい。この槍も刃中の働きがよく、出色の出来を示している。

押形



9 槍 銘 阿州石川守一

法量 刃長一五・〇セ、元幅一・七セ、先幅一・七セ、元重〇・八セ、先重〇・七セ、茎長一五・五セ。
 解説 形状は、両鑄造、重や薄く垢抜けした造込み。けら首は六角をなし元は丸。地鉄は、杳目肌がよく詰み、処々流れ肌が交じり、地沸よくつく。刃文は、直刃が浅くのたれて、わずかに小互の目が交じる、小沸よくつき、長い砂流かかる。帽子は、表裏共に小丸で小沸つく。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑿目は化粧鑿以下筋違い、茎尻は剣形、目釘孔下にしっかりした銘がある。
 石川守一は、名鑑洩れの刀工の一人。「石川」の姓を冠し、名に「守」を用いていることから、十一代藩主重喜の派遣刀工、石川正守の縁者で筆頭弟子筋と思われるが詳細はわからない。作品は少なく、他に脇指一振、短刀二振、刀一振を見る。

押形

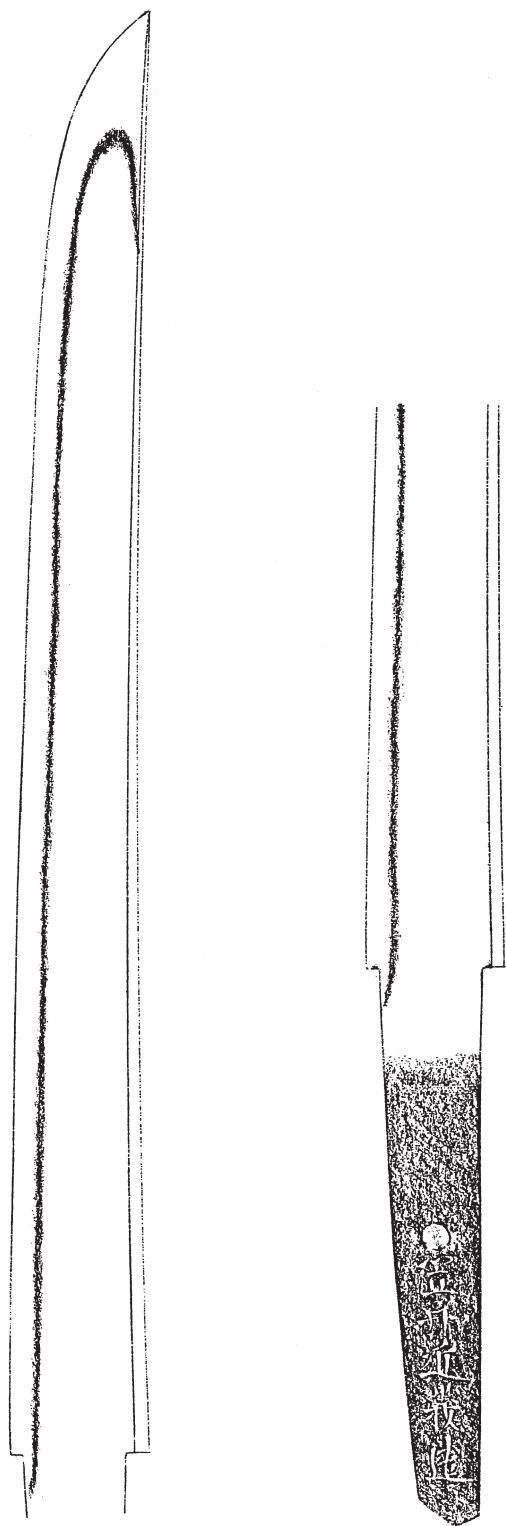


10 短刀 銘 笠井近義造

法量 刃長二七・六^サ、反り〇・二^サ、元幅二・五^サ、先幅一・七^サ、元重〇・八^サ、先重〇・六^サ、茎長一〇・八^サ。
解説 形状は、庵棟、平造、わずかに反りつく細身の短刀。地鉄は、小柰目肌がよく詰み無地風で、地沸つき品位が高い。刃文は直刃、刃縁には小沸がからみ匂口沈みごころ。下半小足よく入り古調。帽子は、直ぐに小丸、返りは深い。茎は生ぶ、鑢目は化粧鑢以下筋違い、茎尻は入山形。目釘孔下に作者銘がある。

笠井近義は、笠井一門の初代で、俗名吉良兵衛、寛延元年（一七四八）の生まれで、文政七年（一八二四）に没している。近義の作域は細身で地鉄などは新刀然としたものが多く、刀剣類よりもむしろ鉄砲を多く手がけている。本刀は数少ない作刀例として貴重である。笠井一族の墓地は、麻植郡西麻植の東禅寺山墓地にある。東禅寺山は、笠井一族が藩主から拝領した薪炭山である。山頂の墓域には近義以下歴代刀工の墓が並ぶ。

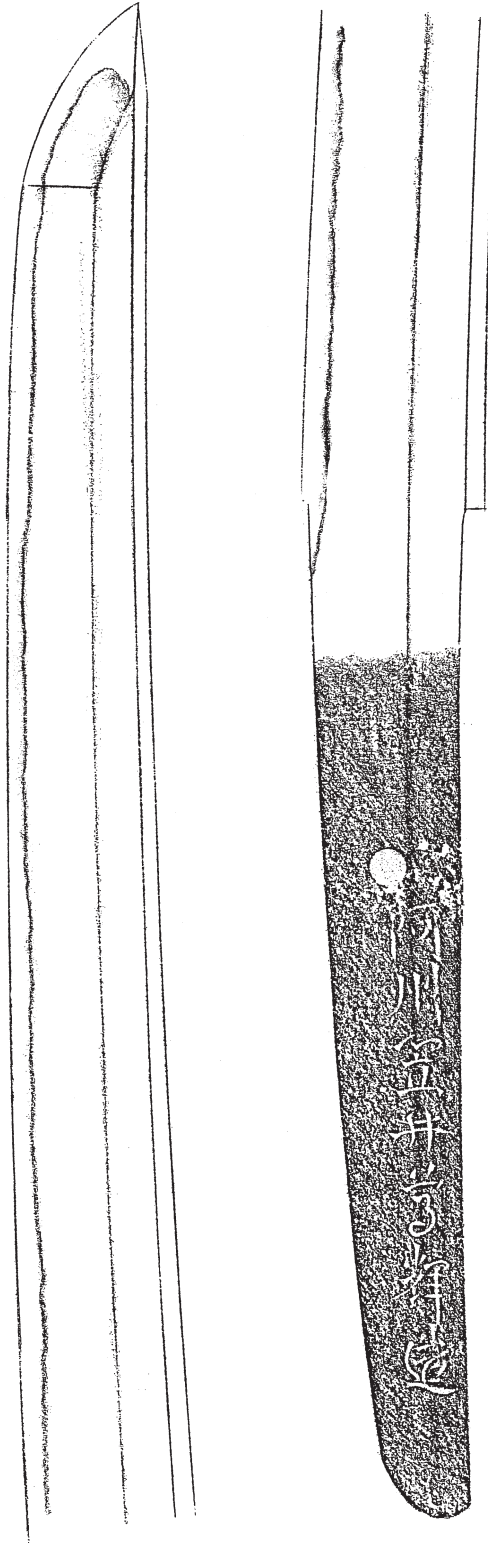
押形



11 脇差 銘 阿州笠井尊輝造

法量 刃長五三・〇^セ、反り一・〇^セ、元幅三・〇^セ、先幅二・〇^セ、鋒長三・二^セ、元重〇・八^糎、先重〇・五^セ、茎長一七・五^セ。
 解説 形状は、庵棟、鑄造、反浅く、重やや厚く、中切っ先。地鉄は、板目肌よく詰み無地風、刃よりに処々柰目肌現れ、地沸よくつき品位に満ちる。刃文は、直刃わずかにのたれて刃縁匂い本位で締まりごころ、小足わずかに入る。帽子は、直ぐに小丸表裏とも見事にそろう。茎は生ぶ、鑿目は化粧以下筋違い、目釘孔は一個、刃方棟方わずかに小肉、茎尻は刃方の傾斜が厳しい刃上がり栗尻、指表目釘孔下鑄筋上に大きく作者銘がある。笠井尊輝は、重喜派遣刀工の一人、刀鍛冶としての初代笠井近義の第一子、安永二年（一七七三）生まれで俗名を権左衛門、天保十四年七十一歳で没している。作風は師の水心子伝をよく継承しており、銘は「阿州住笠井尊照」「阿州臣笠井尊輝造之」などと切る。初期銘は尊照、晩年は照の字を「輝」に改めている。笠井一門の他の刀工は火繩銃を多く手がけているが尊輝には見ない。

押形

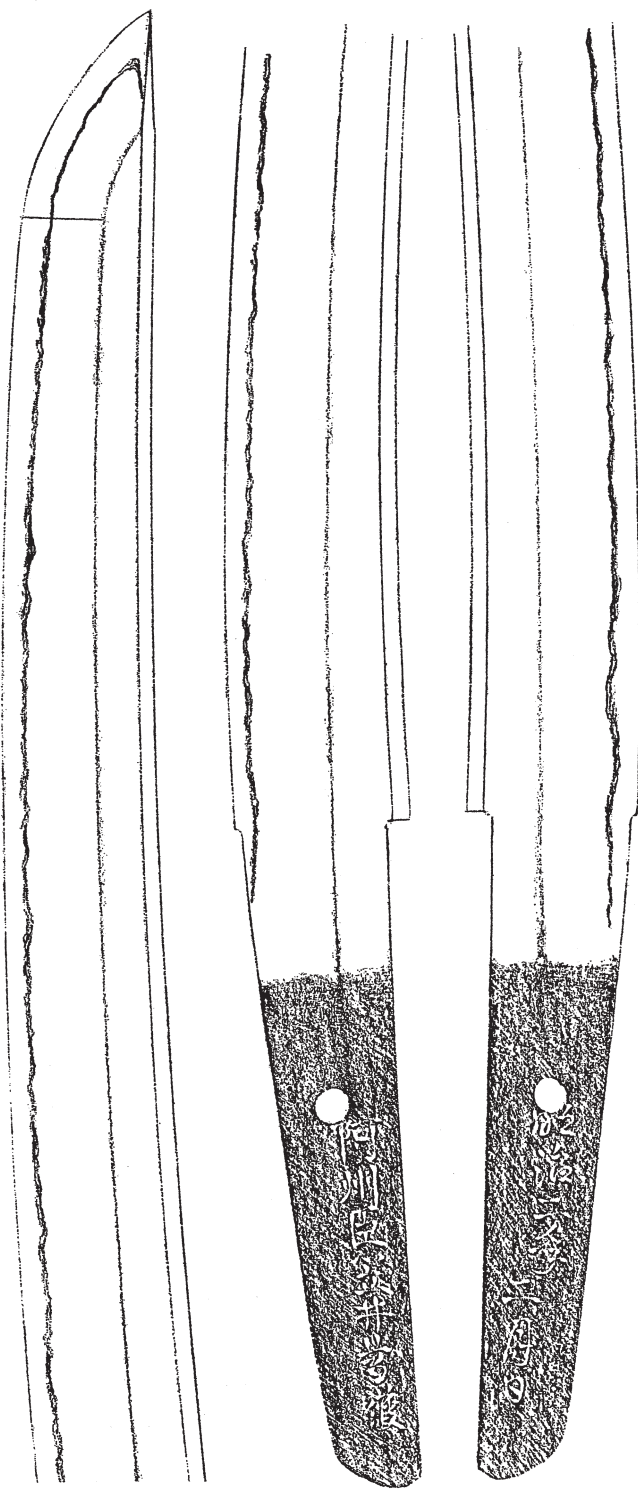


12 脇指 銘 阿州臣笠井尊護 明治二年二月日

法量 刃長三三・四^サ、反り〇・九^サ、元幅二・七^サ、先幅二・〇^サ、鋒長三・三^サ、元重〇・六^サ、先重〇・五^サ、茎長一一・二^サ。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、反り深く、踏張りつく、身幅、重ねは共に尋常で中鋒。地鉄は、大柰目に板目肌交じり良く詰み、地沸つく。刃文は、直刃調、刃々湾たれ交じり、匂口締まりごころ、砂流かかり小沸つく。帽子は、直ぐに先尖りごころに小丸。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑢目は化粧鑢以下筋違い、茎尻は刃上がり栗尻、指表目釘孔下鑢筋上に作者銘、指裏目釘孔下に年紀銘がある。

笠井尊護は、笠井一門の三代目で、二代尊輝の第一子、文化九年（一八一二）生まれで俗名恒太郎、主な作刀期は天保から万延期である。明治四年、六十歳で没した。本刀の年紀が明治二年となっており、これ以後の年紀は見ないので、これが尊護の最晩年作とみてよいだろう。

押形

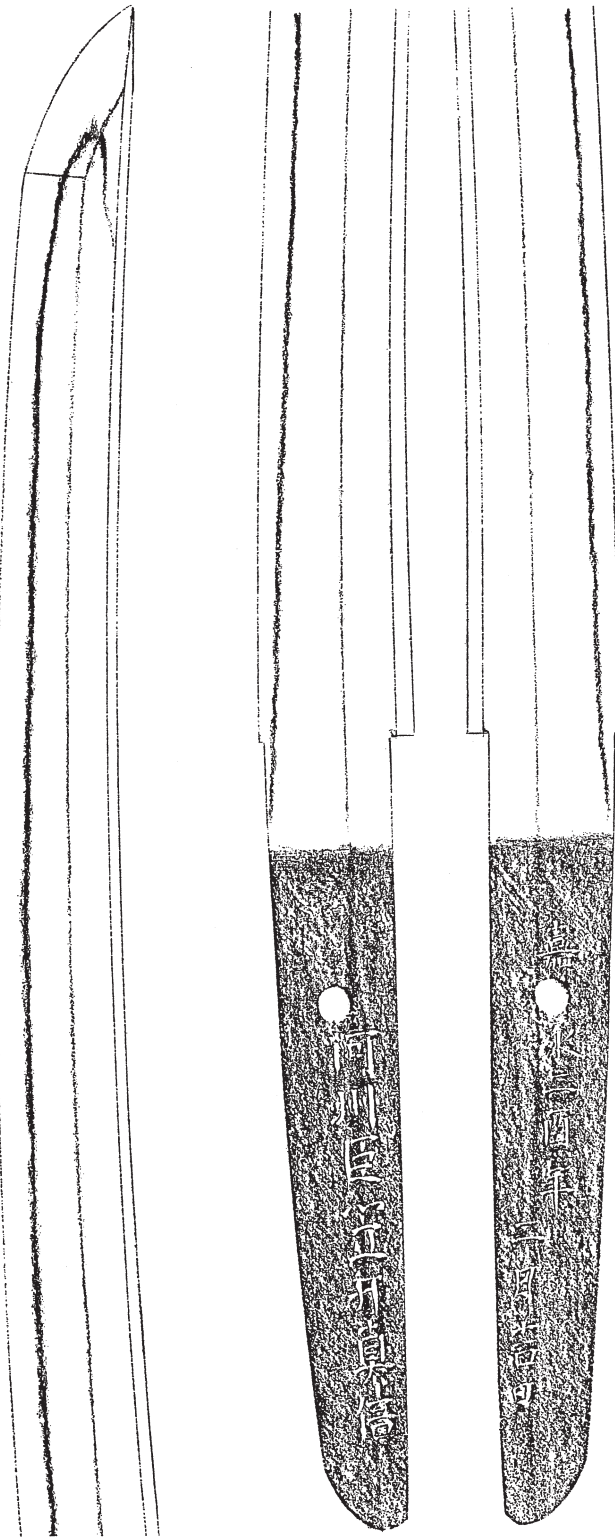


13 脇指 銘 阿州臣笠井真信 嘉永二酉年二月日

法量 刃長四六・三寸、反り一・三寸、元幅二・六寸、先幅一・八寸、鋒長三・一寸、元重一・六寸、先重一・八寸、茎長一四・五寸。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅細く、重薄く、中鋒詰まる。地鉄は、板目ざんぐりしてやや肌立つ、地沸よくつく。刃文は広直刃、刃縁に小沸豊かにつき、無数の砂流しかかり、刃中に肌入る。帽子は、直ぐに沸よくつき小丸ながら一枚風。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑢目は化粧鑢以下筋違い、棟方丸く肉を置く。刃方は平、表裏に作者銘と年紀銘がある。

笠井一門の三代目尊護には、嫡男の本人を始めとして、忠輝（次男）、信忠（三男）、真信（四男）、真次（五男）の兄弟がいる。それぞれが刀工となっているが刀は少なく火繩銃が多い。本刀は、四男真信の作で、地刃ともに極めて古調で上品な脇指である。もとは大小拵の脇指であったと思われる、見事な脇指の殿中拵が付けられている。ちなみに鞘の塗りは徳島藩御抱えの蒔絵師観松斎の作で、指表鞘尻近くに蒔絵で、「桃葉作（花押）」の銘である。本刀は藩主より下賜された拝領刀である。

押形



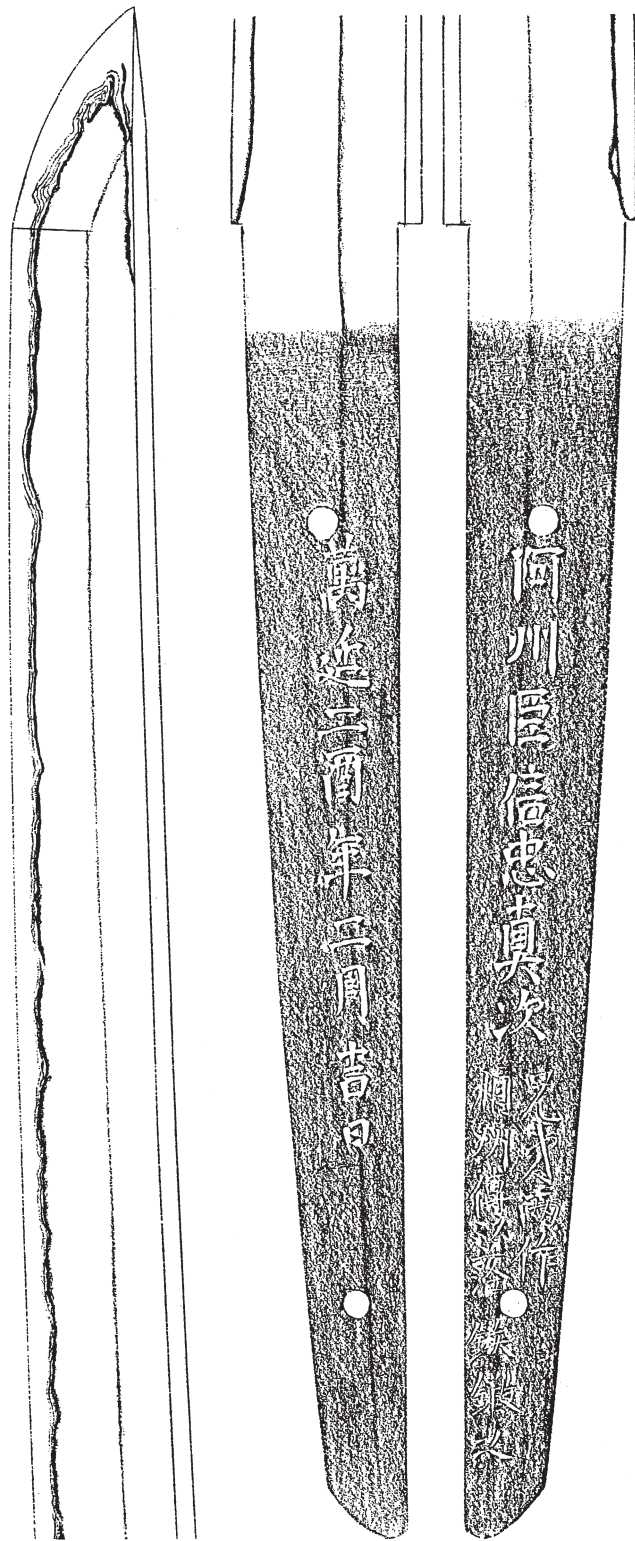
14 太刀 銘 阿州臣忠信真次兄弟両作相州傳以落鉄鍛之 萬延二酉年二月吉日

法量 刃長九六・四^サ、反り一・六^サ、元幅三・五^サ、先幅二・〇^サ、鋒長四・四^サ、元重〇・八^サ、先重〇・六^サ、茎長二五・八^サ。

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅広く、重厚く、反り少なく中鋒延び、長寸で姿すこぶる豪壯。地鉄は、柰目肌に板目肌交じり、処々、柰目肌が大肌となつて連なる。刃文は、広直刃調、処々に湾たれ刃交じり、刃縁縮まりごころ、金筋様の小沸、長い砂流しが帯状に現れ変化に富む。帽子は、直ぐにわずかに湾たれて小丸、刃縁に小沸つき、数状に砂流しが長くかかり、返りは深い。茎は生ぶ、目釘孔二個（内一個は忍び孔）、茎尻は刃上がり栗尻。銘は表裏目釘孔下、鑄筋に太鑿による兄弟の作者銘と年紀銘、鍛錬法を記した銘がある。

三代目尊護には、本人を始めとして、四人の弟がおり皆刀工となるが、本刀は、銘文から笠井一門の信忠（三男）、真次（五男）が合作して相州伝を鍛えたことが窺える。当時阿波ではこの種の鍛え方が流行したらしく、笠井一門のみならず安芸一門や山口国親の作に多々見ることが出来る。中でも笠井一門のものは特に大柰目肌が目立つ。

押形

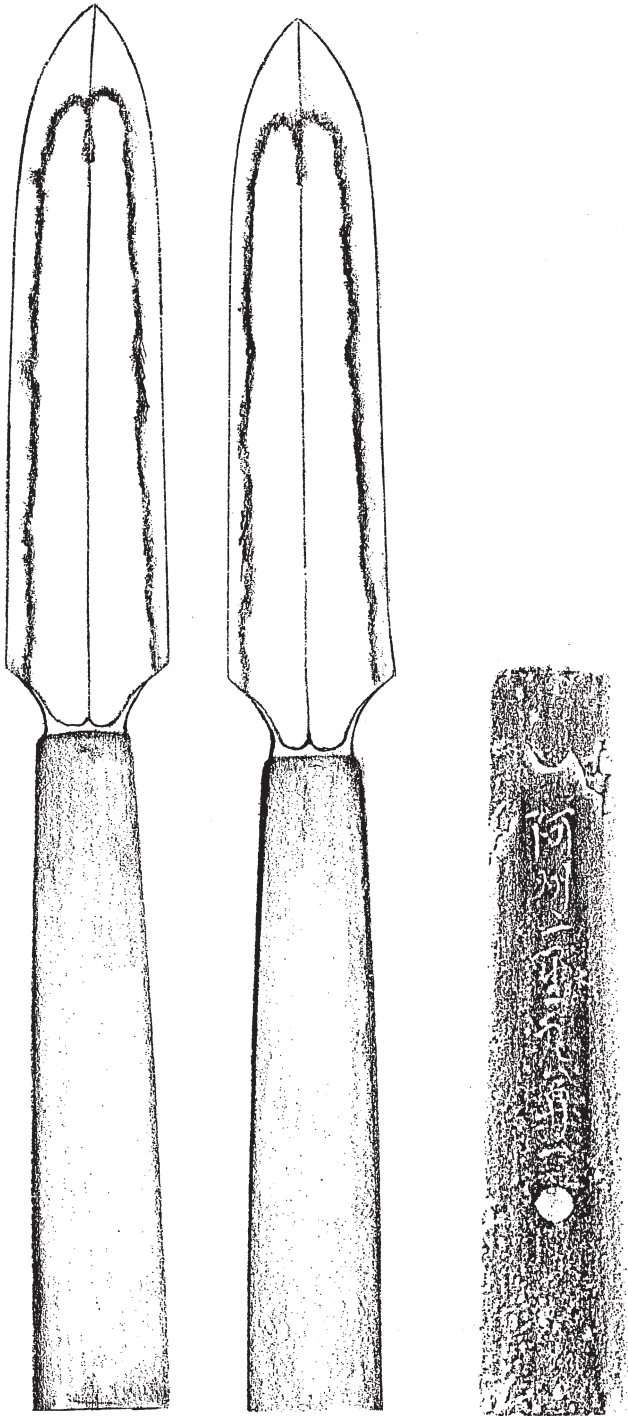


15 槍 銘 阿州二星丸尊一

法量 刃帳一〇・八寸、元幅二・三寸、先幅二・八寸、元重〇・八寸、先重〇・六寸、茎長九・八寸。
解説 形状は、両鑄造の短穂槍、茎は丸い袋状を呈する。地鉄は、小板目よく詰み、わずかに流れる。地沸厚くつく。刃文は、中直刃、刃縁には沸よ
くつき金筋、砂流しよく入る。帽子は、直ぐに大丸ごころに浅く返る。先わずかに掃掛ける。茎は生ぶ、袋状で茶漆が塗られている。側面目釘孔上に
作者銘がある。

尊一は、三代目笠井尊護の子供と目されるが詳細はわからない。本槍は、腰元が武張って、鋭い造り込みを見せる。尊一の数少ない作品の一つ。地
刃共になかなかの出来を示している。

押形

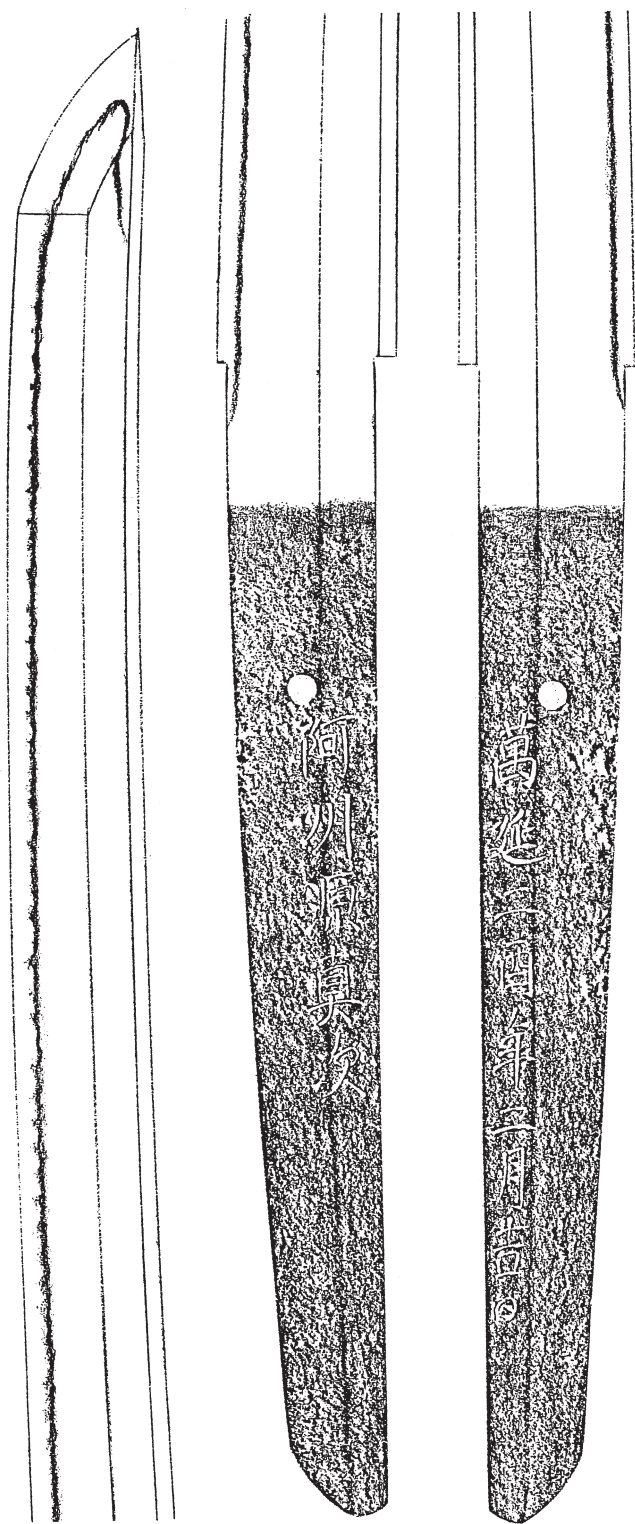


16 刀 銘 阿州源真次 萬延二酉年二月吉日

法量 刃長七六・〇^セ、反り一・七^セ、元幅三・〇^セ、先幅二・一^セ、鋒長三・二^セ、元重〇・七^セ、先重〇・五^セ、莖長一四・二^セ。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅、重ね共に尋常、腰反りつき、中鋒。地鉄は、変わり鉄を交えた異鉄鍛、板目肌立ち、板目の中に渦巻肌、鑄筋下に綾杉風の大肌が現れる。刃文は、中直刃、刃縁締めまりごころ、匂出来、葉ごころの太い足入る。帽子は、表裏共に直ぐに掃きかけごころで小丸。莖は生ぶ、鑿目は化粧鑿以下筋違い、目釘孔一個、莖尻は刃上がり栗尻、表に作者銘、裏に年紀銘がある。

真次は、笠井一門三代目尊護の弟。本刀は幕末期阿波で流行した異鉄鍛（稲妻鍛）によるもので、平地に極端な大肌があらわれる。真次の全盛時代は阿波藩が銃火器の製造に力を注いだ時代であり、鉄砲の需要に応えたためか、刀の遺作は極めて少ない。

押形



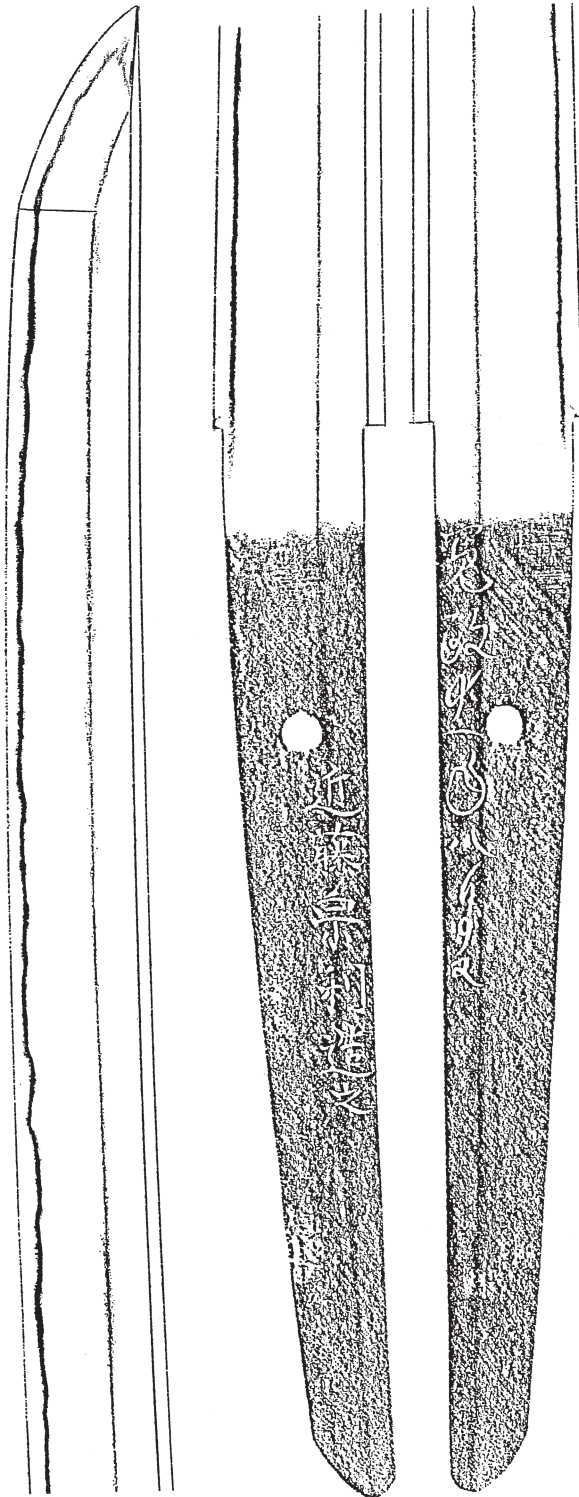
17 刀銘 近藤宗利造 寛政十年八月日

法量 刃長六六・七^サ 反り一・〇^サ 元幅二・八^サ 先幅二・一^サ 鋒長三・六^サ 元重〇・七^サ 先重〇・五^サ 茎長一八・四^サ

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅やや狭く、重ね尋常、中鋒。地鉄は、大板目肌立ち、地沸つき、刃よりに砥肌現れる。刃文は、細直刃わずかに湾たれて刃縁は匂い本位で処々小沸つく。帽子は、表裏共、わずかに湾たれて先掃かけて尖り気味に返る。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑢目は化粧鑢以下筋違、先尖りごころの刃上がり栗尻。指表目釘孔下鑢筋に楷書で作者銘、裏目釘孔上より、草書による年紀銘がある。

藩主蜂須賀重喜の派遣刀工中、修行後の消息がつかめないのがこの刀工である。『新刀弁疑』には「阿州土近藤宗利 阿波国近藤佐一郎と号正秀門人」と記録されており、最高傑作の遺作には「(表) 近藤佐一郎(裏) 我公累年賜資以習刀冶之法 今造此刀既至如此是亦公之恵哉」の銘がある。また、蜂須賀文書の『文化元年無足より小姓格名面帳』に奥小姓格として「近藤佐一郎」の名があり、『文化十年より文政八年迄江戸住御家中増減調』には、「近藤佐一郎 文化十一年一月十三日 出奔」とあり、文化十一年に出奔、すなわち脱藩したことが記されている。最大の保護者重喜を失って失意のうちの脱藩、これが以後の継承を見ず宗利が歴史の壁に消えた最大の理由であろう。

押形



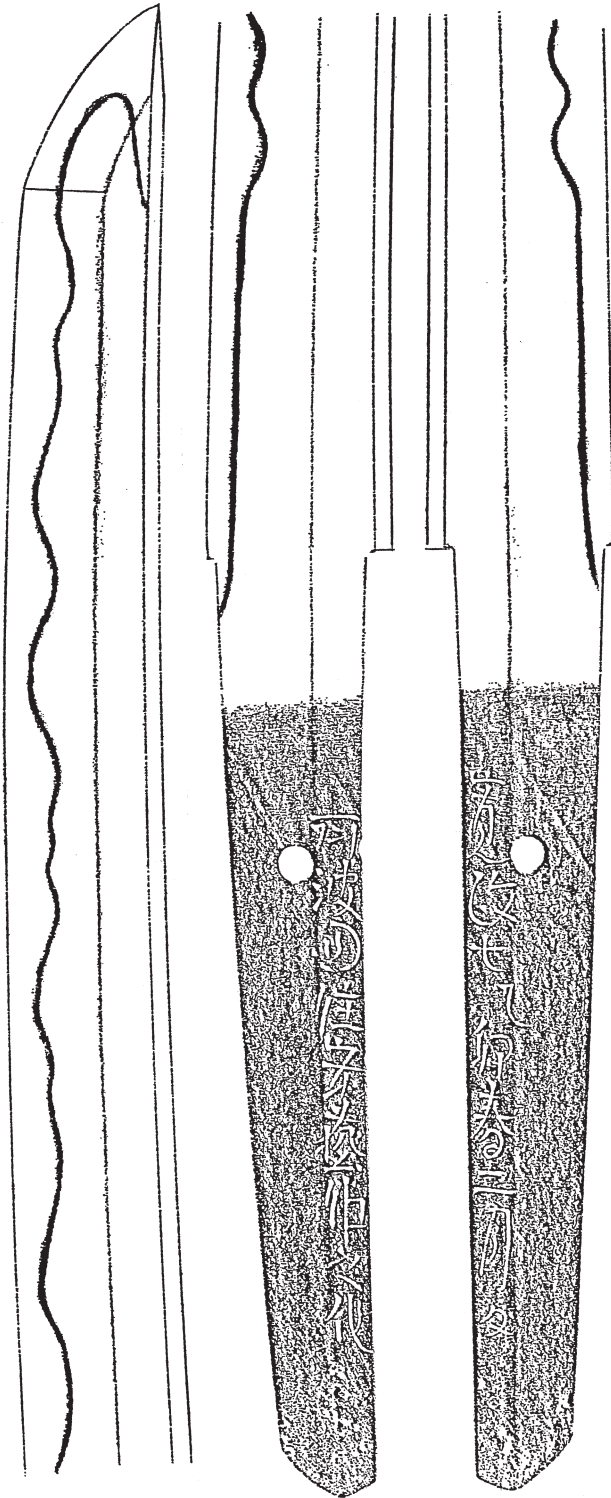
(三) 尾崎助隆系

18 脇指 銘 阿波国住安芸佐之作 寛政七乙卯春二月日

法量 刃長五四・二寸、反り一・〇寸、元幅三・三寸、先幅一・九寸、鋒長三・二寸、元重〇・八寸、先重〇・六寸、茎長一七・〇寸。
解説 形状は、鑄造、庵棟、反りやや浅く、重ねは厚い、わずかに先反りつき、中鋒。地鉄は、板目肌よく詰み、地沸よくつき直刃の焼きだし辺、大肌交じり肌立つ、鑄地柁流肌現れる。刃文は、濤瀾乱を焼き、匂口深く、小沸豊かにつき、刃縁の沸が刃中にけむり込む。長い焼きだしがある。帽子は、直ぐに小丸、深く返る。茎は生ぶ、鑢目は化粧鑢以下筋違い、茎尻は先丸みごころの入山形、表に個性のある草書で作者銘、裏に同じく年紀銘がある。

安芸佐之は安芸一門の祖である。大阪の尾崎助隆に入門。後、十代藩主蜂須賀重喜に召し出され藩工に列する。本刀は師匠助隆がもつとも得意とする助廣写しを踏襲しており、まさに助隆そのものといった感じである。匂口は明るく冴えるが、地刃は堅く、焼きだしは直ぐで長い。銘ぶりも師助隆の寛政期の書体に似て、個性豊かなものとなっている。大阪新刀を彷彿とさせる脇指である。

押形



19 脇差 銘 応佐藤為成子需安喜佐寿造 文政寅二月日正阿彌孫平田長美彫之

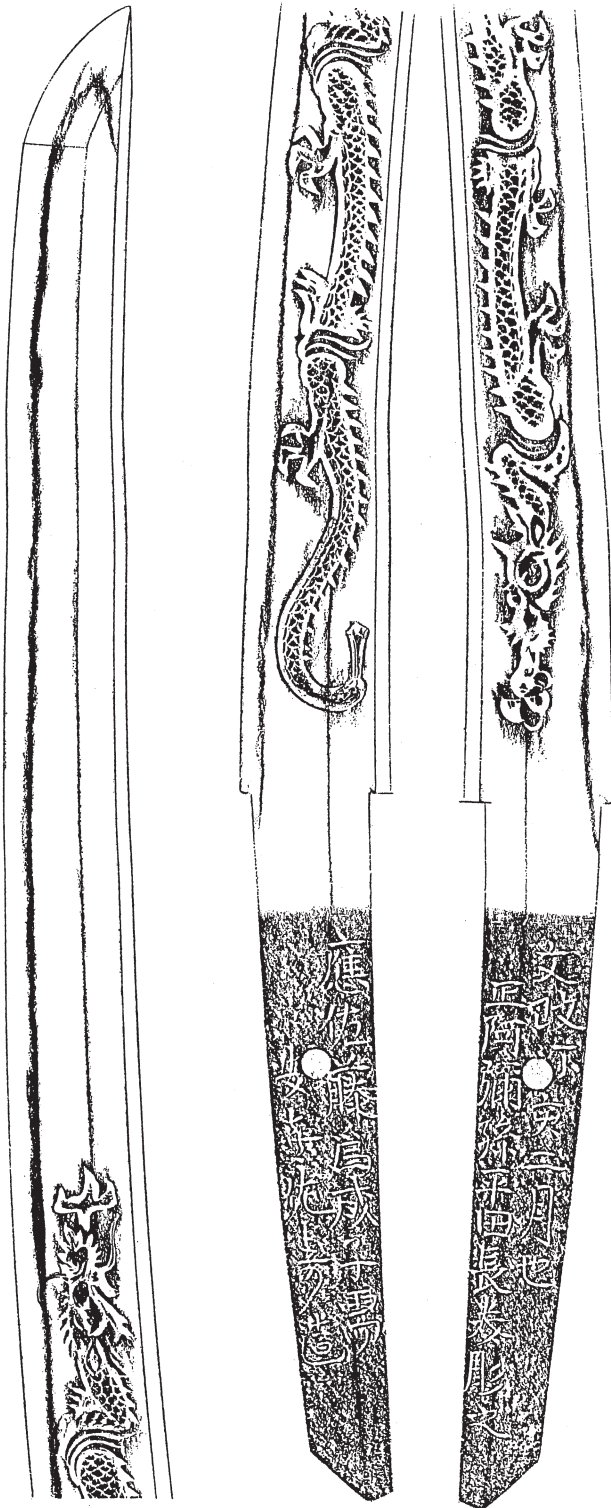
法量 刃長四四・八寸、反り一・四寸、元幅二・九寸、先幅二・一寸、鋒長一・八寸、元重〇・八寸、先重〇・五寸、茎長一四・六寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、反りやや深く、姿優美にして古風。地鉄は、小板目肌よく詰み、地沸細かにつき明るく冴える。刃文は、中直刃匂い深くよく冴え、腰元浅い湾れどころがある。帽子は、表は直ぐに沸つき先掃掛けどころでやや深く返る。裏は直ぐに小丸で先沸づく。彫刻は、表に真の登り竜、裏に真の下り竜がある。茎は生ぶ、鑢目は化粧鑢以下筋違い、目釘孔は一個、茎尻は刃方の傾斜敵しい刃上がり栗尻、銘は、目釘孔下鑢筋上、表に作者銘と応需銘、裏に年紀と彫の作者銘がある。

安芸佐寿の改心の作である。佐寿は安芸佐之の第一子、前名和太八、父と同じく尾崎助隆の門に入り作刀修行、仕官するにあたり唯七郎佐寿と改名、文化五年に徳島藩の御厩付鍛冶となる。藩から二歩役御免、銀札六十匁の扶持を受け、刀以外に藩主の御召し轡を造っている。

本刀は、地刃の出来もすこぶる良く彫刻もまた見事である。銘文にある平田長美は、阿波正阿弥の嫡系で幕末期に活躍した阿波の金工師である。しばしば佐寿の傑作刀に彫りを施したと伝えるが、本刀はそれを証している。銘文共に貴重な一振である。

押形



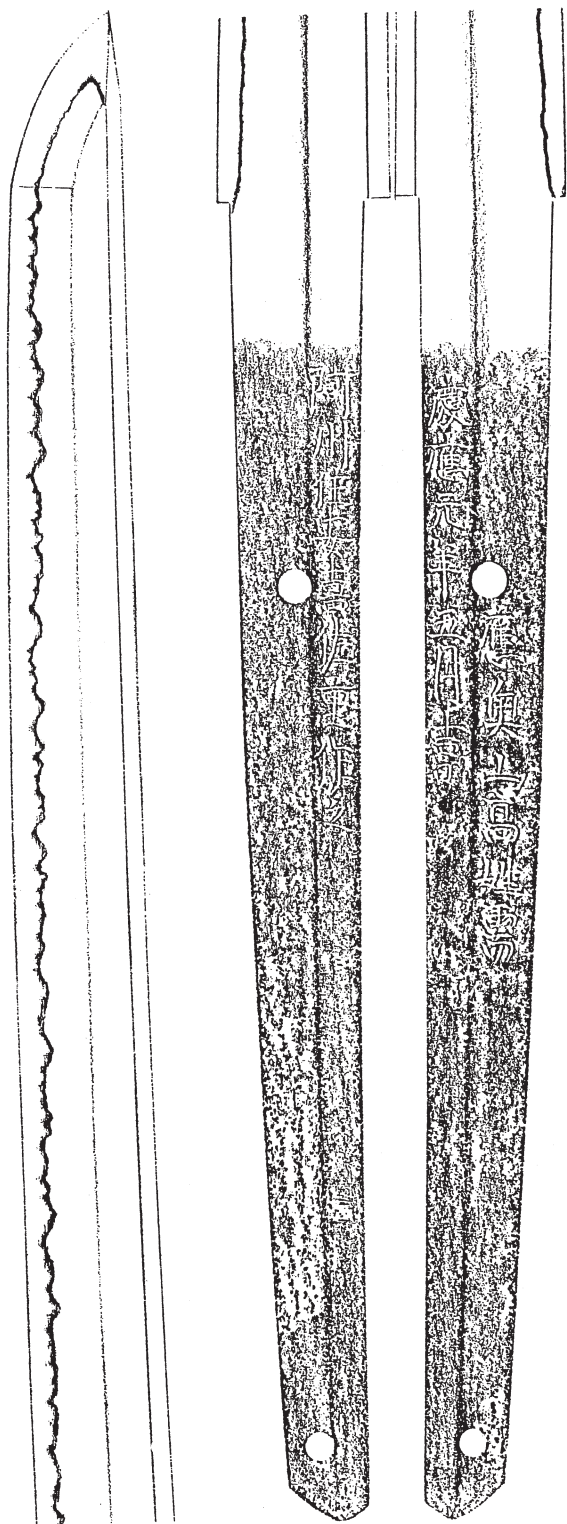
20 刀銘 阿州住安喜佐重作之 慶応元年五月吉日 應奥山高姓需

法量 刃長七七・二寸 反り一・三寸 元幅三・二寸 先幅二・一寸 鋒長三・四寸 元重〇・八寸 先重〇・五寸 茎長二六・五寸

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅やや狭く、重ね厚く、中鋒延び、茎は長寸。地鉄は、小板目肌がよく詰み、地沸よくつき、刃縁近く大肌現れ、異鉄による地景入る。刃文は、互の目乱、処々尖り刃交じる、匂い口締まり、砂流、金線無数に入り変化に富む。帽子は、少し乱れて先尖りころに小丸、茎は生ぶ、鑢目切、目釘孔二個、(内一つは忍び孔)、茎尻は、刃上がり栗尻、指表目釘孔上より鑢地に作者銘、裏同じく鑢地に年紀銘、刃方よりに必需銘がある。佐重は安芸佐之の三男、俗名儀之助、享和元年生まれ、明治三年(一八七〇)、六十六歳で没した。

本刀は、佐重の異鉄鍛えの一振である。本鍛錬法によるカス立ちも無く見事にまとめ上げ、刃縁の働きもなかなかのもので、佐重の傑作刀といつてよい。銘文に誌された奥山氏は、代々、勝浦川河口の籠御番所の役人を務めた家筋、なかでも奥山高は、新道無念流の達人で、この刀には、某名刹の門前で鉄張りの金剛杖を手にした破戒修行僧五人と渡り合い、三人の腕を斬り落とす事件を起こす。ためにお役御免となり、若くして隠居したという逸話があり、この謂われを墨書した刀箱が今に伝わる。

押形



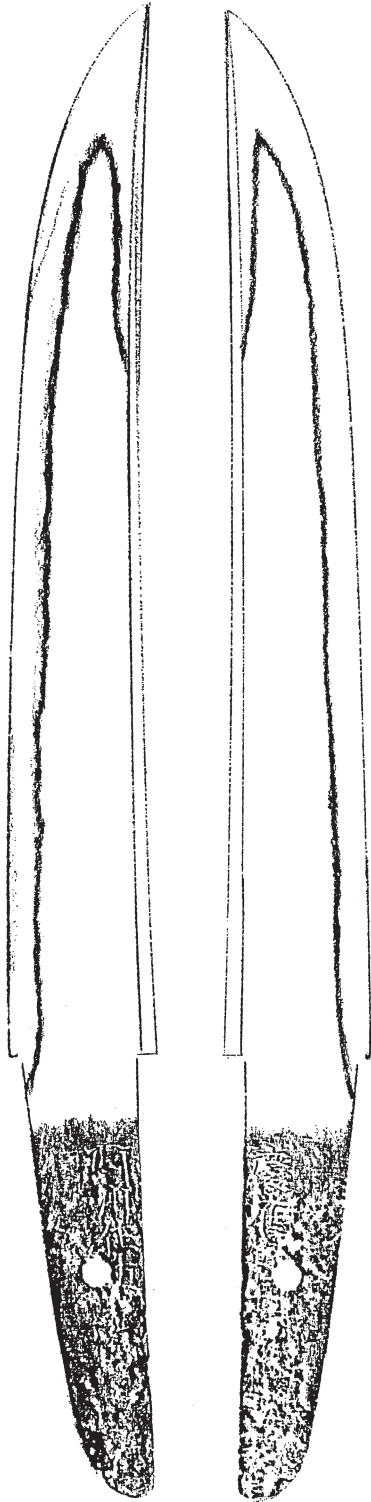
21 短刀 銘 阿州住佐延 慶應四年竹種日

法量 刃長一五・三^サ 反り ○・一^サ 元幅○・六^サ 先幅一・七^サ 元重○・六^サ 先重○・五^サ 茎長六・六^サ

解説 形状は、平造、庵棟、身幅やや広く、重ねやや厚く、ふくら枯れ、わずかに先反りつき小振。地鉄は、小板目肌がよく詰み、流れごろの小柵目交じり、地沸つく。刃文は、直ぐ刃調、小湾たれ交じり、砂流しきりにかかり、金筋入る、棟焼きが処々に入る。帽子は、直ぐに小丸で長く返る。茎は生ぶ、舟形で鑢目は切、目釘孔一個、茎尻は刃上がり栗尻、表裏に細鑿で作者銘と年紀銘がある。

佐延は俗名康之進、徳島市法華谷三昧にある安芸栄の墓誌にその名が見えるが、不思議なことに三昧には室の墓だけで本人の墓は見あたらない。ともあれ、佐延の刀は数振りを経眼するが、皆出来よろしく佐重と並び称される技量の持ち主であったことが窺われる。作例にはほとんど刀はなく短刀が多い。本刀は極めて小ぶりながら、地刃の出来は見事で一見して安芸一門の作とわかる。

押形

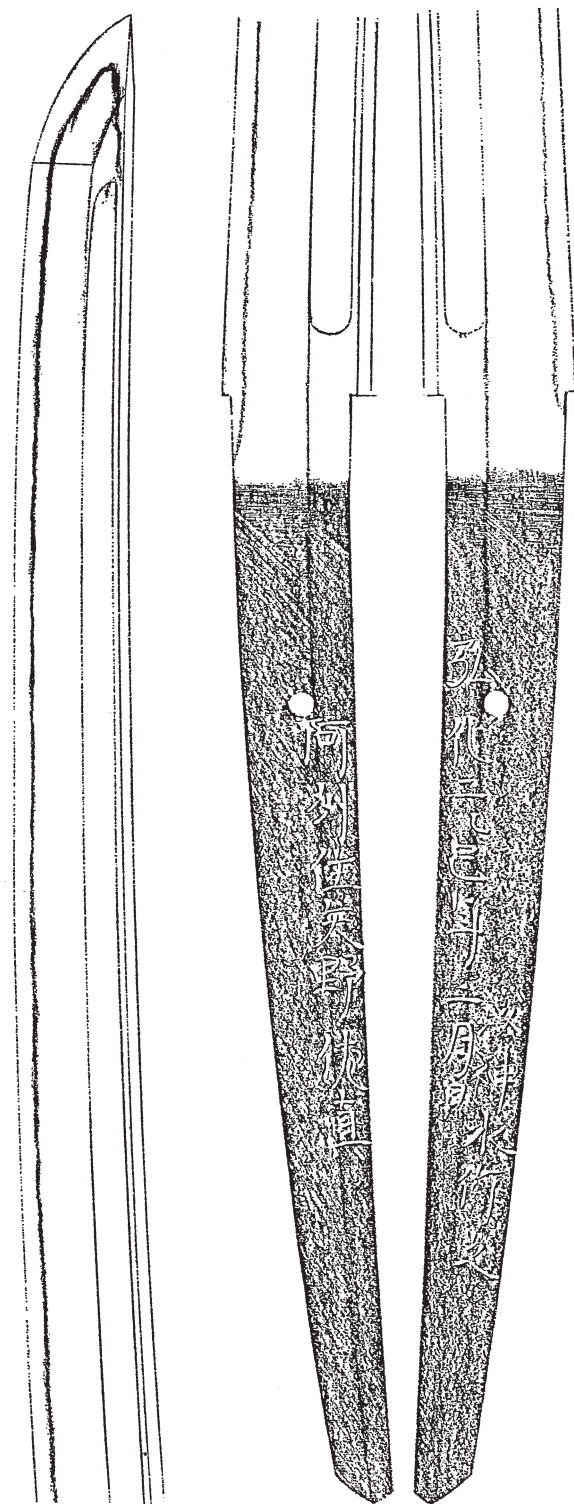


22 刀銘 阿州住矢野佐真 弘化二乙巳年二月日 以神水作之

法量 刃長六六・二寸 反り一・七寸 元幅二・九寸、先幅二・〇寸 鋒長三・〇寸 元重〇・七寸 先重〇・五寸 茎長二二・六寸。

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅細く腰反りで上品な姿、茎はやや長め、中鋒。地鉄は、板目肌処々流れて、地沸厚くつき、凜々として古調。刃文は、中直刃、匂口締まりごころで小沸ゆたかにつき、砂流し、金筋入る。帽子は、直ぐに先わずかに掃掛けて小丸に返る。彫刻は、表裏に丸止めの棒樋がある。茎は生ぶ、わずかに反りつき長寸、鏝目は化粧鏝以下大筋違い、目釘孔一個、茎尻は刃上がりの入山形、表に作者銘、裏に年紀銘と添銘がある。矢野佐真は、安喜一門の祖、安喜佐之の次男、別家して矢野姓を名乗る。矢野姓については本家の佐之が、土佐国安芸備後守国虎の遺児千住丸の子孫を名乗ったことから、別家の佐真は、その縁戚関係にある矢野城主矢野駿河守の矢野姓を用いたと思われる。佐真・佐道共に藩工に列している。「阿州住矢野佐真作」「阿州臣佐真作」などと銘をきる。

押形



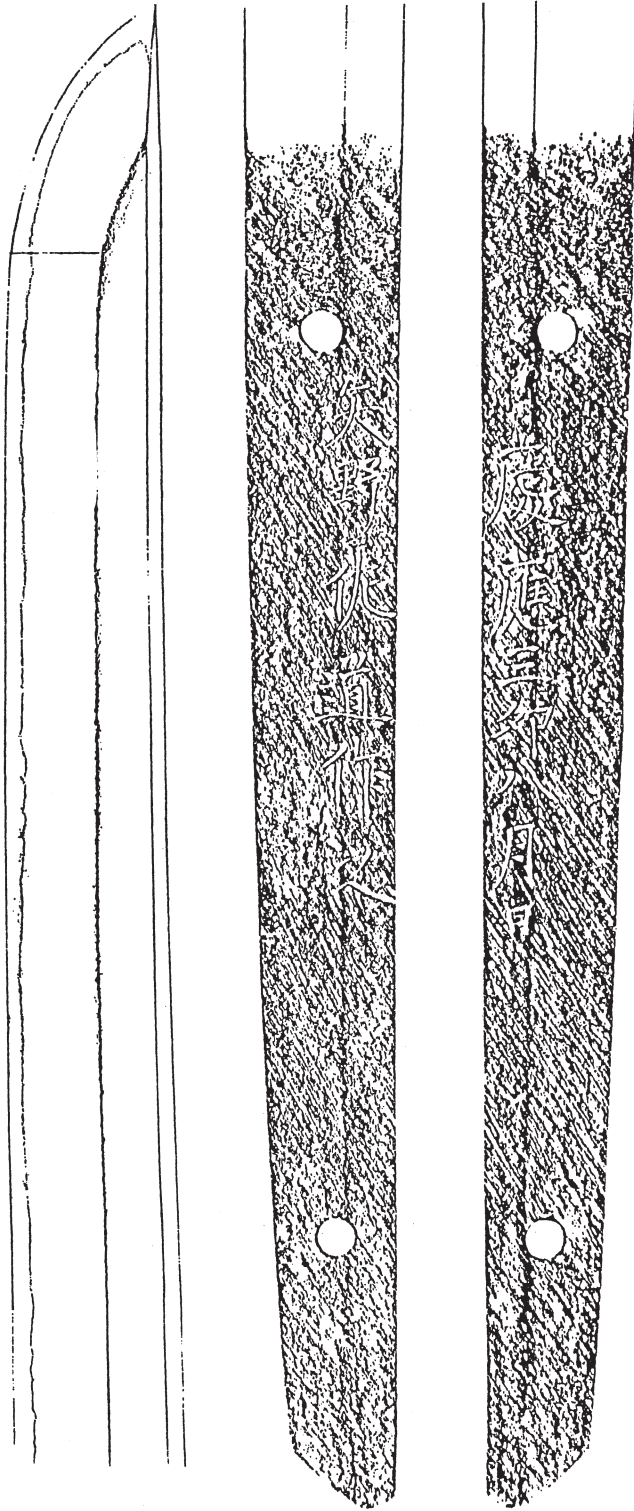
23 刀銘 矢野佐道作之 慶應三年卯八月日

法量 刃長六九・八寸、反り一・一寸、元幅一・八寸、先幅二・六寸、鋒長三・八寸、元重〇・六寸、先重〇・五寸、長二三・七寸。

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅細くやや腰反り、茎はやや長め、中鋒延びる。地鉄は、板目肌よく詰み無地風、地沸よくつく。刃文は、細直刃、匂口締まり処々ほつれごころに極めて小さな乱れが交じる。帽子は、直ぐに焼詰めごころで小丸に返る。茎は生ぶ、目釘孔二個（内一つは、忍孔、鑿目は化粧鑿以下筋違い、茎尻は、先入山形、表裏目釘孔下鑄地に作者銘と年紀銘がある。

矢野佐道は、佐真の実子である。作風は父佐真に似て、細身で上品かつ古風なものを見る。作刀期が短かかったためか作品は極めて少ない。

押形

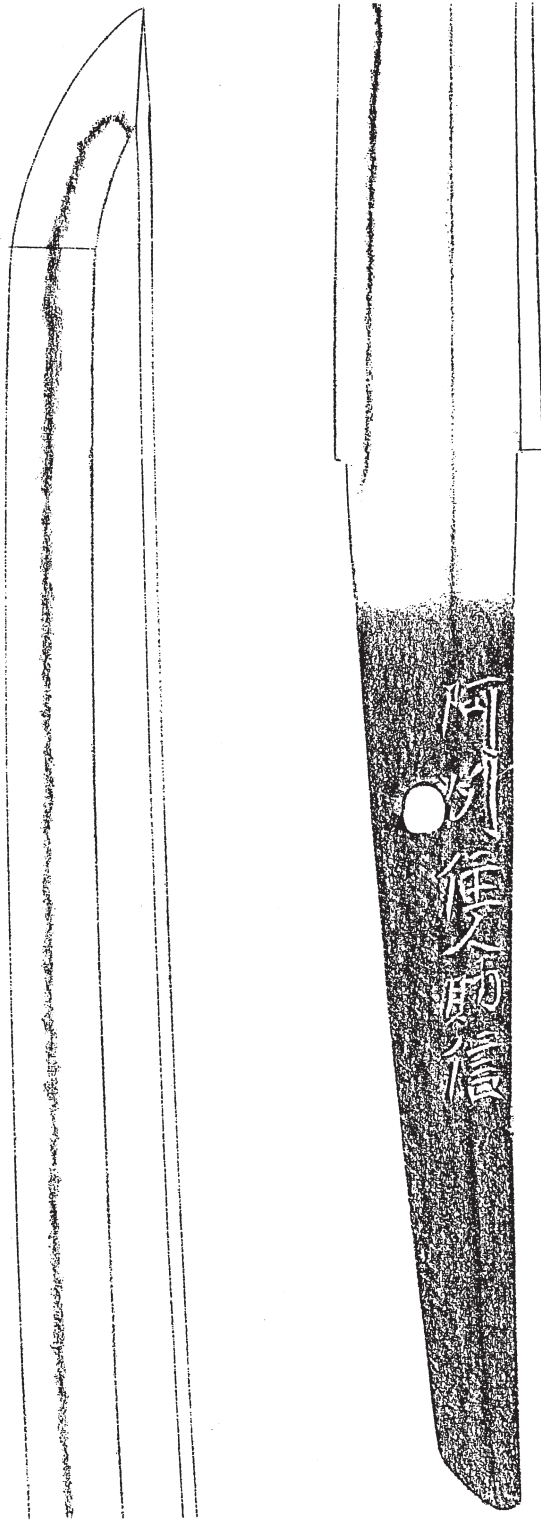


(四) 森岡朝尊系

24 刀銘 阿州住助信

法量 刃長六三・八^サ 反り一・六^サ 元幅三・〇^サ、先幅二・一^サ 鋒長三・八^サ 元重〇・八^サ 先重〇・四^サ 茎長一六・九^サ。
 解説 形状は、腰樋の無い冠落造、庵棟、鳥居反り、身幅やや広く、重ね尋常、中鋒延びる。地鉄は、杢目肌詰み、処々変わり肌現れ、鎬地は薄く削がれて、しきりに柃がかる。刃文は、中直刃調、下半わずかに湾たれごころ、匂口沈みごころ、小沸つき、小足わずかに入る。帽子は、直ぐに先わずかに掃掛けごころで小丸に返る。彫刻は、刀身中頃、表に荒神、裏に不動明王の梵字がある。茎は生ぶ、わずかに反りつき、目釘孔一個、茎尻は傾斜のきつい刃上がり栗尻、鑢目は筋違い。銘は、太鑿で大きく目釘孔上より鎬地に作者銘を切る。
 助信は、伊勢守国輝の縁者と伝え、その後代が幕末に至っているが、本刀は新々刀期の助信である。新刀期の助信銘に比して、鑿幅の差こそあれ鑿運びは酷似する。

押形

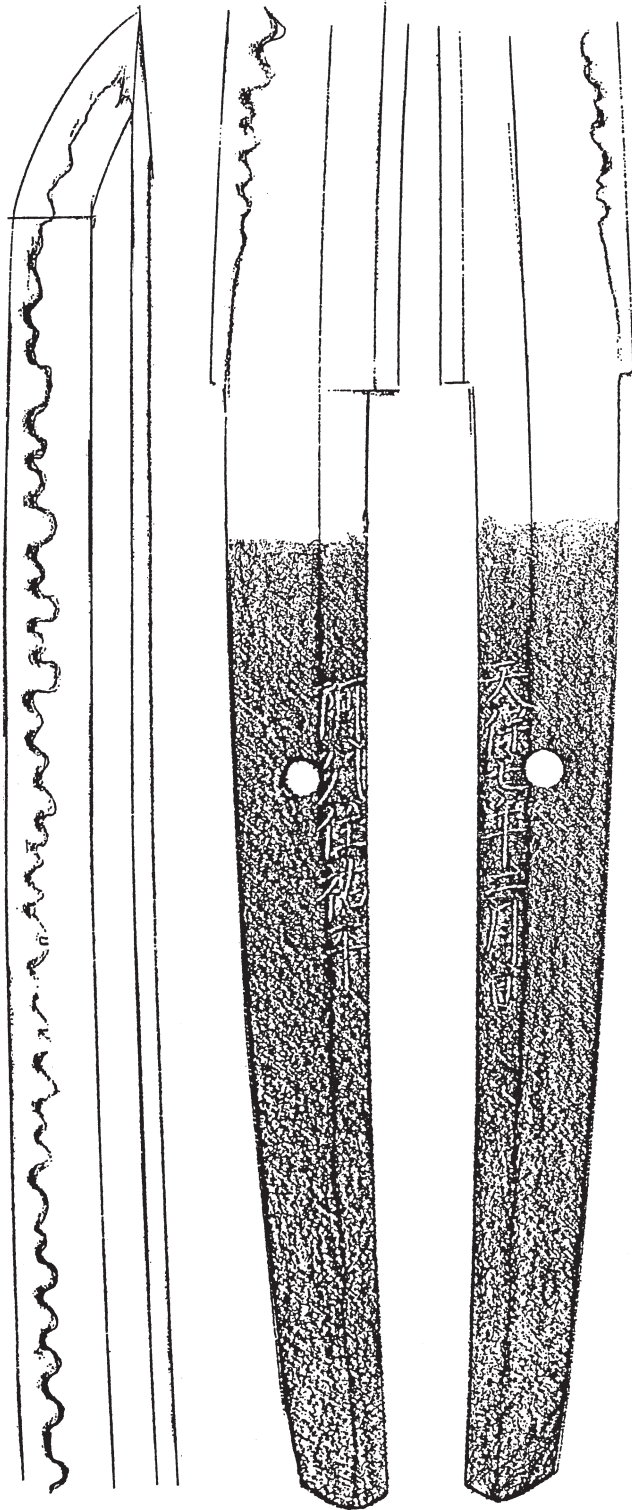


25 刀銘 阿州住祐平 天保七年二月日

法量 刃長六九・二寸 反り一・九寸 元幅二・五寸、先幅二・二寸 鋒長三・八寸 元重〇・八寸 先重〇・七寸 茎長一九・一寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、腰反り、身幅・重ね共に尋常。地鉄は、板目肌詰み、地沸付き、地景がわずかに入る。刃文は、互の目に丁字、所々蟹の爪状の刃文が交じり、匂い口明るく冴える。帽子は、表裏とも乱れ込んで直ぐに小丸、先わずかに掃掛ける。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑢目は筋違い、茎尻は刃上がり栗尻、銘は、表裏共、目釘孔上、鑢地に作者銘、裏に年紀銘がある。祐平の活躍期は文化から弘化頃、横山祐永の門人でもあり、作柄は祐永風である。銘は「淡州住祐平造之」「於武州銀台邸淡州住祐平作之」「阿州祐平作之」などときる。

押形



(五) 備前長船系

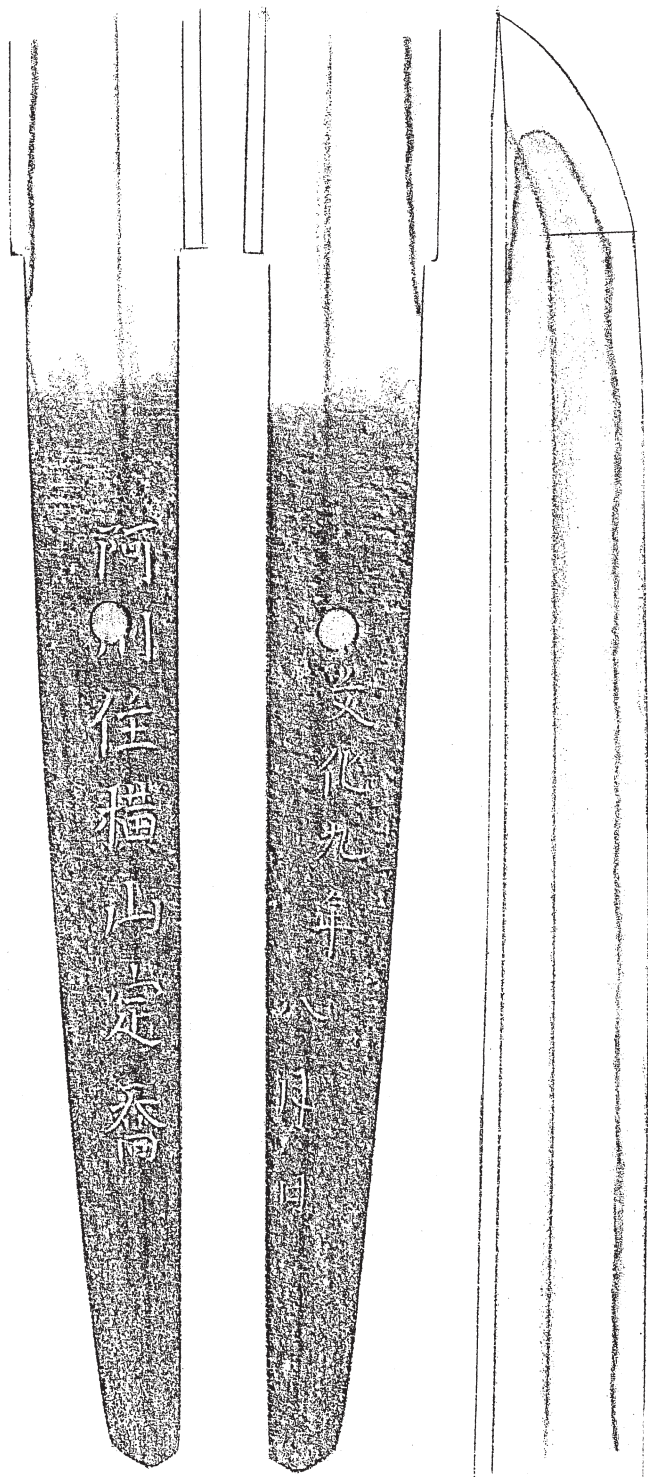
26 刀 銘 阿州住横山定喬 文化九年八月日

法量 刃長六六・一サ 反り一・五サ 元幅三・三サ 先幅二・五サ 鋒長三・七サ 元重〇・七サ 先重〇・六サ 茎長二〇・二サ

解説 形状は、鑄造、庵棟、反り浅く、身幅広く、重ね尋常、中鋒延びる。地鉄は、小柰目肌よく詰み無地風、地沸つく。刃文は、直刃調、処々二重刃風の変化あり、刃縁縮まりごころ、小沸つき匂口冴える。帽子は、直ぐに大丸でやや長く返る。茎は生ぶ、鑢目は切、棟方は鏝鋤で丸く肉を置く、茎尻は刃上がり栗尻。目釘孔上より鑢地に作者銘、裏に二行に分けて年紀銘がある。

古刀期、備前長船の刀工三代目彦兵衛尉祐定が阿波の池田に駐槌し、以後、その末葉が幕末期に至るが、定喬もその一人である。定喬は、家伝の系図からすると別家を興したことが明らかで、祐定を名乗らず「定」の一字を冠し定喬を名乗っている。当時一門は池田の地で多いに繁栄し、かなりの鍛刀従事者がいたことが明らかである。本刀の姿は一見して大阪新刀風に見える。子孫の家に伝わる一振である。

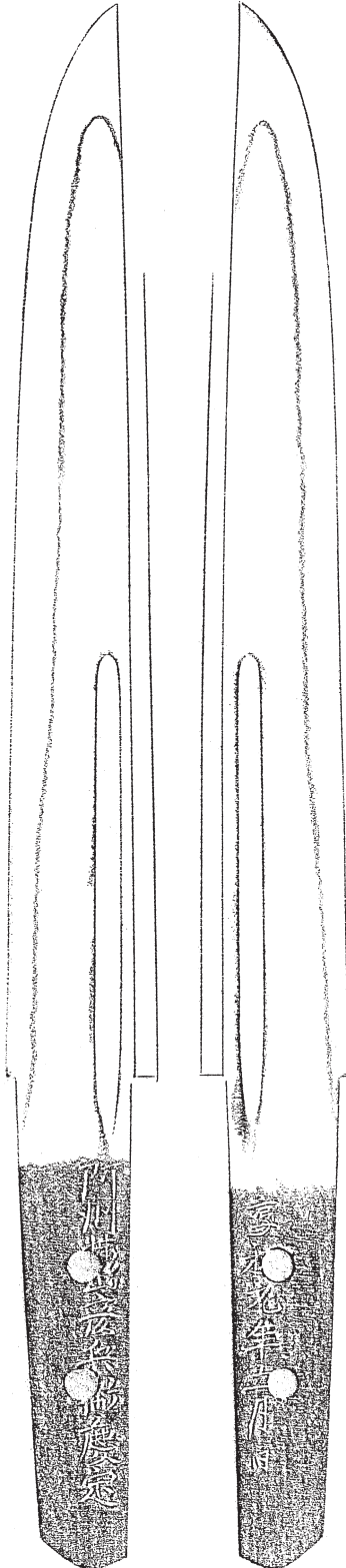
押形



27 短刀 銘 阿州横山彦兵衛慶定 享和元年二月日

法量 刃長二〇・六^セ 反り無し、元幅二・七^セ 先幅一・八^セ 元重〇・六^セ 先重〇・五^セ 茎長九・六^セ。
 解説 形状は、平造、庵棟、反り無く、重ねは尋常、小ぶりの短刀。地鉄は、小板目に杓目がわずかに交じりよく詰み、地沸微塵につく。刃文は、湾たれ調の広直刃、匂口明るく冴えて小沸豊かにつく。帽子は、直ぐに小丸。彫刻は、表裏に腰樋がある。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑓目は勝手下がり茎尻は、太めの刃上がり栗尻。目釘孔二個、一番目の目釘孔上棟より、俗名入りの作者銘、裏に年紀銘がある。
 慶定は、定喬と共に文化年間に活躍した刀工で、先祖は定喬同様、備前からの駐樋刀工横山彦兵衛尉祐定である。刀工銘には、先祖の横山の姓と、彦兵衛の俗名を冠して系統を明らかにしている。享和元年の年紀銘も貴重である。

押形



(六) その他の諸派

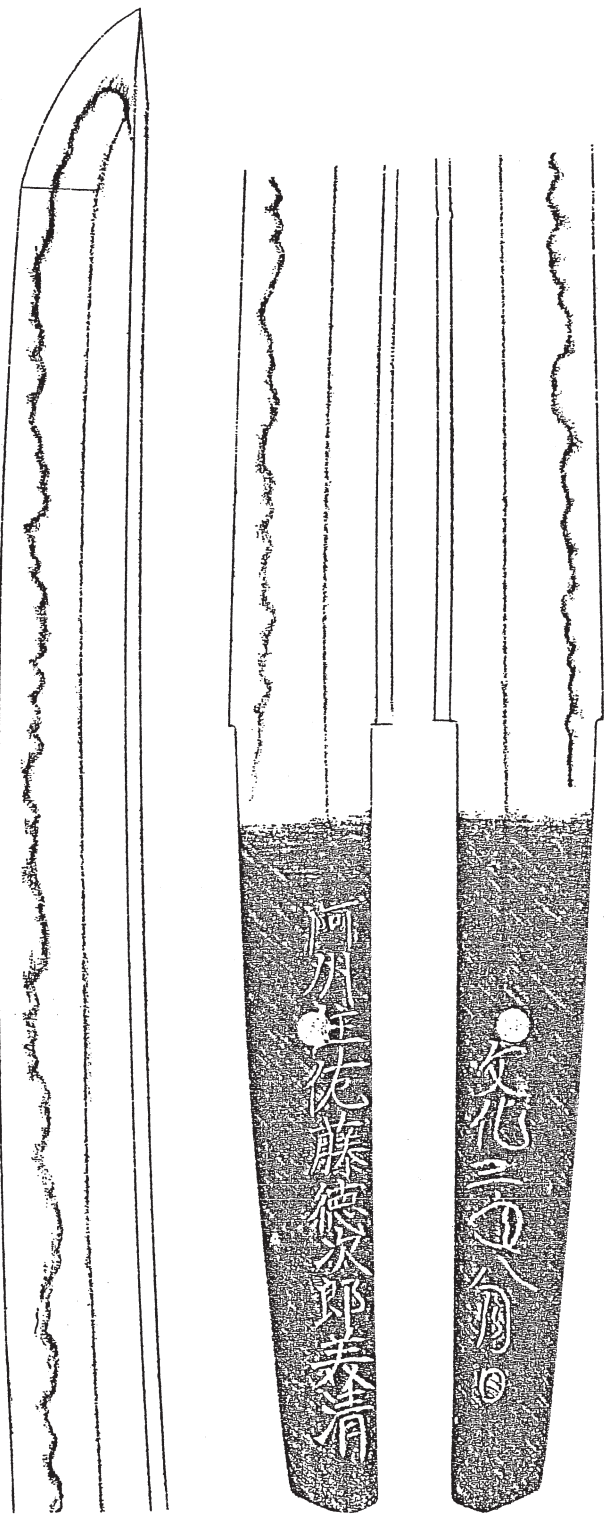
28 脇指 銘 阿州住佐藤徳次郎美清 文化三年八月日

法量 刃長四六・五^弍 反一・九^弍 元幅一・七^弍 先幅一・〇^弍 元重五・〇^弍 先重三・四^弍 茎長一三・七^弍。

解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅細く、重ねは薄い、やや先ぞりつき、中鋒。地鉄は、板目肌流れごころ、地沸つく。刃文は、湾たれ調、処々小互の目交じり、匂口深く、小沸よくつき、砂流し交じり変化に富む。帽子は、直ぐに先掃掛けごころに小丸に返る。茎は生ぶ、目釘孔一個、鑿目は化粧鑿以下筋違い。茎尻は入山形。目釘孔一個、表目釘孔上棟より俗名入りの作者銘、裏目釘孔下棟より年記銘がある。

美清は、戦国時代の三好氏の被官、佐藤久左衛門長勝を先祖とする刀工で、佐藤氏は江戸時代、旧阿波郡伊月村で屋号を「鍛冶久」と称し、代々槍鍛冶を営んだ家筋である。美清は文化年間にかけての人で、俗名を徳次郎又は清右衛門といい、刀・脇差の遺作を数振り見る。当家の資料からは、兄弟・子供に久七・鶴蔵がおり、何れも鍛冶職に従事したと思われるが、現存刀は見ない。

押形



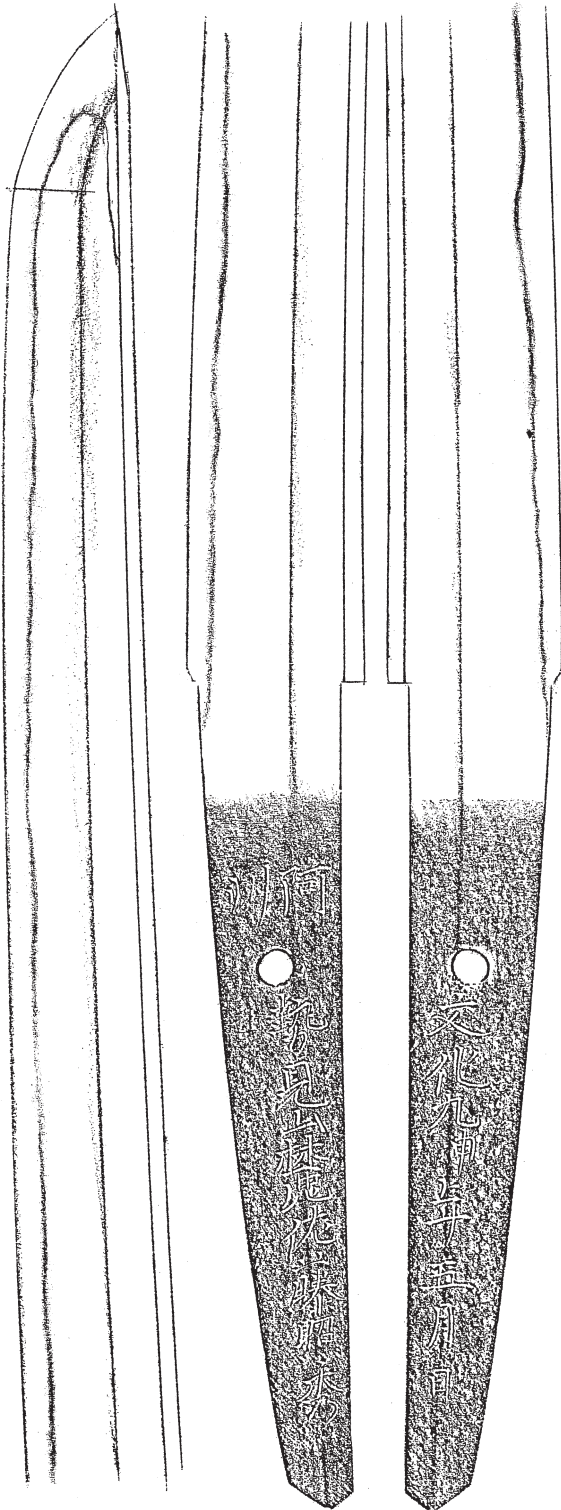
29 脇指 銘 阿州勢見山麓佐藤照秀 文化九申年五月日

法量 刃長五二・九^サ、反り〇・七^サ、元幅三・二^サ、先幅二・四^サ、元重〇・七^サ、先重〇・五^サ、茎長一六・二^サ。

解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く、身幅・重ね共に尋常。地鉄は、全体に杳目肌がよく詰み、総じて無地風、指表に横手近く肌立つ。詳細には、刃区上数糧には表裏共に大杳目が交じり、上部は小杳目がよく詰む、指表の大肌は少し肌立つ、指裏は、大杳目がよく詰むも刃寄りには杳肌交じる。刃文は、中直刃調でわずかに湾れ、刃縁には小沸がよくつき美しい。帽子は、表裏共に大丸に返り、先掃き掛ける。茎は生ぶ、ヤスリ目は勝手下がり、目釘孔は一個、茎尻は入り山形、銘は、目釘孔上、右から左に「阿州」の二字、目釘孔下鏡筋に「勢見山麓佐藤照秀」、裏に年紀銘「文化九申年五月日」を切る。

作者、佐藤照秀は、年紀銘から新々刀期の刀工と分かるが、経眼する作品は現在のところ本刀のみである。佐藤を名乗る新々刀期の刀工には佐藤美清なる人物がいるが、本刀は、作風及び銘振り、特に「佐」の字に美清との類似性が顕著で、造られた時代も文化年間ということからも佐藤美清一類の刀と見ることが可能である。

押形

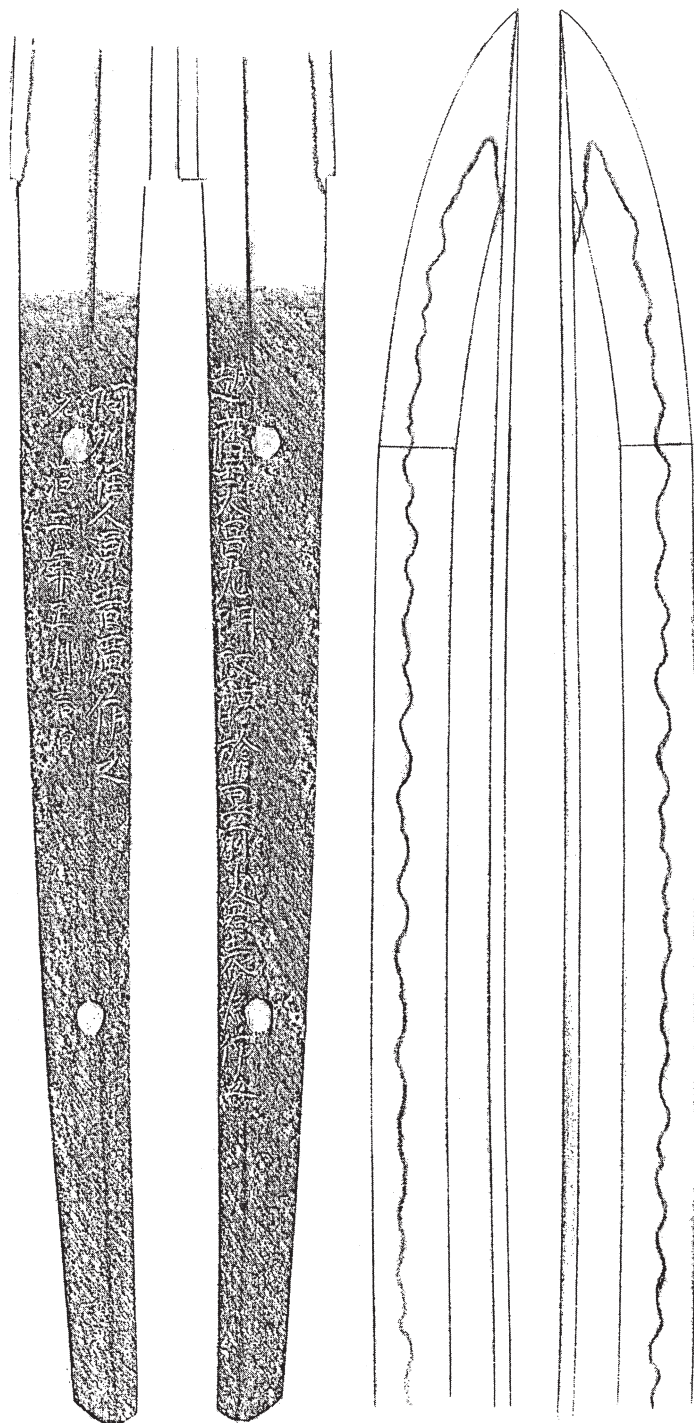


30 刀 銘 阿州住人源吉廣作之 元治二年正月吉日 越藩士大宮左門政醇 於豊前小倉表為作之

法量 刃長七三・八^サ、反り一・四^サ、元幅三・四^サ、先幅二・九^サ、鋒長一九・八^サ、元重〇・九^サ、先重〇・八^サ、茎長二七・四^サ。
 解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く、大鋒、茎長く、彫りの無い長巻直しの体配は、いわゆる幕末期に流行した造り込み。地鉄は、板目肌よく練れ、地沸むらなくつき、凜々とする。刃文は、直ぐの焼きだしから互の目乱れを焼き、刃縁には小沸むらなくつき、匂口明るく冴える。帽子は、表裏共に乱れ込んで互の目に乱れて先やや突き上げごろで小丸、返りは深い。茎は生ぶ、鑿目は筋違い、目釘孔二個、茎尻は、先の細い刃上がり栗尻、銘は、表、目釘孔上鑄地に作者銘と年紀銘、裏に注文主名を入れた為打銘がある。

吉廣の姓は、長谷川、阿波の火繩鍛冶出身。備前・岩見を経て小倉に至り、同藩の御抱工、紀一門の婿養子となり、刀工銘を紀政廣と改め明治初年まで活躍する。銘は「阿州住長谷川藤四郎源吉廣」「豊前小倉住紀政廣作」などがある。本刀は長谷川吉廣の事跡を知るうえで貴重である。

押形



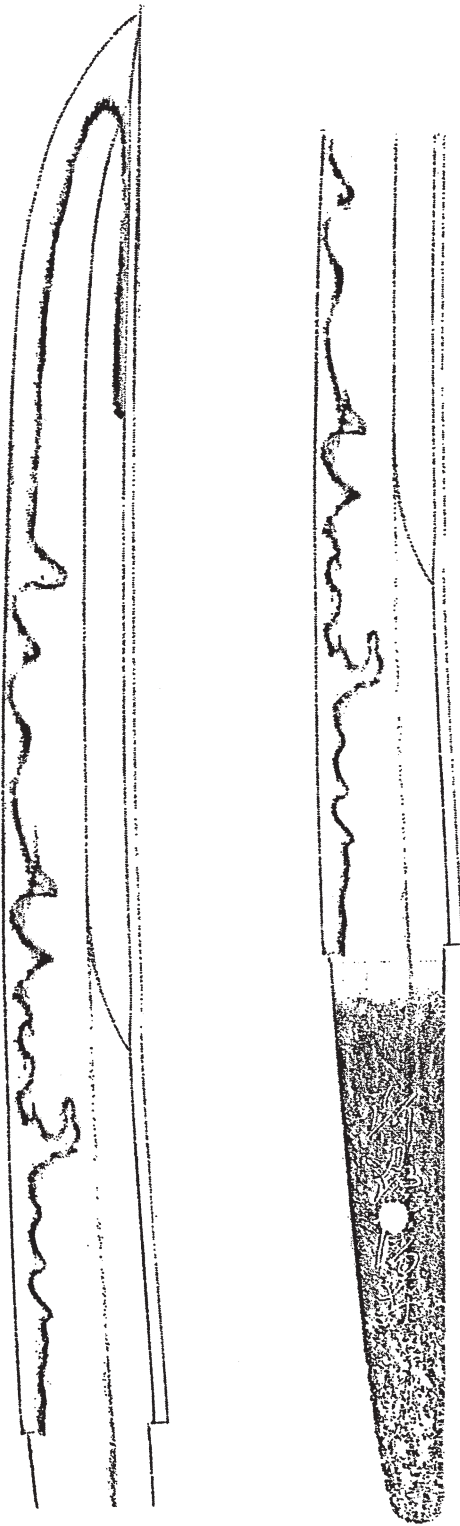
31 短刀 銘 阿州藩井上（以下不明）

法量 刃長二五・〇^サ、反り〇・三^サ、元幅二・六^サ、先幅二・一^サ、元重〇・六^サ、先重〇・五^サ、茎長二一・一^サ。

解説 形状は、鶴首造、庵棟、重ね身幅ともに尋常。地鉄は、板目肌流れよく詰む、沸地にこぼれる。刃文は、湾たれに大互の目、尖り刃交じり、表裏が揃う、地沸むらなくつき刃縁金筋入る、匂口は締まって明るい。帽子は、直ぐに小丸で深く返る。茎は生ぶ、鑓目はこの工独特の化粧鑓以下筋違、目釘孔一個、茎尻は先細って栗尻。指表平地に阿州藩を冠した作者銘をきる。

井上正国は、徳島藩城代家老稲田家と関わりを持つ刀工で本国は淡路国、作柄は、相州伝・大和伝・美濃伝等の各伝を起用にこなす。彫刻も上手で梵字や文字を刻む。特に茎に独特の化粧鑓を施すが、刀・短刀と異なった化粧鑓を使い分けるのがこの刀工の特徴である。銘には、「阿州藩井上正国作」「井上正国」「板東住正国」などがある。本刀は、刀工銘が深錆で消えているものの、地刃の出来や独特の化粧鑓から紛れもなく正国の作である。

押形

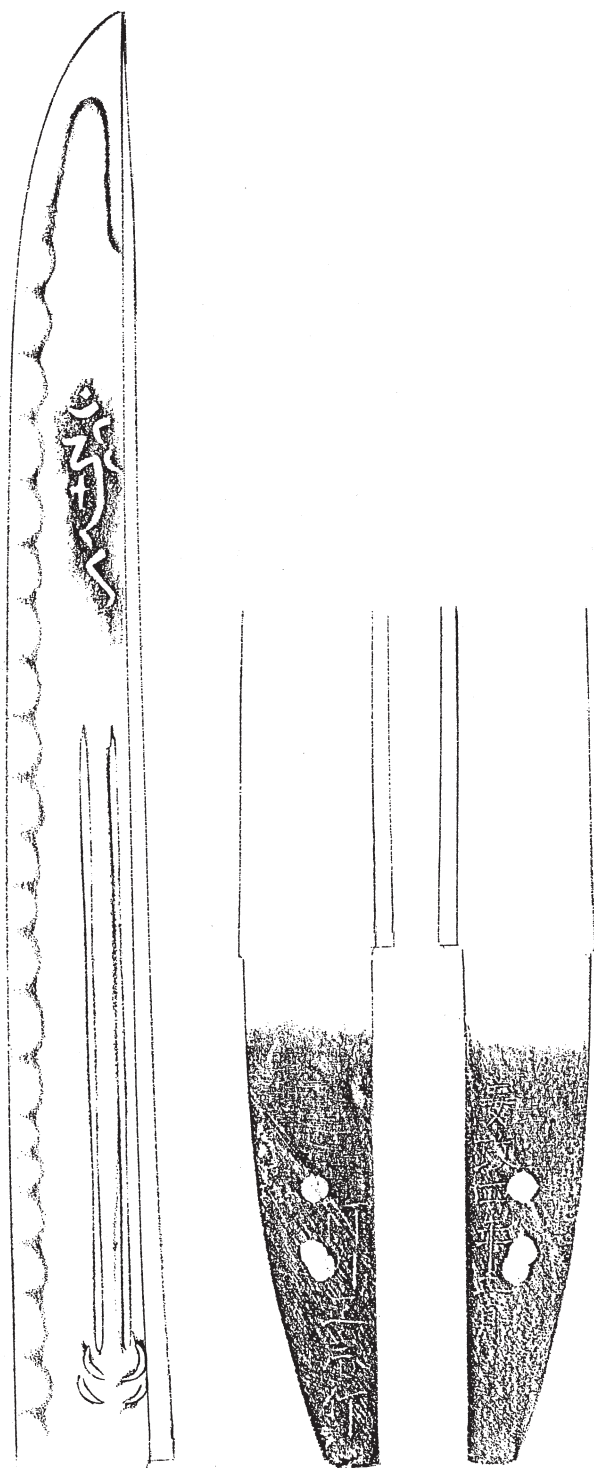


32 短刀 銘 阿州正宗作 安政四年二月日

法量 刃長二九・八^サ、反り〇・一^サ、元幅二・九^サ、先幅二・四^サ、元重〇・八^サ、先重〇・六^サ、茎長一〇・七^サ。
 解説 形状は、平造、庵棟、身幅広く、重ねは厚い。地鉄は、小板目肌よく詰み無地風、地沸よくつき、棟よりに柃肌交じる。刃文は、互の目乱、足よく入り匂い口深く、小沸よくつき冴える。帽子は、直ぐに小丸、深く返る。彫刻は、表に不動明王の梵字に護摩箸と爪、裏に草の俱利伽羅と蓮台がある。茎は生ぶ、目釘孔三個（内二つは後補）、鑢目は、化粧鑢以下大筋違い、茎尻は、極めて浅い栗尻。銘は、表裏に細鑿で隸書風で作者名と年紀銘を切る。

正宗は、号を刀劍子、銘には「阿州刀劍子正宗作」と切る。また、「刀泉子」とも名乗る。慶応頃、名東郡富田浦村に住居した刀工で、山口次郎国親の最初の師匠である。幕末期、金磯に砲台を築いた多田宗太郎（一八二四〜一八九二）の知遇を受けて作刀、宗太郎自身も邸内の鍛冶場で、正宗を相手に自らの佩刀を鍛えている。

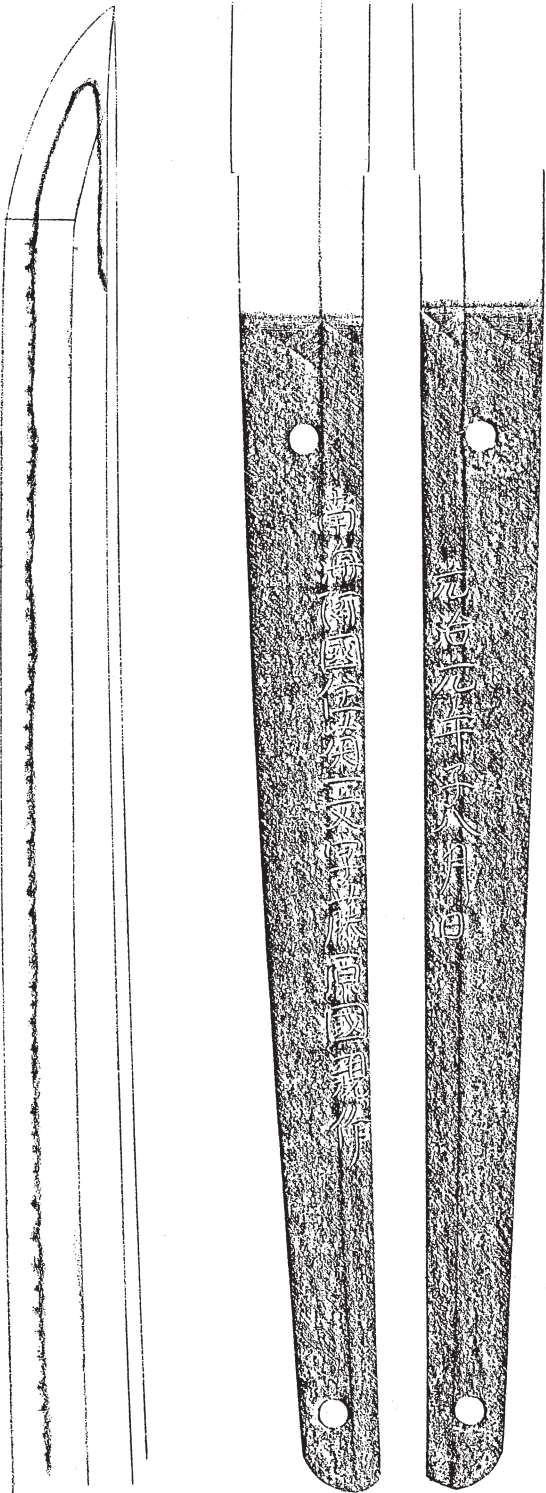
押形



33 刀銘 南海阿国住菊一文字藤原国親作 元治元年子八月日

法量 刃長七九・〇^セ、反り一・〇^セ、元幅三・二^セ、先幅二・四^セ、鋒長四・七^セ、元重〇・九^セ、先重〇・六^セ、茎長一八・七^セ。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、鑄幅広く、重ね厚く、反り浅く長寸、中鋒が延びる典型的な幕末体配。地鉄は、小板目肌よく詰み無地風、地沸よくつき、湯走り入る。刃文は、中直刃、匂い口締まりごころに小沸つき、処々荒沸つき、小足、葉入る。帽子は、表裏ともに直ぐに小丸、返りは深い。茎は生ぶ、長寸で鑢目は化粧鑢以下筋違い、目釘孔一個、茎尻は、刃上がり栗尻表裏とも目釘孔下鑄地に作者銘と年紀銘を切る。
 山口次郎国親は、俗名田村喜久太、田村家は累代、旧那賀郡山口村（現阿南市山口町）の鍛冶職でその四代目。刀剣制作は、最初父織蔵に学び、後、名東郡富田浦村（現徳島市昭和町一帯）の刀剣子正宗に弟子入り、さらに伊豫松山藩工小田宗吉の弟子宗重について修行した。刀剣制作は明治四年まで、二十七年間に及ぶ。本刀は、国親の得意とする直刃を見事に焼き、地刃ともにする優れ、姿も堂々としており、国親の傑作刀の一つである。銘も「菊一文字」を冠し長銘に切っている。この種の銘のものには出色のものが多し。

押形

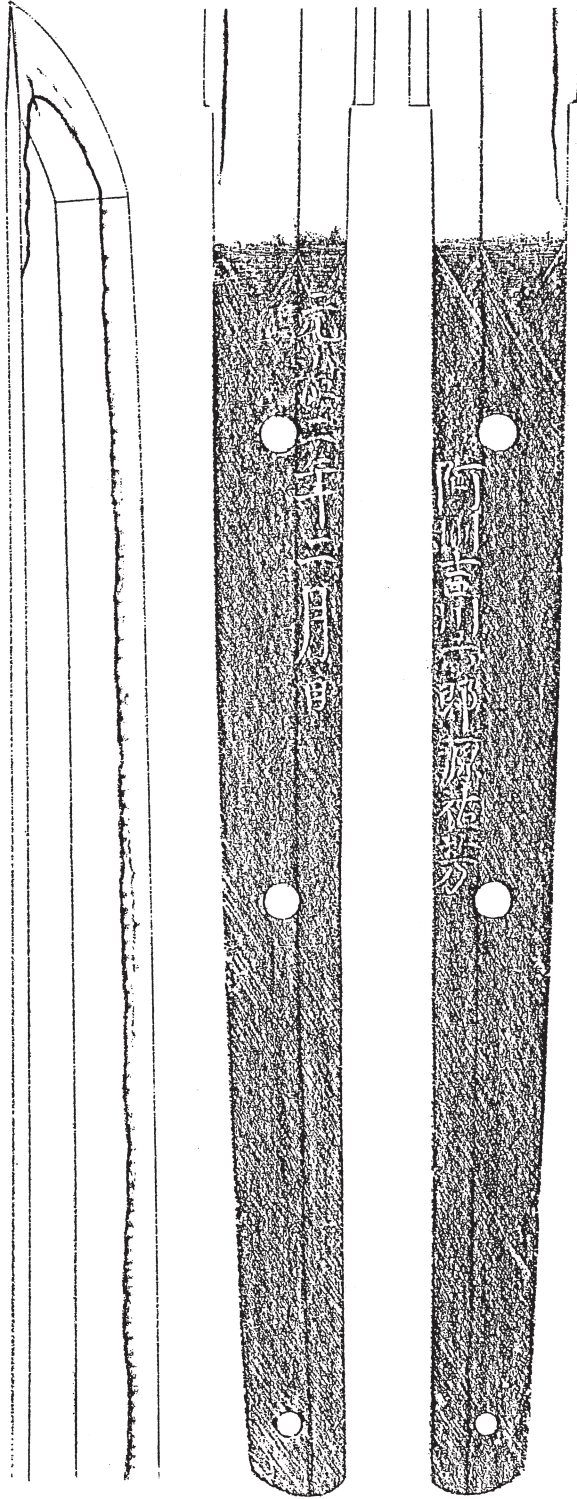


34 刀銘 阿州吉川六郎源祐芳 元治元年二月日

法量 刃長七七・一杓 反り一・三杓 元幅三・一杓 先幅二・三杓 鋒長三・九杓 元重〇・八杓 先重〇・六杓 茎長一七・四杓。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、長寸でやや細身、反り浅く、中鋒が延びる幕末期の典型姿。地鉄は、板目肌に杢目肌交じり、よく摘む、鑄地証流れ、地沸つき地景入る。刃文は、中直刃、鼠足入る、匂い出来、匂口柔らかく冴える。帽子は、表は直ぐに小丸、品よく返る、裏は直ぐに小丸、深く返り、金筋入る。茎は生ぶ、目釘孔三個（内一つ忍び孔、茎先に小さく穿つ）、鑢目は化粧鑢以下筋違い、茎尻は栗尻、銘は、太刀銘で表裏に作者銘と年紀銘を切る。

吉川祐芳は俗名を源六といい那賀郡下大野村（現羽ノ浦町明見）居住の刀工で、阿波新々刀中第一の多作家である。先祖は、周防の名門毛利一族吉川家の後裔で代々源六を通称し医療を生業とした。祐芳に至り医師を継ぐことを嫌い刀工を志し、安芸一門の佐重に入門、腕を見込まれ、師は娘婿にと望んだが、名門吉川家の嫡男故に婿入りを拒み、修行十年にして無断で佐重の門を出る。そのため帰郷独立しても師匠からの下賜銘「佐芳」を名乗ることをはばかり、読みが同じ「祐芳」銘を用いる。これを証明する「佐芳」銘の袋槍が現存する。従って、佐芳の銘には、初期銘は「左芳」、独立しからは「阿州住吉川六郎源祐芳」と切ったものが多い。書体には楷書・草書の二様があり、草書銘は、慶應・明治に集中している。

押形

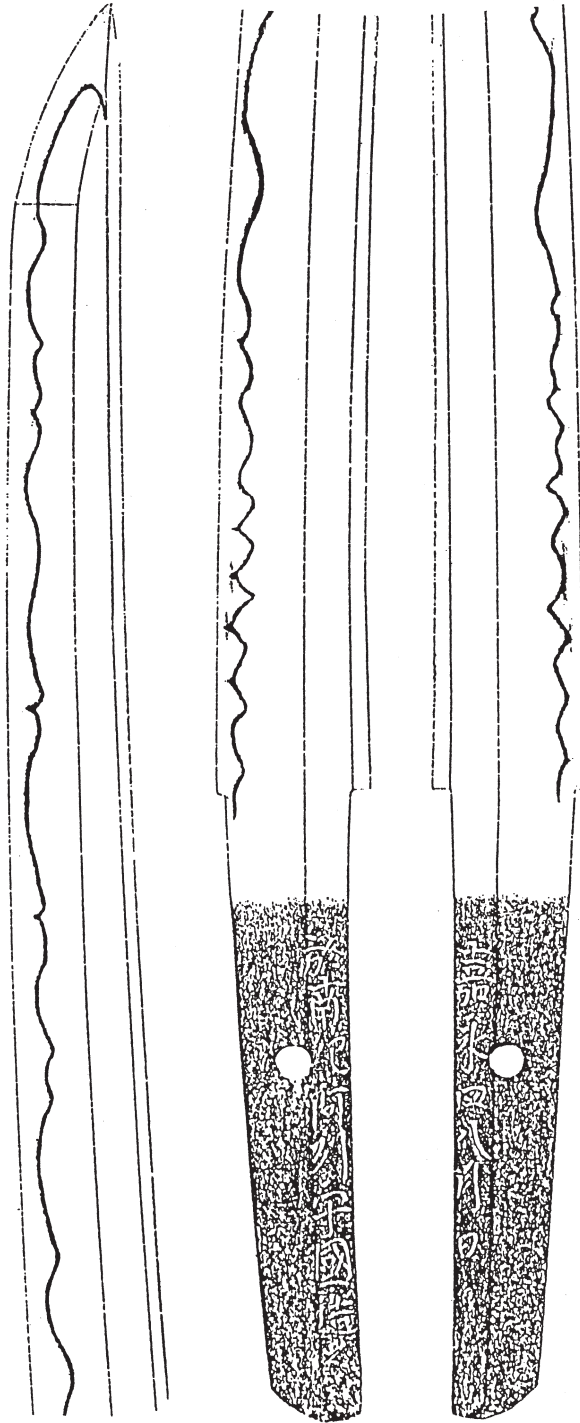


35 脇指 銘 於南紀阿州守國造之 嘉永四八月日

法量 刃長三六・三^サ、反り〇・六^サ、元幅二・八^サ、先幅二・二^サ、鋒長三・九^サ、元重〇・七^サ、先重〇・五^サ、茎長一一・二^サ。
 解説 形状は、鑄造、庵棟、身幅重ね共に尋常。地鉄は、小板目肌よく詰み無地風、地沸よくつく。刃文は、湾たれに腰に互の目交じり、匂口締まりごころ、小沸つき明るく冴える。帽子は、表裏とも直ぐに小丸、茎は生ぶ、鑢目は勝手下がり、目釘孔一個、茎尻は、刃上がり栗尻、表裏とも目釘孔上より、作者銘と年記銘を切る。

幕末期、豊後より阿波に駐樋した刀工田守國の脇指である。本刀は、本国豊後を名乗らず「阿州住」を冠している。かなりの期間阿波に滞在していたと思われる、本刀の銘文は阿波から紀州へ出向いた証拠となる貴重な脇指である。守國の阿波駐樋の理由は、雨乞いの御加護に報いる宝剣を鍛えるためといい、駐樋の依頼主は、阿波郡近郷八か村の與頭庄屋を勤めた須見次郎大夫彝良である。この人物、小高取りに列し、蜂須賀斎裕の知遇を受けた実力者で、若き勝海舟も阿波入りのさい同家に滞在している。朱子学に長じ、武を好み、一方では愛刀家でもあった。子孫の口述によれば、守國は次郎太夫の屋敷に滞在、宝剣・鉄鏡以外にも次郎太夫の佩刀など、同屋敷内に設えた鍛冶場で数振りを鍛えている。雨乞いを行った近郷の神社には、宝剣奉納の記録が誌された奉納額がある。

押形



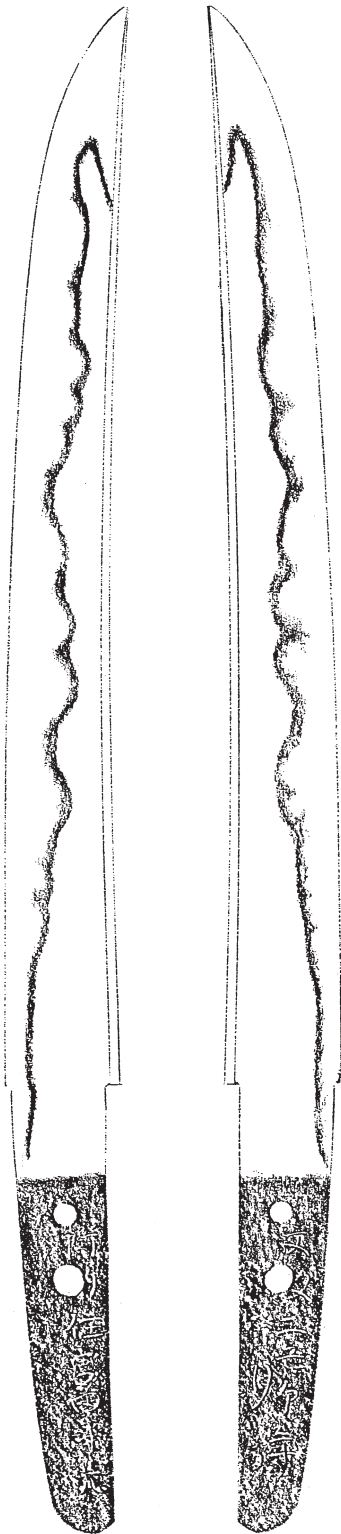
36 短刀 銘 阿州住宮田守光 文政二己卯年八月日

法量 刃長二二・三寸、反り〇・二寸、元幅二・二寸、先幅一・七寸、元重〇・四寸、先重〇・三寸、茎長九・五寸。

解説 形状は、平造、庵棟、反りわずかにつき、小振りの短刀。地鉄は、大板目肌ややざんぐりとして肌立ち、地沸ゆたかにつく。刃文は、大湾たれ、刃縁に小沸豊かにつき、沸深く処々大肌交じる。帽子は、突き上げごころに小丸、やや深く返る。茎は生ぶ、鑢目は筋違い、目釘孔二個、茎尻は、刃上がり栗尻、表裏に作者銘と年紀銘がある。

守光は、名鑑洩れの刀工である。作域からするとかなりの技量の持ち主である。徳島藩洲本城代家老稲田家旧臣の家に伝わった短刀で、同家の家紋をあしらった目貫が付いた合口拵に納められている。相伝風の地刃でなかなか迫力があり、銘振も暢達な鑿運びである。安永年間、田守国なる刀工が豊後より阿波に駐槌しており、長期間滞在していた。刀匠銘からその弟子筋にあたる刀工とも考えられるが、今後の研究を要する。

押形



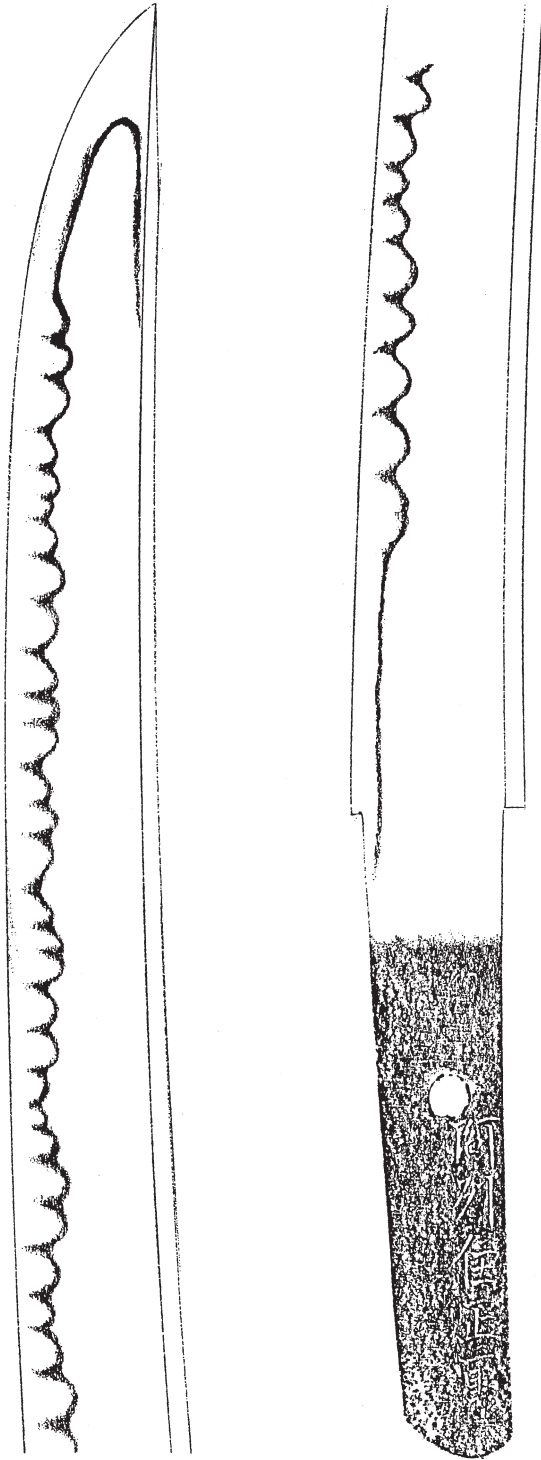
37 脇指 銘 阿州住正重

法量 刃長三二・八^セ、反り〇・五^セ、元幅二・九^セ、先幅二・八^セ、元重〇・七^セ、先重〇・六^セ、茎長一一・五^セ。

解説 形状は、平造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、反りわずかにつく。地鉄は、本目肌よく詰み、地沸つき古調、指裏中ごろに澄肌風の肌現れる。刃文は、丁字ごころの乱れに互の目が交じり、足よく入り匂口締まる。表裏ともに長めの焼出しがある。帽子は、直ぐに小丸、深く返る。茎は生ぶ。目釘孔一個、鑢目は切、茎尻は、刃上がり栗尻、目釘孔下棟より作者銘がある。

正重は、名鑑洩れの刀匠。一見すると吉川祐芳に見紛う出来ばえである。特に帽子は祐芳に酷似していることから同人あるいは、祐芳の弟正包作とも思われるが、この一振では如何ともしがたく今後の研究を要する。

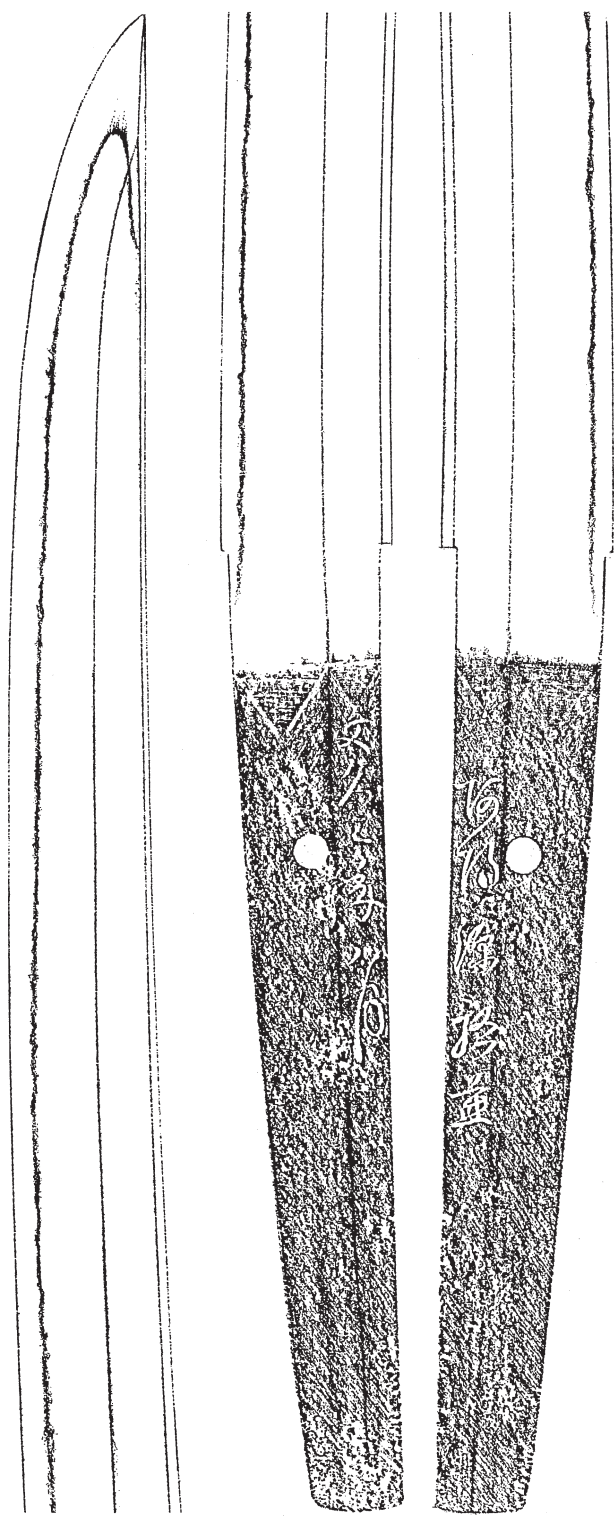
押形



38 刀銘 阿波源祐董 文久三年八月

法量 刃長六七・八寸、反り二・二寸、元幅二・九寸、先幅二・二寸、元重〇・七寸、先重〇・四寸、茎長一六・九寸。
 解説 形状は、菖蒲造、庵棟、身幅、重ねともに尋常、反り深く、腰反りで優美な姿。地鉄は、板目肌詰み無地風、地沸ややつき、刃々大肌現れる。刃文は、中直刃調、わずかに足入り、匂口締りどころ、小沸つく。物打辺よりやや下、荒沸交じる。帽子は、直ぐに先掃きかけどころに小丸に返る。茎は生ぶ、鑢目は化粧鑢以下筋違い、茎尻は、先極めて浅い栗尻、銘は、太刀銘に草書による作者銘と年紀銘がある。
 この正董も名鑑洩れの一人である。銘振は吉川祐芳の草書銘に酷似するが、地刃はむしろ安喜一門に近い。今のところこの一振しか経眼できず、系統、出自など不明である。今後の研究を要する。

押形



おわりに

平成二十一年度に発刊された『徳島の剣道』所載の「新々刀編」は、徳島藩十代藩主蜂須賀重喜の派遣刀工を中心に述べた。そのため、多くの刀工を割愛した。従って、今回は、記載漏れの新々刀工を出来る限り多く網羅することに努めた。

追加した刀工は、徳島藩の庇護を受けた海部・安芸・矢野・笠井・石川一門とは関わりを持たず、その大半が市井にあって己の技倆を頼りに活躍した刀工たちである。

代表格ともいえる吉川祐芳は、明治九年の廃刀令後もひたすら作刀を続け、幾多の名作を遺し、明治三十年にこの世を去る。この人物こそ、新々刀界にあって有終の美を飾った刀工と言っても過言でない。そして、祐芳の道統は、長男の吉川大明（二代目祐芳Ⅱ一八五六〜一九〇九）に受け継がれる。

明治政府の殖産興業政策の一環として興した国内物産の博覧会、「第五回内国勸業博覧会」（明治十四年Ⅱ一八八一）での大明の出品刀は、全国六十余人中、ただ二人の受賞者として、大坂の月山貞一（帝室技芸員Ⅱ現在の人間国宝）と共に見事、褒賞の栄に輝いている。

大明の活躍期は、廃刀令以後、刀剣界が衰微の一步をたどる明治後半である。そのため、晩年は野鍛冶に転じるなど不遇の日々を過ごす。世が世であれば、その技量は高く評価され、世に名工と謳われたに違いない。



大会・行事所感

あと一歩く国体ブロック

大会を終えてく

事業部 佐賀博史



「あと一歩」

「もうちょっとだったのに」国体ブロック大会を終えた会場で、本県剣道連

盟関係者は皆さんそう思ったのではないのでしょうか。特に、最後に行われた成年女子の部では、最終高知戦の大将戦までもつれ込む熱戦を繰り広げての惜敗でした。

また、午前中に行われた少年女子の部では、リーグ二敗と実力を出し切れなかったものの、少年男子では、初戦で難敵の高知に見事な勝利を収めました。続く香川戦での勝利を信じ試合に臨んだものの惜しくも敗れ、三県が一勝一敗の三つ巴となり、勝者

数で二位という残念な結果に終わりました。

試合の詳細は、後記の大会記録に掲載されているとおりですが、善戦した成年女子、それに少年男女の選手の皆さんの奮戦に拍手を送りたいと思います。

さて、平成二十九年八月二十日、藍住町体育館において、国民体育大会第三十八回四国ブロック大会が開催されました。平成二十九年の国体は、隣県の愛媛県での開催があり、強豪愛媛県がブロック大会に出場しないとあって、本戦出場のチャンスの大会でもありました。

我々、事業部は、藤川事務局長指揮の下、大会数ヶ月前から会場の下見、各用具の準備、運営方法の確認などを進めました。そして、大会前日には、連盟事務局、事業部員の他、女子部や高体連の方々のお手伝いをいただき準備を進め、翌日の大会に備えました。

我々が準備を進める横では、各県の選手が稽古に励んでおり、徳島県の選手団の稽古の様子を見て、明日はいけるなと思ったのでした。

大会当日は、晴天でうだるような暑さでした。

藍住町体育館は、素晴らしい設備の整った体育館でしたが、天候と熱戦の影響からかエアコンの効きが悪く、各県の監督や選手から何とかならないかといった注文がありました。そんな中、連盟随一の美声といわれるF先生の進行アナウンスにより大会が順調に進みました。

私も久しぶりに何のしがらみもなく、徳島県チームを応援したものの「あと一歩」で残念な結果に終わり、悔しい思いをしました。

「あと一歩」「もうちょっと」この壁を打ち破るための努力、稽古、これは並大抵のことではないと思います。あと一歩を打破できるように、そして、次こそは、本戦出場がかないますように、徳島県剣道連盟一丸となって頑張りましょう。

最後になりましたが、ブロック大会開催に当たり、ご協力いただきました全ての皆さんに、本誌面をお借りしてお礼申し上げます。

平成二十九年年度女子剣道審判 研修会(全剣連主催)受講報告

鳴門支部 平野悦子

徳島剣連の推薦をいただき、幸いにも第十四回・第十五回的女子審判法研修会に参加することができました。以下にその概要を報告いたします。

一 第十四回女子審判法研修会

(一) 趣旨

女子審判の能力・技術の向上を図り、質の高い審判員を養成する。

(二) 期日

平成二十九年六月三日(土)～四日

(三) 会場

ぶんぶ東京スポーツ文化館

(四) 講師

剣道範士 太田友康先生

剣道範士 大嶽將文先生

剣道範士 金木 悟先生

剣道範士 三宅一志先生(試合・審判委員長)

判委員長)

剣道範士 山崎 尚先生

(五) 参加者

全国から三十名が参加。

(六) 講習課題

ア 試合・審判における全剣連の動向

イ 審判法概説(目的・任務・心得等)

ウ 審判要領の要点説明(所作・旗の表示、移動要領等)

エ 審判法実技

二 第十五回女子審判法研修会

(一) 趣旨

女子審判の能力・技術の向上を図り、質の高い審判員を養成する。

(二) 期日

平成二十九年七月八日(土)～九日

(三) 会場

日本武道館研修センター(勝浦)

(四) 講師

剣道範士 藤原崇郎先生(試合・審判委員長)

判委員長)

剣道範士 大嶽將文先生

剣道範士 三宅一志先生

剣道範士 塚本博之先生

(五) 参加者

全国から二十九名が参加。

(六) 講習課題

ア 試合・審判における全剣連の動向

イ 審判法概説(目的・任務・心得等)

ウ 審判要領の要点説明(所作・旗の表示、移動要領等)

エ 審判法実技

二回の審判研修会で一番印象に残っていることは、審判員として「自覚」と「意識」を持つということの大切さでした。

○「何を求めるのか」ということをよく考える。

○「何を広めるのか」ということに義務と責任を持つ。

○いつも前向きな姿勢で取り組むことが大切。

姿勢で例えるなら、普段の稽古の中で姿勢を意識すれば自然と審判での立ち姿にも繋がっていくものであり、お互いが研究心を持って、また高め合って「剣道の質」と

「剣道界の質」を高めていくようにとご指導いただきました。

おかげをもちまして、この二回の研修を終え「全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会」並びに「全日本女子剣道選手権大会」の審判員にも選考され、大変光栄で貴重な機会を頂きました。日頃よりご指導いただいています徳島県剣道連盟の先生方に心から感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

第三十七回四国教職員剣道大会

徳島県学校剣道連盟

会長 福多雅英

八月二十一日に徳島市立体育館に於きまして、第三十七回四国教職員剣道大会を開催いたしました。第一回大会が徳島で開催されましたので、四国を九周し十周目に入ったこととなります。かつて、国民体育大会に教職員の部があり、四国予選が開催され熱戦が展開されていましたが、昭和五十年の第三十回三重大会を最後に教職員の部がなくなりしました。この予選が四国の教職員の競技力や指導力向上に果たす役割は大きいと考えられた、当時、徳島水産高校の校長をされていた下村富夫先生が、四国各県の先生方に呼びかけられて開催されるようになったとお聞きしています。

また、下村先生から、「試合だけでなく、前日の稽古会・親睦会を通して、四国各県の先輩教員から技能だけでなく指導法等多くのことを学ぶ機会でもある。」と本大会

の意義をご教示いただいたことを今でも記憶しています。

大会が開催された初期の頃は高速道路がなく、遠い道のりを長時間かけて、ワンボックスカーに乗り合わせて行っていました。本県チームが念願の初優勝を飾ったのは、第七回大会でした。大会からの帰り道、役員・監督・選手一同で下村先生の墓前に報告したことも思い出として心に残っています。

さて、本大会ですが、徳島県剣道連盟から会長の三木先生をはじめ多数の役員の先生方にご出席をいただき、国体ブロック大会の翌日で平日ではありましたが盛大に開催することができました。

また、前日の準備から稽古会・親睦会・大会まで多くの会員の先生方にご多忙のところご協力をいただきました。ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

試合は、先鋒と次鋒は女子選手、三十五歳以下が四名・四十九歳以下が四名・五十五歳以上が二名・大将は五十五歳以上で一名の十三人制で行われました。私は昨年引



四

き続き監督として参加させていただきま
したが、本県選手は、緒戦から心・技・体の
充実した素晴らしい試合を展開して、他県
を圧倒し、三戦全勝で二年連続で優勝する
ことができました。若い先生方は技前の攻
め合いから思い切った技の応酬や激しい攻
防が見られ、ベテランの先生方の試合では、
緊迫した間合いの攻防から熟練した玄妙な
技が多く見られました。試合結果だけでな
く、本当に素晴らしい試合内容でありまし
た。特に三戦全勝の山本千尋先生・大石洋
史先生のご活躍は目覚ましく、圧倒的な強
さでした。

閉会式後には、各県ごとに本年度定年退

職される先生方を囲んで和やかな交流
会が開かれていました。二年ぐらい前
から長年にわたるご功績に対して感謝
の言葉の後、退職される先生を胴上げ
するようになりましたが、競技力や指
導力向上という目的の他に親睦を深め
るといふ四国教職員剣道大会の本来の
目的にそったことであると思いました。

最後に、今後ますます本大会が四国
の教職員にとって有意義な大会となり
ますよう祈念し、大会開催にご尽力い
ただいた関係各位に心よりお礼申しあ
げます。

第37回四国教職員剣道大会 試合結果

第1試合 (第2試合場)

県名	先鋒	次鋒	十一将	十将	九将	八将	中堅	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	本数	得点
徳島	山本	長地	森	白木	大石洋	大石真	佐藤	磯部	谷	長井	玉田	富浦	柴田	6	9	1
	メ		メ		メメ	メコ	メメ	メ								
愛媛		メ												1	1	0
	光宗	松本	青野	片岡	瀧本	森	森本	近藤	豊水	嶋家	池田	信尾	馬詰			

第2試合 (第2試合場)

県名	先鋒	次鋒	十一将	十将	九将	八将	中堅	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	本数	得点
徳島	山本	長地	森	白木	大石洋	大石真	佐藤	磯部	谷	長井	玉田	富浦	柴田	5	8	1
	コ		メコ		メ			メ			メ	コメ				
高知													メ	1	2	0
	清岡	津野	坂本	川田	岡崎	岡本	竹田	森	林	矢野	宇賀	田村	中越			

第3試合 (第2試合場)

県名	先鋒	次鋒	十一将	十将	九将	八将	中堅	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	本数	得点
徳島	山本	長地	森	白木	大石洋	大石真	佐藤	磯部	谷	長井	玉田	富浦	柴田	4	8	1
	コ			メ	ドメ	コ			メ		メ	コ				
香川													ド	2	5	0
	井内	田中	吉川	小川	山下	宮田	小林	久保	千葉	鳥居	竹下	大林	村上			

第37回四国教職員剣道大会 試合対戦結果

	徳島	愛媛	香川	徳島	勝点	勝者数	得本数	得本数
土佐		9/4	4/2	2/1	1	7	15	3
愛媛	4/1		6/3	1/1	1	5	11	4
香川	8/5	5/2		5/2	1	9	18	2
徳島	8/5	9/6	8/4		3	15	25	1

優勝 徳島県
 準優勝 香川県
 第3位 高知県
 第3位 愛媛県

各種大会に参加して

「自己表現の場にて」

全日本選抜剣道

八段優勝大会に出場して

警察支部 平野 誠 司



「あなたは剣道を習ってどうなりたいですか。」
こういう質問の仕方を見ると答え

に困ってしまいましたか。「：勝ちたい。

とにかく強くなりたい。」若い世代の方にはそういった答えが多いかもしれません。

勝利至上の傾向が強まる中、試合中心に考える修行形態では『勝ち負け』だけに意識が集中してきます。自分の気持ちだけでなく、周りの評価もその勝ち負けとなると、もう自分が納得できて、相手も感動するよ

うな一本なんか誰も目指さなくなってしまう

うんじゃないか。いや、そんな一本を目指すことの意味(価値)さえも分かってせす、自分の心が満たされないまま、『当たり前』だけのやり取りで満足してしまうのではないか……。

剣道が有効打突を競い合うことで成り立っている以上、いかに一本を打つかということとは最大の課題です。

しかし、年齢を重ね錬度が増してくると、剣への想いは深まり「いかに」打つかという技術だけでは満足できなくなってきます。

そこが剣道の深みを知る始まりとなり、「いかに」打つかということ以上に「何を」

求めて打つのかという命題へと移行していくものと考えられます。この想いに至れば、剣道は自分の問題として全てが突きつけられていることがよく理解できます。

「剣道を習うということは

自己を習うということ」

湯野正憲範士

そんな修行を重ね合えば、途轍もなく広く、深いこの剣の奥義は確実に次の世代へと伝承されていくことでしょう。

さて、最高の空間(自己表現の場)として引き継がれてきた明治村剣道大会がこの全日本選抜剣道八段優勝大会へと引き継がれ早や十五年が経ちました。

私は昨年続き二回目の出場となりますが、選考された剣士の責任として、優勝を目指して鎧を削りながら、「何を」求めて打つのかという修煉の過程を表現しあうことである、私はこう理解しています。思いを胸に秘め、試合場に臨みました。

結果は、

下島貴代一(岐阜県) メメ

— 平野誠司(徳島県)

相手と合気で対峙し、無心応を駆使して実で攻め、虚を打つという勝負を展開しましたが、敢え無く二本負けの敗退です。

勝負は負ければ悔しい。その悔しさを他者のせいにする事なく、すべて自分の問題として受け止めることが出来るならば、剣道と一体となって前へ進めると信じています。

いくつになってもこの謙虚さを頂けるといいう剣道の贈り物を大切にしなければいけ

ないと常々思っています。

また機会を頂けるならば、この剣心とそれを体現する勇気をもってその場に立ちたいと思います。

この度の出場に際し、多くの方々からご声援、ご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

内閣総理大臣杯授与

第十五回

全日本選抜剣道八段優勝大会



日時／平成二十九年四月十六日（日）午前九時三十分開会
会場／名古屋市市中村スポーツセンター

主催：全日本剣道連盟
主管：一般財団法人愛知県剣道連盟
後援：スポーツ庁・愛知県教育委員会・中日新聞社

第六十五回全日本都道府県 対抗剣道優勝大会を終えて

監督 美馬 勝行

平成二十九年四月二十九日、エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育館）において第六十五回全日本都道府県対抗剣道優勝大会が開催されました。本大会は年齢別・職業別の代表者によって構成されるチームにより対戦する言わば各県の剣道力を試す大会でもあります。

本県は

先鋒 熊橋 凌 司 三段

（城北高校三年 十七歳）

次鋒 西田 凌 介 四段

（日本体育大学四年 二十歳）

五将 近藤 徹 五段

（刑務官 二十九歳）

中堅 大石 洋 史 五段

（徳島文理高校教員 三十歳）

三将 梶原 拓 磨 四段

（警察官 二十四歳）

副将 敦賀 晋 六段

（日本郵便 三十七歳）

大将 平野 誠 司 教八段

（警察剣道師範 五三歳）

の七名の選手で戦いに臨みました。

県予選会においては五将に城北高校教員の白木恒二郎、三将に警察官の山本義征の二名が選手として決まっていたのですが、その後において職種の変更等により出場できなくなり、予選会において第二位の近藤・梶原選手が出場しました。

また、副将の敦賀選手が大会会場での前日調整で左足に肉離れをおこし、テーピングを施した上で試合に出場という状況下で大会に臨みました。

試合はトーナメント方式により行われ、

我が徳島県は一回戦の沖繩県には

徳島 三（四）ー〇（〇）沖繩

で勝利しましたが、二回戦の京都府には

徳島 一（三）ー五（八）京都

で敗れ、涙をのみました。

以上のように本大会は、二回戦敗退という結果に終わりましたが、次鋒の西田選手

が一戦二勝の活躍で、試合内容もよく、その成長ぶりを目のあたりにしたことは、一つの成果です。

大会を終えて、監督として考えさせられることは、選手の構成が各層の混成であることから、選手全員が一堂に会しての稽古の場および作戦検討会等の機会を作れず、大会に向けた団結・執念・闘争力への醸成に持ち込めなかったことが、監督たる私の責任であり、力不足であったものと反省しているところでもあります。

最後に、次回の六十六回大会での活躍に期待を込めて、本大会の結果報告といたします。

矯正剣道について

刑務所支部長 森 直行



合結果及び徳島刑務所剣道部の近況報告をいたします。

平成二十九年四月二十一日、徳島県立中央武道館において、管内矯正職員武道大会が盛大に開催されました。四国管内四県の刑務所が団体戦にて優勝を争い、優勝した施設が東京拘置所で開催される全国矯正職員武道大会へ出場することとなります。

四年振りの全国大会出場を目指して、優勝当時のメンバーを再選し、

先鋒 玉井 翔
次鋒 片山 将志
中堅 近藤 徹
副将 金野 卓司

大将 前田 秀一

が出場しましたが、一回戦松山刑務所と対戦して一本差の本数負け、二回戦は、高知刑務所と対戦し、これも一本差の本数負け、

最後は高松刑務所と対戦して二対〇で勝ったものの、管内三位となり全国大会出場は果たせませんでした。初戦の大切さ、一本の重みを思い知らされた大会でありました。

平成二十九年九月一日、香川県立武道館において、管内矯正職員武道選手権大会が開催されました。この大会は、個人戦で上位三名が大阪刑務所で行われる全国大会に出場できる訳ですが、徳島刑務所から、玉井、近藤、片山の三名に加えて新鋭の土山康平、板東亮祐の計五名が出場したものの、片山が二回戦にて敗退、後の四選手は全員一回戦敗退と残念ながら実力差を痛感させられる大会となってしまいました。

平成二十九年十月二十四日、府中刑務所において、八人制の全国矯正職員東西対抗試合に徳島刑務所剣道部員である井口雅博、教士七段が四国管区代表として出場し、名古屋刑務所の選手に「胴」の一本勝をして、

三対一で西軍チームの勝利に貢献しました。さすが高松刑務所在勤中に全国矯正職員選手権大会第三位になった実力の持ち主だけあります。

平成二十九年十一月十日、愛媛県立武道館において、管内矯正職員武道奨励大会（新人大会）が開催され、二連覇をかけて四国少年院に五対〇で圧勝したものの、高知刑務所には一対二で敗戦となり、連覇を達成することができませんでした。

次に徳島刑務所剣道部の近況報告として、平成二十九年十一月二十六日、那賀川スポーツセンターで開催された徳島県社会人剣道大会で徳島刑務所が準優勝しましたが、徳島刑務所の選手として大活躍した大将の宮本祐康教士七段は、何を隠そう徳島刑務所の『所長』であります。私の刑務官生活四十五年目にして初めて巡り合った剣道七段の所長であり、矯正界の中で貴重な存在である方です。

平成二十九年四月一日付けで松山刑務所から徳島刑務所に転任された山崎克弘先生が、同年五月二日京都市立体育館における

剣道八段審査会において、見事に合格しました。受験者の八六七名の内、わずか五名しか合格者がおらず、山崎先生のお陰で徳島刑務所の名が全国及び刑務所関係の矯正界に響き渡り私の自慢であります。

ちなみに徳島刑務所には、現在、剣道八段が一名、七段が八名と管内他施設と比べて高段者が一番多い刑務所であることも自慢の一つです。

平成三十年四月、徳島刑務所に剣道家の女子刑務官、矯正剣士第一号が誕生します。全国の刑務所には剣道家の女子刑務官が多数いますが、この度、宮本所長の御尽力により富岡東高校を卒業される剣士が徳島刑務所の刑務官として採用が内定しております。毎年開催される剣道五段、六段等の矯正剣士が多数出場する全国矯正職員女子剣道大会に出場することになると思いますが、拜命後の全国大会での活躍を祈願しております。

また、将来徳島刑務所に剣道家の女子刑務官が多数採用され、団体戦でも出場できるように、是非とも刑務官採用試験を受験し

ていただき矯正剣士になっていただきたいと思います。

以上のとおり、矯正剣道について報告を終わらせていただきますが、今後とも徳島県剣道連盟三木毅会長始め連盟の先生方に対しまして、徳島刑務所剣道部発展のため、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

全国矯正職員武道大会高段者試合

平成25年10月29日 於 府中刑務所



剣道優勝（西チーム）

全国高等学校

剣道選抜大会に出場して

城北高校剣道部主将

西 條 賢 太

私たちは、平成二十九年三月二十七日、二十八日に、愛知県春日井市で開催された第二十六回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。全国大会出場を目標に、日々厳しい稽古に取り組んできた成果を形として残すことができ、大変嬉しかったです。

私たちが、選抜大会の切符を手にするのは楽な道ではありませんでした。九月と十一月に行われた県大会では渦潮高校に負け、練習試合でも良い結果が出ていませんでした。この負の連鎖を止めようと、自主的に早朝練習を行ったり、稽古で声を出したりと、活気溢れるチーム作りを心掛けてきました。その結果、一月の選抜大会県予選では、粘り強い剣道でチームが優勝することができました。

そして、全国大会当日。この大会から昨

年のインターハイベスト一六校の都道府県から二校出場できるように、トーナメント方式に変更されました。一度負ければ終わりというプレッシャーの中、一回戦の相手は、香川県の高松商業高校でした。攻撃的な剣道をするチームです。同じ四国で、よく練習試合をする相手だったので、手の内を知り尽くした対戦となりました。お互いに力は五分五分でどちらが勝ってもおかしくない状態でしたが、結果は、〇―一と惜しくも敗れました。全国の舞台で一本を取ることに、自分の剣道をすることがいかに難しいか、身に沁みて感じました。同時にもう一度、全国大会に出場したいという思いが一層強くなりました。選抜大会に出場したことで、インターハイに向けて打突力を磨き、確実に一本を取る力を身に付けていくという新たな課題を見つけ、努力していくことができました。

こうして私たちが剣道が続けられているのも福多先生をはじめ、白木先生、仁木先生の熱心なご指導と保護者の方々からの応援があったからだと思えます。この恵まれ

た環境で剣道ができていることに感謝し、これらの経験を糧に、これからも剣道に精進していきます。本当にありがとうございます。



全国選抜大会に出場して

富岡東高校 富田 瑠莉



平成二十九年三月二十六日から三日間、愛知県春日井市にて第二十七回全国選抜剣道大会が開催されました。県大会で優勝し、このチームで挑む初めての全国大会にとでもわくわくしていました。そして、多くの県外遠征を経験し技術面だけでなく精神面も鍛えられました。

迎えた全国選抜。全国大会独特の雰囲気と今年からリーグ戦ではなくトーナメント戦になり一発勝負ということに緊張しましたが、みんなで声をかけ合いチーム一丸となって戦いました。一回戦の相手は奈良県代表郡山高校。先鋒で出場した私は、勝ってチームにいい流れを作りたい所でしたが相手の粘りにおされて引き分け。しかし、次鋒・明口、副将・大城の活躍でチームは

二〇で一回戦を突破しました。続く二回戦の相手は福岡県代表筑紫台高校。力強さや勢いのある全国でもトップクラスの強豪校です。でも、勝負はやってみたいと分かりません。試合前、山崎キャプテンの掛け声で円陣を組み気合いを入れて挑んだ二回戦。選抜大会は、毎試合オーダー変更自由なので一回戦調子の良かった大城が先鋒で出場。思い切りのあるいい試合でしたが、中心を攻めてつきから崩そうとした所を上から面をとられてしまい一本負け。二回戦次鋒で出場した私は、勝って中堅につなぎたい所でしたが相手の守りを崩せず引き分けでした。続く中堅・明口も果敢に攻めるが引き分け。しかし、副将・山崎が見事な面を決めて一本勝ち。一一一の大将戦までもつれ込みました。相手の大将小川選手は、中学生の頃全国大会優勝経験もある選手ですが、チームの思いに応えようと懸命に戦う片岡。しかし、一本負け。春の全国選抜大会は、二回戦敗退という悔しい結果に終わりましたが全国大会で勝つことの難しさ、次に向けての課題などたくさんを学

ぶことができました。今振り返ってみると、この選抜大会での悔しさが私たちをさらに強く成長させ、夏のインターハイ予選リーグ突破へとつながったと思います。

高校三年間辛い事、苦しい事たくさんありましたが仲間と共に剣道に励み続けた日々は、私にとってかけがえのない一生の思い出となりました。目標としていた全国ベスト八以上には、あと一步届きませんでした。目標に向かって努力してきた事や全国大会という大きな舞台で仲間と共に戦えたことは、私の今後の生きる糧となるはずです。そして、長井先生をはじめ熱心に指導してくださいました先生方。いつも支え、応援してくれた家族。どんな時も一緒に頑張ってきた仲間には心から感謝しています。ありがとうございました。これからも剣道を通して学んだことを大切に、人として成長していきたいと思えます。

第27回全国選抜剣道大会 試合結果

〈第2試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
富岡東	大城	富田	明口	山崎	片岡	△ 1 1
				⊗ 一本勝		
筑紫台(福岡)	⊗ 一本勝				⊖ 一本勝	○ 2 2
	時田	小森	吉武	高城	小川	

〈第1試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
富岡東	富田	明口	山崎	大城	片岡	○ 2 2
		⊖ 一本勝		⊗ 一本勝		
郡山(奈良)						△ 0 0
	讃岐	後山	西浦	今出	山本	



全国総合体育大会への道のり

富岡西高校

監督 上田 宏 司



富岡西高等学校
に赴任して三年目、
ちょうどその時に
入学してきた部員
達と全国総体出場

を果たすことができました。実に十三年ぶ
り十九回目の出場です。現在、県内外で活
躍中の大石洋史君以来です。

日頃ご指導頂いた、たくさんの先生方、
支えて下さった保護者の皆様、関係者の方々
に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。
いました。

このチームの主力の三年生は六人で、こ
の数年では多く揃いました。入学時より非
常に仲が良く、真面目に取り組む生徒でし
た。エース的存在はいませんが、全
員が横一線で、良く言えば穴がない、悪く
言えばドングリの背比べのようでした。こ

のチームに、(どんな大会でもいいから一
つ優勝させてやりたい)という思いが大き
くなり、チームの機運が高まってきました。
ノーシードで挑んだ会長杯と山家旗で優
勝し、私自身はもう十分満足していました。
総体は甘くない、そんなにとんとん拍子に
行くわけがないことを理解していましたが、
私自身にとっても最初で最後のチャンスか
もしれない、挑戦しようという気持ちが出
てきました。

好事魔多し。四月三十日、稽古中にアキ
レス腱を断裂してしまい、剣道具を付けて
の指導が不可能になりました。数日間はさ
すがに落ち込みましたが、災い転じて福と
なす。と切り替えることにしました。総体
までは、前顧問の大石正志先生、阿南支部
長の坂本信幸先生をはじめ多くの先生方に
指導で助けていただきました。

迎えた県総体は、優勝候補の城北と徳島
文理に準決勝、決勝と勝利しました。振り
返れば二年前、保護者との最初の顔合わせ
で、「上田への不満も多々感じるとは思い
ますが、家庭では、ええ先生やなあと言

続けてほしい。」と偉そうに厚かましいお
願いをした。生徒、保護者、指導者、三つ
のベクトルが揃い揃んだ全国大会への切符
でした。

八月、全国総体は連日最高気温が二十六
度を下回るといふ、ここ仙台でもめずらし
く涼しい中での大会でした。対戦校は、岐
阜代表の高山西高校と福岡代表の福岡大
濠高校でした。高山西とは○対四、福大
濠には一対三で負け、予選リーグ敗退しま
したが、スコア以上に、本来持っている力
を出し切った生徒の堂々たる試合内容に、
収容人数五千人を誇るカメイアリーナの天
井を見上げ、私も堂々と胸を張ることがで
きました。この場に立てて一番成長できた
のは誰だったのか気がきました。

大会五連覇を狙う九州学院、それを阻止
した水戸葵陵、優勝した高千穂の試合を見
つめる生徒達の目は驚きと憧れに満ちあふ
れていました。少しでもだけ大海を見ることが
できたこの貴重な経験を、唯一二年生で出
場した新キャプテンの服部真佑君が糧にし
て頑張ってくれることと思います。

新チームは、男子二年生三人、一年生一人、女子は二年生五人、一年生二人です。

徳島県全体的にも部員数不足の中、もっと少ない部員数で頑張っている学校が多くあります。私たちには専用の剣道場がありません。勉強できる環境があります。校訓の「質実剛健」のもと「文武両道」の目標を達成するため、互いに学び合い、高め合い、切磋琢磨していききたいと思います。

《県総体》

準決勝

富岡西

城北

服部真

西条

井地岡

ド 矢野

服部比

メ 西名

後藤

メ 富田

田上雄

メ 熊橋

(代)田上雄

メ 熊橋

決勝

富岡西

徳島文理

服部真

×

金森

井地岡

メ

安部

《全国総体》

予選リーグ

服部比 ー 矢代
後藤 ー 片岡
田上雄 ー 藤本

富岡西

高山西

服部真

×

内村

井地岡

ー

奥平

服部比

ー

船木

後藤

ー

江尾

田上雄

ー

伊崎

富岡西

福岡大大濠

服部真

ー

井上

田上将

メ反

木島

木内

ー

奥谷

後藤

ー

村上

田上雄

×

井上



最後の大舞台

富岡東高校 山崎 舞



平成二十九年八月九日〜十二日、「繋がる絆魅せよう僕らの若き力」のスローガンのもと、宮城県カメイアリーナ仙台で第六十四回全国高等学校剣道大会が行われました。

県総体では、四連覇を達成し全国総体出場への切符を手に入れることができました。練習でも全国大会に向け気持ちが高まり、身の入った練習を続けていく中、まずは「四国大会優勝」を目指し練習に励みました。そして四国大会では、おしくも準決勝で愛媛県の済美高校に敗れ、三位におわってしまいました。とても苦しい思いをした私たちは最後の全国大会に向け今まで以上に練習への熱い思いをそそぎました。

大会二日目から女子予選リーグが始まりました。私はチームのみんなを試合前に集

め、円陣を組み「やってきたことを全て出しければ絶対にいけるけん」と声をかけ、一試合目の大阪府PL学園高校と対戦しました。先鋒は惜しくも引き分け、次鋒は得意のメンを打ち込み一本勝ち。次鋒からの流れをうけ、中堅は引き分け。副将、大将とも果敢に攻め二本勝ち、三対〇と勝利をおさめることができました。次の相手は鳥

取県鳥取城北高校。私たちは前の試合のような感じで、しっかり一人一人がミスをすることなく、先鋒から大将まで繋いでいきました。先鋒は素早いメンを二本決め、続く次鋒も思いきったメンを決めました。そこから、中堅・副将・大将と相手に隙をあたえず、この試合も二対〇で勝利をおさめました。予選リーグで二勝を得た私たちは最終日の決勝リーグへ進むことができました。抽選の結果、東京都東海大菅生高校との対戦が決まり、いままで戦ったことのない相手でお互いに剣風や戦い方もわからなかったので、とても緊張しました。ついにやってきた最終日、私たちは万全な状態で試合に取り組みました。先鋒・次鋒と小さ

な隙を打たれ一本負け。中堅は流れを変えようと果敢に攻めるも引き分け。副将も取り返そうと攻めていくが手元が少し浮いたところを小手を打たれ二本負け。大将は竹刀を二回落として一本負け。四対〇で負けてしまいました。私たちの心の中にはくやしい思いもたくさんありましたが、全力を出しきった私たちは誰一人として、涙を流すことなく、笑顔で終わることができました。私たちを一番に考え、バスの運転から厳しい指導までしてくれた先生方、私たちのことを一番近くで支えてくれ、一番の理解者でもある保護者の方々。最後に今までも一緒に辛いことも、どんなに苦しいことに変えてこられた大切な仲間。一生忘れることのない思い出がたくさんできました。私たちは日々成長し、これからも感謝の気持ちを忘れず、一度しかない人生をこれからも大切に過ごしていきます。



全国中学校剣道大会に出場して

徳島中学校

主将 大空航己

「全中に出場し、ベスト四に入る」これが私たち徳島中学校男子剣道部の大きな目標でした。この目標を達成するために、先生方のご指導の下、日々厳しい稽古に取り組みできました。いろいろな技の技術向上だけでなく、精神面の強化にも取り組んできました。そして、中学校最後の県総体で優勝することができ、念願の全国大会出場の切符を手にすることができました。指導してくださった先生方、また、支え励ましてくださった保護者の方々、共に練習し戦ってきた、剣道の仲間たち全員の思いを感じながら、全国大会に臨む決意をしました。大会までの期間、それぞれのメンバーが課題をもって、さらに気合いを込めて稽古に取り組みました。

今年の全中大会は、八月に佐賀県で開催されました。試合当日、これまでにやれる

ことは全てやってきたという自信があったので、あまり緊張はしませんでした。試合は三校での予選リーグから始まります。初戦は、岩手県代表の福岡中学校との対戦でした。チーム一丸となって試合に臨み、二対〇のスコアで勝利することができました。予選突破まであと一勝となり、次の相手は、山梨県代表の玉穂中学校でした。前年度ベスト八に入っている強いチームですが、今まで努力してきた成果を出し切り、いい試合ができました。結果二対二の引き分けに終わり、総合の勝者数の差でおしくも予選リーグ敗退となってしまいました。残念ながら、自分たちの目標を達成することができませんでした。とても悔しい気持ちでいっぱいでしたが、この仲間と共に全国大会の舞台で戦ったことは、自分たちにとっていい経験になりました。生涯忘れることのできないものとなりました。これからも剣道を続けていくので、この経験を生かし、頑張っていきたいと思います。

徳島中学校剣道部の主将となり、全国大会に出場することができたのは、今まで一

緒に頑張ってきた仲間たち、また、毎日厳しく指導してくださった兼松先生のおかげだと思います。そして、いつも応援していただいた保護者の方々や家族、指導していただいた全ての先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。これからも剣道を頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



全国中学校剣道大会に参加して

那賀川中学校

飯田 奈々

私たちは平成二十九年八月十八日から二十日に佐賀県で開催された第四十七回全国中学校剣道大会に出場しました。

予選リーグの対戦相手は、鳥取県代表の米子北斗中学校と福島県代表の広野中学校でした。予選リーグの相手が決まってからみんなで相手中学校の試合の映像を何度も見て、意見を出し合って研究し、対策を練りました。

次の日から何度も技の練習をし、繰り返し微調整もしました。全中に向けて大会に出場する部員も、出場しない部員も毎日の練習に熱心に取り組みました。

予選リーグの初戦は米子北斗中学校、次に広野中学校でした。「練習通り、落ち着いて戦おう。」と声をかけて試合に臨みました。結果、米子北斗中学校に三対一、広野中学校に三対〇で予選リーグを全勝で勝

ち抜き、三年連続で決勝トーナメントに進むことができました。

抽選の結果、決勝トーナメントの相手は長崎県代表の中部中学校となりました。試合前のミーティングでは「今までやってきたことを信じて、仲間を信じて戦おう。」と声をかけいよいよ試合が始まりました。結果は、惜しい打突もあったのですが、中部中学校の流れにおされて三対二で負けてしまいました。


中学校三年間の部活動はとも充実していました。特にキャプテンになってから引退するまでは本当にあってという間でした。キャプテンになった時は不安でいっぱいでした。しかし、どんな時でも仲間が支えてくれました。厳しい練習を一緒に乗り越え、共に笑い、共に涙を流した仲間たちがいたからこそ今の自分がいると思います。

そして、どんな時もチームのことを一番に考えてくださった斎先生や長地先生、郡先生。遠い大会でも一緒に来て応援してくださった保護者の皆様。支えてくださった方々のおかげでここまで来ることができま

した。納得がいく結果で終わることはできませんでしたが、悔しさの中でたくさんのことを学ぶことができました。

この大会での経験を活かし、感謝の気持ちを忘れず、これからも日々精進していきます。本当にありがとうございました。





第47回
平成29年度全国中学校体育大会
全国中学校剣道大会

感動! 夢を舞う絆
九州の地を
!! 受けつなぐ

【暴力0(ゼロ) 心でつなぐスポーツの絆】
九州災害復興支援「がんばろう九州!」

2017 ALL JAPAN
平成29年 8月18日(金)~20日(日)
佐賀県総合体育館

全国教職員大会に出場して

城ノ内高等学校 竹 内 直 生



平成二十九年
第五十九回全国教
職員剣道大会が埼
玉県上尾市埼玉県
立武道館にて開催

されました。本大会では、五人制団体戦、個人戦高・大・教委の部、幼・義務教育の部、女子の部が行われ、本県からもすべての部に出場しました。

団体・個人ともに上位入賞を目指し、多忙な仕事の合間を縫って稽古に励みました。結果、男子団体は初戦石川県に三(七)一、二(三)で勝利し、流れに乗った本県は続く二回戦、奈良県に四(五)一〇(〇)で勝利しました。しかし、三回戦沖縄県に〇一(一)で惜しくも敗退しました。個人戦では、大石洋史先生が幼・義務教育の部に出場し、三回戦で優勝した大分県の姫野先生に惜敗しました。高・大・教委の部、女

子の部はともに一回戦敗退となりました。

私は、四月に大学を卒業し、社会人一年目として本大会に臨みました。年度の初めのうちは、慣れない仕事で忙しく、稽古の機会をなかなか見つけることができずにはいましたが、本大会に臨むにあたり徳島県の教職員の先生方から稽古のお誘いをいただきました。先輩先生方のご指導のおかげで稽古に励むことができ、徳島県のチームワークの良さを実感しました。

試合は初戦、長崎県の宮崎先生に引き面を取られ一本負けとなり、悔しい結果となりました。しかし、全国から集まった先生方のレベルの高い試合を拝見する中で、気迫や攻め、打突の機会など多くのことを勉強させていただきました。自分も多忙な職務の中でも時間をつくり、しっかり稽古に励んでいきたいと感じました。来年度の全国教職員大会で上位入賞できるようにこれから精進していきたいです。また、その中で得た経験等を徳島の未来を担う子どもたちの指導に活かせるよう努めていきたいです。

団体戦出場者

先鋒 白木恒二郎(城北高校)
次鋒 大石 真也(国府支援学校)
中堅 大石 洋史(文理中学校)
副将 玉田 晋作(文理高校)
大将 福多 雅英(城北高校)

個人戦出場者

女子の部
前田奈々枝(阿波中学校)
幼・義務教育の部
大石 洋史(文理中学校)
高・大・教委の部
竹内 直生(城ノ内高校)

第十二回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して

先鋒 香川 柊 吾

(上浦剣道教室)

ぼくは、第十二回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に先鋒として出場しました。初めての全国大会なので、不安もありましたが、全国の人と戦えることがとても楽しみでした。

九月十六日に会場に向かいました。その時には、台風が近づいていて、当日は中止になるかもしれないという不安も一緒に出発しました。会場に着くと、会場が広くてびっくりして、少し緊張してきました。でも、用意をしていつも通りの稽古をしていると緊張もなくなり、沖縄県と山形県との練習試合ではいつも通りの試合ができました。当日の朝、ホテルで試合が開催されると聞き、全力で頑張ろうと気持ちを

入れ直しました。試合が始まる時に、コートに立つとドキドキしてきましたけれど、精一杯頑張りました。

ぼくは、試合で学んだことがあります。それは、剣道は足さばきが大事だという事です。ぼくは、思うように足が使えず、止まったところを相手に取られてしまいました。しっかり足を使って剣道ができるようにしたいです。

それと技です。相手の中心を取ろうとしてもなかなか中心を取らせてもらえなくて、気持ちがあせて打ってしまったので、攻めて、攻めて、相手が打ってきたところを応じ技で一本になるようにしたいです。

そして、この大会では感謝の気持ちをたくさん学びました。何度も強化訓練をして下さり、県外遠征や大会に連れて行って下さった先生方、台風の中、会場まで応援に来てくれた仲間や家族。また、全国大会の団体メンバーと共に試合に出場できたこと、本当に感謝の

気持ちでいっぱいです。大好きな剣道をこれからも続けて、また中学生での舞台に立ちたいです。本当にありがとうございました。

次鋒 近藤 正 獅

(石井少年剣道クラブ)

今年の夏、ぼくは強化選手として兵庫県印南道場へ行きました。昨年五年生で参加したときは何もわからず、六年生の後ろについて行動し、試合をこなしていくことに必死でした。しかし今年自分たちが六年生であり、誰にも頼ることはできません。

ぼくは徳島県のキャプテンとして何をすべきか、自分にできる事を考えました。

大きな声で号令やあいさつをする。印南の人に礼儀正しくする。試合では元気に大きな声を出し、強い相手でも

思いきって最後まであきらめない。夜は自分たちの荷物をまとめたり、朝食の準備の仕方もわかっているので協力して自分たちで用意し、机の片付けも自分たちでしました。そして、ぼくが一番大事にしたかったことは今回のメンバー十二人みんなが楽しく、この遠征でもっと仲良くなれたらいいなということでした。夜はトランプや、まくら投げをしてすごくおもしろかったです。

遠征や強化けい古で、先生方から大切な事をたくさん教えていただきました。その中でも試合やけい古で一番気をつけた事は、打ち切っていくことです。自分の技をよけられても全部打ち切っていくように、けい古でも大会当日もぼくはその事を心がけていました。いよいよ大会当日、きん張りました。仲間と同じチームで戦えるので楽しみでした。予選リーグを出ることはありませんでしたが、前日の練習試合や

全国大会で有効打突を取れたことはぼくにとって大きな自信になりました。

強化から大会までお世話になった三木先生、松村先生、臼木先生、山本先生、寒川先生、連盟の先生方、家族、

剣友のみなさんありがとうございます。今回の経験を生かし、感謝の気持ちを忘れずがんばっていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。



第12回
全日本都道府県対抗
少年剣道優勝大会

平成29年9月17日(日) 午前9時開会
府民共済SUPERアリーナ(舞洲アリーナ)

中堅 長尾 紗弥

(松紀和会道場)

七月。十二名の強化選手に選ばれた時、とてもきん張したのを今でもはっきりと覚えています。これまで以上に集中して道場のけい古をしようと心に決めました。

八月。印南遠征に行きました。相手の気迫に気持ちで負けないように必死で戦い、結果、持っている力を出しきることが出来たと思います。岡山遠征の後、強化げい古も始まりました。ここではいつもけい古をしていることをもっと速くもっと強く、試合で技を生かせるように教えてもらいました。初めての技も多くてうまくできずにつらい時もあったけど、道場の先生方にはげまされながら、少しでも上手になるように努力しました。

九月十五日、十六日。いよいよ本番です。石川県、青森県と対戦しました。

とてもきん張したけど、これまでけい古したことを全部出しきれないように一生けん命戦いました。でも結果は一次リーグ敗退でした。自分の弱点を改めて実感してとてもくやしかったです。

选拔選手に選ばれて、私はたくさんのことを学びました。その一つは、ふ段から意識してけい古をすることが大切だということです。これからも基本に気をつけながら速く強く一本一本真剣にけい古したいと思います。二つ目は、剣道をしている私達をたくさんの方が支えてくれているということです。強化げい古を指導してくれた臼木先生、山本先生、いつも温かく見守ってくれた松村先生、寒川先生、大会中ずっとつきそって下さった三木先生、たくさんの方の先生方にたくさん大切なことを教えてもらいました。そして、いつも私を応援してくれる家族や、試合の時、お世話をしてくれた保護者の方達、台風の中応援に来てくれた人達、みんな

に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも支えてくれる人達に感謝しながらがんばります。



副将 山本 優光

(松紀和会道場)

印南遠征に参加できた事は、とてもうれしかったです。道中のサービスマリアや、印南の民宿でのお風呂や枕投げ、朝食の準備など楽しい思い出づくりができました。

印南剣士は五年生主体にも関わらず全国大会に出場することになっていて、昨年以上に先を取る気持ちが強く、足さばきや気迫など見習おうと思った点がたくさんありました。

遠征後に代表に選ばれたけど、うれしい反面、自分がどれだけの事ができるか不安がありました。でも、かんとくからみんなに「打たれてもいいから、気にせず自分のいいところ、自分のとくい技をしっかりけいこしよう」とアドバイスがあり、気持ちが軽くなりました。

そして大会までの間、胴を打たれる

のを気にせずに、自分のとくいな面を決めるための体勢や足さばきについて先生方から指導され、毎日練習にはげみました。

全国大会は決勝トーナメントには進出できませんでしたが、この大会を通じて、チームワークの重要性を学び、全国のレベルを実際に見れたのはすごく貴重な経験だったと思います。

そして、このような信らいてきるチームで大会に出場できた事をほこりに思っています。

こんなすばらしい経験ができたのも、三木先生、松村先生、寒川先生、臼木先生、山本先生、近藤先生ご夫妻、倉橋先生、指導してくれた先生方、強化メンバー、松紀和会のみんな、大阪まで応援に来てくれた仲間のおかげです。そして、明るく笑顔でサポートしてくれた保護者の方々には本当にかんしゃしています。ありがとうございました。しゅうご、まさし、さや、そらあり

がとう。みんなでそろえたグッズは宝物です。

これからもかんしゃの気持ちを忘れずにがんばりたいと思います。

大将 永 浜 聡 良

(藍住剣道スポーツ少年団)

ぼくは、八月五日、六日に印南遠征に行きました。バスの中では、にぎやかだったけど、試合となったら、みんなの顔がすごく変わって「ぼくはきりかえなきやばい。」と思いました。多くの試合の結果は一勝二敗でした。一試合目は体がガチガチで、自分の試合ができず、すごくがっかりしていて、「全国メンバーに入れないな。」と思った気持ちも半分ありました。

次の日になって、徳島に帰ってきて、松紀和会で練習して、全国メンバーが発表されました。その全国メンバーに、

ぼくが入れたとき、「もっともっと練習しなければと思いました。」

次の週の土曜日ぼくは、全国メンバーと印南遠征に行った四人といっしょに、岡山遠征に行きました。岡山遠征は、ぼく自身すごく調子がよくて、鼻が高くなっていました。

特別強化では、臼木先生が教えてくれて、前でも打てる、後ろでも打てる技を、教えてくれて、すごくいい練習になりました。特別強化は、とにかく声を出そうと思っていただけ、こんな時に、声がかスカスになっていてなさないと思います。そんなことを思いながら、全国大会の当日が来ました。前日の試合では一試合目はガチガチだったけど、二試合目はきんちょうもなく戦えて、山形の大將に勝てました。だから全国大会もこの気持ちのままやってやると思っていたけど、一試合目はガチガチで引き分けたけど、二試合目はぼくがとらなきゃ負ける場面で、二

本勝ちしました。青森に勝って、「さて予選リーグをぬけるのは、どこだ。」と思って、結果を待っていて、結果が出て、おしくも一本差で、青森が予選リーグをぬけました。この大会で学んだことは、強いチームと徳島は、あまり剣道の強さは、変わらないけど、強いチームは気持ちが強いということ。この大会で学びました。



第十二回都道府県対抗

少年剣道大会

監督 兼 松 佳 史

○期日 平成二十九年九月十七日

○会場 府民共済SUPERアリーナ

○徳島県中学生選抜チーム

監督 兼松佳史(徳島中)

コーチ 齋 浩市(那賀川中)

選手 先鋒 河野菜々子(那賀川中)

次鋒 松山 若樹(徳島中)

中堅 岩原 潤哉(徳島中)

副将 永瀆 幹大(北島中)

大将 松本 喜起(徳島中)

○試合結果

予選リーグ 一試合目

徳島 ○(〇) ー 千葉 (二)二

先鋒 河野 × 大西

次鋒 松山 × 中田

中堅 岩原 × メ 小島

副将 永瀆 × 鈴木

大将 松本 × メ 西原

予選リーグ 二試合目

徳島 二(三) ー 和歌山(六)三

先鋒 河野 コド × 森本

次鋒 松山 ド × 菖蒲

中堅 岩原 × コメ 恩賀

副将 永瀆 × メメ 太田

大将 松本 × コメ 森谷

○所感

大会前日に大阪入りし、大会会場である府民共済SUPERアリーナで調整練習を行った。基本練習を中心に行い、技の確認もできよい稽古ができた。その後、大会に出場する他県のチームと練習試合を行った。岡山県・愛媛県・秋田県の三チームとの対戦であった。気迫あふれる試合内容で、翌日の大会を期待させるものであった。

大会当日、選手たちも共に声を掛け合い、よい雰囲気の中で予選リーグ一試合目を迎えた。徳島県の初戦は千葉県である。先鋒から白熱した試合となり、終始攻めの姿勢は崩さず、互角の戦いを繰り広げたが、よい機会を打たれ結果は○対二の惜敗となった。

予選二試合目の相手は、和歌山県チーム。

この試合に勝てば、まだ決勝トーナメント出場の可能性もあり、気持ちの切り替えをして臨んだ。先鋒、次鋒と勝利を収めたが、中堅から流れが変わり、結果二対三で試合終了となった。

千葉県、和歌山県ともに剣道の強豪県である。その相手に一步も引かず、先を取り攻めていく剣道を貫いた選手たちは大変すばらしかった。しかしながら、前日練習試合を行った岡山県が準優勝し、そのチームと互角の戦いをしていただけに正直悔しい気持ちもある。また、試合の中の数少ないチャンスを、確実にものにする上位入賞チームの剣道は大変参考となった。今回一緒に戦った選手五名の今後の活躍と更なる精進を期待している。

大会出場に対し、ご支援、ご協力いただきました徳島県剣道連盟の先生方、保護者の皆様に感謝申し上げます。大会報告とさせていただきます。



全日本女子剣道

選手権大会に出場して

警察支部 平野 千尋



今年の全日本女子剣道選手権大会は、平成二十九年九月二十四日、長野市真島総合スポーツアリーナホワイトリングで行われました。

私は、今年で五回目の出場となりますが、全国の女性剣士が目標とする大舞台です。何回出場しても緊張感があり、素晴らしい大会となりました。

九月五日には、全国警察剣道選手権大会があり、全国の女性警察官一〇〇名がしのぎをけずりました。私は、二回戦敗退でしたが、その勝負で学んだことは「敵を知って己を知る」ということでした。特に一本勝負というこの大会ならではの特殊性からでもあります。

そして本大会の当日、これまでの経験か

ら考えても心身ともに充実した状態で仕上げることが出来ていたので、満を持しての挑戦でした。しかし、結果は初戦で大阪府警の北井選手に延長戦の末、小手を打ったところに面で合わされ、一回戦敗退となりました。なかなか勝負の女神は微笑んでくれません。

試合内容を振り返っても、一見して攻め続けており、有利な試合展開になっていたにもかかわらず、有効打突にできなかったことが、最後の場面となったように思います。そして自分の打突自体に大きな問題があったと改めて痛感しました。また、大会当日のモチベーションや、心身のバランス等の調整はしっかりと整えることが出来ただけに、ショックも大きく、勝負に対する思いが激減してしまいそうで、整理して受け入れられるまで時間を要しました。現在では、また新たな目標に向かって、日々励んでいるところですが、残り二年で三十歳という節目を迎えます。年齢を重ねていく中で、今の取り組み方や考え方を柔軟にしていっていききたいと感じています。

しかし、剣道をやっていけば、年齢に関係なく日頃から自分の体と向き合っていて、心と身体の整え方を見つけることが大切であると思っています。女性としての取り組み方を見つめ直す機会は、女性特有のものがあると思いますが、意識をしていけば見えてくると思いますので、うまく生涯剣道に繋がる方法を考えていきたいと感じています。戦い方を模索していけば、意識も高まって、自然と習慣づくことも増えてくるように思います。現状で勝負する反面、並行して取り組む幅を広げていければ、今後にも繋がるのではないかと思っています。

そして、年齢にふさわしい「強く正しい剣道」を目指し、生涯剣道を意識していくことが、私にとって剣道を通して幸せになることだと思っています。今後も、全国の舞台で一つでも多く勝利に繋がられるように、日々の目標を持って精進したいです。ご支援をいただき、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

第56回

全日本女子剣道 選手権大会

日時 平成29年9月24日 午前9時開会

会場 ホワイトリング
長野市真島総合スポーツアリーナ

主催：全日本剣道連盟
主管：一般財団法人 長野県剣道連盟
後援：スポーツ庁、長野県、長野県教育委員会、公益財団法人 長野県体育協会、長野市、毎日新聞社

全日本東西対抗 剣道大会に出場して

大石 洋史



七月下旬、剣道連盟から今年の東西対抗戦に正式に決定したとの連絡がありました。

東西対抗戦は剣道界では最も権威のある大会の一つであり、剣道家としては憧れの舞台です。試合は十分の三本勝負で六段から八段の選手が東西の軍に分かれ、四十名による立ち会いで勝敗を競います。私が選んで頂いたのは六段の部で先鋒という大役でした。人生で一度しかない経験ができるという喜びと、大舞台において自分の剣道をどう表現すれば良いのかという不安な気持ちの両方が芽生えました。とにかく選んで頂いたからは立派な剣道をしなればと、稽古やトレーニング、対戦相手の研究に没頭し、大会までの日々を過ごしました。

対戦相手は北海道警に所属する地白選手でした。学年は一つ下になりますが、全日本選手権三位、警察大会や日本代表候補として活躍する力のある選手です。日本代表候補合宿でも何度も手合わせしたこともあり、苦手なイメージはなく、癖や攻め口を研究すれば勝てるのではないかと甘く考えておりました。

大会前日、錚々たるメンバーが開催地である福岡県に集結しました。合同稽古会や食事会があり、試合が始まるまでに気疲れしてしまうほど緊張しました。しかし、各年代の素晴らしい先生方から様々なお話を聞けたり行動を共にしたりと非常に勉強になる時間となりました。

いよいよ試合当日となりました。大きな会場にポツンと作られた試合場と大観衆、物凄い緊張感が漂っていました。西軍の先生方からの激を背中から感じながら先鋒戦に臨みました。立ち合いから体は思うように動かず、浮足だっている感がかなりありました。二分経過したころ、強引に出るところに出小手。取り返そうとあせり、間合

いに入ろうとする所に出頭面。剣道人生三本の指に入るのではないだろうかと思うほどの完敗でした。その後、自分の悪い流れを引き継ぐように西軍が三連敗。徳島県の吉田茂生先生の活躍もあり、最終的には同点の大将戦までになりましたが、最後は東軍の大将の豊村東盛先生の一打で東軍の勝利が決定しました。

全四十試合で随所に素晴らしい攻防が展開されました。各年代の先生方の「気」「剣」「体」を間近で拝見し体感することができ、自分自身は不甲斐ない結果に終わったものの、貴重な時間を過ごすことができました。

大会を振り返り自身の修行不足を改めて感じ、これからはより一層の向上心を持ち努力し続けなければいけないという想いにさせられました。今回経験させて頂いた貴重な経験を今後の自分の糧とするとともに、徳島県の子どもや生徒達に伝え、今後の剣道界の発展に微力でも貢献できればと思います。



先鋒戦 地白選手（北海道）との対戦




第六十三回
全日本東西対抗
剣道大会

平成29年
とき 9月10日(日)

ところ 福岡市民体育館
 福岡市博多区東公園 8-2

入場無料

主催：全日本剣道連盟 主催：福岡県剣道連盟 顧問：福岡県剣道連盟 TEL.092-712-1800 <http://fukuoka-kendo.com/>
 協賛：福岡県・福岡県教育委員会・福岡市・福岡市教育委員会・公益財団法人福岡県剣道協会・公益財団法人福岡市スポーツ協会・公益財団法人福岡県光コンベンションビューロー
 協賛：株式会社 西日本新聞社・NHK福岡放送局・NHK毎日放送・TNCテレビ西日本・九州朝日放送・FBS福岡放送・TVQ九州放送



第七十二回

国民体育大会に参加して

先鋒 白 木 恒二郎

平成二十九年十月一から三日まで、愛媛県松山市において第七十二回国民体育大会笑顔つなぐえひめ国体剣道競技が開催されました。

私は四回目の出場になりましたが、今大会では天皇陛下が剣道競技をご覧になるということで、会場周辺は例年以上に大勢の人で賑わっていました。

本県からは成年男子が出場し、平野誠司先生を監督に、この五名で試合に臨みました。

大将 福多 雅英（教員）

副将 吉田 茂生（警察官）

中堅 六條 洋二（警察官）

次鋒 大石 洋史（教員）

先鋒 白木 恒二郎（教員）

一昨年の和歌山国体では五位入賞を果たしましたが、昨年は初戦で敗退しました。

今回は、一昨年以上の成績を出そうと意気込んでいました。コンディションを整え、気合十分で愛媛武道館に乗り込みました。チームメイトは信頼できる先輩方ばかりだったため、「思い切って向かっていこう、後は何とかしてくれる」と思い試合に臨みました。

大会一回戦は、山梨県との試合でした。私の相手は非常に体が大きく、パワーやスピードでは敵わないと思いました。しかし、冷静に試合を進めることができ、自分の得意な形で一本を取れました。何とか先鋒としての役割を果たし、次に繋げることができました。その後、先輩方が見事な試合を展開してくださり、三対一で制しました。

二回戦は奈良県でした。先鋒は高校生の頃から何度も試合をしている相手で、お互いによく知っている分戦いにくい相手でした。序盤に幸先よく一本を取りましたが二本目開始直後に取り返され、勝負はふりだしに戻りました。そこから互いに決定打が無く、勝負は延長戦に入りました。延長に入ってもしばらく決着がつきませんでした。

三回戦は広島県との試合で、ここで勝つと五位入賞という戦いでした。先鋒戦は途中で危ない場面もありましたが、勝って後ろに繋ぐことができました。次鋒の大石先生も幸先よく一本を取り、完全に徳島県チームの流れになっていました。その後も大石先生の怒涛の攻めが続き、あと少しで一本という打突もありました。しかし、徐々に流れが変わり始め、終了間際に取り返されてしまいました。延長戦に入りもう一本を奪われ、次鋒戦は逆転負けとなりました。中堅の六條先生、副将の吉田先生も相手と互角の戦いでしたが惜敗し、この時点で決着がつかしました。大将の福多先生は引き分けに終わり、三対一で敗退し、ベスト一六という結果でした。

試合後は悔しさもありましたが、個人的には今大会で手応えを掴むことができませんでした。社会人になりまだ三年目ですが、学生

の頃のような動きはできなくなってきました。それが不安となり、自分の剣道に自信をなくしていた時期もありました。しかし、当時の自分と比較して勝っている部分は、現在の方が自分の剣道を理解しているということだと思います。学生時代は、スピードに頼っている部分が強く、ある程度感覚で剣道をしていました。一方で現在は、考える時間が増えました。スピードに頼らず有効な方法はなにか、いろいろ考え試行錯誤してきました。なかなか思うようにいきませんでした。したが、今大会で成果を出すことができました。納得のいく試合ができたのも、これまで稽古をつけてくださった先生方、のびのびと試合をさせてくださった監督・チームのみなさん、国体期間中ずっとお世話をしてくださった三木先生、西谷先生、松村先生のおかげです。本当にありがとうございました。



全日本居合道大会で学んだこと

居合道部 満 壽 良 史



平成二十九年十月二十一日、広島で開催された第十二回全日本居合道大会に初めて選手として出場させていただきました。

十数年前までは、近県で開催される居合道大会には、欠かさず参加していた私でしたが、十年以上試合から遠ざかっており、平成二十八年の高知大会から再び参加し始めてから、わずか四回目の大会。しかも人生初の全国大会でしたが、さほど緊張することもなく、他の地方大会と同じ感覚で臨むことができました。いつもの悪い癖で、刀に手をかけたとたん、力が入り過ぎて固い居合となったのも他の地方大会と同様でしたが・・・

結果は、あえなく初戦敗退に終わり、大会に向けてご指導いただいた坂本先生や吉

岡先生、全日本大会出場のを与えてくださった先生方には、まことに申し訳ない限りですが、全国から集まったトップレベルの選手の居合を間近に見ることができ、考えさせられたことがあります。

各都道府県から選抜されてきた選手は、それぞれ大会に向け、稽古を積んできた人たちだと思います。私も自分なりに準備をしたつもりですが、トップレベルの選手とは、練度に大きな開きがあることを認めざるを得ませんでした。

居合は、本来、生死を懸けて行うものであり、全日本居合道大会で使用する刀は、真剣と定められています。勝敗の判定は、正しい礼法作法による充実した氣勢と適正な姿勢、正確な技術と刀法に基づいた、気・剣・体一致の技前と心構えの優劣によって判断され、具体的な判定基準は、「修行の深さ」、「礼儀」、「技前」、「心構え」、「気・剣・体の一致」、「武道としての合理性」で、全日本剣道連盟居合は、技ごとの着眼点が参考とされます。

試合での判定基準は、演武上の留意点で

もあり、全日本剣道連盟居合の解説書にも、演武上の心得として、「演武はすべて、充実した氣勢、正確な刀法、適正な姿勢、いわゆる気・剣・体の一致を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で『行ずる』心がけが大切である。」と記されています。

全日本居合道大会は、各流派の技二本と全日本剣道連盟居合十二本のなかから、試合当日指定される技三本の計五本の技前によって競われ、このときの指定技は、「受け流し」、「諸手突き」、「四方切り」の三本でした。

「受け流し」は、座っているときに、左横に座っていた敵が突然立って、頭上に切り下ろしてくる刀を鎧で受け流し、敵に向き直って袈裟に切る技ですが、私が出場した六段の部で優勝した愛媛県の乗松選手は、座っている位置の真上に立ち上がるように気をつけているとのことでした。

その理由は、座っていた位置から真上に立ち上がらなければ、自分から見た敵の位置が変わってしまい、敵の刀を受け流したときの体の向きや、切り下ろす方向が想定

と変わってしまったためであると思います。

私は、居合道を習い始めてから三十年以上経ちますが、技の理合をこれほど深く考えて抜いたことはありません。

これを読まれた方からは、「今頃、気がついたんか」とお叱りをいただくかもしれませんが、私が日頃の稽古で気をつけていたのは、専ら全日本剣道連盟居合の解説書に記されている審判・審査上の着眼点くらいで、「心構え」や「技の理合」を深く意識したことはありませんでした。

このように、居合道の技を修練する上で大切なことを改めて考えることができたのは、全日本居合道大会に出場できたからであり、その機会を与えてくださった先生方に心から感謝申し上げます。

第52回

全日本居合道大会

都道府県対抗優勝試合



日時：平成29年10月21日(土)

開会 午前9時

会場：広島サンプラザ

主催：全日本剣道連盟 主管：広島県剣道連盟

原文FP2811259

後援：広島県・広島県教育委員会・(公財)広島県体育協会・広島市・広島市教育委員会
NHK広島放送局・中国放送・テレビ新広島・広島テレビ・広島ホームテレビ・中国新聞社

全日本剣道選手権大会に出場して

阿南支部 大石 洋史



今年も猛暑のなか厳しい県予選を何とか勝ち進むことができ、徳島県の代表として日本

武道館に立つことができました。昨年はベスト八という成績でしたので、今年はおもう一つ上という気持ちで臨みました。

近年は学生の活躍もめざましいものがありますが、やはり主となるのは県警の選手です。稽古時間や試合経験、稽古相手など教員の立場とすれば劣る部分が多くあります。しかし工夫と継続した努力で必ずそれを破ることができるのだと信念を持ち大会までの準備に励みました。

一回戦は鹿児島代表の上宇都選手でした。上背はないが、間合いの遣いや応じ技など相手のペースを崩すようなスタイルの選手でした。時間内に出頭面をとらえたと思

ましたが打突の強度は不十分で一本にはならず、延長となりました。最後は正直微妙な抜き胴が一本になりましたが、モヤモヤした気持ちが残る一回戦となりました。

二回戦は千葉県の佐藤選手でした。激戦区の千葉県で三年連続の出場している選手であり、高校大学時代でも日本一になっている若手の有望選手です。スピードと手数で来ることは予想できていたので、機会を見極め、無理してやる所を狙おうと考えていました。試合が始まると予想通りどんどん攻め、技を出してきました。遠間からの技の打ち終わりが狙えると感じたので、自分が技を余そうとした所に予想以上の伸びとスピードの小手を打ち込まれました。その後は残り時間も少なかったので、無理をしても返しに行こうと攻めました。もう一本続けて小手を奪われました。

試合を振り返り、試合に勝ちたいという気持ちばかりが先行し、上手く打ってやろうとしていた自分に気づきました。勝負は紙一重であり、最後は相手に対し「真っ向勝負で戦う気位」「勝負する覚悟」を持ち

臨むしかありません。このような気位や覚悟というのは出来ているようで、案外出来ていないものだと今回の経験を通じて感じる事が出来ました。

自分自身、現役選手として全日本選手権にチャレンジできる回数も折り返し地点を過ぎた年齢になってきました。剣道の世界は勝敗だけが全てではありませんが、現役選手として引退までにもう一度全日本の舞台で納得する試合をし、結果を出したいという想いがあります。上手く行かないことの方が多いのが勝負の世界ですが、今後とも修練を積み重ね、目標を必ず達成できるように精進して参ります。



一回戦 上宇都選手（鹿児島）との対戦

天皇杯 剣道 第六十五回

全日本剣道選手権大会

平成29年11月3日(祝)
午前9時45分開会/午前10時15分試合開始

日本武道館
NHK総合テレビ <午後4時~5時30分放送予定>

9月1日より発売開始

アリーナ席(指定席)6,000円(試合席の席で、地下1階) / 1階指定席3,000円(地上1階)
2階自由席1,000円(地上2階) / 小中学生入場無料(年齢自由席)

---販売店---

●東京/三友堂 03-3561-2200 / ●札幌/三友堂 011-241-1111 / ●仙台/三友堂 022-231-1111 / ●新潟/三友堂 025-241-1111 / ●横浜/三友堂 045-241-1111 / ●名古屋/三友堂 052-241-1111 / ●京都/三友堂 075-241-1111 / ●大阪/三友堂 06-241-1111 / ●福岡/三友堂 092-241-1111 / ●札幌/三友堂 011-241-1111 / ●仙台/三友堂 022-241-1111 / ●新潟/三友堂 025-241-1111 / ●横浜/三友堂 045-241-1111 / ●名古屋/三友堂 052-241-1111 / ●京都/三友堂 075-241-1111 / ●大阪/三友堂 06-241-1111 / ●福岡/三友堂 092-241-1111

●三友堂 03-3561-2200 / ●札幌 011-241-1111 / ●仙台 022-241-1111 / ●新潟 025-241-1111 / ●横浜 045-241-1111 / ●名古屋 052-241-1111 / ●京都 075-241-1111 / ●大阪 06-241-1111 / ●福岡 092-241-1111

http://www.kendo.or.jp

四国四県剣道大会の

監督として思うこと

監督 美馬 勝行

平成二十九年五月十三日（土）第六十九回大会が高松市香川総合体育館において、各県から年代別の代表選手十五名（女子三名・男子十二名）による団体戦が開催された。

結果は残念ながら四位に甘んじたが、思うに、個々選手の潜在能力は各県互角、またはそれ以上とみるものの、年齢で区分され、職種もそれぞれであることから、一堂に会することが難しく、都合のつく一部の選手強化だけでは、どうしても勝利に向けた団結力を発揮することが難しく、今一步の結果に終わってしまうのが残念でならない。

では、その強化策は、と言われれば絶対的なものはないもの、一案（私見）として「選手の早期選出と指名」を提案したい。

これは、早期に選手として指名することにより、選ばれた各自が、四国大会の「県代表選手」としての自覚と誇りを持ち、試合に向けて実効のある修練に励むことができるのではないだろうか。

そうすれば選出の時期は少なくとも、「試合の六ヶ月前」は必要であろう。

そして少なくとも月一回の全員集合の合同練習と、そのあとの「集い」による団結心が、選手個々の勝利に向けた執念・闘争心の醸成に結びつくものと考えられる。

「勝ち負けは執念の差による」

女子ソフトボール日本代表 上野由紀子
また、剣道は格闘技であることから「闘争心」を根底とした戦いぶりが勝利への近道であろう。

プロ野球元中日の権藤監督がテレビ解説でこの投手は、闘っている顔じゃないと打者に立ち向かう闘志のなさを指摘した言葉が印象的で、私の試合に臨んでの心構えとしている。

「眉をひそめる」・「目を見開く」など、闘いの顔は人それぞれであろうが、この顔

が「足の指が床を噛み」、百分の一秒の差をもにしよう。

勝ちに拘るのではないが、やはり勝負は勝ってなんぼである。

「ひとり言」に終始しましたが次回は是非「優勝」を願って、監督として私の思うことといたします。

大会結果は次の通りでした。

大会結果

第一試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
	高知県	森岡	松本	大崎真	渡邊	川澤	高木拓	山本	小川	中原	高木郁	大崎正	宮本	田村	川村	下坂	
徳島県			△⊗一本勝	△	⊗一本勝				△	△			⊗		⊖		(3)
徳島県	平野千	前田	近藤	白木恒	平野将	大石	松本	六條	金野	山室	北村	佐藤	白木洋	富浦	河田	2	

第四試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
	愛媛県	佐野	馬越千	松本	松本哲	村上泰	野本	渡部	馬越啓	井上	池内	門田	久徳	菅	濱田	遠藤	
徳島県		⊖一本勝				△△	ⓁⓁ	ⓁⓁⓁ				△	⊗⊗		⊗一本勝	△⊗一本勝	(4)
徳島県	平野千	前田	近藤	白木恒	平野将	大石	松本	六條	金野	山室	北村	佐藤	白木洋	富浦	河田	3	

第五試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
	香川県	森	關本	谷本	森本	矢野	村上	松本	岡西	片上	坂口	井口	旭	玉浦	桑原	真鍋	
徳島県			⊖⊗				⊗一本勝			⊗⊗			⊗⊗	⊗	⊗		(2)
徳島県	平野千	前田	近藤	白木恒	平野将	大石	松本	六條	金野	山室	北村	佐藤	白木洋	富浦	河田	1	

対 戦 表

	愛 媛	高 知	徳 島	香 川	勝 数	勝者数	取得本数	順 位
愛 媛		$\frac{10}{5}$	$\frac{7}{5}$	$\frac{5}{4}$	3	14	22	1
高 知	$\frac{7}{3}$		$\frac{4}{4}$	$\frac{5}{4}$	1	11	16	3
徳 島	$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$		$\frac{2}{1}$	0	6	9	4
香 川	$\frac{5}{3}$	$\frac{8}{5}$	$\frac{10}{5}$		2	13	23	2



全国警察剣道大会を終えて

剣道特練員 山 室 雅 幹

平成二十九年十月十六日、第六十三回全国警察剣道大会が日本武道館で開催されました。

本大会は皇宮警察本部及び各都道府県からそれぞれ一チームが参加し、一部（七人制）は十二チーム、二部（六人制）、三部（五人制）はそれぞれ十八チームで編成されています。

私たちは、昨年二部に昇格できなかった悔しさを忘れることなく、特練員全員で力を合わせて優勝を目標とし、日々稽古を積み重ねてきました。

本大会に向けて、さらに、切り返し面打ちなど基本をしっかり体得し、あわせて体面強化のため追い込み稽古などを重点的に行いました。また、諸先生からは、多なる御指導を賜り、良い状態で本大会を迎えることができました。

本大会は、三チームのリーグ戦から始ま

り、一位チームが次のトーナメントに出場できます。対戦相手は福島県警と石川県警で、戦力的には拮抗しており、まず先手を取って流れを掴んでいきたいところです。

団体戦では先鋒から副将までが、しっかり大将まで繋ぎ、勝利することが、最も重要となってくるので、それぞれのポジションでの役割を再認識し試合に臨みました。

一試合目の福島県警戦では、先鋒から大将まで普段の稽古で培ってきた実力を存分に発揮することができ、三体一で勝利することができました。二試合目、石川県警戦においてもこの勢いで挑み、大将戦まで絡んだ戦いとなりましたが、惜しくも三体一で敗れ、二部に昇格することはできませんでした。本当に僅差の戦いでしたが、この僅差が勝敗を分けます。今回の結果を真摯に受け止めると同時に、そこを稽古で埋めていくことが、これからの課題です。

今後の取り組みとして大切なことは、特練員全員が、自分の責任や使命を自覚し、また自分に課題を課し、何をここでなすべきかを考え、行動に移すことです。

そして、日々の稽古で全員がひとつの目標に向かって取り組むことで、チームのレベルアップにつながっていくと確信しております。

剣道は、気持ちのまとまり、心の成長がなければ、技の成長もありません。「心技体の一致」という言葉をよく口にしますが、そう簡単なものではありません。

試合前、前警察剣道部会長の野崎先生から、「一文は無文の師、他流勝つべきに非ず、昨日の我に、今日は勝つべし」（自分の心と向き合い、昨日の自分に勝つよう、日々向上させることが大切である）という柳生雪舟斎の格言を激励としていただきました。

この思いをこれからも継続し、日常の稽古を修羅場と課し、そこを越える覚悟を持って取り組み、その中で自分が決めている限界の領域を抜けて、一〇〇パーセント以上のちからを引き出してやるのが監督の使命であります。また特練員個々が試合において、一〇〇パーセント以上の力を出すことが、「本番で捨て切り、一本となる有効

「打突」を引き寄せるものだと考えております。最後にありますが、日頃から私たち特練

員のために御尽力いただいている諸先生方、諸先輩方をはじめ、徳島県剣道連盟全ての皆様方に対して、深く御礼申し上げます。

もに、今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

○ 全国警察剣道大会

(監督) 機動隊 警部補 山室 雅幹

(選手) 7名

- ① 機動隊 巡查部長 六條 洋二 35 6段
- ② 機動隊 巡查部長 六條 勝仁 33 6段
- ③ 機動隊 巡查長 宮本 靖之 32 6段
- ④ 機動隊 巡查長 玉田 赳大 28 5段
- ⑤ 機動隊 巡查長 村井 僚 27 5段
- ⑥ 機動隊 巡查長 梶原 拓磨 24 4段
- ⑦ 徳島東 巡查 浅田 光貴 23 4段

(試合) 第3部 (18チーム・7人登録5人制)

青森、岩手、宮城、秋田、福島、群馬、新潟、山梨、石川、福井、三重、滋賀、鳥取、島根、広島、徳島、鹿児島、沖縄

- ① 9チームずつの2ブロックに分け、各ブロックを3組(1組3チーム)に分けて、各組ごとのリーグ戦を実施

【予選リーグ結果】

- 1位 石川 2勝(勝ち上がり)
- 2位 徳島 1勝1敗
- 3位 福島 2敗

徳島、福島、石川		
徳島	○	× 福島
徳島	×	○ 石川
福島	×	○ 石川

- ② 予選各組首位チームによるリーグ戦 (各ブロックの首位が決定)
- ③ 各ブロック首位チームによる決勝戦 (優勝チーム決定)

【大会結果】

1 団体戦

	優勝	準優勝	3位
1部	大阪	警視庁	神奈川
2部	愛知	兵庫	岐阜
3部	鹿児島	福井	三重

※石川4位

2 女性の部 (12チーム)

警視庁、栃木、千葉、神奈川、新潟、愛知、京都、大阪、兵庫、岡山、高知、長崎

1位：大阪 2位：神奈川 3位：警視庁

【本県予選リーグ結果】

第3部 対戦表(剣道予選リーグ)

⑧-2

チーム名	先	次	中	副	大	合計
徳島	浅田	村井	玉田	宮本	六條洋	5/3
	×	メ		メ	メ	
	×	コ	メ	延	延	
福島	大谷	内田	高橋	下重	桑島	3/1

※本数
※勝人数

⑧-6

チーム名	先	次	中	副	大	合計
徳島	浅田	村井	宮本	玉田	六條洋	3/1
	延	ド	×	メ		
	メ	メ	×		メ	
石川	大田	後藤	三輪	篠井	上登	4/3

※本数
※勝人数

平成二十九年 度

徳島県高齢剣友会活動状況

事務局長 乾 清 孝



平成二十九年 度
の徳島県高齢剣友
会は、二十七年 度
の役員改選後、会
則の一部改正及び

役員改選を行い、会長高島稔之、理事長美馬勝行の大きな役員体制の変更もなく会員一〇三名で活動を開始しました。

◎主な行事

四月

第四回四国高齢者剣道交流大会（愛媛県川之江市）三度目の優勝

六月

第三十九回全日本高齢者武道大会（日本武道館）
国際社会人剣道クラブとの合同稽古

七月

西部稽古会（吉野川市）

九月

第三十回全国健康福祉祭秋田大会剣道交流大会（由利本荘市）
第二十三回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（松茂町）

十二月

南部稽古会（阿南市）
のほか、原則、毎月第二、第四土曜日の稽古会（松茂町）を開催しました。
各大会の様子は、参加者から個別にご報告をいただいておりますので、その他の活動について事務局からご報告します。

◎定例稽古会

まず、毎月の定例稽古会には、毎回、会員二十〜二十五名が参加し、恒例となった国際社会人來徳時には三十六名が参加するなど、新鮮な心地よい汗を流しています。

◎第二十三回県健康福祉祭剣道交流大会

九月二十三日（日）県下各地から徳島県高齢剣友会会員の剣士三十九名が集い、盛大に開催されました。

大会は、今大会で初めて女性剣士（有松京子先生、紅露喜代美先生）による日本剣

道形と居合道（無双直伝英信流）の演武の後、十三チームが参加する団体戦（年齢制限なし）と年齢に応じて組み分しての個人戦が行われました。

特に個人戦特組（七十五才以上）では、参加最高齢の八十一才の剣士がリーグ戦を繰り広げ、その品位と闘志あふれる戦いぶりに参加者全員が注目するなど、まさに健康福祉祭に相応しい大会となりました。

◎大会結果

△団体戦▽
優 勝…板野西支部（久次米繁興、佐野博志、藤本辰夫）

準優勝…徳島支部B（中村稔裕、寒川博文、武岡勝美）

第三位…小松島支部（澤井勝之、立川信彦、富田 正）

徳島支部E（川人 護、大貝美治、乾 清孝）

△個人戦▽
特組（七十五才以上）

優 勝…澤井勝之
準優勝…川田武志

第三位…高島稔之、中村稔裕

A組(七十才〜七十四才)

優 勝…佐野博志

準優勝…原田 進

第三位…久次米繁興、別宮憲治

B組(六十五才〜六十九才)

優 勝…藤本辰夫

準優勝…大貝美治

第三位…谷 博、丸岡偉人

C組(六十才〜六十四才)

優 勝…久保隆司

準優勝…乾 清孝

第三位…武田修典、長崎秀信

◎西部稽古会

七月八日(土)午後二時から、吉野川市

美郷ふるさと交流センターで開催した西部

稽古会には、稽古に四五名の会員が参加し、

冷房設備の恩恵を受け、酷暑の中で心地良

い汗を流すことができ、引き続き第二道場

(残心)での美郷温泉では、二十一名の会

員が参加して温泉で疲れた身体を癒した後、

剣道談議に盛り上がりました。

◎南部稽古会

年末の十二月九日(土)午後二時から、

阿南市スポーツ総合センターで開催した南

部稽古会には、兵庫県から伊澤章先生(阿

南市ご出身)や河田清美八段のご参加を得

て、稽古に三十四名の会員に加え地元阿南

支部の先生方も参加されました。

また、続く第二道場(残心)のロイヤル

ガーデンホテルでは、忘年会を兼ねている

ことからか、当方の残心あまく、稽古以上

に先生方の攻めが厳しく、夜を忘れた剣道

談議が続きました。

さて、高齢剣三つの課題を事務局から提

示させていただきます。

一つは、新入会者の勧誘であります。

九月に開催されました県健康福祉祭の個

人戦年代別のリーグ戦の編成では、六十四

歳以下の部より、六十五才以上七十才以下

の部の参加選手が多く、逆転現象が起こっ

ております。

そこで高齢剣各支部の会員の先生方には、

身近に五十八歳以上の剣友がおられましたら

是非とも会員勧誘にご尽力をいただくと

ともに、私たち高齢剣の目的のひとつでも

あります「生きがい・親睦・健康の増進に

寄与する」ためにも、月二回の定例稽古会

や西部・南部稽古会へのご参加と会員の先

生方への呼び掛けをお願い申し上げます。

その二は、平成三十年四月に本県開催を

予定しております第五回四国高齢者剣道交

流大会に向けてのご協力とご参加のお願い

です。

これまで四回の大会では、優勝三回、準

優勝一回という成績を残しており、本号次

頁での美馬理事長の四国高齢者剣道交流大

会の戦評結語にも「平成三十年度は徳島開

催 連覇して四回目の優勝を」とあります

ように「次も優勝」という命題を抱えてお

ります。

また、この交流大会は全国規模の大会と

は異なり、非常に参加しやすく、試合の後

の合同稽古においても多くの先生方が参加

され、新鮮な心地よい汗を流すことができ、

是非ともご参加をお願いします。

その三は、「剣友徳島」の編集方針であ

ります。

まずは諸般の事情によりまして発行が遅れ遅れとなっていることをお詫び申し上げます。

次に内容についてではありますが、ほぼ「徳島の剣道」からの転載となっております。理事会、総会にも諮り、出来得れば高齡剣独自の内容を多く編集し、会員の先生方にも読み応えあるものとしてと考えておりますので、ご提案、ご指導をよろしくお願い申し上げます。



国際社会人剣道クラブ



第23回県健康福祉祭剣道交流大会 平成29年 9月23日 松茂体育館



南部稽古会

第四回四国高齢者 剣道交流大会 優勝

徳島県高齢剣友会

理事長 美馬 勝行

四月二十三日(日)第四回大会が香川県立武道館において、全日本高齢剣友会から高崎慶男名誉会長、岩立三郎会長、山田義雄顧問の参列のもと、我が徳島県が二十一名、地元香川県が二十四名、愛媛県が二十六名、高知県が十三名の総勢八四名の剣士が、「剣道が人生」を信条に元氣一杯の剣技を繰り広げた。

試合に先立ち、大会初の女性剣士による日本剣道形演武のあと、各県代表選手十名編成の、五チーム(開催県は二チーム出場)による団体戦がリーグ戦方式で実施された。

徳島県チームは

先鋒 松村和宏、乾清孝、木下裕康

次鋒 六条一博、大貝美治、藤本辰夫

八将 藤本義文、藤川和秋

七将 日野利之、東徳美、栗野佳明

六将 日野利之、兵頭新平、谷博
五将 谷博、日野浦正一、佐野博志
四将 美馬勝行、後藤徳朝勝

三将 中村稔裕、美馬勝行

副将 高島稔之、澤井勝之

大将 川田武志

の二十一名が選手交代しながら戦いに臨み、苦戦に苦戦の末、四回目の優勝を手にすることができた。

試合結果

優勝 徳島県高齢剣友会(勝点四)

準優勝 愛媛六十路会(勝点二、勝者数

十五)

第三位 土佐生涯剣友会(勝点一、勝者

数十四)

第四位 香川県剣道高齢者有志の会A

(勝点二、勝者数十三)

第五位 香川県剣道高齢者有志の会B

(勝点〇)

戦評

一 第一試合 対香川B

徳島 四(七)ー香川B 一(二三)

八将 藤本、六将 谷、五将 日野浦、

三将 美馬が勝って、幸先の良い滑り出し。中でも日野浦選手の勝利は見事であった。

二 第二試合 対香川A

徳島 四(四)ー香川A 二(三三)

先鋒木下、八将藤川、六将兵頭、四

将美馬が勝利し、三将以下を残して、

二勝目を挙げた。

三 第三試合 対土佐生涯剣友会

徳島 三(六)ー土佐 三(四)

前五人の六将までで〇ー一とリードを許して、苦しい戦いの展開となっ

たが、五将谷選手が、「オー」と場内

が沸く見事な面二本を決めて、試合の

流れを我が徳島に。以後、副将澤井選

手の引き分けを挟んで、三将中村、大

将川田選手が、共に二本勝ちを収め、

得本数による僅差の勝利を納めること

ができ、優勝をかける最終戦へと持ち

込んだ。

この試合のヒーローは、三勝への先

陣を切った谷選手であろう。

四 第四試合 対愛媛六十路会

四 第四試合 対愛媛六十路会

徳島 二(一)ー愛媛 一(二)

徳島、前年度優勝の愛媛共に、全勝で迎えたまさに本大会最終戦にふさわしい優勝戦となった。

先鋒木下選手が落としたが、次鋒藤本辰夫選手が振り出しに戻し、続く藤川選手が引き分けて、五分の展開で七将東選手にバトンタッチ、試合巧者の愛媛宇田選手に苦戦しながらも果敢に攻め抜き、得意の面を決めて一本勝。

二ー一とリードを受けたあとの、六将から大将までの六選手が何とすべて引分に持ち込んで、そのまま逃げ切り、優勝の栄冠を勝ち取った。

この、六将兵頭選手から佐野、美馬、中村、高島、大将川田選手までの六つの引分は、それぞれが四回目の優勝を意識して戦った苦悩の結果の証である。

私も、このような試合展開は初めての経験であり、感無量、心に残る一戦となった。

以上、戦評を述べてまいりましたが、団

体戦の戦いにおいて、各選手が与えられた持場をよく自覚して、一丸となった力の限りの戦いを展開した結果が「優勝の二文字」であったと思っている。

平成三十年度は徳島開催

連覇して四回目の優勝を

以上をもって、第四回四国高齢者剣道交流大会の報告といたします。

第 1 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島	松村	大貝	藤本義	日野	谷	日野浦	後藤	美馬	澤井	川田	4	7	○
	ド		メ		ココ	コ		メメ					
香川B	メメ				メ						1	3	×
	川筋	前田	真鍋	宇賀	壺井	村山	石川	福田	修理	西山			

第 2 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島	木下コ	藤本辰	藤川メ	東	兵頭コ	佐野	美馬メ	中村	高島	川田	4	4	○
香川A	藤本	六車	松原	伊賀	北隅	上田	伏見	浅野	小川	小田	2	3	×
						メメ				メ			

第 3 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島	乾	六條	藤本義	栗野	日野	谷	後藤	中村	澤井	川田	3	6	○
						メメ		ココ		ココ			
土佐	メメ				メ		コ				3	4	×
	黒瀬	梅原	土居	山本	中野	橋本	岡本	濱田	戸田	常光			

第 4 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島	木下	藤本辰	藤川	東	兵頭	佐野	美馬	中村	高島	川田	2	2	○
		メ		メ									
愛媛	メメ										1	2	×
	高市	山本	大久保	宇田	徳安	森	織田	川村	渡邊	竹内			

リーグ戦結果

チーム名	徳 島	土 佐	愛 媛	香川A	香川B	勝 点	勝者数	得本数	順 位
徳 島		3(6)	2(2)	4(4)	4(7)	4	13	19	1
土 佐	3(4)		1(3)	4(4)	6(9)	2	14	20	3
愛 媛	1(2)	5(8)		4(7)	5(8)	2	15	25	2
香川A	2(3)	3(4)	4(3)		4(6)	1	13	16	4
香川B	1(3)	4(7)	2(3)	3(6)		0	10	19	5



南部稽古会

第三十九回全日本高齢者武道大会

“団体東京・兵庫を降し

ベストエイト！”

吉田昌彦



平成二十九年六月五日(月)午前九時から東京都千代田区九段下の日本武道館において

開催された、第三十九回全日本高齢者武道大会に参加した内容を報告します。

今回の大会は、全国から五十五歳以上最高齢九十二歳の剣士まで、剣道六七一名(うち女性五十四名)、銃剣道三十二名の合計七〇三名が集い、十三試合場において団体戦、個人戦が行われました。

私は、高齢者の全国大会に出場するのは今回が初めてでしたが、シニア世代の活動が活発化となり開会式において九十二歳の静岡県の選手が表彰されるなど全国からこれだけ多くの高齢者の剣道愛好家が集まっ

ているのを見て、改めて剣道の凄さというかすばらしさを痛感したところです。

徳島県からの剣道参加者は、

寿B組(八十歳～八十四歳) 東内 勉選手

特組(七十五歳～七十九歳) 川田武志選手

A組(七十歳～七十四歳) 高島稔之選手

中村稔裕選手

美馬勝行選手

B組(六十五歳～六十九歳) 兵頭新平選手

西堀和文選手

東 徳美選手

藤本辰夫選手

大貝美治選手

C組(五十五歳～六十四歳) 乾 清孝選手

松村和宏選手

木下裕康選手

吉田昌彦

の十四名でありました。

団体戦は、先鋒・吉田昌彦、次鋒・藤本

辰夫選手、中堅・中村稔裕選手、副将・高

島稔之選手、大将・東内勉選手で出場しま

した。団体戦の出場条件は、大将の年齢が

八十歳以上という年齢制限があります。

第一回戦は、強豪の兵庫県と対戦しまし

た。結果は、先鋒・吉田が試合中盤に面を

打つと相手が返し胴を打ちましたが、先に

面が当たり、そのまま時間切れの一本勝ち、

次鋒の藤本選手は好調で小手と面の二本勝

ち、中堅・中村選手が面の二本負けとなり

ましたが、副将の高島選手が二本勝ちで大

将戦を待たず本県の勝ちが決定。大将・東

内選手は、面の一本一本の勝負で、面をと

られ負け、結果は、三勝二敗で徳島県が勝

ちました。

第二回戦は、前年度優勝の東京都との対

戦となりました。先鋒・吉田が試合中盤に

飛び込み面で一本勝ち、次鋒藤本選手が面・

小手と連取し二本勝ち、中堅・中村選手は

小手の一本勝ち、副将・高島選手と大将・

東内選手が引き分けとし三勝二引き分けで

徳島県が勝ちました。

東京都は今大会に男子剣道選手八十八名

と全国最多数の人数を動員し、大会二連覇

を目標として万全の体制で望んできていた

と思われませんが、本県選手の気力が上回り

勝つことができました。

第三回戦は、山形県との対戦となりました。山形県は、本年十月に全国各地から選手を募って第一回山形紅花杯争奪高齢者剣道錬成大会を開催するなど、高齢者に力を入れているところであります。

山形県は二回戦で静岡県と最初に引き分けた先鋒が代表戦の末に一本勝ちし勝ち上がつてきたチームで勢いがありました。

試合は、静岡県に代表戦で勝った山形の先鋒と吉田が対戦しましたが、吉田が試合後半に面を取得し一本勝ち、次鋒・藤本選手は決定打なく引き分け、中堅・中村選手は、二刀流の相手に面・小手と連取され二本負け、副将・高島選手、大将・東内選手も二本負けとなり結果は一勝三敗で徳島県の負けとなりました。

団体戦の最終結果は、優勝は福岡県、準優勝が山形県、第三位は神奈川県と愛媛県となり、本県は惜しくもベスト八となりました。

個人戦は、本県からは十四名の選手が出場しました。それぞれ年齢別により各試合場で予選リーグを行いました。高島選手、

兵頭選手、藤本選手、木下選手が健闘し、予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメントに進出しましたが、それぞれ一〜二回戦で敗退し、上位入賞はなりませんでした。

大会結果としては、団体戦では、前年度優勝の東京都に勝つなど次回大会につながる大きな成果を残すことができたと思いません。

今回の東京行きは、阪急交通社のキャンセル東京三日間で約三万円（フライト代、ホテル代込み）の格安旅費を利用し、宿泊先は、東京都品川区大井の「アワーズイン阪急」でJR大井駅から徒歩約一分の宿泊所であり、駅に近く非常に便利なところでした。

高島先生、兵頭先生、藤本先生は、夫人同伴で感謝の気持ちを込めて日頃できない家庭サービスをされました。

そして試合当日の夕食会は、今回旅行の参加者全員によりホテルで懇親会を開き、試合の反省で大いに盛り上がりました。

旅行最終日には、単身参加者は自由行動のため、高輪にある赤穂浪士ゆかりの萬松

山「泉岳寺」に行き、赤穂浪士のお墓を参りし、赤穂義士記念館・義士木造館の見学をしました。

その後、早めに羽田空港に着きましたので、羽田空港が一望できる空港の屋上デッキで飛行機の離発着の様子を眺めたり、買い物などで散策して、全員集合した後に予定の便で帰県しました。

おかげで、安い旅費でゆったりとした中にも剣道大会という緊張した試合があり、また東京見物の時間がとれて良い旅行となりました。

最後になりましたが、これまで諸先生や先輩・同僚の皆様の暖かい御指導と御協力により、剣道を続けることができたことに感謝申し上げます。また、本県高齢者剣友会の皆様の益々の御活躍と御健康を御祈念致します。



第39回全日本高齢者武道大会

第三十回全国健康福祉祭

“たそがれて、晴れ舞台”

徳島支部 長 崎 秀 信

その日の天候は、晴れ。短いみちのく秋田の夏は、八月の集中豪雨と共に既に去って行った。雲はあるが真っ青な空は、どこまでも高く、時折、茜蜻蛉が頭上を悠々と飛び交い初秋を思わせていた。そんな郷愁漂う秋空の下で「第三十回全国健康福祉祭あきた大会二〇一七」が開催された。いわゆる「ねりんピック」である。

「秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪」のテーマの下に、全国四七都道府県から、六七団体、一万五二〇名の選手団と大会役員、そしてボランティア、その他観客も含め多くの方が参加して総合開会式が行われた。

徳島県の選手団（一六七名）は、一番番目に「すだち君」の小旗を片手に元気に力強く入場行進した。見渡す限り、年寄り、年寄りの、たそがれた年寄り軍団の晴れ舞

台である。時折、雲間から照り続ける日差しは、まだまだ暑かったが、全国の年寄りは皆元氣一杯だった。配られた団扇をパタパタさせながらも主催者等の挨拶に大きな拍手を送っていた。

ひと通りの挨拶の後、選手団は、実り豊かな秋田の四季を表現した県民の創作パフォーマンスを見た。

冬 無彩色のとき

豪雪に包まれた真っ白で厳しい秋田の冬。その厳しい冬に耐えながら、必ず訪れる春に期待を膨らませ秋田の生きるたくましさアピール。

春 芽吹きするとき

自然の命が芽生える秋田の春。厳しい冬の間、眠らせていたエネルギーが大地に根を張り、この世に誕生し、命の尊さを表現する人間賛歌。

夏 盛りするとき

秋田の風物詩「竿燈祭り」を再現。独特の妙技や太鼓、笛などの演奏を交えながら、県民同士の繋がりを情熱的に伝える。

秋 実りのとき

冬を耐え、春に植え付けた稲が夏の暑さを乗り越えて実りの秋を無事に迎へ、目の前には黄金色に実る稲穂が輝き揺らめく秋田の秋。

まさに人生の豊作を祝う歓喜の歌と踊り、すべての世代が一緒になり、これらの実り多き未来へと「つながれ」、「つらなれ」と感動のフィナーレを繰り広げていた。

秋田生まれの私にとって、子供のころに見た秋田の四季折々の様子が思い出され、こんな中で生まれ、育ったのだと感慨深いものがあり胸が熱くなる思いがした。

そして翌日、我々の参加する剣道交流大会は由利本庄市で七十六チーム、三八七名が参加し、十六ブロックに分かれ、四試合会場で予選リーグが行われた。

本大会の我々の目標は、予選をリーグ突破することであり、私もまた個人的に予選で優勝候補である秋田Aチームと対戦することであった。

何故なら、秋田県チームは開催県である

が故に三チームが出場し、審判員をはじめ、どのチームにも高校生の頃に試合や、稽古をいただいた先輩や先生が選手として出場しておられた。特に、Aチームは副将を除く四名が顔見知りで、かなりの強者ぞろいのチームだったからである。

ここで我々のチームメンバーを紹介しておかなければならない。

大将 美馬 勝行

天下一技の剣、小手の美馬か、美馬の

小手かと、全国大会の覇者。

副将 大貝 美治

千変万化の剣、あらゆる角度から出る

打突に隙はない。

中堅 松村 和宏

百戦錬磨の剣、起こりの面の切れ味は

抜群。

次鋒 乾 清孝

攻めの剣、よく動き、打突部位にこだ

わりなし。

先鋒 長崎 秀信 略

秋田Aチームに負けず劣らずの強者揃い

である。負けるはずがないと意気込むも、

まずは予選を突破しないことにはどうにもならない。

我々の予選リーグは、第四ブロックで新潟県、沖縄県、大阪市、徳島県の四チームで行われ、大阪市と沖縄県と対戦した。運よく大阪市内に三勝〇敗で勝つことができたが、現実には甘くはなかった。沖縄県に苦戦し一勝二敗一分で負けてしまい、秋田Aチームとの対戦も何処へやら、予選突破の目標は崩れ去った。

最終の試合結果は、

優勝 秋田Aチーム

二位 山口県

三位 熊本県

翌日、予選敗退により、丸一日、時間が空いてしまった我々は、レンタカーで男鹿半島、角館、田沢湖、駒ヶ岳と観光し、予てから予約していた乳頭温泉郷の秘湯「鶴の湯温泉」に泊まった。

この温泉は、古く寛永一五年（一六三八）年）に二代秋田藩主の佐竹義孝が湯治に訪れたといわれている。

全国的にも有名なこの温泉は、昔からの

湯治場の形態をそのまま残し、未だに囲炉裏を囲みながらの部屋食と、音の出るものはひとつとしてないランプだけの本陣という部屋が人気のようだ。

我々が泊まった部屋は新本陣で、電灯こそあれ、あとは何もなく、宿に着き、すぐに露天風呂に飛び込んだ我々は、その後、四つの異なる源泉の白湯、黒湯、中の湯、滝の湯と、それぞれの湯に各人が思いおもいにゆっくりと浸かり、試合の反省とともに疲れを癒した。

眼中になかった沖縄戦において、勝とう、勝とう、勝てる。秋田県の選手、審判に私の存在感を見せてやろうと思ったのが、タメのない安易な打突になり、それが敗因につながった。

この度の全国健康福祉祭は、生まれ故郷である秋田が開催県となり、それに参加できたことを光栄に思っているが、予選突破ができなかったことが残念でならなく、団体戦において先鋒の役割とは何かを考えさせられた試合もありました。

私には、行くところ、見るものすべてが

懐かしく、特に鶴の湯温泉は、何十年ぶりだっただろうか、昔と少しも変わっていない小川の流れも、湯船もそのまま、ただただ懐かしい限りでした。

最後に、今回、美馬先生はじめ四名の先生方と試合とはいえ、私の故郷と一緒に旅することができたことに、深く感謝を申し上げます。

このメンバーで旅する機会は、もうないだろうと思っている。特に秋田は…。

ねんりんピック秋田2017 剣道交流大会 試合結果表

第1試合場 第8試合 4ブロック

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島県	長崎	乾	松村	大貝	美馬	3	4	○
	△		メ	ドメ	△			
大阪市	△			△		0	0	×
	長野	原	石田	國次	宮坂			

第1試合場 第16試合 4ブロック

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
沖縄県	松岡	宇治原	奥島	屋比久	喜納	2	2	○
	コ	△		コ	△			
徳島県	△		コメ	△		1	2	×
	長崎	乾	松村	大貝	美馬			



第30回全国健康福祉祭秋田大会



乳頭温泉 鶴の湯

随想

剣道と川漁師

市場剣道教室

室長 井内 勝 則

四国霊場第十番札所の切幡寺を南下し、第十一番札所の藤井寺に至る巡礼の道の途中に八幡（やわた）の町がある。その中心に鎮座するのが八幡（はちまん）神社である。我が家は、神社から南に約10mの道沿いにある。

八幡神社は、間口八間・奥行三間の拝殿を有する県下最大級の神社である。この神社は、戦後の徳島の剣道が復活した「聖地」と聞いている。

昭和二十年の敗戦、昭和二十一年には連合国軍総司令部により大日本武徳会を始め剣道団体の解散・学校剣道の全面禁止・一般人の剣道の制限がなされた。剣道の消滅・衰退が危惧された状況の中で、昭和二十二

年に「八幡社道場」が設立された。このことは、剣道の種火を保存するにとどまらず、燎原の火として県北西地域、さらに県下一円に燃え広がることになる。

中心になったのは、神社の目と鼻の先に居住する我が釣りの師匠である笠井利求二氏の祖父に当たる笠井求二初代阿波支部長、居合道教士八段坂本憲一氏の父である坂本裕二元支部長や地元の有志である。それから五年後、昭和二十七年に連合国総司令部の統治が解除され、剣道の復活がなされた。

私は、昭和三十年生まれで、物心がつく頃には、盛んに稽古が行われ、境内を越えて我が家にまで竹刀の打ち合う音、掛け声が響いてきた。よく拝殿前の石段に腰をかけて見学していたことを思い出す。平成二十六年に鬼籍の人となられた坂本裕二先生から「おまえが一番稽古にきていたな」とよく言われたものであるが、もっぱら見取り稽古である。

春と秋の彼岸の中日（春分の日・秋分の日）には多くの剣士が県下各地から集まり、

今では考えられない稽古が展開されていた。組み討ちや足がらみ、拝殿の石段から突き落とすなど現在では反則技となる危険な荒稽古が当たり前に行われていた。

昭和四十二年に八幡中学校（昭和四十六年に市場中学校と統合）に入学すると当然のように剣道部に入部し、稽古に励んだ。阿波郡代表として何度か県大会にも出場した。

中学校を卒業すると、父が経営する井内工務店に勤める。実情は、大工の弟子入りである。一人前になるまでの十年間は、剣道とは距離を置いていた。厳しい修行に耐えて、大工としての技量を身につけた。父と共に入母屋造りの伝統的の日本建築を請け負い、数多くの家屋を手がけた。

昭和五十四年に剣道を再開することになった。契機は二つある。一つは、徳島県青年大会の出場への誘いであった。県大会で優勝し、徳島県代表として東京で開催された全国青年大会に出場した。もう一つは、昭和五十二年に発足した市場剣道教室での指導を頼まれたからである。幼少期から中学

校卒業まで剣道の手ほどきを受けた坂本先生の依頼を断ることができなかつたのである。

平成十九年一月に阿波支部長・市場剣道教室室長の河野耀雄先生が六十四歳の若さで急逝した。河野先生の後を継いで室長を引き受けることになった。しかし、最盛期の剣道教室の面影はなく、数少ない生徒で存続が危ぶまれながら、運営に窮する状態が続くことになる。

戦後の剣道再開から半世紀の歳月が過ぎ、復興期から隆盛期を経て、低迷期にさしかかることになる。この状況を少しでも改善すべく、平成十五年に八幡神社剣道同志会を結成し、市場剣道教室・市場中学校剣道部・保護者会の協力と徳島県剣道連盟阿波支部の支援を得て、八幡神社奉納剣道大会を開催した。以後、現在まで十五年間にわたって毎年五月に実施している。この大会は、かつて拝殿で行われていた大人中心の稽古会ではなく、小・中学生による奉納試合として境内の露天・地面で行われる。この日は、近在の少年剣士が集い神社が最大に賑わう。次代を担う少年剣士が元気に試

合する姿を奉納することで、すこしでも先人の苦勞に報い、安心してもらうことができたと思う。

平成二十三年、五十五歳で狭心症を患い、ステントを入れる心臓手術を受ける。術後は、順調に回復したが、不安は残る。これを機に大きな建築を請け負う仕事からは手を引いたが、剣道教室の室長は継続せざるを得なかつた。指導は、週三回、火・木・土の夜に行っている。それ以外は、多くの時間を持て余すようになる。そこで始めたのが吉野川での釣りである。六月初旬から十月中旬までは鮎つり、十一月中旬から三月下旬まではハエつりである。

加賀百万石の前田家では、藩士に鮎つりを推奨したという。尚武に励めば幕府から謀反の疑いがかけられ取り潰しの恐れがある。有事に備えた武芸の修練の代わりに、重くて長い釣り竿を日がな一日振ることに、より、足腰を鍛え、腕力をつけ、集中力を養ったのである。鮎つりは、外様大名の生き残りのための訓練であつたのである。私の場合、あくまで趣味と健康のためであ

る。

私の鮎つりは、川島潜水橋の上流を拠点とし、「コロガシ」という釣り方である。

剣道教室のある日以外は、夕方から九時頃まで川に入り、ひたすら竿を振る。釣果は、五匹前後の時もあれば、三十匹を超す大漁の時もある。釣った魚は、自家消費分を残し、後は日頃お世話になっている親戚・隣近所・知人等に配る。また、剣道仲間が集まっての一杯会や神社の行事後に行う懇親会の肴は、笠井利求二氏と私の二人で鮎の塩焼き・甘露煮・姿寿司等にして準備するのが恒例となっている。

鮎漁が終わわり、気温が低下してくればハエ（オイカワ・地元ではジャコと呼ぶ）つりの季節になる。寒ジャコは、脂ののって美味しい。釣れる場所の確保と釣り方の要領さえ自得すれば、おもしろいほど数が釣れる。天気がよければ、昼食を済ませて三時頃まで竿を出す。形は小さめだが百〜百五十匹は釣れる。これも自家消費分を残して配る。毎日、漁に出ていると、配る先を考えなければならなくなってくる。一回目

で少量であれば、喜んでもらってくれる。頻度が重なると冗談半分で「腹（はらわたの処理）をしてくれんの」、「甘露煮にしてくれ」、「焼いて食べられるようにしてから持ってきて」など、もらう側が無理難題を要求してくることがある。よほど機嫌がよく、時間に余裕があるときは甘んじて応ずることがある。

釣りは、観天望気と川の様子を見に行くことから始まり、道具の工夫と準備、釣果の期待、釣れた手応え、調理の研究、笑顔の返答、「袴の襦（まち）に雑魚たまる」（あり得ないこと、思いがけない幸運）などの楽しみがある。「釣りは道楽の行き止まり」といわれるように最高の道楽である。まさに道を楽しむことは、人生を楽しむことであると思う。

還暦も過ぎ、永年の大工仕事の無理がたたり、身体の各部に相当ガタがきている。そのうえ、心臓に爆弾を抱えており、健康に不安がないわけではないが、今後も剣道と吉野川での釣りを通じてささやかな社会貢献を続けていきたい。これが自分に課さ

れた楽しい役割であり、本当の自分の生き方であろうと信じている。



私の剣道・感謝

誠武館 岡 田 洋 典



小学生の時、野球少年だった私は六年生の時に肘を壊してしまい、中学校に入って、野球を続けるかどうか迷っている私に同級生のお母さんから、「剣道せえへんで」と声をかけられ、それがきっかけとなり剣道をはじめることになりました。

入部した剣道部には、高松実先生がおられました。中学の二年生の春になる頃には毎日喉をアザだらけになりながら（先生の突きで）稽古している自分がいました。野球しか知らなかった私に、先生は剣道の楽しさや怖さを教えて頂きました。

高校では鳴門工業で藤本先生に、ご指導頂きました。先生には守らない剣道、攻めから防ぐことなく、相手の起こりを打つ剣道を、教えて頂きました。高校での剣道は、

私の剣道の骨組みとなり今でも稽古の時や子供に指導する時、まだまだ上手く出来ませんがこの時に教わった事を意識して実践しています。

高校を卒業して就職した私は仕事の関係もあり剣道から離れてしまい、年に数回稽古する程度となっていました。十年くらいこの状態が続きましたが、ある時、中学時代の恩師高松先生より連絡を頂き、お宅に招いて頂きました。先生に「応神中学校で中学生と剣道しながら、自分としての剣道をつけて下さい。」と言って頂き、使われていた鍔と防具を私に託して下さいました。（今も大切に使用してもらっています）私は先生に言って頂いた事が嬉しく剣道を続けて行く事が先生への恩返しになる様な気がして、お返事しました。

こうして、夜勤の時や仕事の休みの日を中心に中学生と稽古する様になりました。当時指導すると言うより、一緒に頑張ろうという気持ちで基本から同じメニューをやっていました。応神中学校では約七年間、剣道する事ができ、楽しい事や悔しい事、い

ろいろいろありましたが充実した日々を過ごしました。

日勤の時には、藍住武道館や大塚製薬で稽古するようになり、多くの先生方にご指導頂き私の剣道の基となりました。

またこの頃、鳴門工業高校の稽古会をするようになりました。当初は認知度も低く、私と松本先生、二人の時や、一緒に行った中学生とだけということもありました。ですが、大塚製薬の元木先生、近藤先生、鳴教大の木原先生、工業の山田先生、谷先生に協力して頂き少しずつ参加してくれる先生も増えていきました。今では渦潮稽古会と名は変わりましたが、山田先生主導のもと地域剣道の交流の場として子供から大人まで多くの皆さんと汗を流せる稽古会となりました。

十年前には両膝を手術しました。術後は膝の状態と相談しながら、月に一回でも稽古するのを目標に剣道しておりました。数年間この状態が続いていましたが、誠武館道場の井川先生、正木先生からお誘い頂き、誠武館道場でお世話になる事となりました。

誠武館道場では幼稚園児から大人までみんな気持ちを一つに稽古しています。私は小学生を指導する事が多いのですが、子供達に元気をもらえたり、教わる事がたくさんあります。近隣の道場からも多くの先生もおいででてくださいご指導してくれる事もあり、私は誠武館道場で剣道する事が出来て、本当によかったと思います。これからも道場のみんなと心ひとつに頑ばって行こうと思います。

私の剣道は、多くの先生、剣友、子供達、父兄の方々に支えられながら今までやってこれたと思います。本当に感謝しています。なかなかうまく書く事が出来ませんが、これから感謝の気持ちを忘れず自分なりに稽古を続けて行きたいと思いますので、皆様これからも、ご指導よろしくお願い致します。



誠武館道場にて

剣道に対して

阿波支部 安丸孝生

私は、剣道に対して「只、やっているだけ」という感じで過ごしていました。幼少の頃、東京で生まれた私は、親の勧めで、東京世田谷区経堂にある修誠館道場に入門しました。指導者は清水保次郎範士で、うる覚えですが、とても厳しく稽古中に歯が見えたら頬を張られ、掛かり稽古では毎回道場の床を這いつくばっていました。

小学校の四年生の時に父親の都合で徳島に転校する事になり、清水範士から紹介していただいた道場は家から遠く通うことができなくなりました。その時に一番に思った事は「剣道を辞めれる」でした。しかし、母親の熱意に負け（無理やりでしたが…）地元の土成町剣道スポーツ少年団に入団する事になりました。

成人になり、その剣道教室で指導する立場になり、何年か経った時、土成中学校に剣道部を創る動きが出ました。そこで私に

指導者の打診があり、その時もやってみようかな、くらの思いで引き受けました。しかし、指導のノウハウも何も無い私には

何をどう伝えれば良いのかわからず、生徒達にはとてもかわいそうな思いをさせてしまったのではと思います。何かしなければと思えば、練習試合に連れて行っても何も分ならず、練習試合に連れて行っても教員でない私は冷やかな目で見られ、少しずつ外部指導者という立場が苦痛になりつつありました。

そんな折、土成中学校の校長として中尾誠先生が来られました。そこでたくさんの方の指導方法を教えていただき、生徒達も少しずつ結果が残るようになりました。

土成町が板野郡から阿波市になり、私も阿波支部に入る事になり剣道に対する環境も少しずつ変化しました。でも私は生徒が強くなったらいという言い訳をしながら自らの稽古を怠っていました。そんな甘い考えが一瞬で覚めるような一言が私の中に入ってきました。「生徒を強くするにはまず自分が稽古しなさい」と…阿波支部の塩

田善治先生の言葉でした。今考えると当然の事です。でもそれすら自分には思い付きませんでした。

しばらく経ち、平成二十四年の夏の事です。生徒と稽古している時でした。急に胸が締め付けられる痛みが襲いました。熱中症かと思いつく近くの医院に受診すると、「ちょっとマズいけん大きい病院に運ぶわな」と…麻植協同病院に緊急搬送されました。病院に着くやいなや、「すぐにオペするけん、よう聞いてな。急性心筋梗塞やけんな」と、もう何が何だか理解できませんでした。三日間ICUのベッドの上で動く事もできずにずっと天井を見ながら母と話をしていると看護師が「今、そうやって話しよるけど、ほんまはやばかったんよ」と言われ初めて背筋がゾッとしました。

病室で主治医の先生に激しい運動はもうできないと言われ、それからでした。剣道がしたくて仕方がなくなり、病室や廊下で筋トレをしては看護師に怒られるの繰り返しでした。入院が二週間くらい経った時、看護師長から「あきらめれんのやったら、心

臆りハビリってというのが大学病院であるけど行ってみる？」と言われました。何もしないよりダメもどで行ってみようと思いい学に行ってみました。すると先生やスタッフの皆さんが「絶対にできるようになるよ」と言ってくれました。約半年の間ハビリをしながら、先輩や仲間たちと作った「名も無き稽古会」に顔を出し、見学し、約一年振りに竹刀を握った時は何事にも変えられない喜びがありました。

その後三年間、藍住中学校で外部指導者をさせて頂き、その時の生徒達と仲良く楽しく、時に厳しく指導し稽古をしました。その時の生徒は今でも交流があり稽古をしています。そしてまた土成中剣道部で外部指導者をしつつ、土成町剣道スポーツ少年団で指導をさせて頂き、自分も先ほど出た「名も無き稽古会」で稽古をして楽しいお酒をほどほどにいただいています。

今振り返ると剣道をしていたからこそその出会いがあったように思います。そして、今まで自分が出会った子供達、生徒達、保護者の皆さま、名も無き稽古会の先輩や後

輩、四六會の同期達、そしてたくさんのお指導を下さった先生方、全ての方々に感謝して剣道に携わっています。

できる事なら今指導している生徒達もどんな形でも剣道を続けてほしいと思っています。そしてたくさんのお経験をし、たくさんのお会いをしてほしいと願っています。



私と剣道

麻植支部 日野利之



で稽古を続けるつもりでいるようです。

私の剣道は、強くもなく、立ち姿も悪く、いつまでたっても冴えた竹刀捌きが出来るわけでもないのに稽古を続けています。自分分が、目標としている剣道が出来ないから稽古する。これが剣道の魅力かもしれません。

七十年も大病や大怪我もなく元気で息をして参りましたが、節目を迎えると一抹の不安がよぎります。しかし高齢剣友会の元気な先輩方の稽古姿を拝見するに、七十歳ではまだまだ若衆扱い、それがかえって嬉しさに変わる今日このごろです。

一 私と日本刀の出会い

私は、小学校の低学年のころから日本刀に興味がありました。それは、チャンバラ映画や村芝居の春子太夫の興行の殺陣を観て、日本刀の魅力に取りつかれました。今でもはっきりと記憶しているのは、時代劇映画の殺陣の一場面であります。侍同士が、互いに抜き身の日本刀を静かに構えジリジリと間を詰め対峙し、双方が掛け声と共に切り結んだ瞬間に一刀両断した場面であります。それは、一瞬の一撃による命のやり取りの勝負結果でありました。今から思うと、面切り落とし面の見事な技であり忘れられない場面でありました。先に動き大きくきりつける太刀に対し、後から振り上げた太刀の鎧で切りかかる刃を切り落とした場面でありました。

一撃による一瞬の勝負に物凄く感動し、見事な殺陣の素晴らしさと、日本刀の切れ味を知りました。

村芝居の殺陣ですが、当時は、本身の日本刀「脇差」を中段に構え、大きく振りか

ぶり切り結ぶ度、チャンチャンと発する音と同時に飛び散る火花を目の当たりにしてその迫力にも感動しました。

小学生でしたが、日本刀の試し切りを試み、ミカンや桃の立ち木に切りつけました。刃が食い込んだだけで切れませんでした。よく切れると思いついでいる日本刀の試し切りに失敗するも、その時は切れない日本刀を不思議に思いました。立木に食い込み抜けなくなった日本刀を、こねまわしてやっとならしたところ、刀身が曲がってしまい鞘に納まらないので、踏みつけて曲りを直したこともありました。

後に、そのことを知った父は、日本刀を物置二階に隠し、梯子を外されました。それでも日本刀が見たさに、六歳上の姉になけなしの小遣いを渡して梯子を掛けてもらい、薄暗い物置で日本刀を抜き楽しんでた子供でありました。現在も愛刀家の一人で、それで剣道稽古が続いているのかも知れません。

二 私と剣道の出会い

私の父は、若い時分に山根という撃剣の先生から貫心流とかいう撃剣を習っていたとかで、私に剣道をさせようと思ってか、日常会話の折に「撃剣は、押し切りと引き切り」である。と何回か教えてくれた記憶があります。

私が、四年生くらいの頃でありました。父がボロボロの剣道防具を括り付け稽古させられた覚えがあります。

その稽古は無茶苦茶で、その日初めて、中段の構え・すり足・面・小手・胴の打ち方をごく簡単に教えただけで、いきなりかかり稽古となりました。

父は、素面で竹刀を握ったまま「かかってこい」とだけ言って竹刀を構えニコニコしながら、私の面・小手・胴を「お面じゃ・お小手・お胴」を打って楽しんでるようでありました。その頃の私は、片手で棒切れを振り回すチャンバラごっこをよくしておりましたが、ボロボロの剣道防具を括り付けられ、両手で竹刀を握りいきなりかかっ

て来いと言われても、竹刀をまともに振ることもできなかった記憶があります。父の目論見は、町内の剣道場へ入門させたかったようですが、私が初めて被ったボロボロの面は、相当使い込んだ物で、面布団の裏側までささくれ、面綿が針のように尖り、私の顔面全体にチクチクと刺さり、まるで針で顔全体を刺されている痛みがありました。新品の剣道防具などとも買ってもらえる筈も無く「剣道やせん。この防具被っただけで顔が痛うて、眼が開かん。」と言って剣道稽古をする気にならなかったのです。日本刀に興味があり、それに関連する剣道は、やりたかったのですが、ささくれた面布団の痛みに耐えてまで剣道する気持ちには、なりませんでした。その頃から稽古しておれば、私より五歳年上の現在県剣道連盟会長三木毅先生や居合道の吉岡先生達から鴨島公民館などで稽古をつけていただいた筈です。このころから剣道稽古を始めておれば、もっとまともな剣道ができていくかもしれません。

剣道の稽古をしたのは、徳島県警察学校

に入学してから始めました。前期は柔道を選考しましたが、後期に左肘関節を負傷したことで、剣道稽古をするようになりました。卒業後は、警察官となり県下の所轄警察署で勤務し、毎年開催される県警察恒例の柔道・剣道大会に向けての稽古や土曜稽古・寒稽古の折に稽古をするようになりました。好きでもない剣道を仕事柄やらされていた感じで、所轄對抗の選手に選ばれた時だけ、仕事の一環と思い短期間の稽古をした程度ですので、叩きあいの剣道から成長しました。

三 現在の剣道稽古

定年退職の二年程前から剣道稽古を再開したのが始まりです。現在は、平均して週五回くらい稽古しています。ただし厳寒期は、冬眠しかけていますので、少し減らしているのが現状です。

月曜日は月曜会、水曜日・土曜日は上浦剣道教室、木曜日は城ノ内剣友会、金曜日は麻植支部稽古会、第二・第四土曜日は高齢剣友会の各稽古に参加しております。た

だ高齢剣友会の稽古日が、上浦剣道教室の稽古日と重なっている関係で、高齢剣友会の稽古をサボリ気味です。

七十歳を迎えるようになると、体力は特に下半身が衰え、敏捷性に欠けているのがよく分かります。ヨタヨタしながら稽古しているのが現状です。

私は、釣りにも興味があり、特に鳴門海峡でのタイの手釣りにはまっていた時期もありました。現在は、吉野川で夏は鮎、冬はハエと戯れています。

釣りの釣果をあげる手法は色々ありますが、誘いで決まると言っても過言でないと思っています。

魚に餌を見せて、遠のけると我先にと追いかけて食いつくと釣られます。いわゆる誘いのテクニクです。魚は釣りやすいのですが、この誘いが分かっている、対人競技場の剣道にはなかなか応用できません。

それぞれの稽古場で、すばらしい先生方や仲間との出会いがあり、ご指導いただき剣道を楽しんでおります。剣友の皆様稽古場でお会いした折には、稽古つけてください。よろしくお願い致します。

平成二十九年度の西部地区

昇級昇段審査を振り返って

麻植支部 柳 谷 照 男



県西部の昇級・

昇段審査と言えば、

美馬市穴吹町の大

石雅生先生、会場

は穴吹スポーツセ

ンターと、長年お世話をいただいていたことから、当たり前のように思い起こされま

す。大石雅生先生が、審査にかかわることに

なったのも、今は亡き坂本裕二先生から二

十数年前に風呂敷一つを持ってきて、「頼

むぞ」と渡されたことが、始まりだそうで

す。当初は、非常に苦労されたようなお話

をお聞きますが、西部の審査会は、礼法

と剣の理法を重んじたものとなって、それ

が、当たり前のごとく、現在に至っており

ます。それには、審査の進行等について、

先生の細部にわたるご指導によるものと感

じております。

平成二十八年度から、長年継続していた西部地区の審査会場である、穴吹スポーツセンターの利用に当たり支障があり、西部地区の各支部内の地域会場で開催することになりました。

そのようなことから、審査における、開催準備、受付等のお世話も、平成二十九年度から西部の四支部で持ち回りとし、麻植支部もお世話することになりました。

審査は剣道連盟の先生方が厳格な審査を行い、威厳のあるものとなっていることは基より、その基となる審査の適正な運営等について、大石雅生先生のお世話によって、培ってこられた賜物であります。先生からは丁寧な引き継ぎを受けたものの、これを汚すことなく、審査の運営のお話ができるのか、非常に不安な気持ちもありました。各支部からのお世話の方々にご迷惑をおかけしながら、御協力、援助をいただき、どうか一年を終えることができました。

紙面をお借りし、お礼申し上げます。

私自身、昇級・昇段審査には、過去に数

回程度、お手伝いをさせていただく機会がありました。が、どの様な流れで、審査が行われているかなど記憶になく、また、当日の審査会場の準備、受付等が、各会場若干違うので、戸惑うことが多々ありました。受審者にとっては、日頃の練習の集大成の日であり、受審者はもちろんのこと、付き添っておられるご家族の方々にとっても非常に重要なものであることが感じとれます。

日頃の剣道の練習とはまた違った、目線で見られていることから、運営を任されたものにとっては、その目線が突き刺さるような面持ちで、また、違った緊張感があります。各支部にて、立合をお願いした先生方も、初めて立合いの号令等を経験された方が多かったことから、緊張され、戸惑う場面もありました。少しでも、受審者がスムーズに動けるようにと、号令をかけておられるのですが、その号令をどのようにかければ良いのか、非常に難しいと感じ取れることがありましたので、その号令について、マニュアル化することを考えました。

まず初めに考えたのが、「木刀による剣

道基本技稽古法」、「日本剣道形」のマニュアル作成です。利用して頂いた、お手伝いの先生方には、ご好評をいただきました。昇級・昇段審査がよくなるよう、さらに改良を加えていきたいと思えます。

審査委員の先生方は、全日本剣道連盟称号・段位審査規則、最速並びに徳島県剣道連盟審査員必携記載の、審査員の責務を意識され、審査判定することによって剣道の向上、発展に寄与されることを目的に審査されておられることが、審査にかかわってから、より一層見て取ることができました。

受審者の方の気持ちを考えると、審査は、自分を評価してくれる、非常に大切なものであること、そのことをよく理解し、受審者を送り出す責任者は、剣道の理念を理解し、責任をもって、送り出すことが、剣道の発展のために、益々重要な事であると感じております。

坂本先生、大石先生と引き継がれたふろしきに込められた心を大切に、今後も、西部地区の審査を受け持つものとして、運営上の問題点等を理解し、剣道の発展のため

に、昇級・昇段審査がより良いものになるよう改善していきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



矯正の剣道

刑務所支部 宮 本 祐 康



謝いたします。

御縁がありまして、平成二十八年四月から徳島刑務所長として勤務させてもらっております。御案内のとおり、徳島刑務所は、徳島市入田町にある刑事施設で、犯罪傾向の進んだ長期刑の受刑者を収容し、彼らの改善更生のため、昼夜を問わず刑務官による矯正処遇を行っています。犯罪者を矯正して社会に復帰させることが、我々刑務官の使命であることから、刑務官は「矯正職員」とも呼ばれています。

刑務官は、刑務所や拘留所といった刑事施設に勤務する職員で、法務大臣から指定された国家公務員です。私ごとですが、さ

かのぼること三十八年前、地元である広島刑務所に採用されました。私が刑務官を仕事として選んだのは、「刑務官は剣道ができる。」ということが理由のひとつでした。

ところで、刑事施設における剣道は、柔道とともに正課の訓練として位置付けられており、平日の勤務終了後、午後五時過ぎから午後七時まで稽古を行っています。訓練の一環ですから、有段者はもちろんのこと、剣道を希望した無経験者も一緒に稽古に励みます。訓練の成果を発揮する場として、四国管内の大会や全国大会も開催されており、日々厳しい稽古を積んでいるところです。

剣道が訓練として位置付けられていることの理由としては、剣道の理念である人間形成はもちろんですが、仕事の相手方が犯罪を犯した凶暴な人達が多いことから、勤務中に危険な目に逢うこともあるので、心身を錬磨して非常時に適切に対応することにあります。個人的な感想ではありますが、私がこれまで現場で勤務していた際、剣道の教えが活かせることが多々ありました。

例えば、受刑者と対峙するときの間合いと目の付けどころです。間合いは、一歩入り込めば相手を打つことができ、一歩退けば相手の攻撃をかわすことができる。「一足一刀の間合い」の感覚がベストです。そして、受刑者の目や顔を注視するのではなく、遠い山を見るように「遠山の目付け」をすれば、相手の動きのみならず、他の受刑者の動きも察知することができます。

また、受刑者から殴りかかれることもありましたが、そういった場面においては、「先の先」を攻めて先に手を出してしまうと、不適切な実力行使とみなされることもあり、刑務官が処罰の対象ともなりません。したがって、「後の先」を意識して相手方の攻撃の程度に応じて必要最小限の方法で制圧することを心掛けていました。

このように、剣道と我々刑務官の勤務は密接な関係にあり、私自身、剣道を続けてきたからこそ、今まで大過なく仕事に励むことができたのだと自負しております。

私たち矯正の剣道は、他施設の選手ではありませんが、過去、全日本選手権で三位に

入賞した刑務官もいます。また、八段昇段者を多く輩出するなど知名度が高まってきました。最近では、高校や大学で剣道をしている著名な選手が刑務官になりたいという採用試験を受けてくれています。とてもありがたいことです。これからも若い職員とともに道場で汗を流し、矯正の剣道の名を今以上に広めるとともに、国民の皆様から信頼される刑務官を育てていきたいと思っています。



称号・段位合格者

七段に合格して

丹生谷支部 岡 田 豊



平成二十九年四月三十日、京都市立体育館において無事七段審査に合格する事が出来ま

した。これも偏にご指導下さった徳島県剣道連盟の諸先生方、並びに丹生谷支部の諸先生方のお陰と感謝申し上げますとともに、心から厚くお礼申し上げます。

私は七段の審査初挑戦から合格まで十数年を要し、本当に長い道のりでした。振り返ってみますと最初の審査の時、「合格までもう一步!」という手応えでしたが、そこからが長かった…。途中何度となく、「もう止めよう、諦めよう」と思った事も事実です。

途中で審査を二年ほど休みましたが、練習は続けていました。そんな中、また気を取り直して受審を始めましたが、依然、納得した立ち合いは出来ず、今のままの練習方法では何回受けても無理だと思いました。

その後、練習方法を考え直し、短い時間の中で、改めて基本練習に時間を費やすようになりました。基本練習の一つである、“切り返し”は大きな声で、大きく振りかぶり、ゆっくり強い打ちを意識する事、また一足一刀の間合いから大きく振りかぶり、一歩で面を打つなど、唯々繰り返しました。そうした基本に立ち返った練習を行った事が合格に結び付いた事は言うに及ばない事だと思えます。

実は、今回の受審に際し、十分に稽古が出来たとはいえません。何故なら恥ずかしながら元旦の初稽古において左足の足首を痛め、二ヵ月安静にせざるを得なかったのです。その間はずっとイメージトレーニングの日々。三月になってようやく練習再開し、基本からスタート。審査までは二ヵ月を切っていました。二ヵ月休むと中々元の

状態には戻りませんので、剣道の練習以外でもランニングをして調整した事が良かったと思います。

さて本番当日。私のゼッケンは505Dでしたので一人目は505C、双方我慢比べの中、相手が先に面に来たところに返し胴が決まり、気持ちがあぐつと楽になりました。二本目は私から間合いに入り、面に強い打突をする事が出来ました。後は双方決まらず終了。

次の相手は505A。双方我慢比べの中で私が先に面に出たが、面金(浅かった!)。このままでは駄目と焦りだし、自分の悪い癖である先に打とう、打とうとする気持ちになってしまいました。最後に『小手抜き面』が決まり時間となりました。

今回の立ち合いが終わった後、剣道連盟の藤川先生が見て下さっており、「一人目の相手は良かったけど、二人目の相手とはどうかなあ?」と。私も正直不安ではありましたが、発表された合格者の中に自分の番号があり、一緒に受審した阿南支部の住友先生と喜びを分かち合う事が出来ました!

剣道形では打太刀として無難に終える事が出来ました。

こうしてついに七段合格という長年の目標をクリアする事が出来ました。

審査の一週間前には、山家旗兼南部交流稽古会に参加させていただきました。近藤巨先生、米倉滋先生に熱心にご指導いただき大変勉強になりましたし、自信にも繋げる事が出来ました。お世話になりました。

その後、福井軍二先生には基本練習と審査の立会稽古を繰り返しご指導いただきありがとうございます。

木頭錬心館少年部の担当指導者である、小川大造先生、山下伸也先生、大城和哉先生方には本当に感謝しています。普段からいつも相手をしていただいています。そして、これまで何も言わず剣道を続けさせてくれた妻にも感謝。本当にいつもありがとうございます。

私の一年は、毎年元旦に行われる木頭錬心館の剣道初稽古から始まります。毎年初稽古には本当に多くの諸先生方、生徒諸君が参加してくれるので毎回大盛況で行われ

ております。これからもこの木頭錬心館の伝統を守り、私自身もまだまだ精進を重ねていきたいと思っておりますので、なお一層のご指導を賜りますよう、宜しくお願い致します。



剣道七段合格にあたり

阿南支部 鈴木 啓三



初めに、平成二
十九年五月十三日、
名古屋におきまし
て、幸運にも七段
合格を頂きました

事、これまでご縁を頂き、ご指導頂きました先生方にこの場をお借りし謹んで、お礼申し上げます。また、日頃より共に汗を流し、胸をお貸し頂いた阿南支部の皆様にも、心より感謝申し上げます。

さて、京都での六段合格より早六年。次の七段審査など遠い先の話で、自分には無縁の事のように思っておりましたのに、月日の流れの速さに改めて驚かされております。この六年間、自分なりに課題を持ち剣道に取り組んで参りましたが、怪我の多い時期でもありました。ギックリ腰、足の肉離れ、手指の骨折、腱の再建手術と、稽古も出来ない、竹刀も持てないと、情けない思いを

経験しました。これは一般に言う「老化現象」が原因？ それとも「厄払い」でもした方が良い？ いえいえ！ 全ては己の不徳の致すところであり、思慮の甘さや、落着きの無さが原因である事を大いに反省する時期でもありました。

審査の年を迎え、何か出来る事はないかとリハビリをしながら考えました。そして、ダイエットを決意し、食事制限と筋トレで三ヶ月で八kg落とすことに成功したのです。やればできるでえー(笑) リハビリも終わり、京都審査は見送ったものの、名古屋で勝負するぞ!! 何かに目標を持ち、それに向かって頑張る事の大切さを改めて感じました。

審査の前々日に、阿南工業高校の火曜稽古に行かせて頂き、生徒のみなさんと汗を流しました。富浦先生に稽古をつけて頂き、善きアドバイスも頂きました。佐々木先生にも実体験を元に要となるポイントを助言頂きました。(同級生は頼りになる)「とにかく初挑戦やけん、思い切っちゃってこいだ」という事で、あれこれ考えても仕方な

い!! 自分のやってきた事を信じて、無心でやればそれでいい。結果は後から付いて来る。

審査当日は、体も軽く相手がよく見え、落着いて立合い出来ました。一期一会の立合いでした。

私は中学校から剣道を始め、高校では恩師、西谷肇一先生に三年間ご指導して頂きました。三年生の時には、河田先生もご着任され、剣道の土台を叩き込んで頂きました。あの頃、先生方のご期待に応える事が出来なかった事が悔やまれてなりません。若かりし頃の先生方の剣に間近に触れられた事が、私の誇りであり、財産となっております。

当時のライバルであった同級生は今も尊敬する剣友です。皆様の姿勢に刺激され、背中を追う事でここまで来る事が出来ました。

西谷先生にも七段合格の良い報告ができ、喜んで頂けて嬉しいです。少しは恩返しになりましたでしょうか？ まだまだ未熟者の私ですが、今後共精進して参る所存でござ



ございます。皆様よろしくお願いたします。
最後に家族のみんなありがとう。



昇段祝賀会にて

剣道七段に合格して

徳島支部 中尾 幸雄



平成二十九年八月二十六日、福岡にて実施された剣道七段審査会において合格すること

ができました。これまでご指導下さいました諸先生、諸先輩、剣友の皆様のおかげだと心から感謝申し上げます。

審査前日、父が車で徳島駅まで送ってくれました。運転しながら、父から「一発で合格しようと思わないことが大切である。勝負のつもりで行って来い！」とアドバイスいただいたのが良かったのか、審査当日は余計なことを考えずに、リラックスした状態で取り組むことができました。受審者の多くは、これまですっかり稽古を重ねても審査独特の雰囲気で行んで、普段の力がほとんど出きれないまま終わることを、ある先生からお聞きしていました。いかに

平素の稽古から、丹田に溜めて上半身(肩・腕、竹刀の握りなど)の力を抜けるかを課題としていましたが、審査日が近くなると中々難しいなど、心の中を自身でコントロールできない自分がありました。「なんとしも一回で合格したい」そんな気持ちがあったのは本意です。今振り返ると、この車の

中の父からの何気ないエールが昇段へ大きく繋がったものと思います。剣道がいかに心理面の持ち方が大切かを改めて痛感しました。

六段昇段後、日々の稽古で最も大切にしていたのが、八段の先生方に「掛かる稽古」です。一人稽古など自身の心を高めながら、基本稽古、掛かり稽古、打ち込み稽古、そして県内各道場はじめ全国各地へ武者修行し、色々な剣士と剣を練り合わせ稽古してきました。そこでは、剣道の醍醐味の一つである「交剣知愛」をたくさん学ぶことが出来ました。しかし、これらの稽古の中で最も大切にしたのは、八段先生に「掛かる稽古」です。この稽古で気剣体が養われたことが今回の昇段に繋がったものだと思います。

ております。今後も「掛かる稽古」を大切に日々精進していきたいです。

今年のお正月に父とお酒を酌み交わした時、『待てば海路の日和あり』という故事を教えていただきました。今は状況が悪くても(海が荒れていても)あせらず待っていれば、幸運(出航)はそのうちにやってくるというたとえです。「待てば」とあるが、私なりに解釈し、これはしっかり準備した上での待つことだと思いました。剣道の攻防も同じことが言えます。ただ待っているのみでは、会心な一打はないです。

メモ用紙に、さらりと書いて手渡し程度のものでしたが、私にとっては父から頂いた最高の昇段祝いであり、感謝で一杯です。この直筆を見ながら、今現実には、出航する時が来た。これまで準備してきたことを、今後の航海に活かしていくことが大切である。

頂いた「七段昇段切符」を、剣道のみで終わらせることなく日常生活に活かしてこそ本当の価値があるのだと感じ取りました。長い航海では、必ず海が荒れる時がまた来

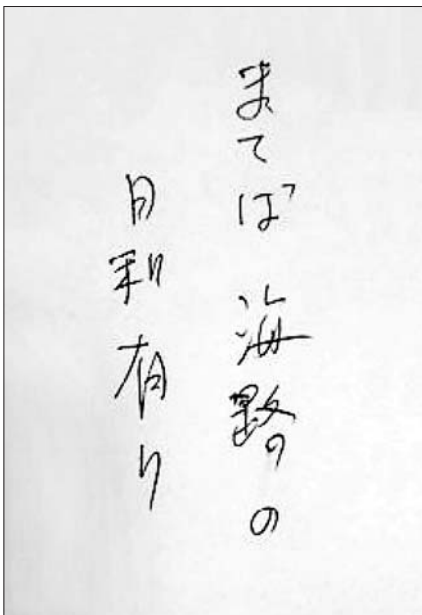
ます。その時は初心にかえり、この故事を
忘れずマイペースで進みたいと思います。
父が私に伝えたかったのは、後記の方では
なかったのかと感じます。今回の七段昇段
により今まで準備してきたものを失い、天
狗となるような人生にならぬよう喝をいた
だいたようなものだと思います。目標に達
しても、まだまだゴールが見えないのが剣
の道です。

目標に達したら新たな目標を定め、それ
に向って自己を高める努力をしていかなけ
ればと思っております。その繰り返しが自
己の成長に繋がり、また回りの環境も良く
できることに繋がると信じております。

近況の私の目標は、「教士称号」に合格
することです。そして健康管理を大切に、
細く永く生涯剣道を続けることです。今後
は七段昇段切符の重要性を真摯に受け止め、
本県剣道連盟の発展に貢献できるような剣
士になっていきたいと思えます。先生方、
まだまだ未熟者の私ですが今後共ご指導、
ご鞭撻よろしく願いたします。



福岡審査会場にて
(平成29年8月26日)



メモ用紙に、書いて頂いた
『まてば 海路の日和有り』

七段に昇段して

阿南支部 馬 見 和 秀

平成二十九年八月二十六日、福岡審査会において七段昇段することができました。これもいつも一緒に稽古しています新野少年剣道教室の生徒、保護者、指導の先生方また、ご指導くださいました阿南支部の先生方に大変お世話になりました。この場をお借りいたしました感謝と御礼を申し上げます。

私の初めての七段挑戦は秋の名古屋審査会でした。気軽な気持ちで審査に臨み立ち合いの相手と噛み合うことなく審査が終り、あまりのでの悪さにこれはしっかり稽古をしなければと思ひ、春の京都審査会へ向かいました。名古屋審査会の反省から自分のできる剣道をするためと決めて臨みました。立ち合いの感触は前回より手ごたえがありましたが、一本打てる場で躊躇してしまい、立ち合いを見ていた先生から一本躊躇したなと言われ、やはり結果はあと一步の

評価でした。

ちょうどそのころ私が稽古している剣道教室に新入生が数名入ってきました。日頃の主な稽古相手は少年剣道教室の子供たちです。新入生と同じようにもう一度基礎を素直に見直してしてみようと思ひました。準備体操、すり足、素振り、打ち込み稽古を週二回約一時間自分が新入生のお手本となるよう行います。大事な部分を意識しながら行う事がめっちゃくちゃ大変。足はパンパンに張ってくる、汗は滝のように流れ、息は上がってくる。いかに自分が今までは適当に剣道をしていたこと、手を抜いていたことを思い知らされます。このような稽古を繰り返し、打ち込み台を相手に基本技の稽古を行い、打突後の体さばき、足さばき、残心を心がけ、子供と一緒に稽古しました。意識して稽古すると自分自身のできていなかった部分を確認できたり、疑問に思うことを試す事ができました。こうしてもう一度自分の剣道を考える時間ができたのではないかと思います。この意識した練習を繰り返し行うことで少年剣道教室の

子供たちとの面をつけての稽古でも所作、動作、集中力に注意することで審査に繋がる打突、体さばき、残心になるのではないかと思います。

審査会は仕事の都合で一人冷房の効いた夜行バスで九時間、体が冷えて固まっていたので博多に着いて会場までの約二キロを準備体操を兼ね歩いて行くことにしました。大通りに出ると防具を持って歩く数人と遭遇し、審査会に来たんだと緊張感が出てきました。

審査は、前半一回目の休憩後の一組目で、順番的に一人目の立ち合いを見ることができました。打ち数の多い相手だなと感じ、相手のペースにはまらない様にゆっくりとした数秒間の立ち合いから一歩攻め入ると相手の剣先が反応したため、打って出てくると判断し、初太刀出頭面を狙いましたが、払い流されてしまいました。しかし、相手は打突してきませんでした。もう一度じっくり直し、相手の剣先を抑え、攻め入ると相手の手元が上がったため、小手面を打ちました。しかし、これも摺り上げられ、打つ

ことができずでしたが、相手も打突し
てきませんでした。打つてこないのなら打
たせてみようと思いをもう一步深く攻め
入ると相手が面を打ちに出てきた所を返し
胴、もう一度攻め入ると面を打つてきた所
を抜き胴を打つことができました。

二人目はすぐく緊張している相手だと立
ち合いから分かり、初太刀で出頭面、少し
右に外れましたが、打ち切ることができ、
集中力を欠く事なく落ち着いた立ち合いが
できました。しかし、発表までは不安でいっ
ぱいでした。自分の受番番号が貼り出され
るのを見るとホッとして気持ちが高ぶって
くるのを抑え、形審査へ移動しました。こ
こで相手がわかります。相手は女性で「小
太刀は自信がない」と小声で言ってきました。

しかし、私は審査の立ち合いや剣道形の
ビデオを見ながらイメージ練習をしていま
した。ビデオを見ていて良かったと審査の
後とても思いました。

今回の審査会において教えることにより
教わることを学びました。また、自分の剣

道を再確認させていただいた新野少年剣道
教室の生徒達と温かくご指導ご教授してい
ただいた阿南支部の先生方に感謝とお礼を
申し上げ、これからも剣の道を精進して行
きたいと思っています。今後とも変わらぬ
ご指導をよろしくお願い致します。



七段に合格して

警察支部 近藤 正章



平成二十九年十一月十八日、愛知県枇杷島スポーツセンターで行われた、剣道七段審査で合格させていただきました。

六段審査に苦戦していた頃、私は、県警の特別訓練生として、仲間達と日々厳しく充実した稽古に励んでいました。勝負を常に意識し、相手を打ち崩す力強い剣道を目指し、自信を持って、六段審査に挑戦していましたが、なかなか合格することができませんでした。そして、ようやく六段に合格できた時、いくら審査に受かって、自分勝手な剣道ばかりをしていては、剣道が良くなるに気が付きました。その経験を生かし、今回の七段審査に向けて心掛けたことは、充実した構えから十分な気迫で少しずつ間合いを詰め、相手が我慢出

来なくなって無理に技を繰り出してくる機会を捉えて出頭を狙う、遅れたら応じるといふ稽古に取り組むことにしました。普段よりも無駄な動きを省くことで、ごまかした動きができない状態まで自分を追い込むことは大変な作業でした。最初は、自分が先に打ちたい気持ちばかりが先行して、相手に合わせて打突してしまい、打突前の溜めが全くできませんでした。今まで積み重ねてきたことを変化させてやってみること

の難しさを感じるとともに、六段審査で苦戦した積み重ねがあったからこそ、今の取り組みの必要性に気を付けたのだという思いで、前向きに稽古に励みました。研究を重ねるうちに私の場合、体のバランスを考え、両膝にエネルギーを溜めるような感覚を意識することで、楽に一足で打突できるようにになり、少しずつ自分がイメージする形に近づいてきました。そして、審査の前日には、自分がやるべきことが、はっきりとイメージできる状態まで気持ちを充実させることができたので、合格を意識するというよりも、「積み重ねてきたことが七段

に求められていることかどうかを試してみたい。」という気持ちになり、審査を受けるのが楽しみになっていました。

審査の当日は、現在、私が指導している小・中学生の合宿初日であり、一日目を空けることになった私は、子どもたちや、保護者の方々からの声援を受け、名古屋へ向かいました。土産なしでは、合宿所で祝賀会の準備を待っていてくれる皆さんに合わせる顔がないと、良いプレッシャーを自分に与えながら挑戦することができました。子どもたち、保護者の方々、本当にありがとうございました。私にとって、小・中学生を指導する立場になった影響はとても大きく、以前のように十分な稽古時間を確保することはできませんでしたが、日々の子ども達との稽古の中で、気持ちはまとまり、充実していました。真っ直ぐな目で剣道を学ぼうとする子どもたちから、自分自身が学ばせていただいたのだと、審査を終え、改めて自分に変化をもたらしてくれた子どもたちに感謝の気持ちで一杯になりました。今回、合格できましたのも、日頃、御指

導いただき、お世話になっている方々のお
かげだと本当に感謝しています。

これからも、自分の剣道を探求すると
もに、徳島県の子どもたちのために剣道の
普及にも積極的に取り組んで参る所存です。
今後とも御指導の程、よろしくお願い致し
ます。



七段審査に合格して

徳島支部 井村 行 宏



平成二十九年十一月十八日、愛知県で行われた審査会にて七段に合格することができま

した。私に関わってくださった全ての方に感謝を申し上げ報告させて頂きます。

私は六段審査の時、取り組みが甘く非常に苦労しました。その反省を生かさなければという想いを強く持って、六年間稽古に励みました。

一、稽古を数を掛けて行う。二、常に全力で余力を残さない。三、先生方からのアドバイスや稽古の中での気付きをノートに書きとめ次の稽古に生かす。以上の事をひたすら繰り返しながら基本打ち、地稽古を行いました。

数年前からは玉田晋作先生に呼吸法をアドバイス頂き、起こりのない一拍子の打ち

切った技を意識していますが、なかなか出来ずにいます。

審査数ヶ月前からは、色々な場面を想定して稽古に取り組みました。審査は午前中。仕事か休みの日は出来る限り、朝、稽古ができる場所を求めて出向きました。また名古屋の審査会場は狭く、準備運動もままありません。アップ無しで全力を出す稽古も行いました。

そして審査当日。会場では他の受験者の立ち合いを一切見ることなく、呼吸を意識して集中力を高めました。やる事は全てやってきました。竹刀袋にしのばせたお守を握りしめた後、立ち合いに向いました。立ち合いでは緊張することもなく普段の力を出すことが出来ました。手応えはありました。が。不安の中、合格発表の用紙に自分の番号を見た時は、正直ホッとしました。

今回の私の昇段では、少年指導がとても役に立っていたと思っています。わかりやすく解説し手本を見せる。そして褒めてあげる。その事が自分自身、剣道に対して理解を深めていくきっかけになっています。

所作を正しく行うのも習慣になりました。元に立つ時も攻めの稽古、心の稽古になっています。攻めにおいては、子供は反応が大きいので、それを大人の稽古に生かすようにしています。子供達との稽古は楽しく、打たせ上手になりたいと思っています。

私は徳島少年剣道教室で竹刀を握り、高校卒業まで剣道に明け暮れていましたが、転勤等の事情で十二年間剣道を離れていました。三十歳から再開したので剣道歴二十八年になります。しかし自分の動画などを見るとがっかりする事ばかりで剣道の奥深さを痛感します。自分の理想とする剣道は明確になっているのでそれに向かって進んで行きたいと思っています。十年後の八段審査も一つの大きな目標です。交剣知愛の精神でこれからも稽古に励みますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

七段に合格して

海部支部 近藤 浩文

平成二十九年十一月の名古屋で行われた審査会に於いて、七段に昇段することができました。これも一重にご指導賜りました徳島県道連盟の先生方のおかげであり、また現在御指導頂いている一心館道場・影山美雄先生（教士七段）のご指導の賜と厚く御礼を申しあげます。

六段合格から七段審査までは六年間の修業年限があり、その間にすっかり修業を行うことが大事ですが、この年齢ともなりますと、仕事等の諸事情から稽古が思うように出来ない時が多くなり、七段審査がだんだん近づいてくるにしたがって焦り、不安を感じずにはいられませんでした。そんな折、剣友から忙しい仕事をやり繰りして出稽古に参加していることを聞かされ、こんなことではいけないと思ひ直し、私も出稽古に行くことを決意し、週一回の一心館の稽古日は仕事をやり繰りし、終業時間

には帰れるようにし、また、日曜日には、先生に特別稽古をお願いしました。

職場のある四階までは足腰の鍛錬のため、一気に駆け上がるようにしました。それでも、審査というプレッシャーが私を苦しめ、思うような剣道が出来ないまま第一回目の審査に臨み見事不合格となりました。

その反省を次の審査に生かすためには、自分の足りないところ又、どのような立会をすべきかを考えました。いつも、影山先生に御指導いただいている理合の剣道、肚をすえた剣道、攻めの剣道をすることが大事であると再認識させていただきました。

十一月の名古屋での審査では、適度な緊張感がありました。不思議と落ち着いている自分がいたような気がいたします。立会は、自分から先をかけた機会に面技が出せたようには思いますが、無我夢中で、よく覚えていません。発表を待つ時の方が心臓がドキドキして落ち着きませんでした。発表があり、自分の番号を見つけた時は嬉しさで何回も確認してしまいました。その後、形審査に臨み、合格となりました。

さて、私が剣道を始めたのは中学校入学からです。中学校では、中山啓男先生（教士七段）、影山美雄先生（教士七段）、高校では教士八段西谷肇一先生（教士八段）に御指導いただける幸運に恵まれ、今現在は一心館道場で恩師である影山美雄先生に引き続き、御指導いただける御縁をいただいております。

昔から稽古ごとは何年かかっても良師を探しなさいと言われます。私はすばらしい師に巡り合う御縁があったことが、今日まで剣道を続けられ、そして、今回の昇段につながったと思います。

最後になりましたが、私の昇段は今まで御指導いただいた先生、剣友の皆様のおかげと感謝し、その御縁を大事にし、徳島県剣道連盟の発展のため取り組んでいきたいと思ひますので、より一層の御指導をお願いいたします。

剣道七段に合格して

三好支部 藤 本 常 己

平成二十九年十一月十八日、名古屋での剣道七段審査会において、三回目の挑戦で合格する事ができました。これもひとえに徳島県剣道連盟の先生方及び三好支部の先生方の温かい御指導のおかげと深く感謝しています。

私と剣道との出会いは私が三十六歳の時、平田照男先生の勧めで子供とともに始めたのがきっかけです。今思えば小学生や中学生に混じって二級審査を受けた時、恥ずかしい思いをした事が忘れられません。剣道を始めた当時は、まさか二十四年で剣道七段に到達できるなど到底思いませんでした。四段審査前には藤川和秋先生が三好警察署に赴任され、先生御指導の元、非常に厳しい稽古をしたように思います。又、その当時は一週間に五回の稽古を欠かさずに行いました。三好支部の萩田先生、増田先生、合田先生には攻め、打突の機会、残心の重

要性等、事細かくご指導頂きました。山城修練クラブの島尾先生、堀川先生、喜多先生、山下先生とは共に昇段を目指して切磋琢磨して稽古に励みました。各先生ともに昇段され、非常にいい雰囲気稽古ができたように思います。

私は六段審査で二度不合格になり、その時初めて審査に落ちた時の気持ちがわかりました。今思えば、その経験が今回の三度目の挑戦での七段合格にも繋がったように思います。不合格であった七段審査では一回目、二回目とも相手と合気にならず、自分勝手に打っていたように思います。

今回の審査前では藤川先生に攻めて相手を動かして打つ事、打突後の所作、残心の重要性等色々御指導頂きました。又、合田先生には日本剣道形の重要性を事細かく御指導頂きました。日本剣道形により打つ機会、相手と合気になる事など実技審査に繋がると言う事で毎回日本剣道形の稽古も行いました。今回七段に合格して初めて藤川先生、合田先生の言われた事がわかったように思います。

今回、名古屋での審査では、私は第二会場における最終のグループでの三人の立ち合いとなりました。私は2700Cで2700Aが熊本の方、2700Bが大阪の方でした。最初、熊本の方と大阪の方の立ち合いが始まりましたが、二人とも立ち合いが非常に良く、強い方だと思いました。少し不安になりましたが、藤川先生、合田先生の教え通りに思いっきりこうと決心しました。

一人目の方は大阪の方でしたが、初太刀までの時間が非常に長かったように感じましたが、少し入った時、相手の方の起こりが見えたので出小手を打ちました。その小手が打突部を完全にとらえる事ができ、それにより非常に気持ちになりました。その後、面と小手が計三本すべて相手をとらえる事ができました。

次は熊本の方です。この方は本当に強いなという印象をもっていました。しかし、大阪の方との立ち合いが良かったので熊本の方との立ち合いも落着いてでき、三本程相手を確実にとらえる事が出来ました。

立ち合いが終わった後、たぶん合格出来

たのではとの実感が有りました。発表もすぐであり、私の番号が確認できた時は非常に嬉しく思いました。お相手の二人は不合格となっていました。熊本の方は「剣窓」で評価Aとなっていました。又、同じ山城修練クラブで共に昇段を目指した下川先生も六段に合格され、二重の喜びとなりました。

今回の七段合格におごる事なくこれからも、日々精進して行こうと思っております。徳島県剣道連盟の先生方にはこれからも御指導の程宜しく願います。又、今回の昇段において三好支部の先生方、山城修練クラブの保護者の皆さん、川崎剣道教室の保護者の方にはお祝いをして頂き書面をもって改めてお礼申し上げます。



二兎追わねば二兎を得ず

阿波居合道伝習会

一 村 昌 和



平成二十九年六月三十日、大阪市中央体育館で開催された居合道七段審査会において合格

格することができた。昭和五十七年より教士七段野口直之先生に手解きを受けてから三十五年の歳月が経過していた。前期の約十五年は、それなりに修行し、五段まで取得した。中期の約十年は、度重なる六段審査の不合格に心が折れ、居合は小休止となり、剣道に重点を置くようになる。後期の約十年は、居合道はもう五段のままがいいと諦めかけていたのだが、剣道の七段合格で精神的に少し余裕ができたことと、周囲の人から強く居合道六段取得を勧められたことにより、重い腰を上げて取り組むことになる。また、自らも教員在職中に居合道

六段の取得を望むようになるのだが、六段と今回の七段昇段においては、周囲の人たちに多大の迷惑や心配をかけ続け、やっとの思いで合格に辿りつけたというのが実情である。

六段審査の度重なる失敗で、挫折感や絶望感が累積し、頓挫寸前の状況が続いた。居合から完全に足を洗うことなく小休止を挟みながらも続けられたのは、本会会長の教士八段坂本憲一先生や徳島県剣道連盟副会長の範士八段原田勝先生を始め、徳島県剣道連盟居合道部の指導者の皆様のおかげだと感謝している。

さらに県外では、香川県の故人となられた範士八段岩田憲一先生、古伝の組太刀を指導してくれた教士八段古谷昇先生、昨年の暮れに亡くなられた岡山県の範士八段石原清先生、高知県の範士八段三谷昭雄先生・教士八段松田忠男先生には多くの講習会において懇切丁寧な指導と叱咤激励を賜り、消えそうになっていた昇段への道標に灯火を点してくれた。

七段に合格して過去の自分を振り返って

みると、居合の上達にはまず素直な心、一途に取り組む強い信念と努力が必要であるということがわかった。私は、誘われるまま居合を剣道の余技としてしか考えずに、日本刀の基本的な刀法（抜刀・抜きつけ・切り下ろし・血振り・納刀）や試し斬り、刀の取扱いが習得できたらという安易な気持ちで始め、「真剣」に取り組むことに欠けていたように思われる。

もう一つの阻害要因は、居合の捉え方が根本的に間違っていたことにある。「居合は、早く抜くもの・強く斬るもの」と頑なな考えをもち、忙まわしい荒っぽい稽古をしていた。審査や試合の評価は、仮想敵を確実に視野に捉え、要義に示された敵の部位を刃筋正しく打ち・突き・斬ることは無論のことであり、理合に応じた足捌き・体捌き・手の内の働き、さらには品と格のある残心と血振り、納刀等の所作や礼式が要求される。まさに「精妙」と「豪快」が融合し、調和した技で演武するのが居合である。本当の居合に気付き、修正するのに相当の努力と時間を費やすことになる。この昇段

により、新しい居合の道を一步踏み出したところである。

ようやく剣道七段と居合道七段が達成できたのであるが、かつての高名な剣道の先生方は、剣道と居合道を共に修練し、いずれも秀でた技量を体得していた。県内においては、母校の徳島農業高校（現在は城西高校に校名変更）の恩師である下村富夫先生しかり、大先輩の平尾勝美先生しかりである。偉大な両先生を偲びつつ、「これで先生の足下ぐらいまでは近づけたかな」と思いがっている自分が恥ずかしい。しかし、先生方は「よく頑張った。よかったな。」と祝福してくれていると信じている。

私たちが取り組んでいる居合は、戦国の世に創出され、太平や動乱の世を経て、今日まで連綿と受け継がれ、発展してきた「古流」と呼ばれる居合の一流派である無双直伝英信流居合と昭和四十四年に全日本剣道連盟が制定した「全剣連居合」である。全剣連居合いわゆる制定居合は、剣道人が日本刀に親しみ、基本的な刀法を体得できるように七本の技から始まり、続いて三本

追加されて十本になり、現在では更に二本が加わり十二本になった。剣道人であれば少なくともこれくらいは心得られたいものであるとの想いで制定された居合である。

殺傷力の高い日本刀を携え、自分の身を護り、敵を倒す術として始まった剣術について、古（いにしえ）を稽（かんがえ）れば、実戦の真剣から形稽古の刃引きの刀へ、刃引きの刀から木刀へ、木刀からさらに競技剣道の竹刀へと安全面を考慮して変遷し、発展してきた経緯が見えてくるはずである。多くの剣道人は、竹刀や木刀の取り扱いに慣れていても、居合をしていなければ日本刀に接する機会はまれであると思う。竹刀剣道のみを終始せず、剣道の原点を求め、日本刀の持つ不思議な力を体感してもらいたい。

剣道と居合は元来、「剣居一体」といわれるように不岐であり、剣道人にとって居合は必修科目の一つであったはずである。現代のプロ野球では、打者と投手との「分業」が進み、両立を目指す選手は「二刀流」ともて囃（はや）される。バットとボールの持ち分

けが一般的となっているご時世でメジャーリーグに「二刀流」で挑戦する大谷翔平君には声援を送りたい。剣道においては、竹刀と日本刀を持ち分けることになってはならないと思う。

昇段後、よく人から「剣道と居合の二足の草鞋（わらじ）を履いて大変じゃな」といわれることがある。「二足の草鞋を履く」略して「二足の草鞋」は、同一人物が両立しないような二つの職業を兼ねることをいう。本来は、博徒が十手をあずかるような、仕事矛盾することをいうのであって、むしろ剣道と居合は両立しなければならない密接な関係なので誤解なきように願いたい。

「二つ」を話題に展開しているので、諺の引用が続き申し訳ない。「二兎追う者は一兎をも得ず」という諺がある。同時に二つのことをすると何も得ることなく失敗するたえである。しかし、二兎を得ようと行動しなければ、二兎を得ることはできない。一兎ずつ確実に得る方法もあるが、剣道と居合という二兎は離れた場所にいるのではなく、意外と両手の届く範囲にいるの

かもしれない。

しかし、今回の昇段で一番重要なことに気がついた。私一人で二兎を追いかけていたのでは、二兎を得ることは決してできなかったであろう。二兎を得たのは、周囲の力が結集した「巻狩（まきがり）」のおかげである。「巻狩」は、広い狩り場を四方から大勢で取り囲み、獣を追い込んで捕らえる狩猟法である。前からは引いてもらい、後ろからは押してもらい、左右からは支えられ、励まされ、共に歩んでもらいながら得た獲物である。ある意味、私と二兎が周りから攻め立てられて狩られたのだと思われる。この恩返しとして、多くの剣道人に二兎を手にもらえるよう、今後は「巻狩」の段取りと「勢子」の役割を果たしていきたい。



第55回 大阪居合道大会
平成25年12月1日 舞洲アリーナ

剣道六段審査に合格して

麻植支部 森 本 武 夫



平成二十九年四月二十九日の京都で行われた審査会で六段に合格することができました。

最初に六段受審を勧めていただいたのは三木毅先生でした。しかし、それまで六段を受けるなんて夢にも思いませんでした。

私が剣道を始めたのは子供を道場に連れて行った三十七歳からでした。鴨島少年剣道教室で子供達と一緒に教えられて六段受審資格を得ました。当初、落ちて当り前の気持ちで気軽に受けていましたが、三木先生から木曜会（代表指導者臼木崇先生）を紹介して頂き、毎週木曜日の十時から十一時まで基本と回り稽古、指導稽古、その後稽古をビデオで見ながら指導して頂いたり、反省したりしました。

受審回数を重ねていくうち反省してみる

いつも先に面を取りに打っていった相手の竹刀と自分の竹刀がぶつかり、綺麗な面が打てず、お互いに良い剣道ができないでいました。臼木先生から「初めて当たる人に面を打っていてもそう簡単に当たるものではない。自分で打つべきものを決めてそれを打てばよい。」と言われました。しかし、何を打っていくべきかを考えた時、

今までの経験からすると大抵が相面から始まり、うまく打ち抜けが出来ない場合が圧倒的に多かったように思いました。これを防ぐためには相手に打たせてそれに対応した打ちをするしかないと思えました。面に対する応じ技として面すりあげ面と面返し胴が自分に適していると思えました。この基本技を徹底して身体が反応できるようにしようと思えました。日野利之先生や井本佳孝先生が道場で基本の面打ちや面に対する応じ技と一緒に稽古してくれました。そして、今まで失敗していた初太刀の面打ち

は封印して、相手に面を打たせてすりあげ面や返し胴でいく決心をしました。この場合も待って応じ技を出すのではなく、気合

を込めて打つ気配を見せながら攻めなければならぬということの木曜会で指導されました。

審査当日一人目には今まで「いくぞ、いくぞ」という攻め方だったのを「さあこい、さあこい」という気持ちで気合を込めて、じっくり攻めたので落ち着いて相手を観ることができました。相手は思った通り面を打ってきたので基本通りのすりあげ面を確実に決めました。次に攻めるとまた面がきたので今度は返し胴を打ちました。完全ではなかったですが、うまく応じることができました。二人目も同じように気合を込めて攻めると面を打ってきたので、またすりあげ面で決めました。また同じように攻めると面がきたので今度も返し胴を打ちました。感触は良い感じがしました。

二人の立ち合いが終り、戻ってくると藤川和秋先生がニコニコして「よかったでー」と言ってくれました。期待して実技の結果を待ちましたところ自分の番号を見つけ、長かったなあという気持ちと、やっと合格できたというホッとした気持ちになりました

六段審査に合格して

大石 洋史



この度、名古屋で行われた六段審査会において合格させて頂くことが出来ました。これも

た。すぐに形の審査に行きました。ここでは何と形の稽古を全然していない相手と組むことになりました。私は仕太刀でしたが、相手は何をしてよいか分からず周りを見てから動き出す始末でした。自分も巻き添えにならないように小さい声で相手に動きを指示しながら相手の動きが間違っていない自分の形をとりました。あえて大きな声で堂々と審査員にアピールするつもりでやりました。結果、相手は落ちましたが、私は合格できました。形は稽古をしていなかったのか形で四人落ちました。

最後になりましたが、鴨島少年剣道教室の先生方、麻植支部の先生方、木曜会の先生方、その他ご指導頂いた全ての先生方に感謝申し上げます。今後六段にふさわしい剣道を目指して頑張りたいと思います。これからもご指導宜しくお願い申し上げます。

平素より御指導頂いております、徳島県剣道連盟の先生方、また部活動においてもに汗を流している徳島文理中高剣道部生徒諸君のお蔭だと感じております。この場を借りて御礼申し上げます。

受審するにあたり意識する箇所が沢山ありましたが、稽古環境や時間の面からポイントを整理し、出来ることだけを重点的に取り組みました。特に意識したことは打突前の攻めや機会を作ることと打突の打ち切りです。一方的に打つのではなく、常に相手の駆け引きを大切にし、「ここだ」と

思いました。

当日の立ち合いではやや攻めすぎ(一方的な展開)の部分もでてしまいましたが、機会をとらえた打突を対戦相手の二人ともに出すことが出来ました。特に一人目の相手に対しては、出ようとする瞬間を打ち抜くことができたので、審査に向けた準備を立ち会いの中で表現できたことは自信となりました。手応えはあったものの、合格発表をみるまでは不安な気持ちもあり、自分の受審番号を発見したときはほんとに安心しました。

合格後、全日本剣道連盟の方から「高段者として全日本剣道連盟と地元を繋げる存在にならなければいけない。」というお話を合格者全体にされました。この六段合格を機に再度自身自身の剣道や様々な取り組みを見つめ直し、今後も精進してまいります。

思えば思い切り打ち切ることで審査員の先生方から認めていただけるのではないかと

六段審査に合格して

小松島支部 松本 憲 二



平成二十九年五月名古屋での審査会におきまして六段に合格させていただきました。

思えば、五段審査では長い年月をかけた自分でも呆れる位の時間がかかってやっと合格しました。この五段でつまずいたことが、かえって六段に合格できる早道に至った気がします。

審査に受からなかった原因は何か、まず今の自分の剣道（技量）を知ること、そして基本に返り一からやり直すことでした。一番欠けていたのはやはり稽古不足、後は姿勢、左足が前方でなく横を向いてしまっている。そして打突です。打突は自分ではなかなか気付かなかったのですが、足と打ちがばらばら、打ち込む時にリズムを取って打ち込んでいる等の、長年、身につけて

しまった悪い癖を直すことです。

まず稽古不足からですが、週二回は稽古日として、稽古できない日はなるべく走ることにしました。稽古で先生方から指導を受け、自分で問題意識を持って稽古するのとで少しずつ剣道が変わってきた気がします。

そしてついに五段に合格できた時は本当にうれしかったです。また、走ったことにより今では海部川マラソン、徳島マラソン等マラソン大会に毎年参加しています。

次の六段審査を受けるまでには、この上に理合を理解し稽古することとなりました。特に間の理合を稽古を通して十分学んだ上で、自分ならばこの距離、この拍子ならば打つことが出来る、あるいは打つことが出来ない、または打たれないなど、自分自身の間の見極め、これを身に付けるように稽古してきました。

名古屋審査が初めての六段審査でしたが、何とか合格することが出来ました。

今回六段に昇段させて頂きましたが、まだまだ六段の実力が自分にあるとは思えま

せん。これからも先生方にご指導頂き、少しでも早く六段に相応しい剣道ができるよう、精進しなければと思っています。またもう一つ上の段も目指していきたいと思えますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたがこれも小松島支部、羽ノ浦少年剣道教室に来られる先生方のご指導と剣友から稽古つけていただいたおかげだと思っています。

六段審査に合格して

丹生谷支部 松本真治



平成二十九年十一月十九日、名古屋で行われた六段審査で合格させていただきました。ありがとうございます。

きました。これもひとえに、振武館の吉田租先生、富田正先生、井村雅人先生、たくさんの方々がご指導くださったおかげと感謝しております。

私は中学校で教員をさせていただいてるということもあり、日々生徒たちと稽古をすることだけで満足してしまい、なかなか自分から稽古を求めることがありませんでした。仕事が忙しいということも言い訳にして、自分の稽古は避けていたように思います。地域には振武館という素晴らしい道場があり、先生方と稽古ができる環境があります。以前はあまり足を運んでいませんでしたが、息子が振武館で剣道を

始めたということもあり、以前より足を運ぶ機会が増えました。子どもたちと一緒に稽古をし、その後先生方に稽古をお願いします。その中で、やはり生徒と行う稽古と

一般の稽古は全く違うということを実感しました。間合いが分からず、機会が分からず、今まで自分がどれだけ努力不足だったかを痛感しました。六段を目指すと決めたからにはこのままではまずいと思い、「時間の許す限り稽古をする」と決めて稽古に参加させていただきました。しかし、そんなに事はうまく運ばず、やればやる程、剣道が分からなくなるという状態まで落ち込みました。しかし、稽古を重ねていく中で、「稽古は嘘をつかない」と先生方からアドバイスをいただき、分からないなりに稽古不足のときは違った感覚を感じました。「なるようにしかならない」、そう覚悟を決めて審査会場のある名古屋に向かいました。名古屋には前日から家族で行きました。まだ小さい子どももおり、家族サービスも兼ねてだったので、前日からいろいろな所に行き気分転換になりました。いろいろな

先生方から「前日はこうした方がいい」ということを聞いていましたが、私は家族と過ごし、いつも通りの生活を心掛けました。

審査当日、なぜか落ち着いており、緊張もほとんどしませんでした。しかし、体を動かす場所がなく、このままではまずいと思い、稽古着に着替える前に数十分外で走りました。そのおかげもあったのか、一人目、二人目の立ち合いとも体がよく動き、納得の出来だったように思います。合格発表で自分の番号を見つけたとき、ほっとしたのと、御指導してくださった先生方や家族の顔が浮かびました。

吉田租先生は、「以先可攻」という言葉を大切にされています。今回の自分の剣道を振り返ってみると、稽古を積み、攻めの気持ちが高まったときに、何か自分の剣道が見えてきたような気がしました。迷ったときこそ師の教えを思い出すことが大切だと実感しています。

この六段審査に挑戦するということは私にとって大きな転機になりました。剣道の志す者として、努力することを怠っては

出会いからの六段審査

ならないということを今回改めて実感しました。今後さらなる精進をしていきたいと思えます。今後共変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

三好支部 下川 修 一



私は山城中学校で剣道を始め週末に平田照男先生、合田秀實先生に指導して頂きました。

高校を卒業し、就職と同時に札幌での勤務になり、その後は転勤族となりました。山形に転動した時はまた剣道をしたくなり、故渋谷武三郎先生を訪ね剣道を再開し、良き剣友とも出会い三段を頂きました。

その後、二十年以上剣道と遠ざかったある日、合田先生、増田和広先生から剣道を勧められ、剣道を再々開するきっかけとなりました。兵庫県では故深津宏昭先生と出会い、鳴尾北剣道教室で指導を受け、四段を頂きました。

その後、松江を経て伊万里に転勤になり、田代潤一先生に出会い先生の道場に来るように勧められました。自分は下手な剣道の

ためお断りをしましたが、先生に「剣道をしているだけで仲間なのですよ」と諭され稽古に行くようになり、剣道がさらに楽しくなりました。五段審査を勧められたときは、地元で受審したいと伝え、徳島で受審しましたが、不合格となり「手順を大切にしなさい」と助言を頂き、佐賀県で審査を受け、合格を頂きました。

高知に転勤になり、環境に恵まれ山城修練クラブと南国市の葛目敬司先生の下で稽古をし指導を受けました。平成二十七年十一月に六段の受審資格を得て不合格の後、山城修練クラブで先生方に審査の録画を観てもらい、合田先生からは足さばき、基本稽古、手の内、攻め、打ち切ること、残心後の構えの重要性を指導頂き、喜多一幸先生には盆休みを返上し元立ちをして頂きました。

今回は愛知審査ですが、審査を受けに行くのを迷っている中、穴吹での合同稽古後、藤川和秋先生に「今度は名古屋だな」と言われた時に迷っていることを伝えました。「打っているのだから行きなさい」と後押

しをされ、勇気を得ました。まだ審査まで二週間あると思いきまでの不合格になった時の動画を確認し、審査前日、名古屋に向けて出発しました。桑名の宿にチェックインと同時に藤本常巳先生から着信があり、七段合格の吉報を受け「あわてないで打ち切る事」と助言を頂きました。「よし明日は自分の番だ。今回は受けに来たのではない。受かりに来たのだ」という気持ちに改めてなりました。近くのなばなの里イルミネーションを見ず、竹刀防具の確認をし当日を迎え、駐車場で一時間ほど一人稽古をし、審査に備えました。

審査会場は混雑していたが、場の雰囲気にもまれず緊張を抑えるために、必死になるうと思いき実技審査を受けました。

実技終了後、思い残すことがない立ち合いが出来ました。妻に聞くと「声は大きかった。打った後よく動いていた。今までで一番良かった」と言われ、剣道経験のない妻でも良さが分かる立会が出来たと感じました。

結果発表、自分の受審番号がありました。

形審査終了後、辺りは薄暗くなり、混雑していた会場に防具がポツンポツンと置いてありました。これが合格なんだと実感しました。

六段は地元徳島三好支部で合格できました。

これもひとえに徳島剣連の先生方、三好支部の先生方、剣道から始まる出会いを与えて頂いた先生方のご指導のたまものだと感謝しております。心にイルミネーションの花が咲きました。

今後も健康に留意し、微力ながら地元剣道、自身のために精進を続けて参る所存です。今後ともご指導をお願い致します。

末筆ながらご指導を頂いた先生方、剣友、山城修練クラブ及び父兄の方々に感謝をし、六段合格の報告とお礼の言葉とさせて頂きます。

ありがとうございました。

六段審査に合格して

警察支部 尾 脇 広 美



平成二十九年十一月の愛知県六段審査で合格させていただきました。

御指導を賜りま

した諸先生方に御礼を申し上げます。特に麻植支部・鳴月会の諸先生方にはお世話になり誠にありがとうございました。

私が昇段審査を受審しようと思ったのは、職場での県下大会で三十回出場したことがきっかけとなり、平成になって初めての受審が平成二十四年十一月の五段審査でした。それまでは年に数日程度の稽古でしたが、受審を思い立ってから時間は作り、稽古ができる場所を探してできるだけ稽古をしました。

私が常日頃の稽古で心がけていることは「無理をせず楽しく稽古をする」ということです。剣道は趣味であり、無理をすれば

家族や職場に迷惑をかけることになり、自分の体調には十分注意をして決して無理をしない。また剣道を長く続けるためには稽古が楽しくなければいけませんので、楽しく稽古をするということを一番に心がけています。

麻植支部での稽古は、主に藤川和秋先生の指導の下、少年剣道の基本稽古と同じように私達大人も面打ち・切り返し等の剣道の基本から指導を受けています。

鳴月会での稽古は、元木武先生を中心に参加者全員が一回りする気を張った約四五分間の連続した回り稽古をさせてもらっています。

この稽古を通じて、繰り返し基本稽古をする大切さ、気を張り掛かる稽古で先を取る大切さというのを再認識しました。また、私の剣道がどのようなものかを知るために稽古の動画を撮っている先生がいたので、その映像をダビングしてもらい見ました。その映像を見て、一番に、自分では中肉（身長一七〇センチ体重八〇キロ）と思っていたのが間違っていたことがわかり

ました。また、姿勢が悪い。右手で打っている。自分からの攻めが少なく居つく時が多い、など自分では気づかなかった悪癖がわかりました。

それからは自分の稽古をできるだけ撮りそれを見て気が付いた癖を稽古で直すように気を付けましたが、長年の癖なのでなかなか直らず苦労しています。

昇段審査にあたって技術的なことは別として、審査に向けて稽古を積んできた同じ条件の受審者同志が立会うので、今までにしてきた自分の稽古を信じ、受審者四人の中で「私が一番」であると自信を持つ。立ち合いの一分間はあっという間に終わるので、気持ちを作ってから蹲踞し、左足・左腰を内側に入れる感じで立ち、足の指関節一本分でも前に出て攻めの気持ちを表すということに臨むことにしました。

審査では、私はBでの立会いであり、初対面のA、Cの方がどのような剣道をするのか全くわかりませんので、何かヒントがないかと思ってお相手の竹刀を横目で拝見したりしました。竹刀を見たらどのような剣

道をするのか分かるということを聞いたことがありますが、私にそれを見抜く力量がなかったのでヒントになることは何もありませんでした。

ですから立会いの直前までどのようなようかという迷いがありました。Aの方が立会いの直前まで面の打ち込みをしていますが、相手が面でくるのであれば「相面勝負」、相面で打ち負けたら相手が強かったとあきらめると腹を決めました。

そしてAの方との立会いは、觸刃、一足一刀と間合いを詰めていきました。そこから打ち間に入りそのまま打ち込んでいきたい気持ちをグーと下腹に溜めて、辛抱し、先に相手が出てくるのに合わせて面を打ち込みました。その気持ちのままCの方とも相面勝負で立会いました。

いろいろと迷いがありましたが、相面勝負と決めたことが功を奏して合格することができ、この審査で、「先の攻め」という気持ちが一番大切であると実感しました。

審査の後、同行の家内が撮影した映像を確認しましたが、力んでいる、打突の後に

間が抜けていることがあるなど反省点が多々ありました。

その反省点等を踏まえて、これからも楽しく稽古を続けて良い汗をかくことを目標（稽古の後のお酒も少々）にして精進したいと思っていますので、今後ともご指導をよろしく願います。



六段審査に合格して

居合道部 内 海 直 弥



平成二十九年六月三十日、大阪市中央体育館で行われた居合道六段審査会において合格

することができました。これもひとえに日頃よりご指導いただいている先生方をはじめ、多くの方々の支えのおかげと心より感謝し、お礼申し上げます。

私は今回の審査が二度目の挑戦でした。

一度目の審査では準備不足のため、慣れない着物袖の道衣と縞袴に悪戦苦闘し、刀札で刀をうまく帯に差せずにもたつき、あえなく不合格となりました。先生方には前から講習会等で、六段審査に備えて稽古をつけていただき、「頑張れよ」「期待しているぞ」と声をかけていただいていたのに、技前以前の問題で不合格となり、情けない限りでした。その後の講習会では先生方に

何度も「着付けの問題だ」とご指摘をいただいていたので、せめて道衣と縞袴に慣れておこうと普段の稽古でも着用するようにはしました。また、講習会などの機会を

捉えて、今更ながらあらためて着付けを先生方に見ていただきました。六段に挑戦するようになってから、一から着付けをやり直さないといけないというのも恥ずかしい話ですが、二度目の審査に備えてできることは何でもやっておかなければならないという気持ちでした。

おかげさまで、当日の審査では道衣、袴に違和感もなく、演武に臨むことができました。「今度こそ、せめて自分らしい演武をせねば」という気負いもあったので、緊張するかと思いましたが、私は受審番号が一番で、最初の組であったため、緊張する間もなく演武が始まってしまったのは幸いでした。

大きなミスもなく演武を終えたものの、結果がどうなるかは不安でいっぱいでした。張り出された合格者一覧の中に自分の番号があるのを確認したときは心からほっとし

ました。その後、審査を見に来られていた先生方に、「おめでとう」と言っていたただく中で、ようやく嬉しさがこみ上げてきました。

今回、なんとか六段をいただくことができましたが、着付けに限らず、座り方、歩き方など、初歩の初歩から見直しながらの稽古でした。普段、何気なくこなしている部分に意識的に取り組むことの重要性にあらためて気付かされたようにも思います。これからも初心を忘れず、虚心坦懐に稽古に臨むとともに、微力なりといえどもお世話になってる皆様に恩返しができるように頑張りたいと思いますので、今後も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

剣道教士(称号)筆記試験免除

板野東支部 武 田 修 典



剣道七段受有後
二年以上を経過し
た者で教士(称号)
受験資格が出来今
回地元剣道連盟の

予備審査受験後、全日本剣道連盟に於ける
本審査を受験する流れとなりますが、私は
社会体育指導員(上級)を取得しており、
全剣連による教士筆記試験が免除となりま
す。

【認定者の特典として本講習会に合格し
た者は、教士申請における要件の一部また
は全部の免除の対象者とし、各都道府県剣
道連盟より全剣連に申請された者の教士筆
記試験が免除されます。】

免除となる理由の教士筆記試験実施要領
と社会体育上級指導員講習会の内容を比較
列記検証してみたいと思います。

<p>「教士」筆記試験実施要領</p>	<p>「上級指導員」講習会内容</p>
<p>一</p> <p>指導法</p> <p>(一)「剣道の理念」</p> <p>「剣道修錬の心構え」</p> <p>「剣道指導の心構え」</p> <p>* 参考資料 「剣道指導要領」</p> <p>「剣道講習会資料」</p>	<p>(一) 剣道指導者のあり方 (剣道授業の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業協力者に求められること ・ 授業協力者活用の効果 ・ 指導上の留意点 ・ 適切な指導の在り方等
<p>二</p> <p>試合・審判</p> <p>(一)「有効打突」「禁止行為」「審判」</p> <p>(二)「審判法講習における重点事項」</p> <p>(三)「審判員の心得」</p> <p>* 参考資料</p> <p>「剣道試合・審判規則、同細則」</p> <p>「剣道試合・審判・運営要領の手引き」</p> <p>「剣道講習会資料」</p>	<p>(一) 審判指導法</p> <p>試合、審判規則の重要性</p> <p>(剣道審判規則の意義と役割・審判員の使命・任務・資質)</p> <p>審判実技指導の主なる事項</p> <p>(審判上の所作・位置取りと移動・有効打突の判定)</p> <p>(二) 審判法実習および指導演習テスト</p> <p>審判(主審・副審)を行い有効打突・禁止行為・所作事・位置取り等の実習</p> <p>指導演習として有効打突の要件・禁止行為を見逃していないか説明を行いまた、旗の表示から位置取り、所作事を理解したうえで指導を行う。</p>

<p>六</p> <p>小論文(二問中一問を出題)</p> <p>(一) 剣道における指導のねらい</p> <p>(二) 剣道指導者としてのあり方</p>	<p>五</p> <p>健康・安全</p> <p>(一) 熱中症の種類、症状および予防対策</p> <p>(二) 剣道用具の安全管理</p>	<p>四</p> <p>称号・段位</p> <p>(一) 「審査員の責務」</p> <p>「段位実技審査の着眼点」</p>	<p>三</p> <p>日本剣道形</p> <p>(一) 「日本剣道形講習における重点事項」</p> <p>「日本剣道形の審査上の着眼点」</p> <p>(二) 「太刀の形四本目」および「小太刀の形二本目」</p> <p>* 参考資料 「日本剣道形解説書」</p> <p>「剣道講習会資料」</p>
<p>・ 適切な指導の在り方等</p> <p>指導上の留意点</p> <p>・ 授業協力者活用の効果</p> <p>・ 授業協力者に求められること</p> <p>(一) 剣道指導者のあり方(剣道授業の展開)</p>	<p>(一) 「剣道医学Q&A」の事前学習</p> <p>(二) 剣道安全管理およびトレーニング理論</p>	<p>(一) 「称号・段位審査規則」の事前学習</p> <p>(二) 審査員のあり方</p>	<p>(一) 日本剣道形実習・指導法</p> <p>(二) 日本剣道形実習および指導演習テスト</p> <p>指導演習の方法として三組の演技者の指導を五分程度で行う。(各本数における技の仕組み、要点の説明)</p> <p>* 私の指導形は四本目でした*</p> <p>指導演習の要点は、理合の説明ができる。</p> <p>示範ができる・指導の手順が良く、効果的な指導ができる・言語活動が適切なこと。</p>

以上が社会体育指導員(上級)講習会を受講し、合格すれば上級指導員として認定され、教士審査会における筆記試験実施要領全てを満たされたこととなり免除となります。

上級指導員講習会日程は過密であり、座学・実技と三日間テスト&テストによる缶詰め状態でしたが、合格したことにより今回の教士筆記試験が免除されたことは上級資格を得ていた特典だと思います。

徳島県は他県に比較し、社会体育指導員(初級・中級・上級)が少ないため是非諸先生方も受講されてはいかがでしょう！

剣道錬士に合格して

刑務所支部 江口 大祐



平成二十九年五月六日の京都審査において、剣道錬士に合格することができました。

これまでご指導いただいた諸先生方をはじめ、徳島刑務所剣道部の皆様方のご指導のお陰です。本誌をお借りして御礼申し上げます。

審査は小論文審査があり、平成十九年三月十四日制定の「剣道指導の心構え」の要点を記し、それを踏まえた上でのあなたの剣道修行について述べなさいというものでした。

小論文の作成にあたり意識したことは、小論文の題材にそって内容を簡潔にまとめることでした。ここでの「剣道指導の心構え」とは「竹刀の本意」、「礼法」、「生涯剣道」であり、これらのことを自分なりに要

約した上で自身の剣道修行を踏まえて述べようと思いました。その際に剣道錬士とは、どのような者であるか明確に認識していないことに気づきました。剣道錬士について調べたところ、剣道の技能力量に加え、指導力や見識優良なる者、つまり、日本剣道形、審判法、指導法等の知識や実技についての能力の認定を受けている者とありました。この時感じたことは、剣道錬士とは自身の剣道に対しての知識や技能だけがあればいいというものだけでなく、後進に対する指導や剣道を文化として継承していく上で責任ある者として認めるという意味合いのものでもあることを認識させられました。

それ以降、錬士の称号というものに対してより責任感を持って今後とも剣道修行に取り組んでいかなければならないと感じるようになりました。どうか小論文を書き上げ提出し、人事を尽くして天命を待つという思いで、合格発表までの期間を過ごしました。

後日、審査合格の知らせを受け、これまでよりも真摯に剣道に取り組み、社会生活

においても剣道家としても模範となる人物に成長していかなければならないと感じました。そのためにも、各種講習会や稽古会等に積極的に参加し、これまでのような受け身の態勢ではなく、自分から積極的に剣道に対して知識や技能を深めていきたいと思いました。まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導のほどよろしく願っています。

平成二十九年

称号・段位合格者一覽

— 劍道 —

【錬士】

【教士】

五月六日

武田修典
寒川博文

十一月二十七日

榊山紹生
須藤恭宏
平正明
松田久司

五月六日

江口大祐
湯岑昭彦
大貝美治

日野利之
谷博

十一月二十七日

近藤正章
松本慎二
近藤夏子
富永ますみ

【八段】

十一月三十日

玉田晋作

【七段】

四月三十日

住友久夫
岡田豊

【六段】

四月二十九日

森本武夫

【五段】

五月二十八日

久保雄二

【四段】

五月二十八日

花川智彦

九月十日

金澤恭助
福崎泰樹

久保公緒
東正人

十一月十九日

中西遼太郎
中川拓弥

猪野翔太
森拓郎

福田知洋
平野智将

黒木景太
高嶋智也

平成三十年

二月十八日

鳥澤武志

【二段】

五月二十八日

葛籠 徳 人
安部 匠
金森 祥 太
新宅 正 梧
澤井 直 樹
谷 直 樹
松葉 そら
明口 なぎさ
堀出 瞳
神里 命
大嶺 茉莉子
山本 仁
上田 瑛 斗

十一月十九日

高橋 和 也
矢野 郁
吉本 嵐 丸

平成三十年
二月十八日

湯浅 高 聖
一 楽 泰 志
三宅 諄 紀
受川 樹
濱田 健 祐
吉岡 卓 真
富永 康 生
森本 直 希
友竹 勇 人
岡田 敬 吾
原 量 俊
鏡 量 俊
金田 真 波
吉岡 未 歩
西 未 歩
杉山 夏 海
西山 彩 芽
大城 明 裕 奈
鳥井 優 花
古川 こまき
一宮 琴 音

【二段】

五月二十八日

武知 樹 生
湯浅 和 眞
安藝 憲 之 介
細井 康 平
山本 恭 平
満壽 太 毅
西岡 遥 人
鳥海 空
福井 蒼 哉
石川 好 誠
大岩 恒 輝
増田 夏 大
森下 航
兼松 凌 眞
岩佐 睦 生
山下 堯
井本 萌 香
西 明 里
寺野 由 莉

九月十日

儀宝 眞 弥
佐藤 廉 之 助
野崎 陸 主
山田 怜 音
中川 和 幸
岩原 潤 哉
住友 太 洋
西山 悠 貴
山本 悠 貴
大空 航 己
澁谷 幸 之 介
榎 唯 地
橋本 竜 馬
松本 喜 起
江口 弘 純
上田 雅 紀
後藤 凜
上村 裕
次藤 洋
塚田 志 緒
武蔵 千 咲

大西 千 晴
森本 乃 愛
井内 鈴 華
大久保 音 夢
佐藤 祐 理
土井 直 子
齋 幸 佑
仁木 聡 一 朗
廣田 直 樹
大西 弘
前山 帆 香
三宅 柚 衣
飯田 奈 々
角元 伸 輔
中川 陽
米澤 侑 眞
米澤 眞
岡田 依 吹
岩塚 隆 哲
河野 航 太
宮田 惣 太
堀岡 廉
川西 修 羅
福本 哲 郎
朝桐 弘 崇

小畠 涼
大城 穂 高
天羽 陽 斗
朝田 翔
榎葉 龍 空
吉岡 凌 太 朗
齋 幸 佑
仁木 聡 一 朗
廣田 直 樹
大西 弘
前山 帆 香
三宅 柚 衣
飯田 奈 々
角元 伸 輔
中川 陽
米澤 眞
米澤 眞
岡田 依 吹
岩塚 隆 哲
河野 航 太
宮田 惣 太
堀岡 廉
川西 修 羅
福本 哲 郎
朝桐 弘 崇

平成三十年

二月十八日

【初段】

四月二十九日

谷 壯一郎
炭 宗汰
楠 光流
上 月優彰
桑 原佑成
古 川真一
富 永翔矢
宮 田滉大
富 山咲永
河 野翔太
上 田広輝
板 東彦也
明 比俊賢
門 脇寛宗
小 田優一
貴 島琴音
柳 田藍
小 川莉奈
上 山美月
明 石柚希
姫 野綾子
金 森純子

松 田宙大
勝 間春輝
谷 口航
高 岡大暉
松 本尊灯
青 山英司
久 米川勇気
重 村虎太郎
谷 碧月
石 田龍生
二 宮嵩将
小 山田亮太
永 濱幹大
神 原晴也
後 藤浩也
小 澤日向
立 石龍之介
篠 原充輝
田 上力
岡 山大介

鶴 羽祐弥
桑 原悠太
浦 島海斗
由 岐中大智
長 谷川新
堀 江康生
安 藤優作
松 本拓馬
加 藤峻貴
辻 成将
印 藤優作
小 笠僚太
森 岡老誠
土 田伊吹
光 地弘毅
後 藤田亮太
三 木耕栄
山 原将司
三 木洸隼
住 友英志
細 川孝大
斉 藤祐太郎
大 永宣克

清 井賢司
山 口祐二
中 山知華
香 川小桜
西 川泉海
明 口湖雪
山 下実夕
森 海陽
板 場朱音
河 野菜々子
仲 井智菜
福 本彩乃
青 木優衣
山 田莉子
岩 本楓華
松 葉佳香
尾 崎理香
瀧 本響
藤 原真結
倉 橋美妃
増 金いおり
岡 伴美
白 石圭

山 本千晴
北 村凜
横 田佳菜羽
新 居さくら
片 山芽美
坂 尾佳菜子
橋 本瑞希
柳 川慶子
堀 江明日香
庄 嶋蓮
六 月二十五日
桂 大二郎
田 村空
井 藤駿
冲 野友哉
近 藤邑樹
秋 山颯汰
藤 本豪太
撫 養祈叶
森 尋悠
安 井大晟
笠 原希良利

白 草慶大
根 ケ山彩登
瀬 戸敦
江 本東吾
尾 上雷樹
真 鍋昂大
播 摩涉
西 武翔
栗 島光洋
濱 田周作
岡 田洋典
正 木光
岡 七美
佐 藤ちひろ
中 山はるな
末 光真子
米 崎朋香
福 田詩音
川 上菜月
十 月十五日
青 山陸十
谷 口星矢

三 宅油衣斗
野 辺悠介
谷 亮汰
木 村龍昇
藤 丸孝介
久 米伊織
豊 崎慈音
岡 本雷登
竹 山雷昂
細 井哉孝
七 條守
笹 本乙花
坂 東星夢
福 田真結海
藤 原夏南
藤 井美和
花 川佳代子

平成三十年

一月二十一日

松本 米津 添木 岩谷 原 山本 落窪 富田 齐藤 千葉 赤野 吉田 西村 津山 眞貝 篠原 阿部 住友 小原 橘本 谷本
怜斗 総司 陽仁 愛夢 拓海 龍之介 翔太郎 将太郎 佳亮 翔太 太一 琉晟 裕也 俊輔 陽太 亮太 光樹 英

森吉新

海部樹

古賀 森 黒島 大野 伊井 吉川 森 坂野 小島 高篠 種浦 工藤 齋藤 近藤 石元 佐々野 佐藤 七條 中川 茨木 谷川
元滝 斗陸 雄仁 隆宏 祥生 康生 克樹 伶太 七海 楓太 凱汰 亮太 賢伸 大祐 樹介 博輔 俊輔 樹

竹内大輔

鳥澤明未

野地結奈 山尾心那 田窪優奈 金野結月 野澤明未 尾原彩乃 大地彩加 金谷奈音 細川結衣 橋口萌菜 赤川真唯 篠原紗也 西村葵 大塚未流依 野地結奈 山尾心那 田窪優奈 金野結月 鳥澤明未

―居合道―

【錬士】

十一月二十七日

西本忠司

満壽良史

【七段】

十一月二十七日

一村昌和

【六段】

十一月二十七日

内海直弥

【三段】

五月十四日

岩佐和宏

十一月十二日

松本涼楓

【二段】

五月十四日

安田勝裕

十一月十二日

古賀雅治

楠本由美菜

【初段】

五月十四日

西岡利治

坂東暁子

十一月十二日

満壽利毅

中島賢

豊成傑

岡山博之

がんばろう徳島

事務局取材レポート

頑張ってます！

半田剣道教室

取材者 事務局長 藤川和秋

今回は、平成三十年一月二十三日（火）日本列島に寒波が押し寄せる中、美馬市つるぎ町半田字田井にある「つるぎ町スポーツセンター」で稽古している半田剣道教室を訪問しました。

半田剣道教室は、昭和五十三年に現在の代表指導者である大川功先生の実父大川一（はじめ）先生が創設され、今年で四十年目を迎えるという歴史ある剣道教室です。現在の指導者大川功先生は創設から十年後に指導に加わりました。それでは半田剣道教室の現在の状況をお知らせします。

○剣道教室ちびっ子軍団 七人

○小学生 十五人

○中学生 四人

合計二十六人の子供が稽古していると聞いて事務局はびっくりしました。この過疎の山間部で剣道教室に子供が二十六人もいること自体がびっくりです。しかしその理由は大川功先生から聞いて解りました。大川功先生が剣道を教えた子供達が大人になって結婚し子供が生まれ、今その子供達がこの剣道教室に通っているのです。大川功先生が指導してきた三十年の間には子供が減り指導者だけで稽古した時期もあったそうです。それを乗り越え今があるということ。地域に根ざした指導者の頑張りがあったからこそだと思います。

指導者は

○代表指導者

大川 功 先生（剣道五段）

○指導補佐

西岡隆英 先生（剣道五段）

片岡 浩 先生（剣道五段）

下藤 仁 先生（剣道五段）

石田明宏 先生（剣道四段）

篠原 守 先生（剣道三段）

の六人です。代表指導者の大川功先生は

○生涯剣道を目指し基本を忠実に指導する
○みんなが仲良く助け合い、明るく元気な稽古してほしい

との思いで指導をしています。

剣道場は半田スポーツセンターの二階で一試合場が取れる程度の道場ですが、隣には同じ広さの卓球場があり卓球が使用していない時は剣道が卓球場も使用でき、小学生、中学生が剣道具を付けて稽古中は、ちびっ子軍団が卓球場で足さばきなどの稽古を行っています。

それでは教室の会員をご紹介します。全員のインタビューはできませんでしたので代表してちびっ子軍団五人と小学四年生花の三人娘をご紹介します。

ちびっ子軍団五人は、写真の右から

○岡 樹生（いつき）三歳 男性

○鎌倉歩生（あゆむ）三歳 男性

○坂本 葵（あおい）四歳 女性

○岡 結子（ゆうこ）四歳 女性

○坂本蒼真（そうま）四歳 男性



ちびっ子軍団の5人

です。岡樹生さんと岡結子ちゃんは大川先生のお孫さんで兄弟です。坂本葵ちゃんと坂本蒼真くんは双子ちゃんです。五人はすでに竹刀を持って素振りまで稽古をしています。事務局が写真を撮ると言う五人は「頑張るぞ」と言って元氣よく手を上げてくれました。みんな明るく楽しそうに稽古



小学4年生花の三人娘

をしていました。将来は立派な剣士になって下さいね。次に小学四年生花の三人娘をご紹介します。写真の右から
○鎌倉 芽生（めい）半田小学校四年生
現在書道を習っており、将来は習字の先生になりたいそうです。

○坂本 陽（はる）半田小学校四年生
今年は戌年ですが、犬が大好きとのことで将来は犬カフェを経営したいそうです。
○藤本 せり 大田小学校四年生
大田小学校は四年生が六人しかいないそうです。ピアノを習っており将来は学校（剣道部）の先生か保育の先生またはピアノの先生になりたいそうです。

小学四年生花の三人娘は仲が良く、三人寄ればべちゃくちゃと話しが弾み笑いが止まりません。これからも花の三人娘さん、良き友達、良きライバルで頑張ってください。

今回の取材で半田剣道教室は大川功先生のファミリー剣道教室だと痛感しました。みんな家族同様に仲良く助け合いながら剣道を楽しんでいます。子供達が稽古を終わって騒いでいる姿を見てなぜか事務局も楽しくなってきました。半田剣道教室の皆さん、大川功先生を中心に今後の頑張りを期待しています。



大川功先生の指導状況



頑張るぞ～宣言！

専門部報告

事業部より

事業部長 佐賀 博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義かつ安全に開催されることを目的として活動しています。

平成二十九年度の役員の改選などにより、事業部のメンバーは、

事業部長 佐賀 博史

理事 平尾 満紀（審判部兼務）

岩木 一功

玉田 真理

切中 克樹

河野 寿仁（高体連）

祖上 俊郎（中央ブロック）

明口 豊（中央ブロック）

中西 実（南部ブロック）

委員 武田 修典 ・ 池田 洋一

岩本 一彦 ・ 柳本 巖

金野 卓治 ・ 隅田 憲男

中井 英樹 ・ 有松 伸也

武市 一樹 ・ 岸野 訓子

熊橋 史 ・ 前田奈々枝

の二十一名で運営しています。

平成二十九年度の活動状況は、諸般の事情により、三者対抗剣道大会が中止となったものの、一般男子及び一般女子の大会・予選会を各四回、少年の大会・予選会を二回開催いたしました。（各大会の結果は後記「大会記録」のとおりです）

また、講習会については、五月に吉田昌彦先生、高木壽史先生を講師として剣道中央講習伝達講習会を開催し、十月には島野泰山先生（大阪府・範士八段）を講師にお招きして、秋季講習会を開催いたしました。

この年二回の講習会は、指導法や日本剣道形の習得、審判技術の向上などに大変役立つ講習であります。是非ともこれまで以上に先生方のご参加をお勧めします。

その他、「稽古始め」「土用稽古」「寒稽古」などを開催いたしました。

これらの大会や講習会などについては、事業部員だけで開催できるはずがなく、審判長をはじめ審判員としてお手伝いをいただいた先生方や、社会人剣道大会においては、女子部のみなさん、少年剣道錬成大会においては、各道場・剣道教室の保護者の方々のご協力をいただき、まさしく剣道連盟をあげて、すばらしい大会などが開催されたと思っております。皆様方のご協力に感謝するとともに、本誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

今年度も、各大会及び講習会・稽古会へたくさんの方々に参加していただき、有意義な大会などが行えるよう事業部員一同精一杯頑張っていきたいと思っております。先生方、関係者の方々におかれましては、これまで以上のご協力をいただきますようお願い申し上げます。事業部からの報告とさせていただきます。

審査部より

審査部長 佐藤佳宏

平成二十九年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、日本剣道形講習会（二日間）、居合道の部では、五段以下審査会（四回）等全て無事終えることができました。

今年度から受審者数の減少等により、中央での初段以下審査会を五回から四回へ、四・五段講習会を二回から一回へ削減致しました。また、鳴門ソイジョイ武道館空調工事のため中央審査の開場が変更となり、皆様方には大変ご迷惑をおかけ致しました。地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼を申し上げます。

今年度の審査会の結果につきましては、居合道の部、受審者一〇名、合格者二〇名、合格率一〇〇%、剣道初段以下の部、受審者一一六二名、合格者一一二八名、合格率

九七%、剣道二〜五段の部、受審者二三四名、合格者一九二名、合格率八二%となりました。

高段位合格者につきましては、玉田晋作先生が十一月、東京での審査におきまして見事剣道八段に合格されました。徳島県からは二年続けての八段合格という素晴らしい結果となっています。

六段以上の合格者につきましては、居合道七段一名、居合道六段一名、剣道六段一名、剣道七段一〇名、剣道錬士五名、剣道錬士二名という結果でありました。合格の先生方は下記のとおりです。

〈居合道七段〉

一村 昌和

〈居合道六段〉

内海 直弥

〈居合道錬士〉

西本 忠司

満壽 良史

〈剣道六段〉

森本 武夫（麻植支部）

大石 洋史（阿南支部）

住友 直城（刑務所支部）

有松 伸也（小松島支部）

北川 成仁（海部支部）

佐々木克哉（徳島支部）

松本 憲二（小松島支部）

松本 真治（丹生谷支部）

下川 修一（三好支部）

尾脇 広美（警察支部）

〈剣道七段〉

岡田 豊（丹生谷支部）

住友 久夫（阿南支部）

鈴木 啓三（阿南支部）

吉田 彰夫（警察支部）

中尾 幸雄（徳島支部）

馬見 和秀（阿南支部）

近藤 正章（警察支部）

井村 行宏（徳島支部）

近藤 浩文（海部支部）

藤本 常己（三好支部）

〈剣道八段〉

玉田 晋作 (徳島支部)

〈剣道錬士〉

江口 大祐 (刑務所支部)

湯岑 昭彦 (三好支部)

大貝 美治 (徳島支部)

日野 利之 (麻植支部)

谷 博 (鳴門支部)

富永ますみ (麻植支部)

近藤 夏子 (名西支部)

松本 慎二 (警察支部)

近藤 正章 (警察支部)

〈剣道教士〉

武田 修典 (板野東支部)

寒川 博文 (徳島支部)

榊山 紹生 (阿南支部)

平 正明 (阿南支部)

須藤 恭宏 (阿南支部)

松田 久司 (美馬支部)



強化部より

強化部長 平野 誠司

一、平成二十九年年度実施結果

(一) 剣道連盟稽古会「強化稽古」

毎週木曜日 一九〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

中央武道館

指定土曜日 一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

警察学校体育館

(二) 地区交流稽古会

○ 南部交流稽古会

三月二十四日 阿南市武道館

四月二十二日 鷲敷B&G体育館

十一月十日 阿南スポーツセンター

○ 西部交流稽古会

四月十四日 川島中学校

十月二十七日 脇町中学校

(三) 長期育成強化訓練

○ 第十九回

平成二十九年一月二十九日実施

那賀川スポーツセンター

○ 第二十回

平成二十九年八月二十七日実施

那賀川スポーツセンター

○ 第二十一回

平成三十年二月二十二日実施

阿南スポーツセンター

講師 佐藤博光先生(大阪府警師範)

(四) 強化遠征

○ 都道府県選手強化

男子京都遠征

三月三十一日・四月一日

女子京都遠征

六月十七日～六月十八日

○ 国体選手強化

女子愛媛遠征

七月一日・七月二日

女子和歌山遠征

七月二十九日・三十日

二、大会結果

(一) 四月二十九日

全日本都道府県対抗剣道優勝大会

二回戦敗退

(二) 五月十四日

四国四県剣道大会 第四位

(三) 七月十五日

全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会

三回戦敗退(ベスト一六)

(四) 八月二十日

国民体育大会四国ブロック大会

成年女子第二位

(五) 十月一日～十月三日

国民体育大会

三回戦敗退(ベスト一六)

三、平成三十年度強化計画

(一) 基本方針「競技力向上と文化的伝承の共存」

○ 全国大会入賞を恒常的な目標とし、競技力向上を図る。

○ 審判と指導、審査と指導の連携により、本県剣道の総合力向上を図るとともに、伝承されるべき剣道を見据えた取り組みを展開する。

○ 心豊かな剣心を育み、生涯剣道を通して剣道理念の高揚に努める。

～ 三世代共導、共習の稽古場の創造～
～ 武に向かう心の醸成

(魅力ある剣道) ～

(二)徳島県剣道連盟強化稽古会

○合同稽古会

毎週木曜日 中央武道館

一九〇〇〇〇〇〇二〇〇四四

(第一木曜日)

日本剣道形一九〇〇〇〇一九〇四四

合同稽古一九〇四四二〇〇四四

○強化稽古会

指定土曜日 県警察学校

一〇〇〇〇〇〇一〇二〇〇〇

(三)地区交流稽古会

「交剣知愛」の場作りとして継続実施

する。

(四)長期育成強化訓練

小中高を一貫するジュニア強化・育成

プロジェクト。基本錬成を中心に骨太

剣士を育成する。(国体強化と連動)

少年部より

少年部長 松村和宏

日頃は少年部の活動にご協力を頂き有難うございます。

四月の少年剣道教室の指導者講習会には沢山の先生方が受講されました。教室及び道場は、子供達を指導するにあたり、安全で楽しく心身に強くする場であり、その教え方においてですが、まだ理解力が未発達な子供に対し、理論攻めで教えても理解できません。指導者自ら手本となり、動作を踏まえながら説明することが大切です。『百聞は一見に如かず』なのです。

そして心身の成長過程に伴うように指導する。小学生の時は、『剣道の楽しさ』を教え、中学生からは『勝負の楽しさ』を教える。高校生にもなるとメンタルもしゃかりしてくるので厳しく指導も出来るようになります。そうやって、子供をよく知り、その子にあった指導法で、順を追って『教えを育む』気持ちで、指導者も考え研究す

ることが、より良く子供を伸ばしていくのではないのでしょうか。

強化錬成の折には、各教室、道場の諸先生方の協力のもと、年十二回の強化練習ですが、子供達は終盤となると見違えるように成長しております。

遠征に行くことも出来ました。九月の全日本都道府県退会は、今回リーグに上がることは出来ませんでした。来年はベスト八以上を目標に子供達の指導を頑張りたいと思っております。

最後に一年間の皆勤賞は次の通りです。六年生二十四名、五年生六名の計三十名となっております。

女子部より

女子部長 竹 内 佳代子

〈女子大会の結果〉

県内行事

①徳島県女子剣道大会（九月三日）

ソイジョイ武道館

団体戦 参加 八チーム

優 勝 警校会（楠本・木浦・平野）

準優勝 徳島剣美会（青木・山本・長

地）

第三位 川島高校剣友会

第三位 酔剣

個人戦 区分一（二十九歳未満）

参加十四名

優 勝 山本 千尋（徳島剣美会）

準優勝 岩原紗也香（酔剣）

第三位 栗野 文那（酔剣）

長地 千景（徳島剣美会）

個人戦 区分二（三十歳以上） 参加五

名

優 勝 前田奈々枝（川島高校剣友会）

県外行事

準優勝 井口あすか（川島高校剣友会）

①全国都道府県女子剣道大会（七月十五日）

日本武道館

一回戦 徳島 一〇〇 新潟

二回戦 徳島 二一〇 北海道

三回戦 徳島 二一〇 京都（代表）

ベスト一六

②宮本武蔵顕彰お通杯剣道大会

（十月二十二日） 武蔵武道館

個人（五十才代の部）

優 勝 平野 悦子

三 位 竹内佳代子

〈女子部稽古会について〉

①参加状況

強化部長の平野先生のご指導をいただ

きながら、素振りからはじまり、基本を

中心とした稽古を行っている。

女子の参加状況

*（ ）内の人数は女性の参加者のみ

○四月三十日 鳴門市光武館（十名）

兵庫県で実施された指導者講習会の

伝達（前田奈々枝・長地千景）〔阿波
中学校・大麻中学校の生徒で実演〕

○五月二十日 松茂体育館（五名）

○六月三日 那賀川スポーツセンター

（十名）

○九月三日 ソイジョイ武道館

女子剣道大会終了後、審判・役員の

先生方と自由稽古

○十月七日 アミノバリュー体育館（十

二名）

○十二月二日～三日 高知県主催、近県

女子剣道錬成会に参加（六名）

○一月七日 松茂体育館

剣道連盟の稽古始めに参加

○二月十二日 阿南スポーツセンター

長期育成に参加（八名）

② 成果

○ 各種大会での活躍

全国都道府県女子剣道大会でベスト一六、お通杯剣道大会で 個人五十歳以上の部で平野悦子さんが優勝、竹内が三位に入賞。

○ 剣道再開のきっかけ

剣道を再開したいなと思っていても、「何年も剣道をしていないので不安」と感じられている方が、女性ばかりの稽古会では、自分の体力に応じて練習をすることができるので、剣道を再開するきっかけとなっている。

③ 反省と改善

年間の計画をきちんと立てていなかったため、毎月女子部の稽古を実施することができなかったことをお詫びします。そこで、来年度からは、年間スケジュールを立て、各支部に配布するようにします。お通杯や高知の女子錬成会などにも、たくさんの方が参加できるように、要項や申し込み方法、締切についても明記したいと思います。

〈終わりに〉

仕事や家庭、また子育てを行っている女性が時間をつくり、練習会や大会に参加することはとても大変で、家族の理解や協力がなかなかなか難しいことだと思います。そんな中、稽古会参加だけでなく、社会人大会などのお手伝いにも協力してください、本当にありがとうございます。これからも、「女子部の稽古会に参加してよかった」「大会、錬成会に参加してよかった」と言ってもらえるように、そして、一人でも多くの女性の皆さまと剣を交える機会がもてること、また、各種大会などにも多くの方が参加し、活躍することを目標に活動していきますので、今後ともご協力、ご支援よろしくお願いします。また、お気づきの点や要望があれば、気軽に声をかけていただけたいと思います。どうぞよろしく願います。

居合道部より

居合道部長 福井 勝

☆九月三十日(土)

第四十六回香川居合道大会

於…高松市香川総合体育館

参加者 十名

三段の部 木原資裕

四段の部 山田 師正

五段の部 徳山 豊

六段の部 内海 直弥

☆十月二十一日(土)

第五十二回全日本居合道大会

於…広島サンプラザ

監督 坂本憲一 七段 一村昌和

六段 満壽良史 五段 林 由美

☆三月十八日(日)

第四十四回北九州居合道大会

於…北九州市立体育館

参加者 三名

平成二十九年居合道部の事業について、
簡潔に報告いたします。

大会等

☆四月十五日(土)、十六日(日)

第五十五回高知居合道大会・錬成会

於…南国市立スポーツセンター

参加者 錬成会九名 大会十三名

☆一月七日(日)

第五十九回大阪居合道大会

於…エディオン・アリーナ大阪

(旧大阪府立体育館)

参加者 一名

☆五月十四日(日)

春季講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 三十二名

☆二月十八日(日)

居合道県下大会

於…松茂町第二体育館

参加者 二十五名

☆六月十八日(日)

四国四県居合道合同稽古会

於…西条市丹原体育館

参加者 十名

【段別優秀賞】

少年の部 森本 理希

段外の部 白倉 基成

初段の部 岡山 博之

二段の部 井上 伸英

☆七月一、二日(土、日)

全剣連主催 地区講習会

於…大阪府中央体育館

参加者 十名

☆五月二十八日(日)

第四十二回東北日本居合道大会

於…新潟県燕市総合体育館

参加者 三名

参加者 五名

於…京都武徳殿

第一一三回全日本剣道演武大会

☆五月三日(祝水)

準優勝 内海直弥

於…大和郡山市総合公園

大和郡山市お城祭居合道大会

☆四月九日(日)

☆九月二、三日(土、日)

全剣連主催 中央講習会

於…京都市武道センター

参加者 坂本憲一、森 将夫

☆九月二十四日(日)

伝達講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 坂本憲一、森 将夫

参加者 二十二名

受審者 三名

(級一名、錬士称号予備審査二名)

☆十一月十二日(日)

秋季講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 二十九名

受審者 十名

☆二月十八日(日)

審査会 受審者一名

於…松茂町第二体育館

全日本居合道大会選手強化練習

☆七月、八月に石井町前山総合公園体育館

において強化練習・合同稽古会を実施。

☆八月、十月に吉野川市鴨島第一中学校武

道館・阿波市伊沢公民館において強化練

習を五回実施。

中央審査

☆六月三十日(金)

六・七段審査会

於…大阪府

六段合格 内海 直弥

七段合格 一村 昌和

☆十一月二十七日(月)

称号審査会

於…東京都

錬士合格 西本忠司、満壽良史

中体連より

中体連部長 佐藤 浩

○平成二十九年年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	29.5.27	29.7.8	29.11.4	30.1.20	29.5.27	29.7.8	29.11.4	30.1.20
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	松茂町 体育館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	松茂町 体育館
参加校	40校	27校	33校	35校	29校	21校	23校	25校
優勝	徳島	徳島	那賀川	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	那賀川	那賀川	徳島	小松島	徳島	石井	徳島	徳島
第3位	川内	阿波	北島	石井	石井	徳島文理	徳島文理	江原
第3位	徳島文理	小松島	小松島	那賀川	大麻	徳島	鳴門一	徳島文理

○県総体個人戦

平成二十九年七月九日(日)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 松本 喜起(徳島)

準優勝 岩原 潤哉(徳島)

第三位 永濱 幹大(北島)

大城 穂高(那賀川)

女子

優勝 河野菜々子(那賀川)

準優勝 松山 若樹(徳島)

第三位 飯田 奈々(那賀川)

岩本 楓華(那賀川)

○四国総体

平成二十九年八月六日(日)

徳島市立体育館

〈団体戦 男子〉

徳島中学校 優勝

(決勝 徳島 四一〇 那賀川)

那賀川中学校 準優勝

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校 優勝

(決勝 那賀川 三一二 高知)

石井中学校 予選リーグ四位

(予選敗退)

〈個人戦 男子〉

大空 航己(徳島)

松本 喜起(徳島) 準優勝

岩原 潤哉(徳島) 第三位

宮田 惣太(那賀川) 三回戦

大城 穂高(那賀川) 二回戦

兼松 凌真(阿波) 二回戦

永濱 幹大(北島) 二回戦

武知 樹生(鳴教大附属) 一回戦

〈個人戦 女子〉

河野菜々子(那賀川) 優勝

飯田 奈々(那賀川) 第三位

松山 若樹(徳島) 第三位

岡崎 理(那賀川) 三回戦

岩本 楓華(那賀川) 二回戦

福田 優那(那賀川) 一回戦

田邊望恵瑠(阿南一) 一回戦

倉橋 美妃(那賀川) 一回戦

○全国中学校大会

平成二十九年八月十八(金)～二十日(日)

佐賀県総合体育館

〈団体戦 男子〉

徳島中学校

予選リーグ敗退(一勝一分)

〈団体 女子〉

那賀川中学校

決勝トーナメント(一回戦敗退)

〈個人戦 男子〉

松本 喜起(徳島) 二回戦敗退

岩原 潤哉(徳島) 一回戦敗退

〈個人戦 女子〉

河野菜々子(那賀川) 二回戦敗退

松山 若樹(徳島) 一回戦敗退

○全国都道府県対抗少年剣道大会

平成二十九年九月十七日

府民共済スパーアリーナ

監督 兼松 佳史(徳島)

コーチ 齋 浩市(那賀川)

先鋒 河野菜々子(那賀川)

次鋒 松山 若樹(徳島)

中堅 岩原 潤哉(徳島)

副将 永濱 幹大(北島)

大将 松本 喜起(徳島)

〈予選リーグ〉

徳島 ○ 一 二 千葉

徳島 二 一 三 和歌山

(予選敗退)

○県内行事

・県下三地域(中部・西部・南部)で指導者講習会実施

・八月二十七日 第十七回県中夏季錬成会 県内中学校四十校、延べ人数三二二名参加

・徳島県中学校剣道一年生大会 十月七日(土)実施

・男子

団体 優勝 徳島中学校 A

個人 優勝 富田将太郎(北井上)

・女子

団体 優勝 徳島中学校 A

個人 優勝 岩原 千佳(徳島)

・剣道連盟稽古始め参加

・第十三回四国中学校新人剣道大会

平成三十年三月四日(日)

阿波中体育館

○優秀選手

男子二十名、女子二十名(新聞発表済み)

○平成二十八年度中学校剣道部員数

() は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	127人 (122人)	116人 (124人)	116人 (162人)	359人 (408人)
女子	74人 (73人)	67人 (71人)	65人 (74人)	206人 (218人)
合計	201人 (195人)	183人 (195人)	181人 (236人)	565人 (626人)

高体連より

高体連専門委員長

玉田晋作

一、大会報告

全国大会

○平成二十八年全国高校選抜大会

平成二十九年三月二十七日・二十八日

於：愛知県春日井市総合体育館

男子：城北高校 一回戦敗退

女子：富岡東高校 二回戦敗退

○平成二十九年インターハイ

平成二十九年八月九日～十二日

於：宮城県仙台市カメイアリーナ

〈男子団体〉

富岡西高校 予選リーグ敗退

〈女子団体〉

富岡東高校 予選リーグ二戦二勝で決勝

トーナメント進出 一回戦敗退

〈男子個人〉

中村 隼人（阿南工）一回戦敗退

矢野 郁（城北）二回戦敗退

〈女子個人〉

山崎 舞（富岡東）二回戦敗退

片岡 瑞季（富岡東）二回戦敗退

四国大会

○平成二十九年四国高等学校剣道選手権

大会

平成二十九年六月十七日・十八日

於：愛媛県武道館

〈男子団体〉

富岡西・徳島文理・鳴門渦潮・城北が出場

富岡西が第三位入賞

〈女子団体〉

富岡東・富岡西・城北・城ノ内が出場

富岡東が第三位入賞

〈男子個人〉

県高校総体個人ベスト八進出選手が出場

〈女子個人〉

県高校総体個人ベスト八進出選手が出場

○平成二十九年四国高等学校剣道新人大会

会

平成三十年二月三日・四日

於：アミノバリュールホール

〈男子団体〉

城北・富岡東・徳島科学技術・阿南工業
が出場

〈女子団体〉

富岡東・富岡西・川島・城ノ内が出場

富岡東が優勝

〈男子個人〉

県高校剣道選手権大会ベスト八進出選手

が出場

〈女子個人〉県高校剣道選手権大会ベスト

八進出選手が出場

国体四国ブロック予選大会

平成二十九年八月二十日

於：藍住町民体育館

〈少年男子〉

監督 玉田 晋作

コーチ 大石 真也

選手 西條 賢太（城北）

片岡 俊人（徳島文理）

金森 祥太（徳島文理）

坂野 修造（鳴門渦潮）

中村 隼人（阿南工業）

富永 康生（阿南工業）

富田 孔明（城北）

結果 二戦一勝一敗で二位、国体出場
ならず。

〈少年女子〉

監督 長井 薫

コーチ 山本 雅裕

選手 片岡 瑞季

富田 瑠莉

明口なぎさ

大城明裕奈

山崎 舞

朝田 萌香

堀出 瞳 (以上富岡東)

結果 2戦2敗で3位、国体出場ならず。

県内大会 (高体連主催、後援)

※試合結果は「大会記録」参照

○第四十二回徳島県剣道連盟会長杯争奪剣道大会

平成二十九年四月十六日

於…ソイジョイ武道館

○第五十七回徳島県高校総合体育大会

平成二十九年六月三日・四日

於…阿南市那賀川スポーツセンター

○第五十一回徳島県高等学校剣道選手権大会
平成二十九年十一月五日

於…ソイジョイ武道館

○第六十一回徳島県高等学校新人大会兼全国選抜大会予選

平成三十年一月十四日

於…阿南市那賀川スポーツセンター

県内大会 (高体連主催、後援 以外で高校生が参加した大会)

○第四十二回山家旗争奪県下剣道大会

平成二十九年四月二十三日

於…那賀町B&G海洋センター体育館

○阿北地区剣道大会

平成二十九年九月十八日

於…石井中学校体育館

○清原杯争奪第六十二回県下剣道大会

平成二十九年十一月三日

於…阿南市総合スポーツセンター

○建国記念の日奉祝第三十九回県下高校剣道大会

平成三十年二月十一日

於…松茂町総合体育館

二、強化事業

○平成二十八年度徳島県高体連春季強化錬成会

平成二十九年三月十八日・十九日

於…阿南市総合スポーツセンター

参加校

招待校 (男子) 育英高校

桜丘高校

浜名高校

(女子) 筑紫台高校

菊池女子高校

県外参加校数 三十四校

県内参加校数 十七校

参加人数 約四五〇人

○平成二十九年度徳島県国体少年の部強化錬成会

平成二十九年十二月二十八日・二十九日

於…城東高校体育館・鳴門渦潮高校体育館・徳島北高校体育館・北島中学校体育館

参加校

招待校 (男子) 島原高校

東海大浦安高校

(女子) 東奥義塾高校

須磨学園高校

県外参加校数 十二校

県内参加校数 十五校

参加人数 約三〇〇人

三、人口調査

平成二十九年度高体連加盟校数・人数

男子…二十二校・一七九名

女子…十八校・七十名

※加盟人数においては、女子は鳥取県に次

いで全国二番目に少ない。男子は鳥取県・

沖縄県・高知県に次いで全国四番目に少

ない。

四、総評

インターハイ女子団体において、富岡東

が予選リーグを勝ち上がり、ベスト十六に

入った。これにより平成二十九年三月に

行われる全国選抜大会は徳島県に二校の出

場枠が与えられることとなった。富岡東は

二月の四国新人大会でも優勝し気を吐いた。

その他では、富岡西の久しぶりの躍進が目

立った。

しかし、全般的に振り返ってみると、県勢の活躍はあと一步というところであった。

特に二月の四国新人大会では、富岡東以外は惨敗し、徳島県の選手層の薄さが目立つ大会となった。また、国体四国ブロック予

選では、本年度は愛媛国体開催のため、愛

媛県を除く三県の予選で、しかも徳島県開

催という絶好の機会にもかかわらず、少年

男子・女子ともに出場権を得ることができ

なかった。選手選考において、受験等の理

由で選手を辞退する者も多く、今後の課題

となっている。

高体連では、十二月と三月に全国大会上

位進出校を招待して、「強化錬成大会」を

開催するなど、一致団結して強化に励んで

いる。徳島県から全国大会上位進出校がで

るよう今後も継続したいと考えているもの

の、残念ながら「剣道人口の減少」に歯止

めを掛けられないのが現状である。今後学

齢人口の減少は確実であり、このままでは

県内大会は非常に寂しい状況になることが

予想される。多方面の方々から知恵を頂き、

活性化に繋がるようご協力をお願いします。

大学連より

大学連部長 木原資裕

一 第六十四回中四国学生剣道選手権大会

(平成二十九年五月二十一日)への出場(松山)

○一回戦敗退

- ・中谷 篤人(徳大)
- ・中西 正和(徳大)
- ・岩本 達嗣(鳴教大)
- ・矢野 航平(文理大)
- ・金城 暎(徳大)
- ・壹貫田 稜(鳴教大)
- ・森 悠晋(徳大)
- ・廣田 芳之(徳大)

二 第四十九回中四国女子学生剣道選手権大会

(平成二十九年五月二十一日)への出場(松山)

○一回戦敗退

- ・富田 真帆(鳴教大)
- ・上田 真維(鳴教大)

○二回戦敗退
・栗野安香音(鳴教大)

○四回戦敗退

・黒田木乃佳(文理大)

三 第六十四回中四国学生剣道優勝大会

(平成二十九年八月二十七日)への出場(岡山)

○予選リーグ

・徳島大 一勝一敗 予選リーグ敗退

四 第三十五回眉山杯剣道大会(徳島県学生剣道選手権大会)

ならびに第十一回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時 平成二十九年十一月二十三日

(木・祝)

場所 徳島文理大学体育館

参加者数 五十名

○選手権大会成績
(選手三十八名・役員審判十二名)

男子 優勝 鳴川 了介(常三島)

二位 中原 祥希(蔵本)

三位 中西 溪介(蔵本)

藤田 奨平(蔵本)

女子 優勝 黒田木乃佳(文理)

二位 中川 沙耶(鳴教)

三位 三好 瑞希(蔵本)

大松 瑞季(文理)

○東西対抗優秀選手

男子

阿部 有矢(蔵本) 九人抜き

細田 朋弥(蔵本) 三人抜き

矢野 航平(文理) 三人抜き

岩川 陽介(蔵本) 一人抜き

佐藤 勝哉(蔵本) 一人抜き・大将

女子

黒田木乃佳(文理) 二人抜き

中川 沙耶(鳴教) 二人抜き

平井 靖子(蔵本) 二人抜き

弘光 美波(文理) 二人抜き

四 第三十七回中四国学生剣道新人大会

(平成二十九年十二月三日)への出場(高松)

○男子

一回戦 徳島大 ○(○) 一三(一六)

環太平洋E

五 大学連講習会

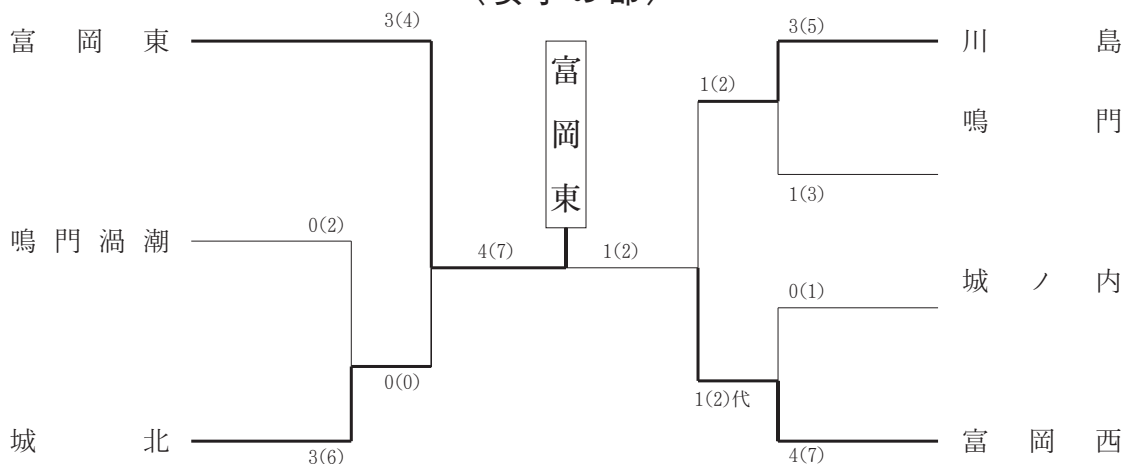
平成三十年よりは河田清実先生を中心に年数回実施予定。詳細は剣連HPに掲載予定。

平成29年度 大会 記 録

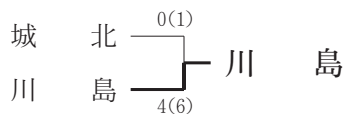
第42回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日 時 平成 29 年 4 月 16 日
会 場 鳴門ソイジョイ武道館

〈女子の部〉



順位決定戦



〈女子の部〉

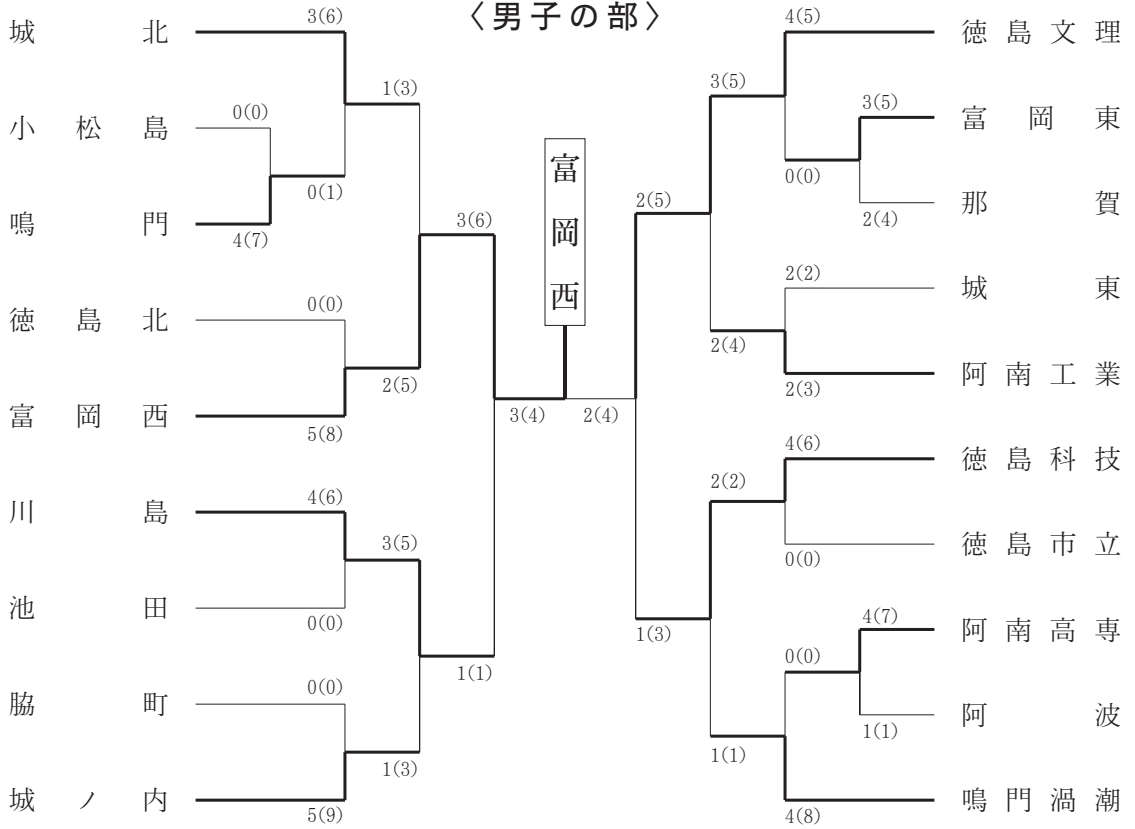
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	富田	明口	山崎	大城	大片岡	4	7	
	⊗ ⊙	⊗ ⊙	⊗一本勝	⊕ ⊗				
富岡西	川田	相原	大山	儀宝	一本勝 ⊗橋本	1	2	

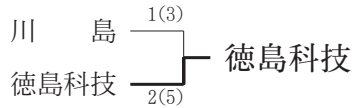
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	古川	村本	一宮	川崎	西角	0	1	
		▲	⊗					
川島	一本勝 ⊙	一本勝 ⊗	延長 ⊗	⊗	⊗	4	6	
	岩崎	猪口	田口	松下	森本			

〈男子の部〉



順位決定戦



〈男子の部〉

決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	田上将	服部真	服部比	後藤	田上雄	3	4	
	⊗	⊗	▲一本勝	⊗一本勝				
徳島文理	⊗	⊖			一本勝	2	4	
	金森	一楽	矢代	片岡	藤本			

順位決定戦

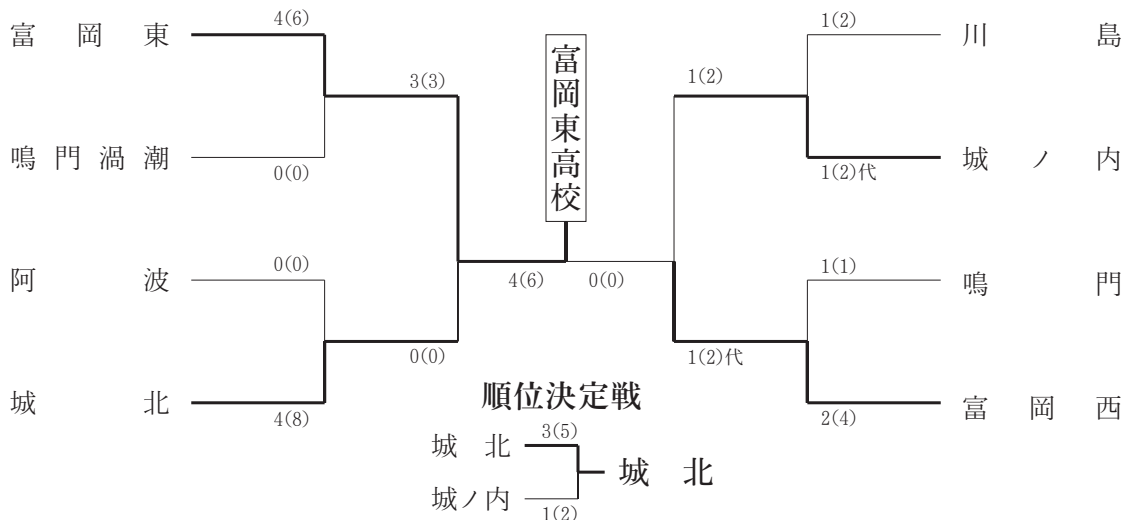
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	熊橋	山添	沖川	榎丸	三宅	1	3	
	⊖一本勝			▲	⊖			
徳島科技		⊖	⊖	延長	⊗	2	5	
	青井	披田	米山	井内	上田			

徳島県高等学校総合体育大会 剣道競技

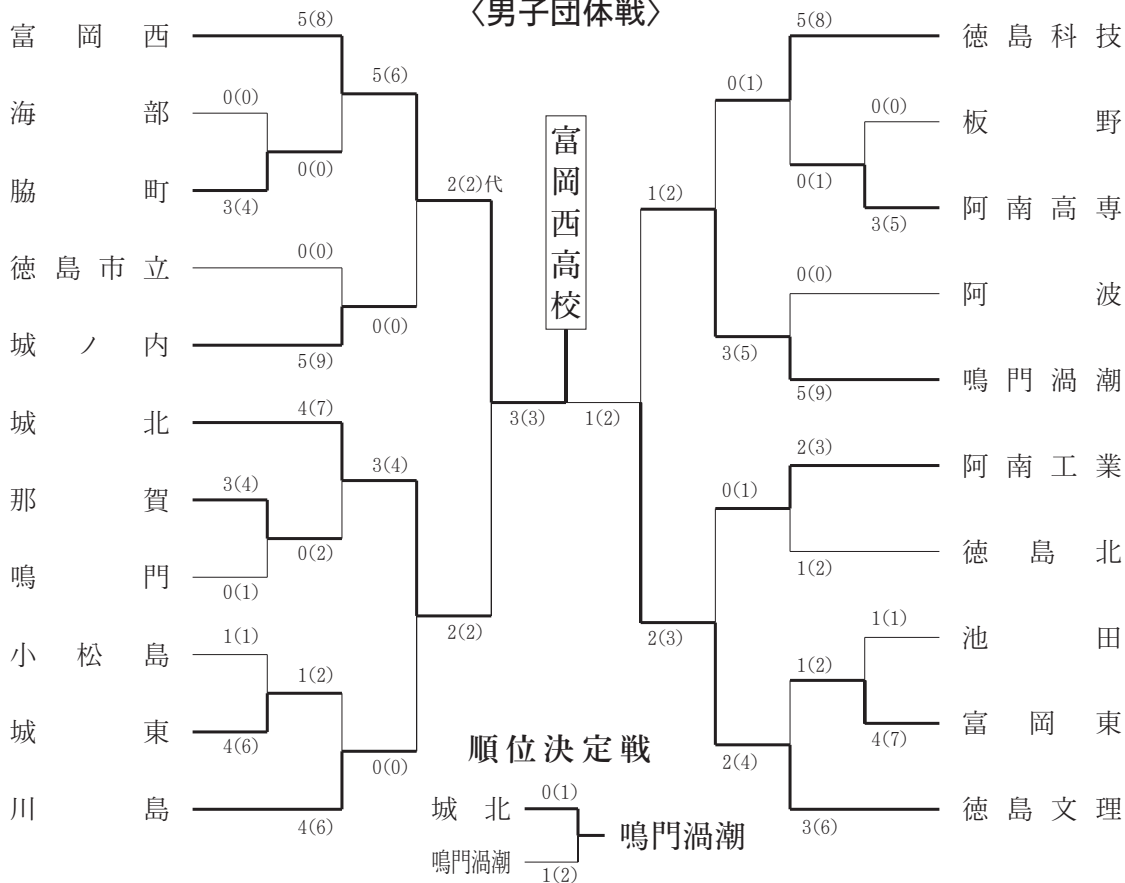
日時 平成29年6月3日(土)～4日(日)

会場 那賀川スポーツセンター

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東城	富田	明口	山崎	大城	片岡	3	3	
	⊗ 延長	⊖ 延長	⊖ 一本勝	X				
城北	古川	村本	一宮			川崎	西角	0

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城ノ内	井内	峰	福井	添木	堀本	1	2	堀本
	延長	一本勝		延長	延長			
富岡西	川田	儀宝	大山	相原	橋本	1	2	⊖橋本
			一本勝	延長	⊗			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	古川	村本	一宮	川崎	西角	3	5	
	⊗ 延長	⊕ 延長	⊗ ⊗	⊗ 一本勝				
城ノ内	井内	峰	福井	添木	堀本	1	2	
	⊗				⊖			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	富田	明口	山崎	大城	片岡	4	6	
	一本勝	⊖ ▲ 延長	延長	⊗ ⊗	一本勝			
富岡西	川田	増井	大山	相原	橋本	0	0	

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西城	服部真	井地岡	服部比	後藤	田上雄	2	2	田上雄
	⊗ 一本勝	延長		一本勝	延長			
城北	西條	矢野	西名	富田	熊橋	2	2	熊橋
		⊕	一本勝		延長			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門渦潮	古川	吉本	小島	前田	坂野	1	2	
	延長	延長	一本勝	⊖	延長			
徳島文理	金森	一楽	矢代	片岡	藤本	2	3	
	⊖	▲		⊗ ⊗				

3 位決定戦

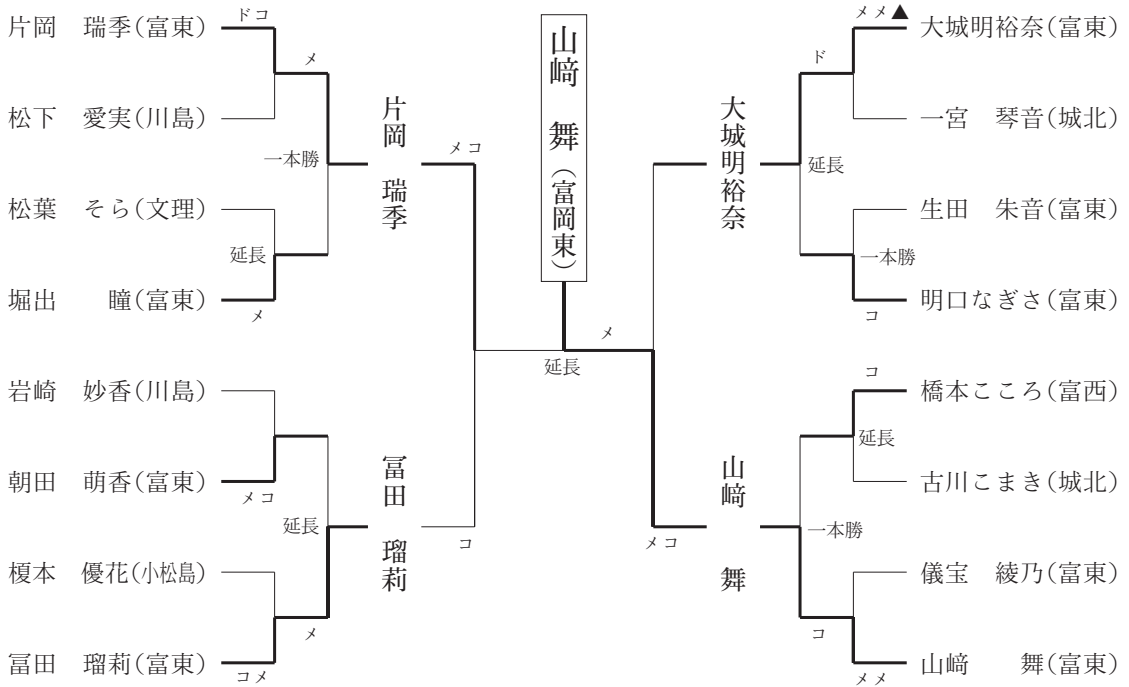
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	西條	喜多	西名	安澤	熊橋	0	1	
	延長	延長	延長	⊗	延長			
鳴門渦潮	古川	吉本	小島	前田	坂野	1	2	
	⊗ ⊗			⊗ ⊗				

決 勝

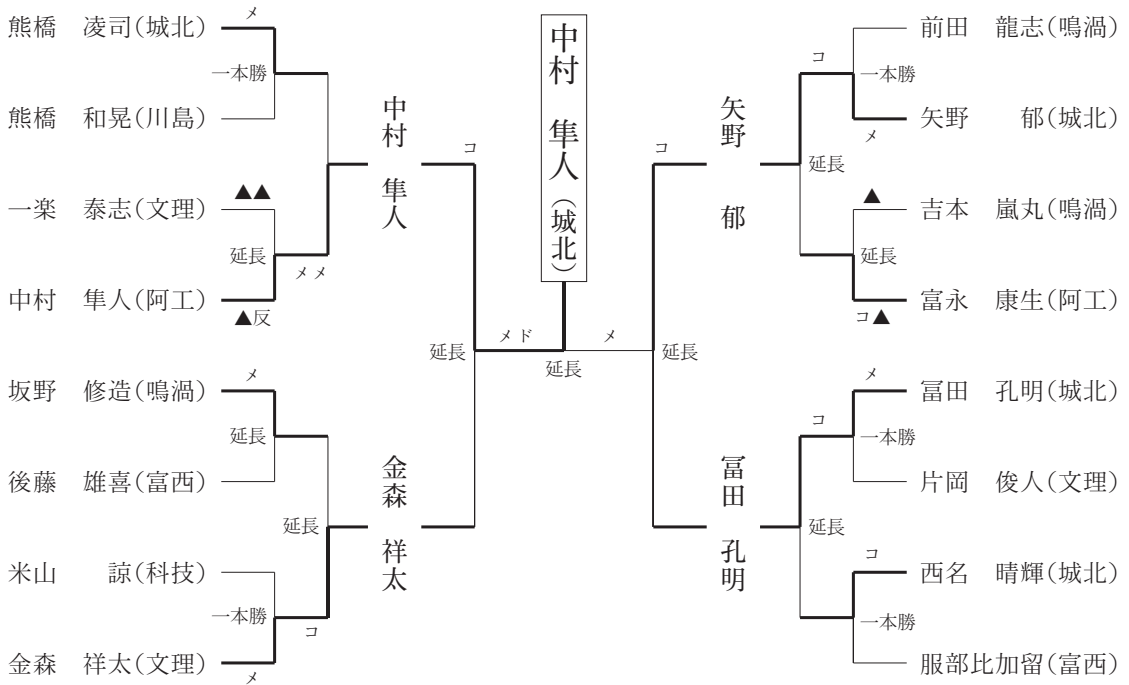
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	服部真	井地岡	服部比	後藤	田上雄	3	3	
	延長	一本勝		一本勝	延長			
徳島文理	金森	一楽	矢代	片岡	藤本	1	2	
			⊗ ⊖					

ベスト 16

〈女子個人戦〉



〈男子個人戦〉




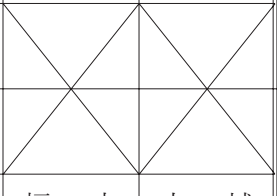
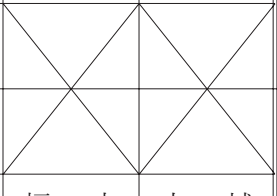
第71回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】


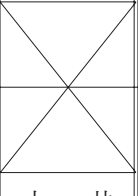
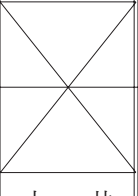
日 時 平成29年 7 月 8 日 午前 9 時 30 分 開 会
場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

順 位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	那 賀 川 中 学 校	石 井 中 学 校
第 3 位	阿 波 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校
第 3 位	小 松 島 中 学 校	徳 島 中 学 校

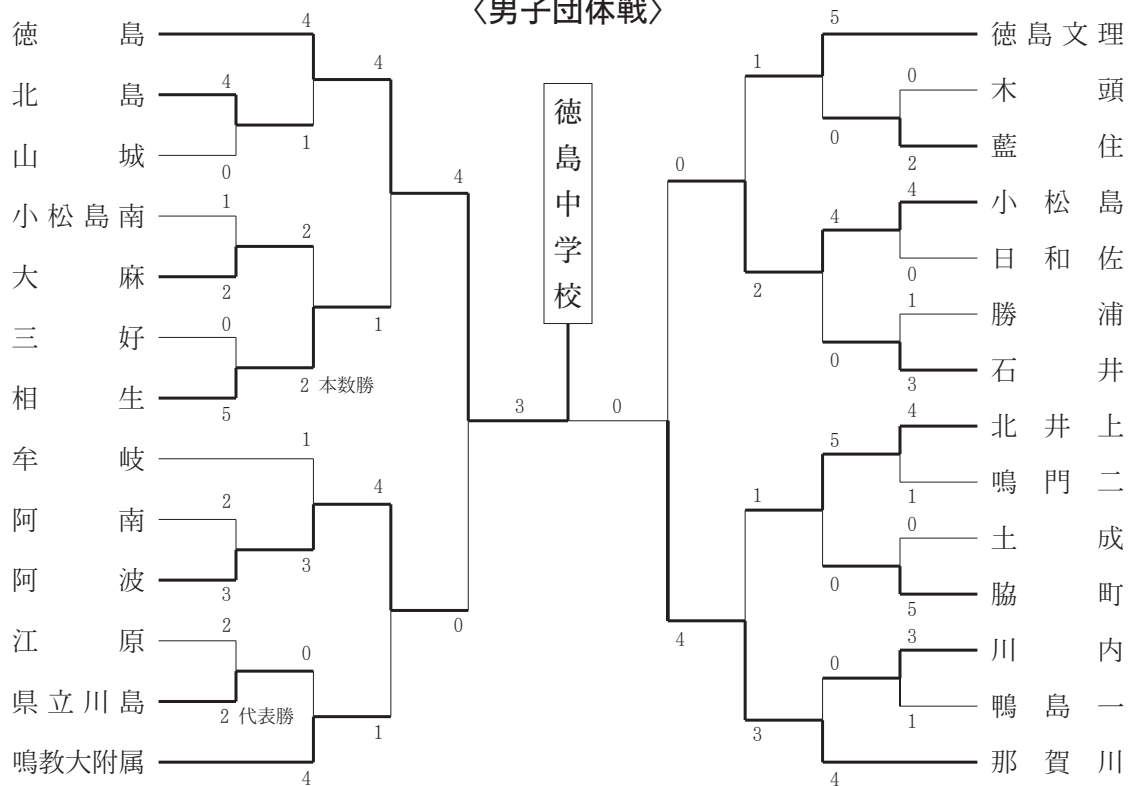
[男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
徳 島 中	大 空	松本尊	岩 原	江 口	松本喜		
	⊗⊙	⊗一本勝	⊗一本勝				
那賀川中						福 本	大 城
	朝 桐	後 藤	田 上				

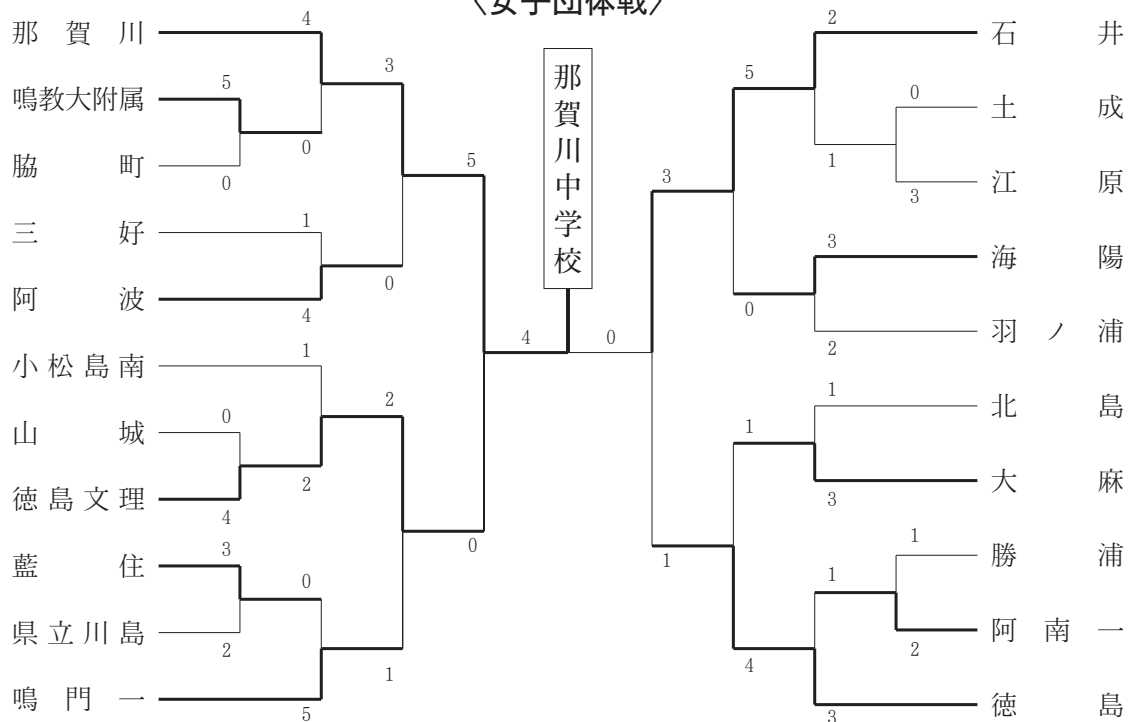
[女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	河 野	山 田	福 田	岡 崎	飯 田		
	⊗一本勝	⊖⊗	⊖⊗	⊖⊗			
石 井 中							土 井
	山 室	佐 藤	森 本	大 西			

〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



第71回 四国中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日 時 平成 28 年 8 月 6 日
場 所 徳 島 市 立 体 育 館

〈男子予選リーグA〉

	明徳義塾 (高)	山田 (香)	那賀川 (徳)	城辺 (愛)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
明徳義塾 (高)		$\triangle \frac{1}{1}$	$\triangle \frac{2}{1}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	2	3	4
山田 (香)	$\circ \frac{2}{1}$		$\circ \frac{2}{1}$	$\triangle \frac{2}{1}$	2	3	6	3
那賀川 (徳)	$\circ \frac{4}{3}$	$\triangle \frac{1}{0}$		$\circ \frac{3}{3}$	2	6	8	1
城辺 (愛)	$\circ \frac{2}{1}$	$\circ \frac{2}{2}$	$\triangle \frac{1}{1}$		2	4	5	2

〈男子予選リーグB〉

	野市 (高)	龍雲 (香)	徳島 (徳)	今治南 (愛)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
野市 (高)		$\circ \frac{2}{2}$	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{1}{1}$	1	3	3	4
龍雲 (香)	$\triangle \frac{1}{1}$		$\triangle \frac{1}{1}$	$\circ \frac{3}{2}$	1	4	5	3
徳島 (徳)	$\circ \frac{7}{4}$	$\circ \frac{3}{2}$		$\circ \frac{5}{3}$	3	9	15	1
今治南 (愛)	$\circ \frac{3}{3}$	$\triangle \frac{1}{1}$	$\triangle \frac{2}{0}$		1	4	6	2

〈女子予選リーグA〉

	高知 (高)	石井 (徳)	大島 (愛)	龍雲 (香)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
高知 (高)		$\circ \frac{8}{4}$	$\circ \frac{5}{3}$	$\circ \frac{4}{2}$	3	9	17	1
石井 (徳)	$\triangle \frac{0}{0}$		$\triangle \frac{2}{1}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	1	2	4
大島 (愛)	$\triangle \frac{0}{0}$	$\circ \frac{5}{3}$		$\triangle \frac{4}{1}$	1	4	9	3
龍雲 (香)	$\triangle \frac{2}{1}$	$\circ \frac{7}{4}$	$\circ \frac{5}{2}$		2	7	14	2

〈女子予選リーグB〉

	野市 (高)	那賀川 (徳)	松山北 (愛)	大川 (香)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
野市 (高)		$\triangle \frac{1}{0}$	$\triangle \frac{4}{2}$	$\triangle \frac{2}{1}$	0	3	7	4
那賀川 (徳)	$\circ \frac{6}{4}$		$\circ \frac{8}{4}$	$\circ \frac{4}{3}$	3	11	18	1
松山北 (愛)	$\circ \frac{5}{3}$	$\triangle \frac{2}{1}$		$\triangle \frac{2}{1}$	1	5	9	3
大川 (香)	$\circ \frac{3}{2}$	$\triangle \frac{0}{0}$	$\circ \frac{4}{3}$		2	5	7	2

決勝トーナメント〈男子〉

準決勝 第1試合場

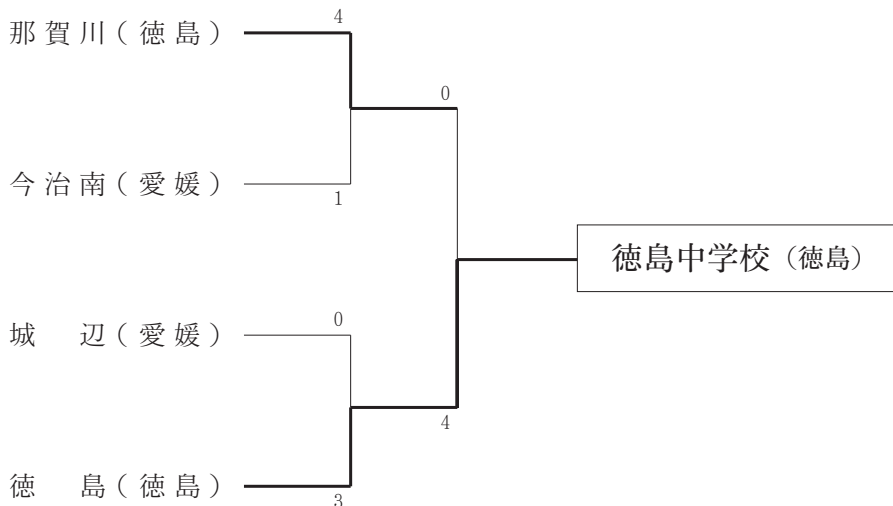
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝 敗	代表戦
那賀川 (徳島)	朝 桐	後 藤	田 上	福 本	大 城	$\frac{6}{4}$	
	⊗	⊖⊖	⊖		⊗⊗		
今 治 南 (愛媛)		⊗		⊗⊖		$\frac{3}{1}$	
	渡 邊	村上颯	河 上	村上悠	片 山		

準決勝 第3試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝 敗	代表戦
城 辺 (愛媛)	池 田	大 森	児 島	安 岡	高 平	$\frac{0}{0}$	
徳 島 (徳島)	⊗	⊗⊖	⊗⊖			$\frac{5}{3}$	
	大 空	松本尊	岩 原	江 口	松本喜		

決 勝 第1試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝 敗	代表戦
那賀川 (徳島)	朝 桐	後 藤	田 上	福 本	大 城	$\frac{1}{0}$	
					⊗		
徳 島 (徳島)	⊖⊗	⊗	⊖⊗	⊗⊗	⊗	$\frac{8}{4}$	
	大 空	松本尊	岩 原	江 口	松本喜		



決勝トーナメント〈女子〉

準決勝 第2試合場

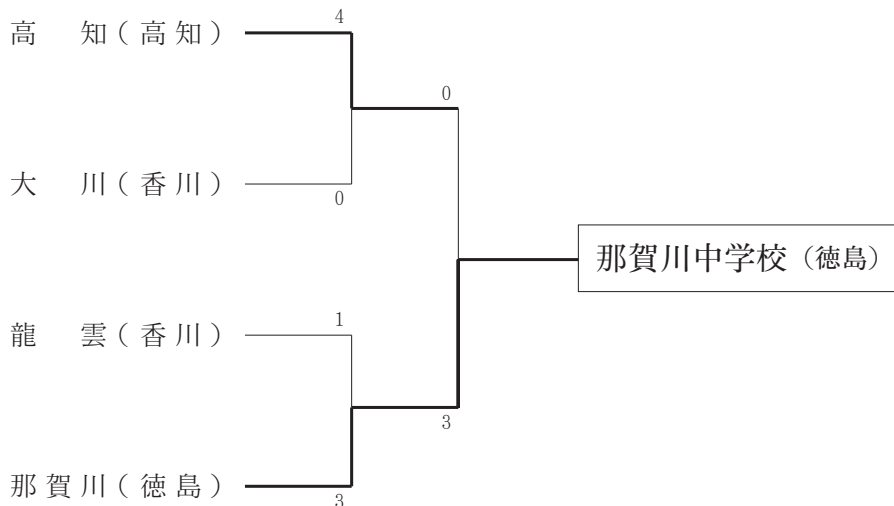
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
高知 (高知)	酒井	永野	塩見	間城友	木下	$\frac{5}{4}$	
	⊗	⊖	⊗		⊗⊖		
大川 (香川)				三好		$\frac{0}{0}$	
	大西	富田	玉井		山本		

準決勝 第4試合場

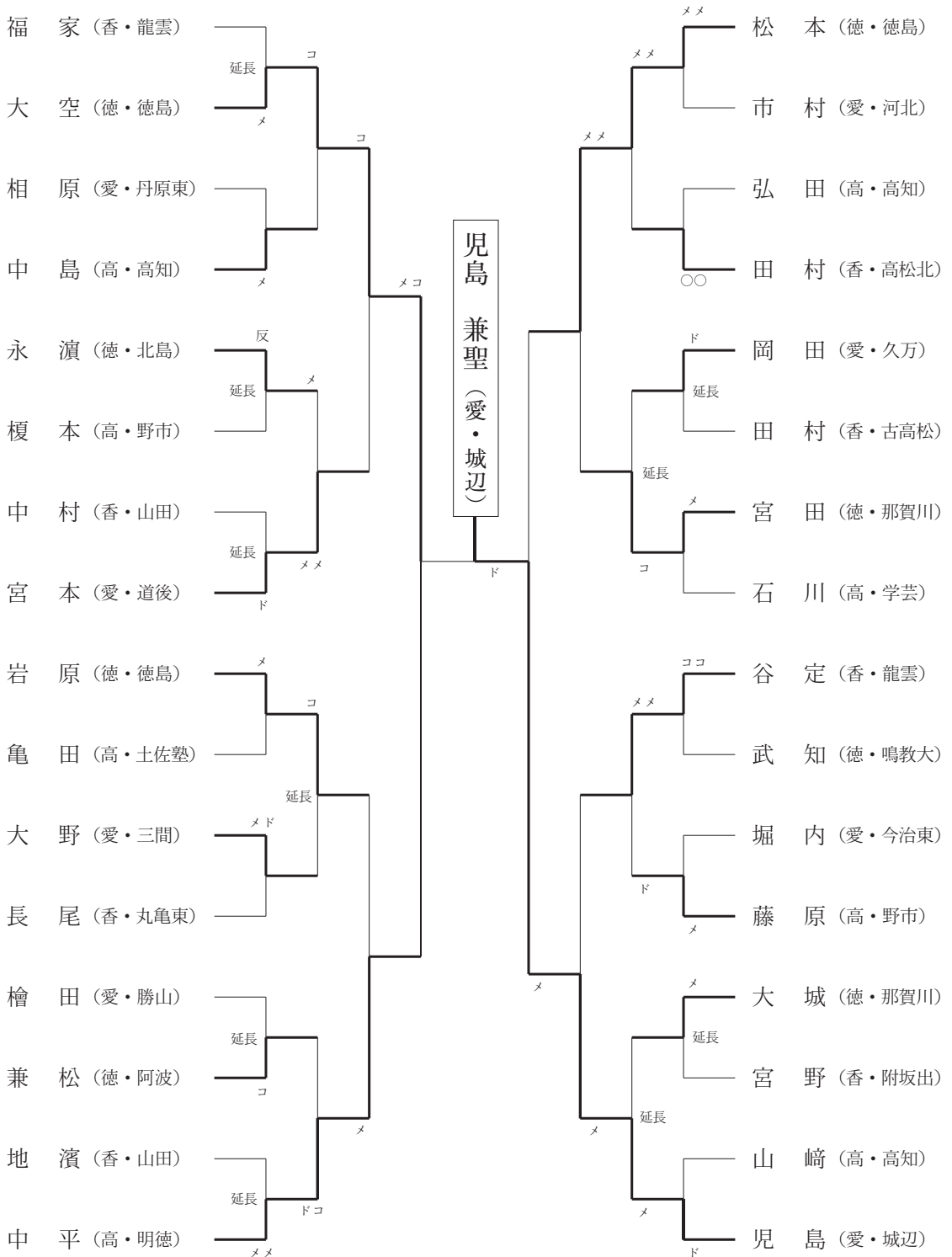
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
龍雲 (香川)	北野	長尾	椎崎	才田	田中	$\frac{1}{1}$	
					⊗		
那賀川 (徳島)	⊖	⊖⊗	⊗	岡崎	飯田	$\frac{4}{3}$	
	河野	山田	福田				

決勝 第2試合場

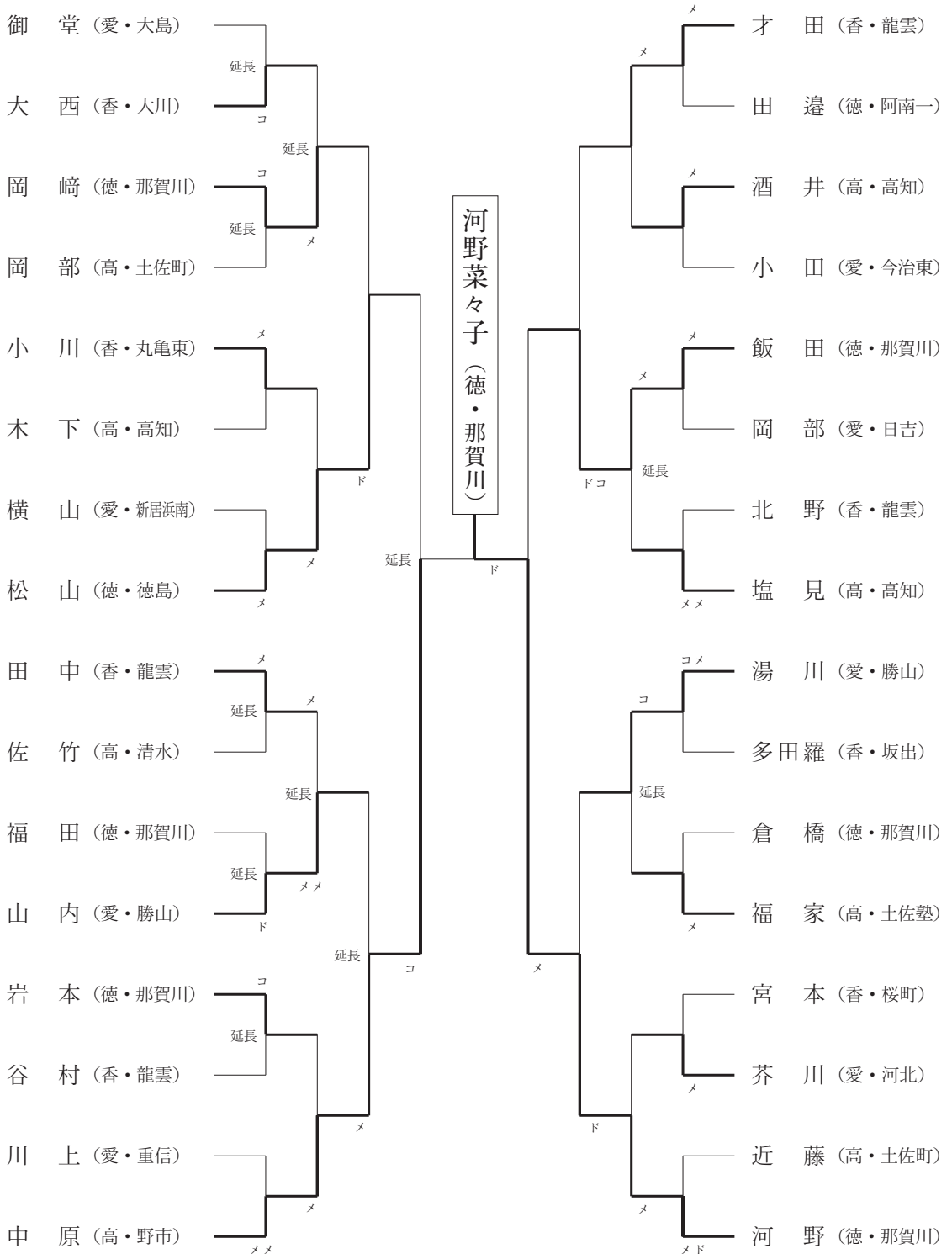
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
高知 (高知)	酒井	永野	塩見	間城友	木下	$\frac{0}{0}$	
那賀川 (徳島)	⊖	⊗	⊗	岡崎	飯田	$\frac{3}{3}$	
	河野	山田	福田				



個人戦〈男子〉

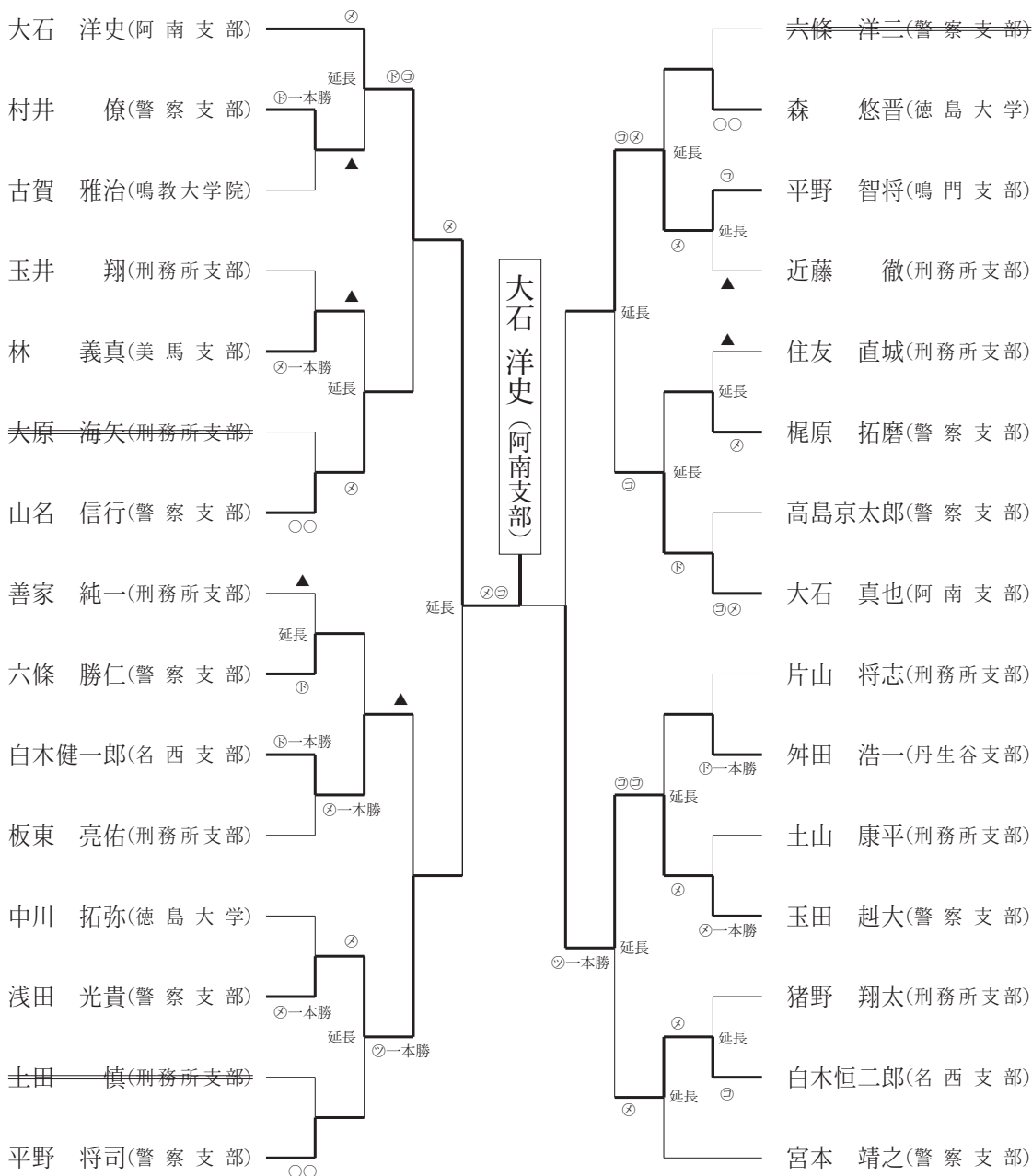


個人戦〈女子〉



第29回 徳島県剣道選手権大会並びに 第65回 全日本剣道選手権大会県予選会

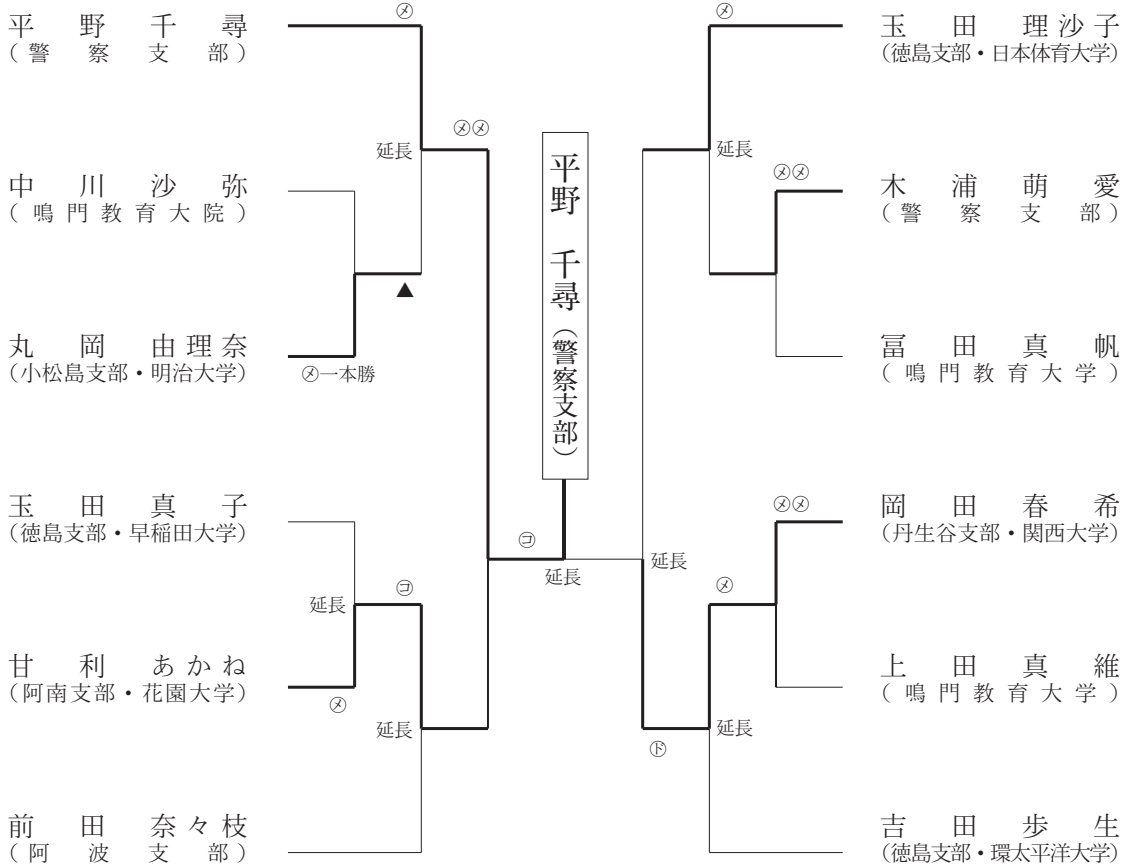
優勝 大石 洋史 (阿南支部)	日時 平成29年7月17日(月) 午前9時30分開会
準優勝 玉田 赳大 (警察支部)	場所 鳴門ソイジョイ武道館
第三位 浅田 光貴 (警察支部)	
第三位 平野 智将 (鳴門支部)	



第20回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第56回 全日本女子選手権大会県予選会

日時 平成29年7月17日(月) 午前9時30分開会
場所 鳴門ソイジョイ武道館

優勝 平野千尋 (警察支部)
準優勝 岡田春希 (丹生谷支部〈関西学院大学〉)
第三位 甘利あかね (阿南支部〈花園大学〉)
第三位 玉田理沙子 (徳島支部〈日本体育大学〉)



第38回 徳島県女子剣道大会

団 体 戦

日 時 平成29年 9 月 3 日(日) 午前 9 時30分
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

優 勝 警 桜 会

準優勝 徳 島 剣 美 会

第 3 位 川 島 高 校 剣 友 会 A

第 3 位 酔 剣

準 決 勝

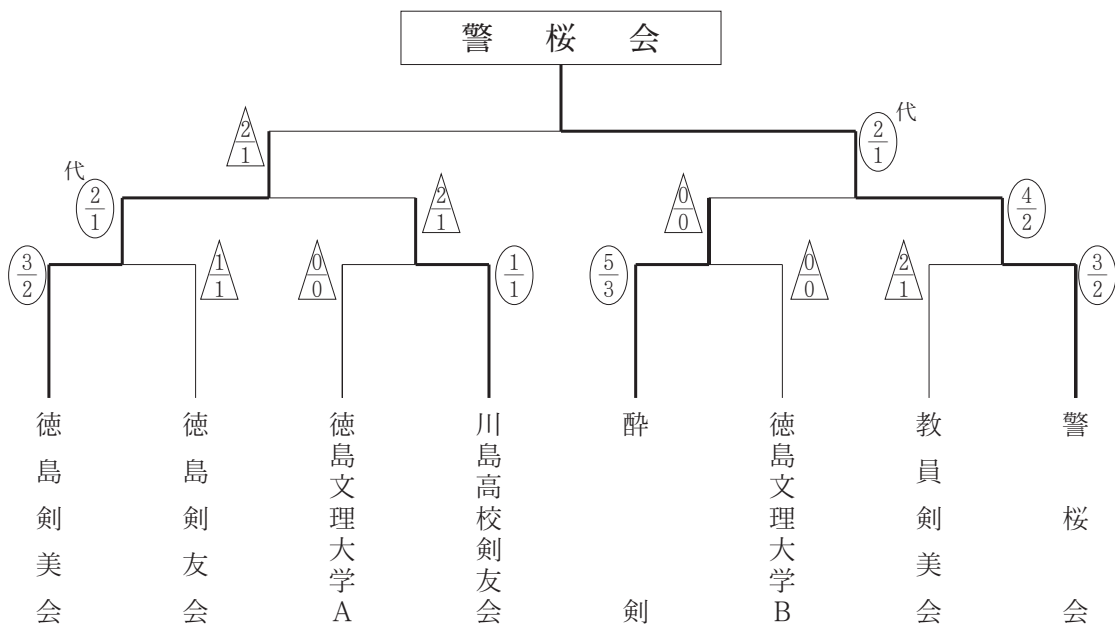
チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
徳島 剣美会	青木	山本	長地	山本	代 $\frac{2}{1}$
	⊗ ⊗	X		⊖	
川島高校 剣友会			X	⊗ ⊖	
	櫻木	井口		前田	前田

決 勝

チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
徳島 剣美会	青木	山本	長地	山本	$\frac{2}{1}$
	⊗ ⊗		▲		
警桜会		⊖ ⊖	X	⊗	代 $\frac{2}{1}$
	楠本	木浦		平野	

チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
酔 剣	栗野	市瀬	岩原		$\frac{0}{0}$
	X				
警桜会		X	⊗ ⊗	⊗ ⊗	
	楠本		木浦	平野	

決勝トーナメント



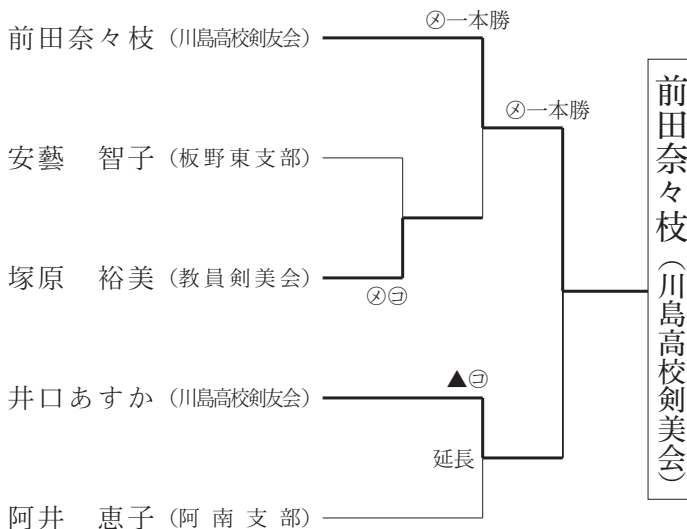
個人戦 〈区分1〉

優勝 山本千尋 (徳島剣美会)
 準優勝 岩原野地 (徳島剣美会)
 第三位 栗原長 (徳島剣美会)
 第四位 本原紗也香 (徳島剣美会)
 第五位 千尋也那景 (徳島剣美会)



個人戦 〈区分2〉

優勝 前田奈々枝 (川島高校剣美会)
 準優勝 井口あすか (川島高校剣美会)



第48回 徳島県少年剣道錬成大会

予選リーグ (団体戦)

日 時 平成29年11月12日(日) 午前10時00分
場 所 松 茂 町 総 合 体 育 館

A	和 田 島 少 年 剣 道 ク ラ ブ	阿 南 少 年 剣 道 教 室	鴨 島 少 年 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
和 田 島 少 年 剣 道 ク ラ ブ		(4/3)	(4/2)	2	5	8	2	1
阿 南 少 年 剣 道 教 室	(0/0)		(1/0)	0	0	1	0	3
鴨 島 少 年 剣 道 教 室	(1/1)	(4/2)		1	3	6	1	2

B	養 武 館	土 成 剣 道 ス ポ ー ツ 少 年 団	鳴 門 少 年 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
養 武 館		(6/4)	(7/4)	2	8	13	2	1
土 成 剣 道 ス ポ ー ツ 少 年 団	(1/1)		(5/3)	1	4	7	1	2
鳴 門 少 年 剣 道 教 室	(1/1)	(1/0)		0	1	3	0	3

C	藍 住 剣 道 ス ポ ー ツ 少 年 団	木 頭 錬 心 館	加 茂 名 少 年 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
藍 住 剣 道 ス ポ ー ツ 少 年 団		(4/2)	(2/2)	1	4	6	1.5	1
木 頭 錬 心 館	(1/1)		(2/1)	0	2	5	0.5	3
加 茂 名 少 年 剣 道 教 室	(2/2)	(2/1)		0	3	4	1	2

D	誠 武 館 道 場	北 井 上 剣 道 教 室	吉 野 川 少 年 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
誠 武 館 道 場		(3/2)	(9/5)	2	7	12	2	1
北 井 上 剣 道 教 室	(2/2)		(5/3)	1	5	7	1	2
吉 野 川 少 年 剣 道 教 室	(0/0)	(1/1)		0	1	2	0	3

E	徳 島 少 年 剣 道 教 室	大 麻 錬 成 館	海 部 川 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
徳 島 少 年 剣 道 教 室		(6/3)	(5/2)	2	5	11	2	1
大 麻 錬 成 館	(0/0)		(2/0)	0	0	3	0	3
海 部 川 剣 道 教 室	(1/2)	(4/2)		1	4	8	1	2

F	那 賀 川 剣 道 教 室 わ か あ ゆ 会	松 茂 少 年 剣 道 教 室	脇 町 少 年 剣 道 教 室	勝	勝	得	点	順
				数	者 数	本 数	数	位
那 賀 川 剣 道 教 室 わ か あ ゆ 会		(8/4)	(6/4)	2	8	14	2	1
松 茂 少 年 剣 道 教 室	(0/0)		(2/2)	0	2	3	0	3
脇 町 少 年 剣 道 教 室	(0/0)	(4/2)		1	2	4	1	2

予選リーグ (団体戦)

G	石井少年剣道クラブ	鷺敷振武館	佐古剣道クラブ	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
	石井少年剣道クラブ	$\frac{5}{3}$	$\frac{8}{4}$	2	7	13	2	1
	鷺敷振武館	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$	1	4	6	1	2
	佐古剣道クラブ	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$	0	1	2	0	3

H	鳴門市光武館	阿波少年剣道教室	松紀和会道場	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
	鳴門市光武館	$\frac{8}{4}$	$\frac{4}{3}$	2	7	12	2	1
	阿波少年剣道教室	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	0	0	3
	松紀和会道場	$\frac{3}{2}$	$\frac{8}{5}$	1	7	11	1	2

I	渭東少年剣道教室	新野少年剣道教室	剣道板野道場	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
	渭東少年剣道教室	$\frac{8}{4}$	$\frac{10}{5}$	2	9	18	2	1
	新野少年剣道教室	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{4}$	1	4	4	1	2
	剣道板野道場	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$	0	1	1	0	3

J	小松島少剣クラブ	上浦剣道教室	北島少年剣道教室	相生龍虎館	勝	勝	得	点	順
					数	者数	本数	数	位
	小松島少剣クラブ	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{5}{3}$	3	6	10	3	1
	上浦剣道教室	$\frac{1}{0}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{6}{3}$	2	6	12	2	2
	北島少年剣道教室	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{4}{2}$	1	2	6	1	3
	相生龍虎館	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	0	2	3	0	4

準決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
藍住スポーツ少年団	山名	谷口	三宅	三宅	永浜		$\frac{2}{1}$
					⊗		
誠武館道場	一本勝	一本勝	一本勝	一本勝			$\frac{4}{4}$
	井川	石川	蔭山	濱岡	富永		

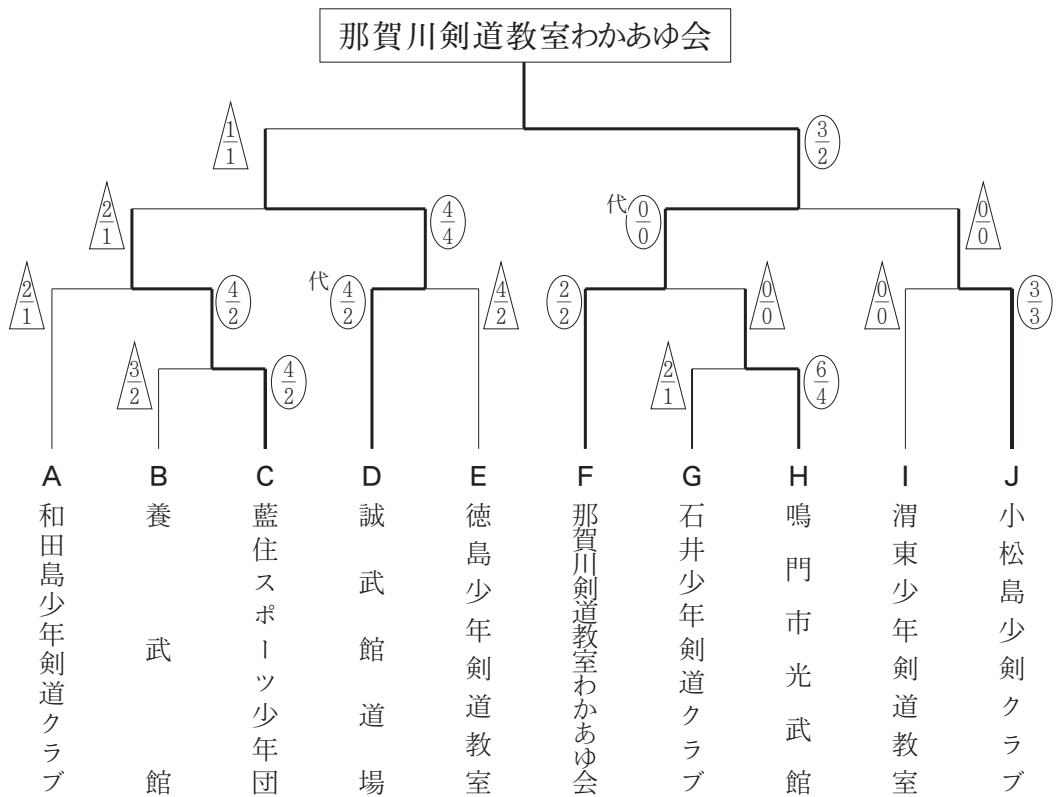
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
那賀川剣道教室わかあゆ会	倉橋	羽坂	岩佐	山崎	栗田	栗田	$\frac{0}{0}$
						⊗	
小松島少剣クラブ	橋本	桑田	川口	小山田	武蔵	武蔵	$\frac{0}{0}$

決勝戦 (団体戦)

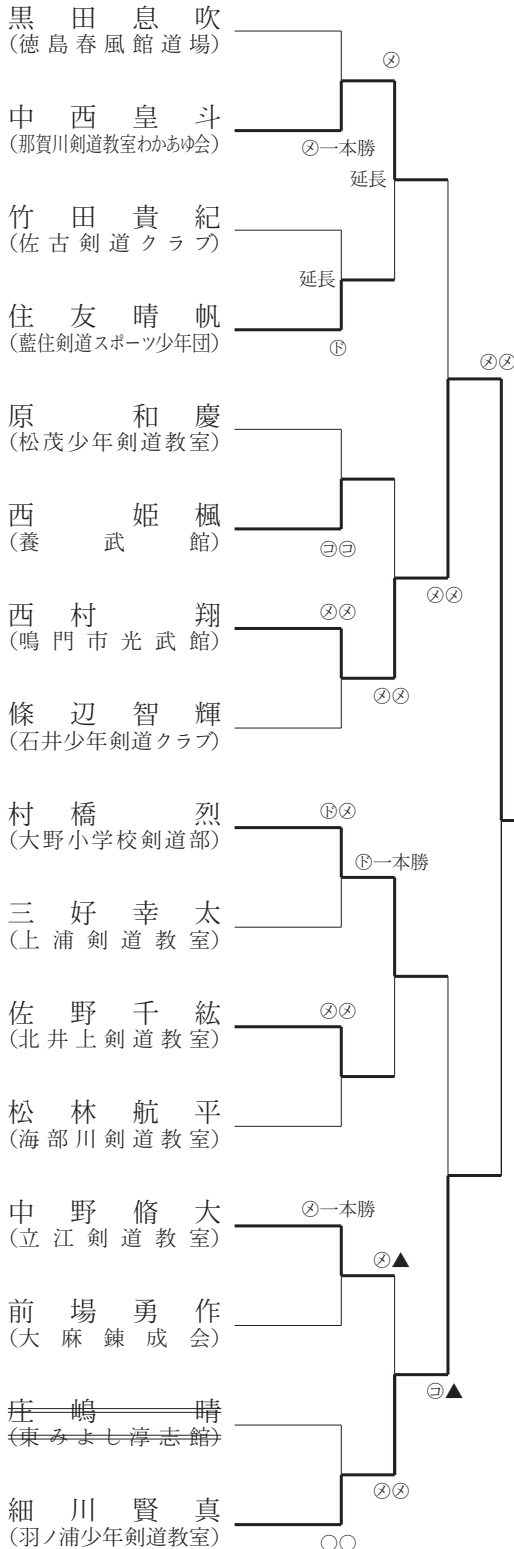
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
誠武館道場	井川	石川	蔭山	濱岡	富永		△ 1 1
		⊖ 一本勝					
那賀川 剣道教室 わかあゆ会	⊗ 倉橋	⊗ 羽坂			一本勝 ⊕ 栗田		○ 3 2

優勝 那賀川少年剣道教室わかあゆ会
 準優勝 誠武館道場
 第3位 小松島少剣クラブ
 第3位 藍住スポーツ少年団

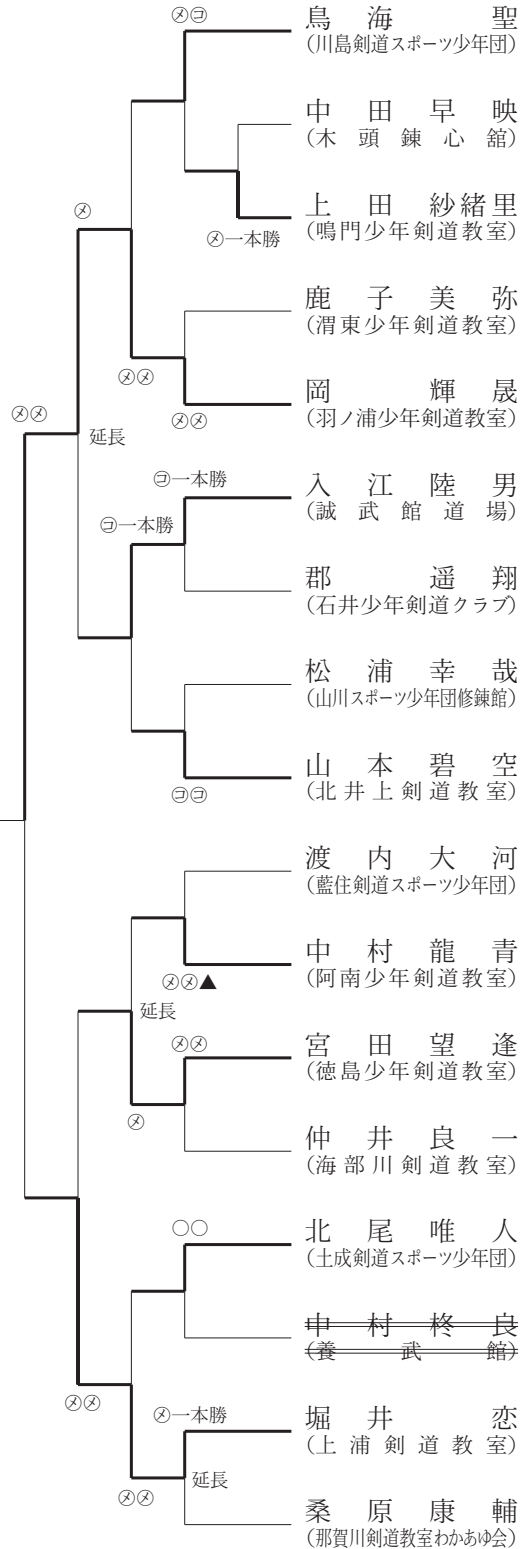
決勝トーナメント



〈個人戦B組〉

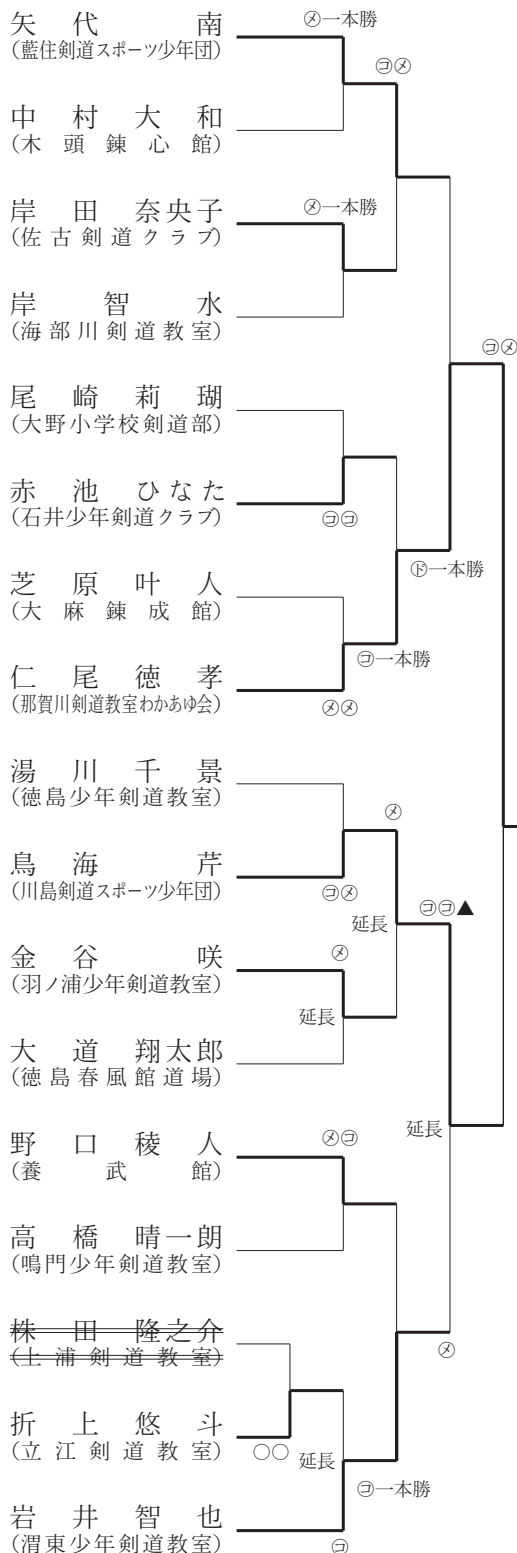


〈個人戦A組〉

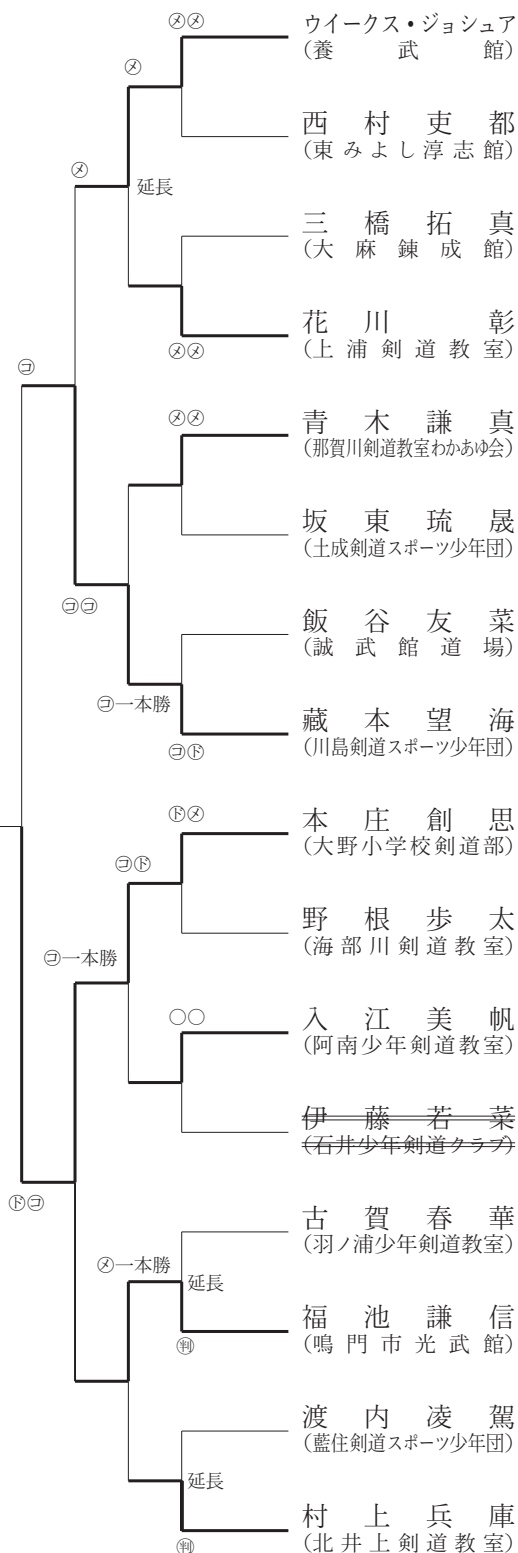


〈個人戦D組〉

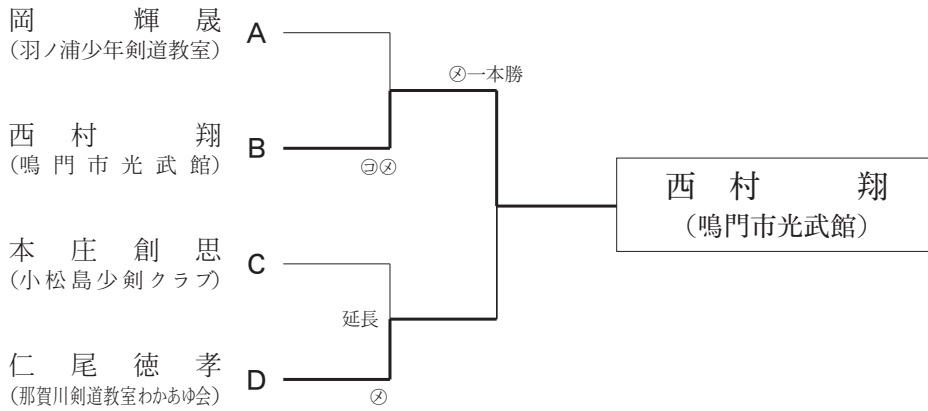
〈個人戦C組〉



仁尾 徳孝 (那賀川剣道教室わかあゆ会)



決勝戦（個人戦）



優勝 西 村 翔 (鳴門市光武館)

準優勝 仁 尾 徳 孝 (那賀川剣道教室わかあゆ会)

第三位 本 庄 創 思 (大野小学校剣道部)

第三位 岡 輝 晟 (羽ノ浦少年剣道教室)

第45回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日時 平成29年11月26日(日) 午前10時00分
場所 那賀川スポーツセンター

A	北井上剣道教室	小松島 B	阿波支部 C	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
北井上剣道教室		$\frac{3}{1}$	$\frac{6}{4}$	1	5	9	1.5	2
小松島 B	$\frac{3}{1}$		$\frac{6}{4}$	1	5	9	1.5	1(代)
阿波支部 C	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		0	0	1	0	3

B	美馬支部 A	鳴門支部	名西 B	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
美馬支部 A		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	0	0	3
鳴門支部	$\frac{5}{3}$		$\frac{3}{2}$	1	5	8	1.5	2
名西 B	$\frac{5}{4}$	$\frac{3}{2}$		1	6	8	1.5	1

C	海部剣友会	阿南支部 A	東内道場	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
海部剣友会		$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{1}$	0	1	3	0	3
阿南支部 A	$\frac{10}{5}$		$\frac{7}{4}$	2	9	17	2	1
東内道場	$\frac{6}{3}$	$\frac{1}{1}$		1	4	7	1	2

D	鷲敷振武館	美馬支部 B	刑務所支部 B	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
鷲敷振武館		$\frac{7}{4}$	$\frac{2}{2}$	2	6	9	2	1
美馬支部 B	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{0}$	0	0	1	0	3
刑務所支部 B	$\frac{1}{1}$	$\frac{8}{4}$		1	5	9	1	2

E	阿波支部 B	徳大医学部 OB	月曜会 A	小松島 A	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
阿波支部 B		$\frac{4}{2}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{1}$	2	4	9	2	2
徳大医学部 OB	$\frac{3}{1}$		$\frac{3}{3}$	$\frac{5}{1}$	1	5	11	1	3
月曜会 A	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{5}{2}$	0	4	7	0	4
小松島 A	$\frac{5}{3}$	$\frac{6}{1}$	$\frac{7}{2}$		3	6	18	3	1

F	名西 A	板野東支部	徳島支部	三好支部	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
名西 A		$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{8}{5}$	3	9	14	3	1
板野東支部	$\frac{2}{1}$		$\frac{1}{1}$	$\frac{6}{4}$	1	6	9	1	3
徳島支部	$\frac{1}{1}$	$\frac{5}{3}$		$\frac{5}{2}$	2	6	12	2	2
三好支部	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	1	3	0	4

予選リーグ

G	小松島少剣クラブ	美馬支部 C	麻植支部	勝者数	勝本数	得点数	点位数	順位
小松島少剣クラブ		(5/2)	(4/3)	2	5	9	2	1
美馬支部 C	(3/2)		(5/3)	1	5	8	1	2
麻植支部	(0/0)	(2/1)		0	1	2	0	3

H	阿波支部 A	小松島支部 B	上八万絆剣道倶楽部	勝者数	勝本数	得点数	点位数	順位
養武館		(3/3)	(1/0)	1	3	4	1	2
海部支部	(0/0)		(2/1)	0	1	2	0	3
阿波支部 A	(2/1)	(5/3)		2	4	7	2	1

I	月曜会 B	大塚製薬	阿南支部 B	勝者数	勝本数	得点数	点位数	順位
月曜会 B		(3/2)	(2/1)	1	3	5	1	2
大塚製薬	(2/1)		(3/1)	0	2	5	0	3
阿南支部 B	(3/1)	(4/2)		2	3	7	2	1

J	刑務所支部 A	藍住剣道 S S	小松島 C	勝者数	勝本数	得点数	点位数	順位
刑務所支部 A		(7/4)	(5/3)	2	7	12	2	1
藍住剣道 S S	(1/0)		(1/1)	0	1	5	0	3
小松島 C	(0/0)	(7/4)		1	4	7	1	2

準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島 B	上田	堀田	福本	園田	松本		0/0
阿南支部 A	(⊗) 大石洋	(⊗) 大石真	(⊗) 敦賀	一本勝 (⊖) 臼木	(⊗) 河田		9/5

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
名西 A	林	白木健	近藤	小川	白木洋		2/1
徳島刑務所 A	(⊗) 一本勝 玉井	(⊗) 一本勝 片山	▲	(⊗) 井口			4/3

決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
阿南支部 A	大石洋	大石真	敦賀	臼木	河田		$\frac{3}{1}$
	X	☹	X	X	☒ ☹		
徳島刑務所 A	X	☺	X	X			$\frac{1}{0}$
	玉井	片山	小野	井口	宮本		

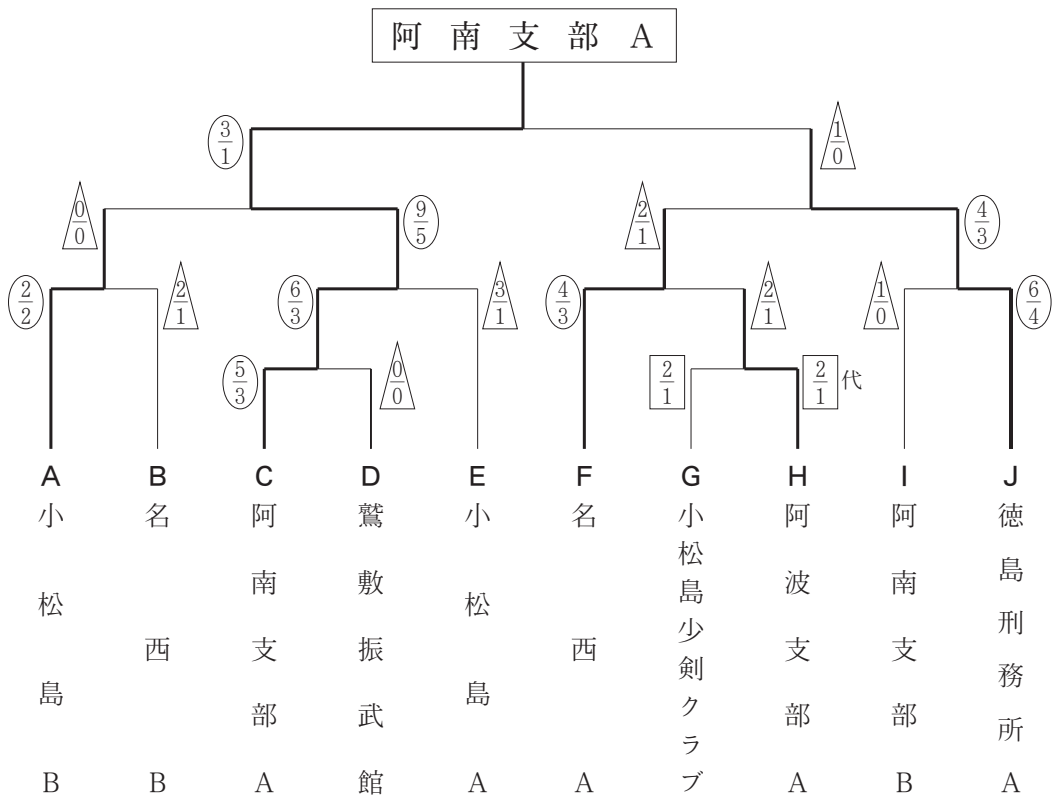
優勝 阿南支部 A

準優勝 徳島刑務所 A

第3位 小松島 B

第3位 名西 A

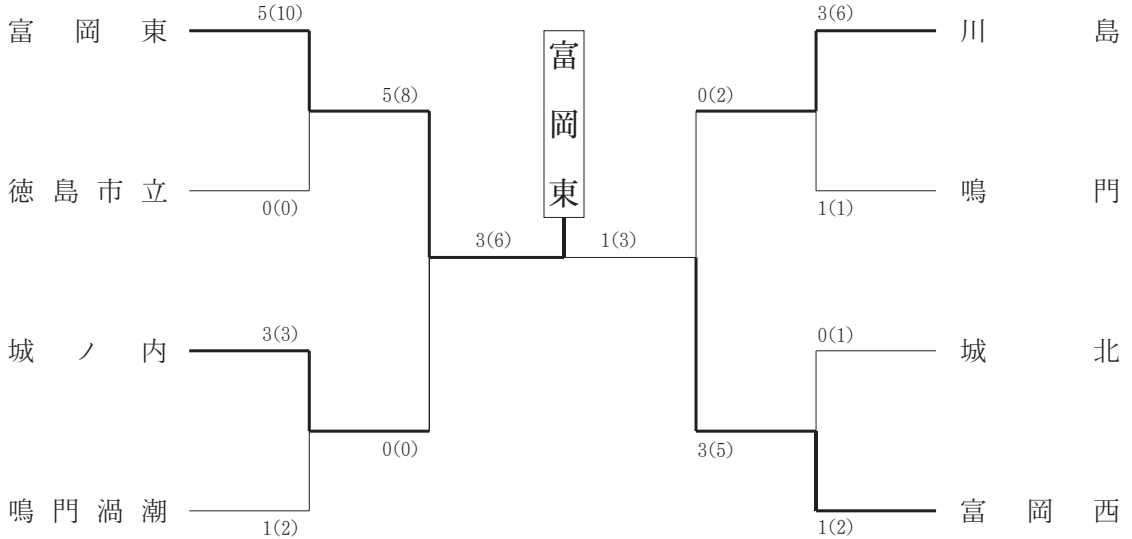
決勝トーナメント



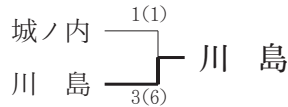
第62回男子・第52回女子 徳島県高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選会

女子の部

日 時 平成30年1月14日(日) 午前9時30分
場 所 那賀川スポーツセンター



順位決定戦



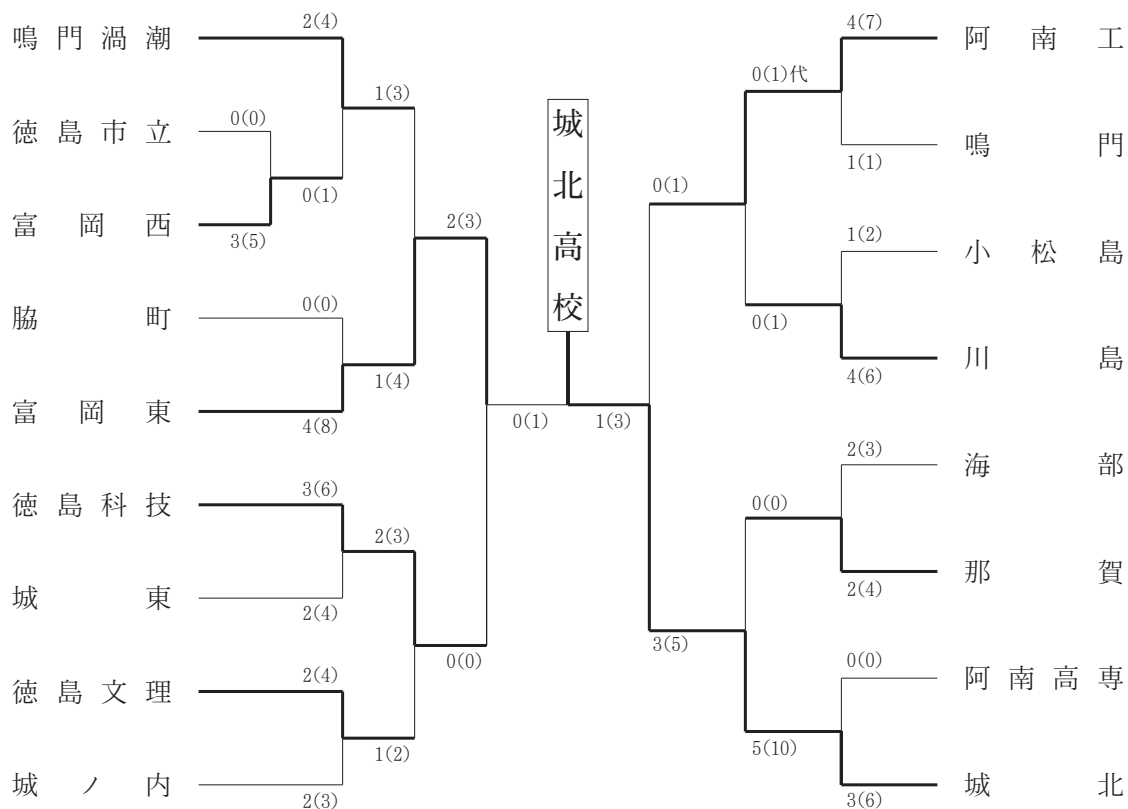
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	朝田	堀出	明口	堺	大城	3	6	
	⊗ ⊗	▲ ⊗	⊗ ⊗	一本勝	⊗			
富岡西	⊗ ⊗				⊗	1	3	
	川田	儀宝	大山	藤原	橋本			

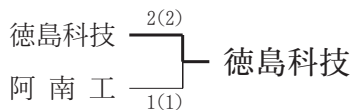
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城ノ内	峰		福井		井内	1	1	
			⊗ ⊗		一本勝			
川島	⊗ ⊗	○ ○	⊗ ⊗	○ ○		3	6	
	岩崎	坂井	出原	篠原	松下			

男子の部



順位決定戦



〈男子の部〉

決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	松山	原	朝田	齋	大後藤	0	1	
	▲	⊗						
城北	鎌田	小山田	富田	吉田	矢野	1	3	
		⊖	⊗					

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島科技	工藤	島田	井内	披田	大青井	2	3	
	⊗	⊗	一本勝					
阿南工	河野	上条	吉岡卓	吉岡有	富永	1	1	
					一本勝			

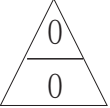

第28回 徳島県中学校剣道強化錬成大会

日 時 平成30年 1月20日(土) 午前10時00分開会
場 所 松 茂 町 総 合 体 育 館


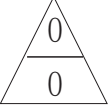
[団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	小 松 島 中 学 校	徳 島 中 学 校
第 3 位	石 井 中 学 校	江 原 中 学 校
第 3 位	那 賀 川 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校

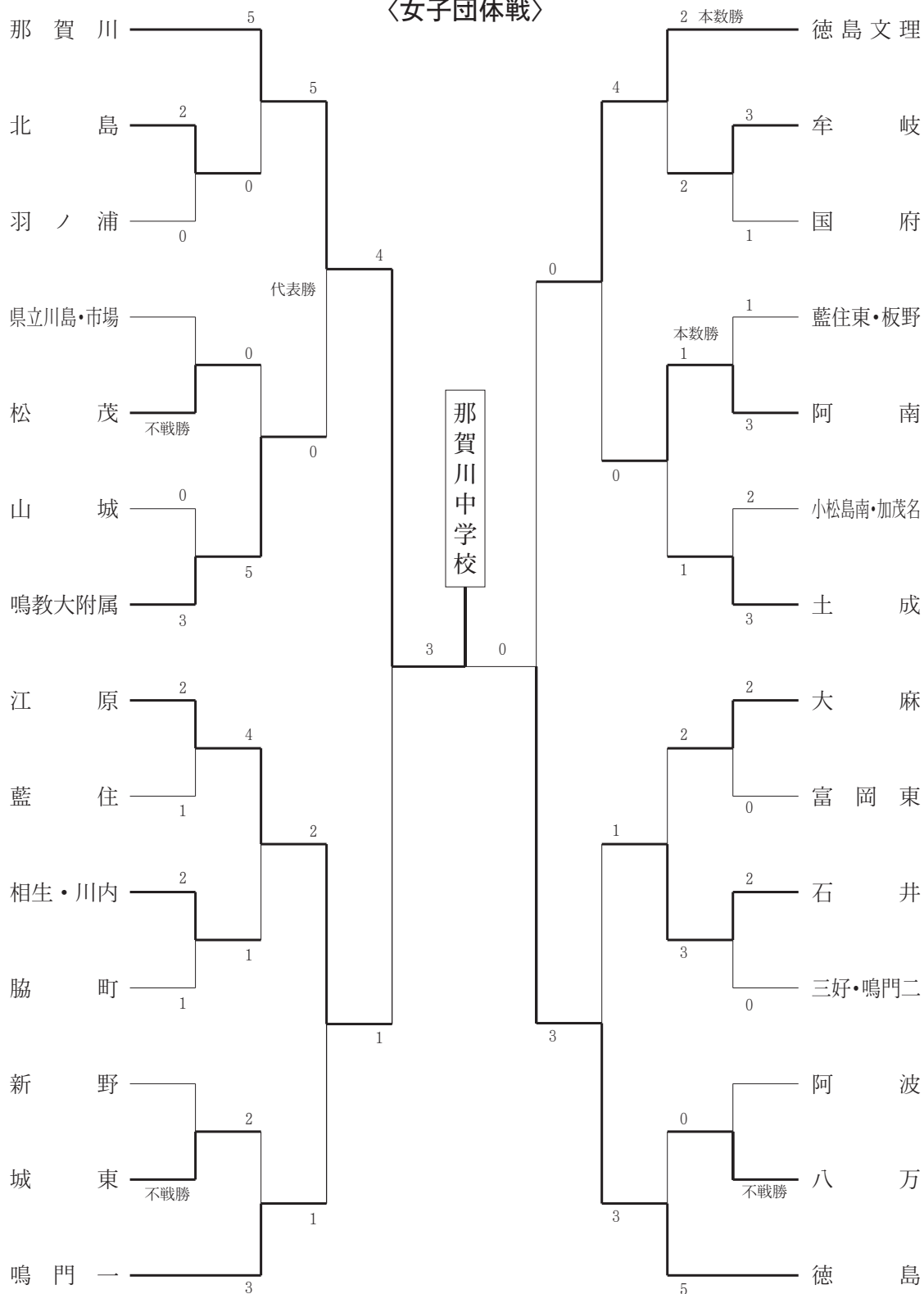
[男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
小 松 島	松 田	松 本	原	桂	岩 谷		
	X						
徳 島		ⓇⓇ	ⓧ	ⓧ	ⓧⓧ		
	篠 原	千 葉 陸	添 木	千 葉 翔	松 本		

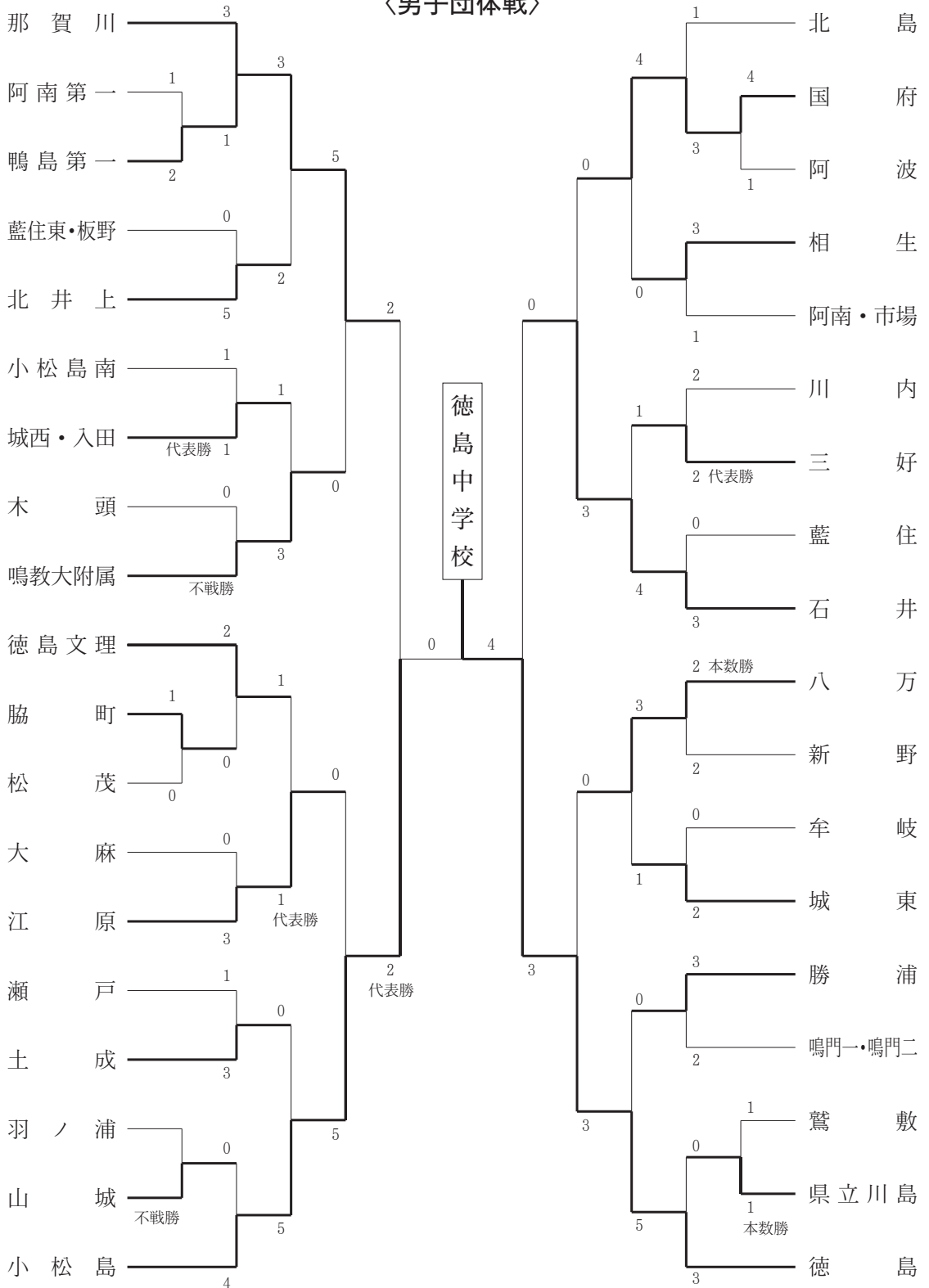
[女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
那 賀 川	岩 本	倉 橋	山 田	松 葉	河 野		
	X		ⓧⓇ			Ⓣ	
徳 島							
	松 山	赤 川	吉 田	篠 原	岩 原		

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



徳島新聞に見る戦いの跡

小学 徳島 A 高学年 佐古 優勝

剣道



徳島市スポーツ少年団交流大会団体低学年を制した徳島少年剣道教室A

第2回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月12日・徳島市B&G海洋センター)が行われ、白熱した攻防繰り広げた。少年団交流大会(2月12日・徳島市B&G海洋センター)が行われ、白熱した攻防繰り広げた。少年団交流大会(2月12日・徳島市B&G海洋センター)が行われ、白熱した攻防繰り広げた。



高学年で優勝した佐古剣道クラブ

高学年で優勝した佐古剣道クラブ。高学年で優勝した佐古剣道クラブ。高学年で優勝した佐古剣道クラブ。高学年で優勝した佐古剣道クラブ。

全国弁論発表会

全日本剣道道場連盟主催

全日本剣道道場連盟主催の全国弁論発表会で、鳴門市の鳴門第二中学校2年、北林葵さん(14)が中学生の部の最優秀賞、同市の大津西小学校6年、西村葵さん(12)が小学生の部の優秀賞にそれぞれ輝いた。2人は周囲の支えがあったからこそ、剣道を通して成長できたとの感謝の思いを述べた。

北林さん(鳴門)最優秀 西村さん(大津)優秀賞

発表会は2月26日に、出合って、礼節と、他都内で開かれ、鳴門市人を思いやることを学光武館に所属する2人「んだ」と主張。病床の祖は県予選、四国地区大会で新人戦優勝の報告会とともに1位で通過。試合に負けても励まし、全国9ブロックの「試合に負けても励まし、文章力や表現し続けてくれた祖母の力を競った。北林さんは「剣道とえになれる人間へと成長した」と結んだ。



全国弁論発表会で最優秀賞に選ばれた北林さん(右)、優秀賞に輝いた西村さん(左) 都内

「周囲の支えに感謝」

長したい」と結んだ。もやもや病という脳の血管の病気を抱える西村さんは、両親を説得して4年生の時に剣道を始めることができた。夢は小学校の先生になることで、「病气だから諦めなかったからこそ、剣道と出会え、自分が成長できた経験子どもたちに教えた」と訴えた。受賞について、北林さんは「アドバイスをしてくれた道場の先生のおかげで、西村さんは「支えてくれた両親や道場の仲間への恩返しになった」と喜んでる。(石川浩行)



男子決勝・富岡西対徳島文理 次鋒戦でメを定める富岡西の井地岡(那須川スポーツセンター) 秋百修撮影

第57回徳島県高校総合体育大会(県教委、県高体連主催、徳島新聞社など後援)第2日は3日、各地で23競技が並び、団体10競技で優勝校が決まった。剣道の男子は富岡西が13年ぶり19度目の優勝を果たし、女子は富岡東が4年連続で22度目の頂点に立った。柔道女子は生光学園が初優勝し、男子は阿波が5年連続18度目の栄冠。テニス男子は徳島商が4年ぶり11回目の優勝、女子は城南が15連覇を成し遂げ、通算の優勝回数を20とした。少林寺拳法

【第57回】 県高校総体

第2日

の男子はつづきが初優勝し、女子は穴吹が4年連続11度目の栄冠を獲得した。ウエトリフティングの鳴門渦潮は2年連続2度目、レスリングの池田は5年連続14度目V。ボクシングは青川が制した。1校だけの出場となったボートは徳島市立、カヌーは那賀、フエントンは城ノ内が男女とも優勝。陸上は全走り幅跳びの木村実海(つるぎ)と女子400バレルの城南、鳴門渦潮が大大会記録を出した。第3日の4日は26競技が行われる。

富岡西 13年ぶりV

女子は富岡東4年連続

剣道

男子団体1回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体2回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体3回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体4回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体5回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体6回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体7回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体8回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体9回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮	男子団体10回戦 勝者3 ○徳島商 〇鳴門渦潮 1小松原 〇阿波 〇徳島商 2 〇徳島商 〇鳴門渦潮 3 〇徳島商 〇鳴門渦潮 4 〇徳島商 〇鳴門渦潮 5 〇徳島商 〇鳴門渦潮 6 〇徳島商 〇鳴門渦潮 7 〇徳島商 〇鳴門渦潮 8 〇徳島商 〇鳴門渦潮 9 〇徳島商 〇鳴門渦潮 10 〇徳島商 〇鳴門渦潮
---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

チーム力で混戦制す 富岡西

実力仲の男子団体が全勝初符をつかんだのは、4月の県選で長年を制し、勢いに乗る富岡西だった。選手は「努力が報われた」と泣きじゃくり、抱き合ったり喜びをかみしめた。中盤が本負けして追いつかれても、副将の後藤が得意なメを奪い、再びリード。2-1で出番が回ってきた先鋒の田上雄は「引き分けを狙ったら負け」と終始攻め、相打ちながら一瞬運くメンを決めて試合を締めた。(須見千次郎)

1本も奪われず

○4連覇を果たした富岡東女子は1回戦から決勝まで

1本も奪われず

となく完勝した

先鋒の富岡東

は1-0で次鋒の鳴門

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

は1-0で

2017年6月13日

低学年 渭東 V 高学年 那賀川 団体

剣道

第17回堀金旗争奪少年大会・小松島少剣クラブ創立43周年記念(5月28日・小松島市立体育館)



堀金旗争奪少年大会 団体小学高学年で優勝した那賀川剣道教室わかあゆ会A



低学年1位の渭東少年剣道教室

は団体43チーム、個人240人が白熱した攻防を繰り広げた。団体小学低学年は渭東少年剣道教室(先鋒Ⅱ辻村湧人、次鋒Ⅱ柏原健人、中堅Ⅱ田代朔也、副将Ⅱ柏原あこ)、大将Ⅱ鈴木葉)が、同高学年は那賀川剣道教室わかあゆ会A(先鋒Ⅱ羽坂颯真、次鋒Ⅱ桑原康輔、中堅Ⅱ倉橋秀汰、副将Ⅱ若佐ほか、大将Ⅱ栗田星舞)がそれぞれ制した。

【団体】小学低学年①渭東教室(徳島)②木頭練心館(那賀川)③徳島少剣(小松島)④那賀川わかあゆ会A(同高学年)⑤那賀川わかあゆ会A(同低学年)⑥那賀川わかあゆ会B(同低学年)⑦那賀川わかあゆ会C(同低学年)⑧那賀川わかあゆ会D(同低学年)⑨那賀川わかあゆ会E(同低学年)⑩那賀川わかあゆ会F(同低学年)⑪那賀川わかあゆ会G(同低学年)⑫那賀川わかあゆ会H(同低学年)⑬那賀川わかあゆ会I(同低学年)⑭那賀川わかあゆ会J(同低学年)⑮那賀川わかあゆ会K(同低学年)⑯那賀川わかあゆ会L(同低学年)⑰那賀川わかあゆ会M(同低学年)⑱那賀川わかあゆ会N(同低学年)⑲那賀川わかあゆ会O(同低学年)⑳那賀川わかあゆ会P(同低学年)㉑那賀川わかあゆ会Q(同低学年)㉒那賀川わかあゆ会R(同低学年)㉓那賀川わかあゆ会S(同低学年)㉔那賀川わかあゆ会T(同低学年)㉕那賀川わかあゆ会U(同低学年)㉖那賀川わかあゆ会V(同低学年)㉗那賀川わかあゆ会W(同低学年)㉘那賀川わかあゆ会X(同低学年)㉙那賀川わかあゆ会Y(同低学年)㉚那賀川わかあゆ会Z(同低学年)【個人】小学1・2年①近藤徳文(誠武道場)②橋本圭(小松島少剣)③上村優里(小松島少剣)④福岡鈴(木頭練心館)⑤福岡 應子陽史(渭東教室)⑥茨木 里音(徳島教室)⑦中野 颯(驚振武館)⑧桑田要加(小松島少剣)⑨津島健生(小松島少剣)⑩水松田守(加茂教室)⑪中川 尊(鴨島教室)⑫敢闘 松本泰利(木頭練心館)⑬米倉真央(徳島教室)⑭西村 清(鴨門市光武館)⑮徳部香花(渭東教室)⑯4年①鈴木葉(同)②秋山 鈴奈(鴨門市光武館)③大和優星(小松島少剣)④井上 裕貴(吉野川教室)⑤敢闘 岩本 輝(小松島少剣)⑥佐藤 博輔(吉野川教室)⑦高橋 椋子(藍住スポーツ少年団)⑧岡崎 輝也(吉野川教室)⑨5年①島海 岸(川島スポーツ少年団)②山下 悠(人(木頭練心館)③三宅 遼(藍住スポーツ少年団)④大塚 博斗(鴨門市光武館)⑤若井 智也(渭東教室)⑥敢闘 片岡 恭(同)⑦長尾 紗弥(松和会道場)⑧徳島 麻衣海(川島少剣)⑨渡辺 大(和島少剣)⑩三宅 遼(和島少剣)⑪三宅 遼(和島少剣)⑫三宅 遼(和島少剣)⑬三宅 遼(和島少剣)⑭三宅 遼(和島少剣)⑮三宅 遼(和島少剣)⑯三宅 遼(和島少剣)⑰三宅 遼(和島少剣)⑱三宅 遼(和島少剣)⑲三宅 遼(和島少剣)⑳三宅 遼(和島少剣)㉑三宅 遼(和島少剣)㉒三宅 遼(和島少剣)㉓三宅 遼(和島少剣)㉔三宅 遼(和島少剣)㉕三宅 遼(和島少剣)㉖三宅 遼(和島少剣)㉗三宅 遼(和島少剣)㉘三宅 遼(和島少剣)㉙三宅 遼(和島少剣)㉚三宅 遼(和島少剣)㉛三宅 遼(和島少剣)㉜三宅 遼(和島少剣)㉝三宅 遼(和島少剣)㉞三宅 遼(和島少剣)㉟三宅 遼(和島少剣)㊱三宅 遼(和島少剣)㊲三宅 遼(和島少剣)㊳三宅 遼(和島少剣)㊴三宅 遼(和島少剣)㊵三宅 遼(和島少剣)㊶三宅 遼(和島少剣)㊷三宅 遼(和島少剣)㊸三宅 遼(和島少剣)㊹三宅 遼(和島少剣)㊺三宅 遼(和島少剣)㊻三宅 遼(和島少剣)㊼三宅 遼(和島少剣)㊽三宅 遼(和島少剣)㊾三宅 遼(和島少剣)㊿三宅 遼(和島少剣)

【団体】小学①誠武道場の主成剣少(中学男子)②北島の川③同玄④藍住東・北島・板野高

剣道

【個人】小学3年以下①由 田(土成剣少)②高松 倫(入田練成会)③市野 輝(北島少剣)④近藤 優文(誠武道場)⑤年①宮 昌(西北島少剣)②高橋 椋(藍住少)③小相 椋(土成剣少)④石川 真(松茂少剣)⑤5年①石川 真(誠武道場)②柳川 作(鴨門市)

2017年6月5日

2017年6月19日

永浜(小学生部) V 松本(中学生部)



板野防犯少年大会の入賞者

剣道

第24回板野防犯少年大会(6月4日・板野町体育センター)は板野署管内の小学5年から中学2年の教室、剣道部に所属する33人が参加して行われた。藍住スポーツ少年団の水浜 聡良(藍住西)が小学生の部、同じく松本 尊灯(徳島)が中学生の部をそれぞれ制した。小学

生の上位4人と中学生の上位3人が県防犯少年大会(7月28日・鴨門ソイジヨイ武道館)に板野署チームとして出場する。【小学生】①水浜 聡良(藍住西)②山登 実(岸上)③三宅 遼(藍住北)④敢闘 三宅 遼(藍住北)【中学生】①松本 尊灯(徳島)②水浜 聡良(北島)③四宮 翔太(北島)所属はすべて藍住スポーツ少年団

2017年6月26日

小学 小山田 中学 松山が制す

剣道

2017年度小松島署管内防犯少年大会(6月17日・小松島署武道場)は小、中学生の個人戦が行われた。小学生の部は小山田奈央、中学生の部は松山若樹の小松島少剣クラブ勢が制した。小学生の上位4人、中学生の上位3人が県防犯少年大会(7月28日・鳴門ソイシヨイ武道館)に小松島署チームとして出場す



小松島署管内防犯少年大会の入賞者

【小学】①小山田奈央(小松島) 渡辺沢巳(和田島之)③武蔵小春(少剣)④横手真祐(和田島之)⑤(小松島少剣)

2017年7月3日

徳島西防犯大会

【小学】①前野稔介(北井上教室)②長尾紗弥(松和会道場)③香川颯宏(加茂名教室)④遊邊大樹(佐々ラフ)

【中学】1・2年男子①庄嶋蓮②正口大紀③藤翔矢④3年①加藤貴②中川和幸③真鍋厚大

▽女子①寺野由莉②橋口萌葉③寺野仁美

小学5・6年の上位4人、中学1・2年の上位3人が県防犯少年大会(7月28日・鳴門ソイシヨイ武道館)に好警チームとして出場



徳島西防犯大会の入賞者

【小学】4年以下①野地奏②三井輝星③成川美光④5・6年①庄嶋晴②西村中郎③成川元稀④右元未咲希

【中学】1・2年男子①庄嶋蓮②正口大紀③藤翔矢④3年①加藤貴②中川和幸③真鍋厚大

▽女子①寺野由莉②橋口萌葉③寺野仁美

小学5・6年の上位4人、中学1・2年の上位3人が県防犯少年大会(7月28日・鳴門ソイシヨイ武道館)に好警チームとして出場

◆第20回徳島東防犯少年大会(6月24日・徳島警察学校体育館) 【小学】①森脇康生(渭東教室)②片岡恭一朗(徳島教室)③辻村優人(渭東教室)④佐藤輝和(徳島教室) 【中学】①金森陽大(鳴教大付)②藤原亮輝(徳島)③吉川真一(徳島文理)▽敢闘賞 添木陽仁(徳島教室) 小学生の上位4人と中学生の上位3人が県防犯大会(7月28日・鳴門ソイシヨイ武道館)に徳島東署チームとして出場



徳島東防犯少年大会の入賞者

鳴門防犯少年大会の入賞者



鳴門防犯少年大会の入賞者

◆第14回鳴門防犯少年大会(6月17日・鳴門市光武館場) 【小学】①豊田雄大(光武館)②岡崎進平(光武館)③紅蜜和輝(鳴門教室)④愛川諒(大塚練成会) 【中学】①秋山風汰(光武館)②炭宗汰(鳴門)③藤川愛叶(大塚)④米澤慎真(鳴門) 小学生の上位4人と中学生の上位3人が県防犯少年大会(7月28日・鳴門ソイシヨイ武道館)に鳴門署チームとして出場

全国中学校 体育大会

第3日

全国中学校体育大会第3日は19日、鹿児島市鴨池公園水泳プールなどで8競技が行われ、徳島県勢は女子板飛び込みの森岡さくら(国府)が2年連続で6位入賞した。剣

森岡(国府)6位

女子
板飛び込み

剣道女子 那賀川 8強逃す

競泳

道女子団体の那賀川は予選リーグ2勝で決勝トーナメントに進出したが、1回戦で敗れ、準々決勝進出を逃した。

鹿流(山口・垢田) 51秒53▽400
▽自由形東藤承太郎(埼玉・加納) 3分58秒41▽1000
▽背泳ぎ柳川大樹(神奈川・田浦) 56秒88▽大会新▽1000
▽平泳ぎ小泉龍馬(神奈川・富前平) 1分3秒23▽1000
▽バタフライ上海(千葉・東海大浦安) 54秒87
▽大会新▽2000
▽個人メドレー阿賀慎之介(東京・武蔵野) 2

分4秒71▽400
▽メドレー1宮前平(神奈川) 3分58秒07
【女子】1000
▽自由形池本風沙(京都・宇治) 56秒37▽400
▽自由形難波実夢(奈良・都南) 4分13秒33▽大会新▽1000
▽背泳ぎ泉原風沙(神奈川・鶴ヶ峰) 1分2秒01▽1000
▽平泳ぎ黒部和花(東京・大島) 1分10秒81▽1000
▽バタフライ内藤方愛(東京・浅間) 1分0秒25
▽2000
▽個人メドレー松本信歩(東京・東学大竹原) 2分17秒39▽400
▽メドレー武蔵野(東京) 4分24秒24

剣道

【男子】団体1次リーグ1組
(佐賀県総合体育館)
徳島 2-0 福手
山梨 2-2 徳島

【女子】団体1次リーグ1組
那賀川 3-0 米子北斗
那賀川 3-1 福取

▽決勝トーナメント1回戦
中野 3-2 那賀川
長崎

那賀川中・飯田奈々主将(団体決勝トーナメント1回戦で敗退。3年連続の16強入りにも)「ベスト8以上を狙っていた

石川愛海	4-2	工藤妃衣名
岡本紗彩	4-2	美馬未来音
北海道		山川
当麻		
長谷川日紀		宮田叶菜
伊藤千夏	4-1	三浦綾子
神奈川		市場
領家		



「で悔しい。勝てない試合ではなかったけど、相手のペースに合わせってしまった」



全日本少年少女武道錬成大会で敢闘賞を獲得した徳島少年剣道教室

徳島少年教室が敢闘賞



記録・情報は本社運動部まで
早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231
FAX (0120) 333414
メール awaspo@topics.or.jp

剣道

2017年度全日本少年少女武道錬成大会(7月22、23日・日本武道館)は1000チームが8フロクで熱戦を展開した。徳島からは徳島少年剣道教室(先鋒Ⅱ佐藤輝和、次鋒Ⅱ松下明、中堅Ⅱ古川はる、副将Ⅱ岡本耕太朗、大将Ⅱ片岡恭二朗)が出場、1回戦から順調に勝ち進み、準決勝で東大津剣道協会(大阪)に本教負けたが敢闘賞(銅メダル)を獲得した。

2017年度阿南中央ロータリークラブ杯争奪夏祭り少年大会(7月23日・阿南市武道館)は徳島県スポーツ少年団大会阿南市選考会を兼ねて行われた。団体低学年は那賀川教室と大野小が1位



【上】阿南中央ロータリークラブ杯争奪夏祭り少年大会で活躍した那賀川剣道教室わかあゆ会
【下】団体高学年を制した大野小学校剣道部

賀川剣道教室わかあゆ会(先鋒Ⅱ尾徳之進、中堅Ⅱ尾畑涼月、大将Ⅱ平松政樹)が、高学年は大野小学校剣道部(先鋒Ⅱ本庄創思、中堅Ⅱ尾崎莉瑚、大将Ⅱ村橋烈)がそれぞれ優勝。個人5・6年男子は栗田星舞、同女子は岩佐ほのかの那賀川剣道教室わかあゆ会勢がそれぞれ制した。

- 4年の上位2人、5・6年の男女各上位4人は県大会(12月3日・松茂総合体育館)に出場する。
- 【団体】低学年①那賀川教室わかあゆ会(新野教室)②阿南教室③高学年④大野小⑤那賀川教室わかあゆ会⑥羽ノ浦教室
- 【個人】新生⑦羽登那(那賀川教室わかあゆ会)⑧岡田蒼生(那賀川教室わかあゆ会)⑨秦泉寺流星(大野小)⑩大輝(那賀川教室わかあゆ会)⑪3年以下⑫阿井輝(阿南教室)⑬林坊(阿南教室)⑭大和霜(那賀川教室わかあゆ会)⑮中村瑠璃(阿南教室)⑯尾畑涼月(那賀川教室わかあゆ会)⑰森川凌太郎(阿南教室)⑱山本実加子(阿南教室)⑲甘利慧(新野教室)⑳5・6年男子①栗田星舞(那賀川教室わかあゆ会)②真橋秀汰(那賀川教室わかあゆ会)③羽坂真真(那賀川教室わかあゆ会)④村橋烈(大野小)⑤同女子⑥佐ほのか(那賀川教室わかあゆ会)⑦山崎光月(那賀川教室わかあゆ会)⑧四宮麗(阿南教室)⑨尾崎莉瑚(大野小)

2017年7月31日

小松島少剣ク 敢闘賞 低学年



若武者杯争奪少年錬成大会小学低学年団体が敢闘賞の小松島少剣クラブ

剣道

第13回若武者杯争奪少年錬成大会(7月2日・高知県春野総合運動公園)は四国のほか近畿、中国から156チームが参加、白熱した攻防を展開した。徳島県勢は小学低学年で小松島少剣クラブ(先鋒 大和優皇、次鋒 上村凌香、中堅 岩本響輝、副将 津島優生、大将 吉岡隼)が敢闘賞を獲得した。

徳島県関係
 △小学低学年予選 小松島少剣5-10市教室(高知)、小松島少剣2-1久米会(愛媛)▽小松島少剣2勝1決勝トーナメント進出
 △決勝トーナメント1回戦 小松島少剣3-2字和教室(愛媛)
 △2回戦 洗心道場(愛知)3-2小松島少剣
 ◆第2回うずしお杯
 (7月2日・北島小)

【小学】1・2年①中岡亮仁(誠武館道場)②近藤徳文(誠武館道場)③河野晃大(誠武館道場)

③中野楓椰(北島教室)▽3・4年①高松宏樹(入田錬成会)②岡西奏空(高松第一スポーツ少年団)③高嶋椋子(藍住スポーツ少年団)④米崎湧哉(板野道場)▽5・6年①長濱聡良(藍住スポーツ少年団)②三宅遼(藍住スポーツ少年団)③紅露和輝(鳴門教室)④山名采実(藍住スポーツ少年団)【中学】①井藤想真(北島)②明口湖雪(北島)③長濱幹大(北島)③河野翔太(北島)



記録・情報は本社運動部まで
早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231
FAX (0120) 333414
メール awaspo@topics.or.jp

総 合

◆第12回吉野川市民体育祭剣道
・居合道大会(8月6日・吉野川
市ふるさとセンター体育館)
【剣道】個人小学以下近
藤瑠太(上浦教室)②徳水唯芽
(上浦教室)③津田和央(上浦教
室)④岡崎那春(吉野川教室)⑤
3・4年①岡崎憲世(吉野川教
室)②佐藤謙輔(吉野川教室)③
四宮真一郎(鴨島教室)④
貴(吉野川教室)⑤6年①野
尻壮馬(山川修練館)②蔵本望流
(川島スポーツ少年団)③徳水唯
吹(上浦教室)④原田結輔(山川
修練館)⑤七條樹(吉野川教
室)⑥三頭伸(鴨島教室)⑦川
村典士(鴨島教室)⑧一般①株田
吉悟(上浦教室)②須野翔太(川
島スポーツ少年団)③花川智彦
(上浦教室)④本間佑太郎(吉野
川教室)
▽団体小学生①吉野川教室(先
鋒)②佐藤謙輔(次鋒)③坂東将太
朗(中堅)④上裕貴(副将)⑤岡崎



【上】吉野川市民体育祭剣道
・居合道大会の剣道団体小学生
で優勝した吉野川少年剣道教室
【下】個人の入賞者



嵩也、大将②真木琥太郎③山川
修練館 松浦幸哉、佐藤正理、原
田結輔、正木菜、野尻馬)③
上浦教室(近藤真貴、高田穂花)
花形 株田隆之介、徳水唯吹
【居合道】小学生①松本琉希②
大森春奈③森悠生④中学・高校
①松本涼楓②近藤紗羽③一般段
場。以下①林田美②徳山豊③小野和敏
▽5段以上①亀井淨裕②中尾鑑二
③森将夫④所属はすべて徹心道

2017年8月28日

養武館に栄冠 団体中学



阿士少年錬成大会中学団体を制した
養武館

剣 道

第45回記念阿士少年錬
成大会(8月17日・木頭
体育館)は小学生28団
体、中学生22団体の26
2人が熱戦を展開した。
団体中学は養武館が制し
た。個人小学1・2年は
阿井輝(阿南教室)、中
学1年は富田将太郎(北
井上中)がそれぞれ優勝
した。◇徳真関係の上位
◇徳真関係の上位
【団体】小学①那賀川教室わか
あゆ会②木頭錬心館小松島少剣
▽中学①養武館②相中③佐野
ラ
【個人】小学1・2年①阿井輝
(阿南教室)②橋本愛生(小松島
少剣)③大和友成(和田島クラ
ブ)④3・4年①富田真吾(北島
教室)②5・6年①橋本和馬(小
松島少剣)③原孝太郎(阿南教
室)④若尾ほのか(那賀川教室)わ
かあゆ会
▽中学1年①富田将太郎(北井
上中)②2年③野崎陸王(養武
館)④角元伸輔(阿南一中)

2017年9月4日

警校会が初の栄冠

県女子剣道
 剣道の第38回徳島県女子大会は3日、鳴門ソイジヨイ武道館で団体8チーム、個人19人が参加して行われ、団体は警校会(楠本、木浦、平野)が初優勝を飾った。個人の29歳以下は山本千尋(徳島剣美会)、30歳以上は

前田奈々枝(川島高剣友会)が制した。

【団体】向戦 徳島剣美会2 ○徳島剣友会、川島高剣友会1 ○徳島文理大、警校会2、1教員(代表)	【個人】29歳以下準々決勝 山本(徳島剣美会)メー、市瀬(徳島剣美会)メー、生田(日亜化学、長地(徳島剣美会)メー、高野(徳島文理大)メー、高野(徳島文理大)メー
警校会 1、1 徳島剣美会 楠本、木浦、平野	【個人】30歳以上準決勝 前田(川島高剣友会)メー、塚原(教員剣美会)、井口(川島高剣友会)メー、阿井(阿南支部)
○木浦 ツー、山本 ○平野 ツー、長地 ○平野 ツー、山本	岩原(警校会)メー、青木(徳島剣美会)メー、青木(徳島剣美会)メー、栗野(岩原)メー、栗野(岩原)メー
代表勝ち	山本、梅、岩原

2017年(平成29年)9月18日 月曜日

地域スポーツ (12)

渭東少年教室が制す



徳島市少年錬成大会団体で優勝した渭東少年剣道教室

剣道

第24回徳島市少年錬成大会(9月3日・徳島文理中高剣道場)は徳島市内の道場の小学生剣士が参加して行われ、白熱した攻防を展開した。団体

の部は渭東少年剣道教室が優勝した。

【団体】①渭東教室(先鋒||柏原健人、次鋒||辻村海人、中堅||鈴木康生、副将||辻村大、大将||鈴木康生) ②徳島教育北井上教室 ③敢闘賞 佐竹ララ

【個人】1・2年 ①栗本 黒音(徳島教室) ②藤原 輝(佐竹ララ)

③④賞のもの(佐竹ララ) ⑤敢闘賞 鹿子原史(渭東教室) ⑥4年の田村 翔也(渭東教室) ⑦高松宏樹(入田錬成会) ⑧相原 悠(渭東教室) 敢闘賞 岡本 望(徳島教室) ⑨6年の楠本 悠大(松和会道場) ⑩長尾紗弥(松和会道場) ⑪西林 篤志(加茂名教室) 敢闘賞 市はる(徳島教室)

あわ- スポーツ

記録・情報は本社運動部まで
 早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231
 FAX (0120) 333414
 メール awasp@topics.or.jp

2017年9月21日

(21) 地域・NIE

第3種郵便物認可

阿波っ子タイムズ 発行

阿波っ子タイムズ

はばたけ



昨年12月に鳴門市で開催された全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選で優勝した徳島中学校3年の岩原潤哉さん(14)。「徳島市津田町3」は、瞬発力を生かした攻めが持ち味だ。全国から50人が参加し、今年3月に名古屋市で開催された本選ではベスト16の順を残し、「もつと」上位に進みたかったが、強い選手にも勝って自信が「ついた」と充実感をにじませる。

高校の剣道部顧問を務める父靖人さん(46)に憧れ、小学3年のときに小松島少年剣道クラブ(小松島市)に入門した。竹刀の構え方や足さばきといった基礎的な練習を徹底的に繰り返して、市の大会で優勝するほどの実力をつけた。「より多くの試合に出て経験値を上げたい」と考え、

全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選で優勝

岩原潤哉さん(徳島 3 年)



クラブと部活動で剣道に励む岩原さん(徳島市の徳島中学校)

瞬発力生かした攻め 持ち味

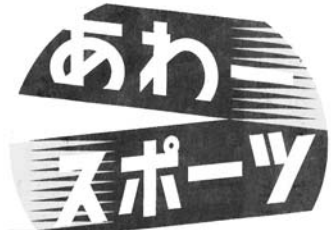
中学進学後は剣道部にも入った。部活動とクラブの両方の大会に出場する忙しい日々をやる。

試合では相手の竹刀や足の動きを敏感に捉え、「一気に攻めて勝利につなげる。面一本を決めるのが得意で、団体戦でもポイントゲッターとして活躍する。クラブの青木博志代表(55)も「お父さん譲りの芯の強さがあり、教えたことを吸収するのが早い」と太鼓判を押す。

一方守りは苦手。攻めに集中するあまり、かわすのが遅くなるという。「攻守両方のバランスが良くなければ勝てない。自分のベースを保ったブレイを心掛けない」と。練習では打ち合いを重ね、課題の克服に励む。高校、大学進学後も剣道を続け、全日本選手権に出場するのが目標だ。受験勉強との両立は大変だが「いつも支えてくれる両親や仲間へ感謝しながら、今できることを全力で向き合いたい」と力強く語った。(松村万由子)

那賀川わかあゆ会制す 5・6年

3・4年 小松島少剣ク 1・2年 阿南教室



記録・情報は本社運動部まで
早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231
FAX (0120) 333414
メール awaspo@topics.or.jp

剣道

第1回有賀杯争奪大会
(9月9日・阿南市大瀨)

武道館)は小学生の団体戦に64チームが参加、3グループで白熱した攻防を繰り広げた。5・6年

代王座に就いた。団体)5・6年の那賀川教室わかあゆ会A(先鋒)羽坂真貴、中堅川瀬秀汰、大将栗田星舞)の小松島少剣クラブA(養武

館A(鳴門市武館A)▽3・4年小松島少剣クラブ

A(先鋒)大和優真、中堅吉岡将、大将岩本舞輝)の野川教室A(阿南教室A)の鳴門市武館A(阿南教室B)の北井上教室



有賀杯争奪大会(上から)団体5・6年で優勝した那賀川教室わかあゆ会、準優勝の小松島少剣クラブA、3・4年で優勝した小松島少剣クラブA、1・2年で優勝した阿南教室

2017年10月4日

成年男子3回戦敗退

剣道

愛媛県武道館
 成年男子団体3回戦・
 徳島対広島 次鋒戦で
 果敢に攻め込む徳島の
 大石が愛媛県武道館

○加藤 ドメコ 大石
 ○福岡 メメコ 六條
 ○奥森 メイ 吉田
 山中 メモ 福多
 ▼決勝
 愛媛 3-1 愛知



「守りに入った」
 ○：「守りに入ってし
 まった。剣道成年男子
 の3回戦で、徳島は1
 3で広島に完敗。次鋒戦
 で敗れ、勝ちパターンに
 持ち込めなかった大石
 (徳島文理中)はがっく

りと肩を落とした。
 1、2回戦と同様、白木
 (城北高教)が先鋒戦を制
 し、流れを呼び込んだ。
 続く大石も先にコチを決
 めて主導権を握ったが、
 直後にドウを奪われて追
 い付かれ、延長戦ではメ
 を決められた。二本

取られたコチを引きずっ
 てしまったと悔やむ。
 流れを失った後、徳島
 は防戦一方に、中堅戦、
 副将戦を落として勝負が
 決まった。大石は「自分
 の責任、弱いところをも
 う一度鍛え直す」と言葉
 を振り絞った。

2017年10月9日

(27) 地域スポーツ

第3種郵便物認可

徳島



県小学生・中学生大会の入賞者ら

低学年 那賀川わかあゆ会 頂点 藍住少年団 高学年

剣道

第47回徳島県小学生・
 中学生大会(9月24日・
 徳島市立体育館)が行わ
 れ、白熱した攻防を繰り
 広げた。団体小学低学年
 は那賀川剣道教室わかあ
 ゆ会、同高学年は藍住剣
 道スポーツ少年団がそれ
 ぞれ優勝した。中学生の
 部は男女とも那賀川中学
 が制した。

【団体】小学低学年①那賀川教
 室わかあゆ会②養武館・脇町教室
 合同③小松高少剣④清東塾⑤
 同高学年⑥藍住スポーツ少年団⑦
 誠武館道⑧小松高少剣⑨鳴門
 市光武館⑩中学男子⑪那賀川⑫徳
 島県立川島⑬小松高⑭同女子⑮
 那賀川⑯徳受理⑰天麻⑱徳島

【個人】小学低学年男子・藤畑
 海(那賀川教室わかあゆ会)②
 松本泰和(天頭練心館)③齋藤
 哉(板野道)④富田真吾(北高
 教室)⑤同女子⑥赤真智子(佐
 古ラフ)⑦秋山崇(鳴門市光
 武館)⑧山田有紗(養武館)⑨山
 本実加子(阿南教室)⑩高学年男
 子⑪栗田星舞(那賀川教室わか
 あゆ会)⑫高橋秀汰(那賀川教室わ
 かあゆ会)⑬近藤正樹(石井ラフ
 フ)⑭豊田雄大(鳴門市光館)
 ⑮同女子⑯長尾紗弥(松和会)
 ⑰浅井来(鳴門市光武館)⑱武
 藤小春(小松高少剣)⑳山田
 奈央(小松高少剣)㉑中島勇子
 ⑳水崎幹大(北島)㉒松本輝灯
 (徳島)㉓栗田賢司(相模)㉔宮
 田大(北井)㉕同女子⑶若原
 千佳(徳島)㉖閉口潮雪(北島)
 ㉗山室愛子(石井)㉘塚田志緒
 (鳴教大付)

2017年10月16日

徳島中男女で優勝

高校 鳴門渦潮A 女子 川島A

剣道

第45回阿北地区大会兼
林明史5段昇段祝賀大会
(9月18日・石井中)
は、中学21校、高校11校の2
52人が熱戦を展開し
た。中学は男女とも徳島
中が優勝した。高校男子
は鳴門渦潮高A、女子は
川島高Aがそれぞれ制し
た。



【上】阿北地区大会中
学男子優勝の徳島中
(左)女子1位の徳島中
【下】高校男子優勝の
鳴門渦潮高A(左)、女子
1位の川島高A



敦賀2連覇 男子個人

原嘉輝、次鋒11芥一博、中堅11
深木陽仁、副将11千藤駿、大将
11松本尊也(北島3昇入)八
万、女子1位の徳島(先鋒11松山若
樹、次鋒11赤川崑、中堅11藤永
春乃、副将11藤原紗也、大将11岩
原平佳)②土成③徳島理③河波
・市場

【高校】男子1鳴門渦潮A(先
鋒11小島拓也、次鋒11藤本勇、
中堅11前田龍志、副将11吉本風
丸、大将11坂野修造)②城北A③
城北B④徳島科技⑤女子1川島
A(先鋒11岩崎蒼、次鋒11吉高
未歩、中堅11藤岡真奈、副将11出
原翔季、大将11松下愛美)②城ノ
内・徳島受理③城北



全国郵政武道大会男子個人で優勝した
敦賀(左から2人目)、OBの部準優
勝の久保(同3人目)

第59回全国郵政武道大
会(10月1日・奈良県奈
良市ならでん武道場)が
行われ、白熱した攻防を
展開した。徳島県勢は男
子個人で敦賀晋平(上勝
郵便局)が2連覇を達成
し、OBの部は久保隆司
(川内郵便局)が準優勝
した。団体は四国がベス
ト8に入った。

▽個人男子準々決勝 ○敦賀
晋平(上勝郵便局)1 益田(東
京)▽準決勝 ○敦賀1 島本
社▽決勝 ○敦賀1 吉田(近
畿)

▽OB準々決勝 ○久保隆司
(川内郵便局)1 藤田(九州)
▽準決勝 ○久保1 中(北海
道)▽決勝 ○徳島(九州)1 久
保

▽団体準々決勝 ○中園A
四国

2017年10月24日

剣道

◆2017年度阿南市体育祭競技(10月1日・阿南市武道館)

【団体】小学低学年の那賀川教室わかあゆ会Aの阿南教室A③那賀川教室わかあゆ会C③那賀川教室わかあゆ会B▽同高学年の那賀川教室わかあゆ会A②羽ノ浦教室③大野小剣道部③那賀川教室わかあゆ会B▽中学男子①那賀川A②那賀川B③羽ノ浦③新野▽同女子①那賀川B②那賀川A③那賀川C③羽ノ浦B

【個人】小学3年以下①大和希



【上】阿南市体育祭競技団体高学年を制した那賀川教室わかあゆ会A【下】低学年で優勝した那賀川教室わかあゆ会A



輔(那賀川教室わかあゆ会)②林巧(阿南教室)④中村瑠璃(阿南教室)⑤金澤翔(阿南教室)▽同4年①青木謙真(那賀川教室わかあゆ会)②中西皇斗(那賀川教室わかあゆ会)③桑原康輔(那賀川教室わかあゆ会)④金谷咲(羽ノ浦教室)▽中学男子①勝瑞斗(阿南)②角元祐輔(阿南)③水野太(阿南)▽同女子①小島理奈(那賀川)②宮本真夏花(那賀川)③佐住和香(阿南)

2017年11月6日

剣道

中学 男子 徳島準優勝 那賀川A 中学 女子

潤哉、副将||江口弘純、大将||松 堅||岡崎理、大将||飯田奈々③本喜起④洗心道場A(愛知)④大阪輝誠館③洗心道場(愛知)▽養徳館道場(岡山)▽敢闘賞 北 敢闘賞 石井中、光武館・大麻・島中▽女子①勝央中(岡山)②那賀川中A(先鋒||河野菜々子、中賞 那賀川中B

第20回記念寺西杯争奪近県選抜少年大会(10月9日・鳴門アミノパビリオンホール)は13府県から小学127チーム、中学93チームの1050人が参加して団体戦が行われた。徳島県勢は中学男子で徳島中、女子是那賀川中Aがそれぞれ準優勝した。

【小学】低学年の洗心道場(愛知)②昇龍館一福道場(岡山)③京都太秦A④吉野川教室(先鋒||七條準、次鋒||真田一輝、中堅||佐藤偉輔、副将||井上裕貴、大将||岡崎嵩也、敢闘賞 鳴門市光武館▽高学年の印南A(兵庫)②白川台剣修会(兵庫)③和歌山砂山剣友会④倉吉道場(鳥取)▽リビング吉岡賞 徳島教室

【中学】男子①昇龍館一福道場(岡山)②徳島中(先鋒||大空航己、次鋒||松本尊灯、中堅||岩原

剣道

那賀川わかあゆ会A王座の部 小学

松山若樹、次鋒 赤川真唯、中堅 岩原千佳、那賀川中、鳴門、高小、副将 徳原紗也、大一中、徳島文理中

高小女子の鳴門渦潮高A、先鋒 小島拓也、次鋒 若川楓、中

堅 前田龍、副将 吉本風丸、坂東亮佑、次鋒 猪野翔太、中 大将 坂野修造、阿南工高、城 堅 土山康平、副将 近藤徹、大 北高、城北高、女子富岡東 将 玉井翔、阿南支部A、徳島 高A、先鋒 朝田明香、次鋒 堀 出、中堅 明口なつき、副将 支那あなな剣友会、先鋒 田中 堀美、大将 大城明裕、富 理弥、中堅 湯浅絵里加、大将 伊藤泰律、教員剣友会、北高OG会、川島高剣友会

清原杯争奪第62回県下大会(11月3日・阿南市スポーツ総合センター)は小学32、中学男子26、同女子19、高校男子21、同女子10、一般男子16、同女子10の各団体が参加、熱戦を繰り広げた。小学の部は那賀川教室わかあゆ会A、中学男子は那賀川中、同女子は徳島中、高校男子は鳴門渦潮高A、同女子は富岡東高A、一般男子は徳島刑務所、同女子は阿南支部あなな剣友会がそれぞれ制した。

【団体】小学の那賀川教室わかあゆ会A(先鋒 羽坂真、次鋒 山崎光育、中堅 倉橋秀次、副将 岩佐ほか、大将 栗田星舞)の戦佳スポーツ少年団(鳴門市武館)小松島少剣

▽中学男子の那賀川中(先鋒 後藤浩也、次鋒 立石龍之介、中堅 二宮博将、副将 小山田亮太、大将 由志)の小松島中、徳島文理(相持)、阿南一中、鳴門二中、女子の徳島中(先鋒

清原杯争奪県下大会小学の部を制した那賀川教室わかあゆ会A



2017年11月27日

那賀川わかあゆ会優勝

剣道

第48回徳島県少年錬成大会(11月12日・松茂町総合体育館)は団体31チーム、個人70人が参加、白熱した攻防を展開した。団体是那賀川教室わかあゆ会が優勝、県下3大会を制した。個人優勝は西村翔(鳴門市光武館)、準優勝に仁尾徳孝(那賀川教室わかあゆ会)が入った。



県少年錬成大会団体を制した那賀川教室わかあゆ会

武館場③藤井スポーツ少年団③小松島剣クラブ
 ①個人①西村翔(鳴門市光武館)②仁尾徳孝 那賀川教室わかあゆ会③本庄創思(大野少)③岡輝晟(羽浦教室)



鳴門市民体育祭競技の入賞者

◆2017年度鳴門市民体育祭競技(10月28日・鳴門市光武館)
 【小学】低学年①秋山鈴奈②鳴門市光武館③大塚仁美以上
 門篠生③西村浩④大塚仁美以上
 鳴門市光武館⑤高学年⑥豊田雄大(鳴門市光武館)⑦浅井未来(鳴門市光武館)⑧井藤輝(大塚錬成館)⑨愛川諒(大塚錬成館)
 【中学】男子①炭宗汰(鳴門)②米澤慎真(鳴門)③三谷

近畿A3位

2017年度全国例会第14回国際親善大会(11月11、12日・鳥取県立武



国際親善大会団体3位の近畿Aチーム

道館)は日本のほかアメリカ、台湾、韓国などから個人男子112人、女子18人、団体25チームが参加、熱戦を繰り広げた。徳島県勢は米倉滋、兵頭新平、福永康浩、磯部健治が近畿クラブから出場、地区対抗戦で近畿

Aが3位に入った。個人男子は磯部健治が決勝まで進んだが、乗本志考(中国)に延長の未敗れ準優勝となった。

徳島県関係

【地区対抗】準々決勝 近畿A(先鋒)磯部健治、次鋒II安達一武、中堅II林光蔵、副将II田頭啓史、大将II米倉滋)4-0九州A
 【個人】男子準々決勝 磯部健治(近畿)コ1 寺地正吾(関東)準決勝 磯部メ1 金宗鉉(韓国)準決勝 乗本志考(中国)メ1 磯部

スポーツチャンバラ

◆第21回愛媛県選手権(11月12日・愛媛県西国中央市 川之江体育館)
 ◇徳島県関係の上位所属はすべて阿波の禰板野S.C.
 【少年少女】基本動作6~10級③土内美波(福島小)▽1~5級 敢闘賞 土内晴斗(福島小)▽長剣リリー5級④土内晴斗(福島小)▽植小力1~5級⑤土内晴斗(福島小)
 【一般】基本動作1級以下小学生 林知生(鳴門高)▽初段以上の小学生 林貴子(阿波の禰板野S.C.)

2017年12月4日

剣道

◆2017年度徳島市中学校新人大会(1月19日・徳島文理・高体育館)

- 【男子】団体1回戦 徳島1
 ○川内、北井2(代表勝) 2
 徳島文理、八万2(代表勝) 2
 国府、鳴教大付1(代表勝) 1
 城東▽準決勝 徳島2、○北井上、八万1(代表勝) 1
 鳴教大付▽決勝 徳島4、1八万
 △個人①松本祥(徳島)②宮田颯大(北井上)③富田将太郎(北井上)④楠本陸真(北井上)
 【女子】団体1回戦 城東4
 1国府、鳴教大付2(本教勝) 3
 2八万▽2回戦 徳島4、1城東、徳島文理3、1鳴教大付3
 位法定戦、城東2(本教勝) 2
 鳴教大付▽決勝 徳島1(代表勝) 1
 徳島文理
 △個人①倉原千佳(徳島)②塚田志緒(鳴教大付)③市ちひろ(徳島文理)④松山若樹(徳島)

2017年12月18日

男女10部門代表決まる

剣道

都道府県対抗県予選 剣道の全日本都道府県対抗優勝大会徳島県予選は17日、徳島市B&G海洋センターに男女59人が参加して個人戦が行われ、男子6部門、女子4部門の代表が決まった。

男子は次鋒・松本高史(明大)、5将・玉井翔(刑務所支部)、中堅・大石洋史(阿南支部)、3将・平野将司(警察支部)、副将・敦賀晋平(阿南支部)、大将・玉田晋作(徳島支部)の顔ぶれ。先鋒は11月の県高校選手権を制した片岡俊人(徳島文理)が務める。女子は次鋒・丸岡由理奈(明大)、中堅・木浦萌愛(警察支部)、副将・前田奈々枝(阿波支部)。大将は出場が1人で北村環(阿波支部)に決まった。先鋒は来年度の県高校総体個人戦の優勝者となる。

男子の全日本大会は来年4月29日に大阪市、女子は7月14日に日本武道館で行われる。

【男子】次鋒(大生) 準決勝 松本 明大、下 直 国士館



男子5将の決勝で「コト」を決める玉井(左)と徳島市B&G海洋センター(村山嘉昭撮影)

- | | |
|---|----------------------------------|
| △、美馬(国士館)メー南 | メー片山 |
| ▽決勝 | 玉井、コト、平野 |
| △5将(18歳以上34歳以下) 準決勝 玉井(刑務所支部)メー | 丸岡(警察支部)メー |
| 1黒木(鳴門支部)、善蒙(刑務所支部)コト、大原(刑務所支部)、平野(鳴門支部)メー外 | 大石、洋、コト、大石、真 |
| 田(丹生支部)、片山(刑務所支部)コト、鈴木(阿南支部) | 浅田(警察支部)メー、梶原(警察支部)、玉田(警察支部)メー |
| ▽準決勝 玉井、メー、善蒙、平野 | 丸岡(警察支部)、平野(警察支部)、村井(警察支部)メー |
| △中堅(教職員) 準決勝 大石 | 田、平野、玉田、平野、コト、村井 |
| 洋(阿南支部)下、森(徳島支部)、大石真(阿南支部)メー | 丸岡(警察支部)メー |
| ▽決勝 | 丸岡(警察支部)メー |
| △3将(警察職員) 準決勝 浅田 | 丸岡(警察支部)メー、梶原(警察支部)メー、長戸(徳島支部)、江 |
| 丸岡(警察支部)メー、梶原(警察支部)メー | 丸岡(警察支部)メー |
| △副将(35歳以上) 準決勝 丸岡 | 丸岡(警察支部)メー |
| 丸岡(警察支部)メー、玉田(警察支部)メー、木浦(警察支部)メー | 丸岡(警察支部)メー |
| △大将(50歳以上) 教士段以上 決勝 丸岡 | 丸岡(警察支部)メー |
| 丸岡(警察支部)メー | 丸岡(警察支部)メー |

「先手必勝負く」
 ○：最多の15人で争った男子5将は、玉井(刑務所支部)が初の代表をつかんだ。「寒くて体が思うように動かなかった」が、3試合とも開始から1分前後に1本を奪って試合を優位に進めた。決勝では昨年1本負けした悔しさをぶつけた。

松山市生まれの28歳。高校時代以来となる全国大会を見据え、「先手必勝負を貫き、徳島のために貢献したい」と活躍を誓った。



うれしい初選出

「女子で最も多い7人が競った次鋒は丸岡(明大1年、写真)が、うれしい代表初選出となった。」
 勝を考えた。優勝を争う、試合に集中できたのがよかった」と晴れやかな表情を浮かべた。
 決勝までの3試合全てで先に2本を奪って完勝。本来は前に押し込んで技を決めることが多いが、有効打を面白いように奪った。

富岡東高時代には全国総体や選抜大会に出場して経験を積んだ。強豪との対戦に向け「押しでも引いてもポイントが取れるよう、稽古をもっと頑張る」と意欲をかき立てていた。

男子 城北3連覇 女子 富岡東4連覇



男子決勝・富岡東対城北 中堅戦を制し城北の優勝に貢献した富田春一(右)が那賀川スポーツセンター(家段良匡撮影)

剣道

男子は城北が3年連続6度目、女子は富岡東が4年連続29度目の栄冠に輝いた。男女の優勝校は全剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第62回男子、第36回女子県高新人大会は日、男子17校、女子校が参加して那賀川スポーツセンターで団体戦が行われ、リュージュに進む。

男子は城北が3年連続6度目、女子は富岡東が4年連続29度目の栄冠に輝いた。男女の優勝校は全剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第62回男子、第36回女子県高新人大会は日、男子17校、女子校が参加して那賀川スポーツセンターで団体戦が行われ、リュージュに進む。

中盤でリード 僅差逃げ切る 城北

男子決勝で城北は、5人全員が1年生の富岡東の挑戦を退けた。結果は1-0の僅差だが、中盤でリードを奪って逃げ切る作戦がはまった。出だしの動きは硬かった。1年生の次鋒小山田はコテを奪って優位に立ったが「本音を狙って焦った。右コテを打った隙に引きメンを決められ、タイ持ち込まれた。開始わずか13秒。メリ2分力余り、精進を続けて攻め、相手の手元が浮いたところをコテで一本を奪

吉田 1 勝
矢野 1 後勝
○男子団体戦 富岡東5
○女子団体戦 富岡東5
○男子個人戦 富岡東5
○女子個人戦 富岡東5

城北 1 富岡東 3 1 富岡西 大城 メキ 橋本



逆転で女子を守る
○富岡東が富岡西との決勝を逆転で制し、女王の座を守った。先鋒戦に成功、副将陣は相手が拮出が「必ず流れを取り戻す」と奮起、得意のメリ手から立て続けにメン

とコテを決め、1勝1敗。前回の選抜大会から回の中堅戦は粘り強く攻め、終了間際に連続で有敗れた。その悔しさを知った富岡東は「相手の勢いに勝つには、先鋒戦に成功、副将陣は相手が拮出が「必ず流れを取り戻す」と奮起、得意のメリ手から立て続けにメン

2018年(平成30年)1月22日 月曜日

55

全国スポーツ少年団交流大会
予選小学生団体が優勝した阿南
支部A



阿南支部Aが優勝

岩原潤・岩原千も全国切符

剣道

第40回全国スポーツ少年団交流大会徳島県予選(12月3日・松茂町総合体育館)は小学団体16チーム、中学個人男子48人、女子29人が熱戦を繰り広げた。団体は阿南支部Aが優勝、個人男子は岩原潤哉、女子は岩原千佳の小松島少剣クラブ勢がそれぞれ制した。

阿南支部A、岩原潤、岩原千は全国大会(3月25日・東京武道館)に出場する。

【団体】小学①阿南支部Aの名西郡③麻植支部B③板野郡A

【個人】中学男子①岩原潤哉(小松島少剣)②松本尊灯(藍住スポーツ少年団)③古川真一(徳島教養)④後藤浩也(徳島至誠館)▽同女子①岩原千佳(小松島少剣)②河野菜々子(那賀川教室わかあゆ会)③岩本楓華(徳島至誠館)④松山若樹(小松島少剣)

富岡東2年ぶり栄冠

女子団体

剣道

四国高校新人大会

剣道の第18回四国高校新人大会は3、4の両

日、鳴門アミノバリューホールで団体と個人戦が行われ、徳島県勢は女子団体の富岡東が2年ぶり6度目の優勝を飾った。

▽個人準々決勝 藤田(土佐塾)メー 服部(富岡西)、東野(高知)メー 片岡(徳島文理)

▽決勝 片山(新田)コト 藤田

【女子】団体予選リーグA組④川島3敗▽B組③富岡西1勝2敗

▽C組②富岡東3勝▽D組①城ノ内3敗

▽富岡東が予選突破

▽決勝トーナメント準決勝

富岡東 1-1 愛媛

代表勝ち

▽代表戦

朝田 堀出 須浪

堀出 コトコ 奥田

明口 内海

堀 西原

前田 前田

代表勝ち

富岡東 1-1 帝京五

代表勝ち

友近

▽代表戦

大城 友近

▽決勝

富岡東 1-1 帝京五

代表勝ち

朝田 堀出 須浪

堀出 コトコ 奥田

明口 内海

堀 西原

前田 前田

代表勝ち

富岡東 1-1 帝京五

代表勝ち

友近

▽代表戦

大城 友近

▽決勝

富岡東 1-1 帝京五

代表勝ち

女子団体の富岡東は大將の大城が2試合続けて代表戦を制し、チームに2年ぶりの栄冠をもたらした。長井監督は「回せば何とかしてくれる。さすがはキャプテン」と強い信頼感を口にした。

決勝の帝京五(愛媛)戦は副将戦を終えて0-1。引き分けも許されない中、開始10秒の引きメンで一本勝ちした。代表戦ではツキを果敢に繰り出して攻勢を緩めず、相手がひるんだところで飛び込みメンを決めた。

済美(愛媛)と戦った準決勝の代表戦でも高い集中力が光った。約9分間にも及んだ延長戦。長いつば競り合いの末、コテ返しメンで有効打を奪った。チームリーダーにふさわしい活躍を続けた大城は「前を戦うみんながつかないでくれたお

高い集中力で延長制す 主将・大城



かけ。1人の力ではない」と繰り返して強調する。「次は絶対に勝つて大將を榮えたい。薄水を踏むとも引き分けた副将の堀は、強くなった。(阿部研一)

女子団体決勝・大將戦で攻める富岡東の大城＝鳴門アミノバリューホール(山田旬撮影)

剣道

◆第24回藤花旗争少年大会

(3月4日・石井中)

【団体】①鹿住ホーツ少年団
 (先鋒||谷口真、次鋒||宇澄、
 中堅||住友晴帆、副将||山名来
 実、大将||水浜藤良) ②北井上教

室③上浦教室④石井少年クラブA
 ▼4年①富田真吾(北島教室)②
 【個人】小学1年①篠原瑛駒
 四宮真一郎(鴨島教室)③岡崎嵩
 也(吉野川教室)④谷本真智子
 (佐古クラブ)⑤六車崇汰(誠武
 館)③日和田碧(山川修練館)③
 (佐古クラブ)▼5年①三宅遼
 日根啓輔(松茂教室)▼2年①近
 藤徳文(誠武館)②中岡亮仁(誠
 武館)③中野楓椰(北島教室)③
 谷本遼(佐古クラブ)▼3年①高
 松宏樹(入田練成会)②中川透守
 (鴨島教室)③原田慎也(山川修
 練館)④水松由守(加茂名教室)
 ▼6年①青川
 島スホーツ少年団③島海芹川
 島スホーツ少年団③島海芹川
 柁吾(上浦教室)②撫養忠唯(北
 島教室)③近藤正獅(石井クラ
 ブ)④徳永唯吹(上浦教室)

2018年3月27日



藤花旗争少年大会
 団体優勝の藍住入ホ
 ーツ少年団



個人の優勝者

平成三十年度 剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成三十年度は、以下の問題より各段一問出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の剣道修行の参考のために記述したものである。名称等、正確に記憶しておかねばならない事柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。決して、試験のためだけに丸暗記して、こと足りえたと思わないでもらいたい。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負の気迫で取り組み、今の自分のありのままを表現すべきである。また、そのことが採点者の高い評価を受けることにつながることも付記しておく。

【剣道】

※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。

(2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。

(3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。

- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
- (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
- (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
- (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
- (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるころ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
 - (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
 - (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- ⑤ 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃をしてきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- 注意点
- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
 - (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
 - (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
 - (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
 - (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
 - (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

※ 三段の部

① 「平常心」について説明しなさい。

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きの気位といった剣道の原理原則をも心得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。(竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ばいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。)竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。(打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。)

※ 四段の部

① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機合・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢(発声)・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後に油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。
(2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

※ 五段の部

① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。
- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。
- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するとき後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

- (1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

- (2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

【居合道】

※ 初段の部

- ① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

- ② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使うための運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

- ③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

- ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、「(一)携刀姿勢」・「(二)出場」・「(三)神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 二段の部

- ① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

- ② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位（約三〜四セ）で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 三段の部

① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになる、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を發揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 四段の部

① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはといつてよい。抜刀について説明すると、鯉口を切つて静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

※ 五段の部

① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。

平成30年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	8	日	第73回国体一次予選会	9:30～ ソイジョイ武道館	県剣連
	13	金	西部交流稽古会	19:00～ 市立川島中学校	〃
	15	日	少年剣道教室指導者講習会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	21	土	第5回四国高齢者剣道交流大会	10:00～ 中央武道館	県高齢者友会
	22	日	第43回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	県剣連
	29	祝日	南部交流稽古会 第1回審査会(剣道 初段以下)	16:00～ 鷺敷B&G体育館 10:00～ ソイジョイ武道館他	〃
5	6	日	剣道中央講習伝達講習会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	13	日	居合道春季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
	26	土	第47回中学校剣道選手権大会	9:30～ ソイジョイ武道館	中体連
	27	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	10:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	未	未	国体第二次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
6	2～3	土～日	第58回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～ 那賀川スポーツセンター	高体連
	24	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソイジョイ武道館他	県剣連
	未	未	国体第二次予選会(男子)、国体第三次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
7	7～8	土～日	第72回徳島県中学校総合体育大会	9:30～ ソイジョイ武道館	中体連
	16	祝月	第66回全日本剣道選手権大会県予選会 第57回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30～ ソイジョイ武道館	県剣連
	20～22	金～日	剣道土用稽古	19:00～ 中央武道館他	県剣連
	3	金	第31回徳島県防犯少年柔道・剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	警察本部
8	4～5	土～日	日本剣道形講習会	9:30～ 中央武道館	県剣連
	26	日	剣道 四、五段受審者 講習会 長期育成強化訓練	9:30～ 中央武道館 9:30～ 那賀川スポーツセンター	〃
	未	未	国体第三次予選会(男子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
	2	日	第39回女子剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	9	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00～ ソイジョイ武道館	〃
9	15	土	第24回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	10:00～ 松茂町第二体育館	県高齢者友会
	16	日	居合道伝達講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	県剣連
	24	月振休	眉山ライオンズ剣道大会	9:00～ 徳島市市立体育館	眉山ライオンズ
	6	土	第15回徳島県中学校剣道1年生大会	10:00～ ソイジョイ武道館	中体連
10	14	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソイジョイ武道館	〃
	21	日	秋季講習会(全剣連後援)	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	26	金	南部交流稽古会	19:00～ 阿南スポーツセンター	〃
	27	土	第9回三者対抗剣道大会(鳴門支部)	13:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	4	日	第43回中学校新人剣道大会 第3回剣道審査会(二段以上)	9:30～ 10:00～ ソイジョイ武道館 松茂第二体育館	中体連 県剣連
11	9	金	西部交流稽古会	19:00～ 脇町小学校	〃
	11	日	居合道秋季講習会、審査会 第49回徳島県少年剣道優勝大会	9:00～ 10:00～ 松茂町第二体育館 松茂町総合体育館	〃
	18	日	第52回高等学校剣道選手権大会	9:30～ 那賀川スポーツセンター	高体連
	23	祝金	眉山杯大学剣道大会	9:30～ 徳島文理大学	大学連
	25	日	第47回徳島県社会人剣道大会	10:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	1	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00～ 脇町だっつアリーナ	全剣連後援
12	2	日	第41回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	10:00～ ソイジョイ武道館	県体協
	8	土	常任理事会	13:00～ 未定	県剣連
1	16	日	第67回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第11回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	10:00～ ソイジョイ武道館	〃
	5	土	新年役員会、互礼会	13:30～ 未定	県剣連
	6	日	平成31年 稽古始め	9:30～ 北島北公園総合体育館	〃
	13	日	第62回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	10:00～ ソイジョイ武道館	高体連
	19	土	第29回県下中学校剣道強化錬成大会	10:00～ ソイジョイ武道館	中体連
	20	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	24～26	木～土	剣道寒稽古	19:00～ 中央武道館他	〃
	27	日	長期育成強化訓練	9:30～ 那賀川スポーツセンター	〃
2	11	祝月	第40回県下高等学校剣道大会	10:00～ 松茂総合体育館	(財)落穂園
	16	土	平成30年度 理事会	13:00～ 未定	県剣連
	17	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号) 居合道県下大会、審査会	10:00～ 9:00～ ソイジョイ武道館 松茂町第二体育館	〃
	22～24	金～日	第121回剣道社会体育指導員養成講習会(初級)	8:00～ 徳島市立体育館	全剣連
	23	土	第96回 〃 (初級更新)	〃 徳島市立体育館	〃
3	2～3	土～日	第14回四国中学校新人剣道大会	9:00～ 阿波中学校	四国学剣連
	10	日	平成30年度 総会	13:00～ 未定	県剣連
	17	日	高段位受審者研修会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	24	日	平成31年度審査員 講習会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃

☆徳島県剣道連盟 稽古会《中央武道館》

木曜日 19:00～19:15(体操・素振り) 19:15～20:00(小中高一般/基本～指導稽古)
20:00～20:45(高・一般/合同稽古)

毎月第1木曜日 日本剣道形の稽古(対象は中学生以上) 19:00～19:45 19:45～20:45(基本稽古、合同稽古)

*稽古会休みのお問合わせは、事務局またはホームページでご確認ください。

徳島県剣道連盟(執務時間 平日午前10時～午後4時)
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号 TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	7	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
5	3	祝木	八段審査会	京都市	〃
			称号(範士・教士・錬士)		
6	8	金	七・六段審査会	山形県	〃
7	6	金	七・六段審査会	和歌山県	〃
11	10	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	17	土	七・六審査会	東京都	〃
	27	火	称号(教士・錬士)	〃	〃

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	7	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
	29	日	六段審査会	京都市	〃
	30	月振休	七段審査会	〃	〃
5	1～2	火～水	八段審査会	〃	〃
	6	日	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	12	土	七段審査会	名古屋市	〃
8	13	日	六段審査会	〃	〃
	18	土	七段審査会	青森県	〃
	19	日	六段審査会	〃	〃
11	25	日	七段審査会	福岡県	〃
	26	日	六段審査会	〃	〃
	10	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
11	17	土	七段審査会	名古屋市	〃
	18	日	六段審査会	〃	〃
	25	日	六段審査会(八王子市)	東京都	〃
	27～28	火～水	七段審査会(足立区)	〃	〃
	27	火	称号(教士・錬士)	〃	〃
29～30	木～金	八段審査会	〃	〃	

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	3/31～1	土～日	第53回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	7	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	15	日	第16回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	全剣連
	29	祝日	第66全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2～5	水～土	第114回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	20	日	第70回四国四県剣道大会	愛媛県	後援 全剣連
6	4	月	第40回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	10	日	第57回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	13～17	水～日	第56回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	16～17	土～日	四国高等学校総合体育大会	高松市	四国高体連
7	16	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
	7	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	7	土	第52回全日本女子学生剣道選手権大会	東京都	後援 全剣連
	8	日	第66回全日本学生剣道選手権大会	東京都	全剣連
	14	土	第10回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
	21～22	土～日	平成30年度 全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	東京都	共催 全剣連
	24～29	火～日	平成30年度 玉竜旗高校剣道大会	福岡市	後援 全剣連
8	3	金	第60回全国教職員剣道大会	岸和田市	共催 全剣連
	5	日	第56回四国中学総合体育大会	南国市	四国中体連
	9～12	木～日	第65回全国高等学校総合体育大会	伊勢市	共催 全剣連
	19	日	国体四国ブロック大会	高知県	四国連合会
	22～24	水～金	第48回全国中学校剣道大会	岡山市	共催 全剣連
9	1	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	2	日	第64回全日本東西対抗剣道大会	宮城県	全剣連
	8～9	土～日	第45回居合道中央講習会	京都府	全剣連
	16	日	第13回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連
	17	祝月	第61回全日本実業団剣道大会	東京都	後援 全剣連
10	23	日	第57回全日本女子剣道選手権大会	長野県	全剣連
	30～	日～	第73回国民体育大会剣道大会	福井県	主管 全剣連
	～2	～火			
	20	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
11	20	土	第53回全日本居合道大会	茨城県	全剣連
	3	祝土	第66回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	3～6	土～火	第31回全国健康福祉祭剣道交流大会	富山県	後援 全剣連
2	10～11	土～日	第67回全国青年剣道大会	東京都	主管 全剣連
	2～3	土～日	四国高校剣道新人大会	高知県	四国高体連
	9	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
3	23～24	土～日	第5回女子剣道指導法講習会	兵庫県	共催 全剣連
	16	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高知市	後援 全剣連
	27～29	水～金	第41回全国スポーツ少年団剣道交流大会	山口県	共催 全剣連
26～28	火～木	第28回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	共催 全剣連	

平成30年度級位・段位審査会実施計画表

《剣道》

初段以下一覽表

審査日	申込み締切日	中 部	西 部	南 部
4/29 (祝日)	4/15 (土)	ワノゾイ 武道館 (徳島支部)	美郷ふるさと センター 体育館	阿南武道館
6/24 (日)	6/10 (日)	ワノゾイ 武道館 (鳴門支部)	阿波中学校 体育館 阿波町東町230-1	小松島市 武道館
10/14 (日)	9/30 (日)	ワノゾイ 武道館 (坂野東支部)	三野体育館	相生体育館
1/20 (日)	1/6 (日)	ワノゾイ 武道館 (鳴門支部)	穴吹スポーツ センター	美波町日和佐 総合体育館

* 木刀基本技 3級…4本まで 2級…6本まで 1級…9本

《審査受験申込時の注意》

① 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受領した年月日は確認して、氏名のフリガナ・住所等を正確に記入し審査料を添えて申込書。

② この申込書は、合格後全剣連への登録の基礎となりますので全て明記すること。

③ 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を課すこと。

④ 現段位を異外で登録受領した者は、その県名を記入すること。

⑤ 審査受験申込書の締切日は一覽表のとおりとし、事務局へ郵送又は郵便受けに直接投函する場合は、締切日までに届くようにすること。なお事務局へ郵送又は直接郵便受けに投函した場合は、締切日までに必ず申込書が到達しているか事務局に確認すること。

⑥ 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。

小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。

⑦ 剣道四・五段の受審者は、四・五段講習又は、伝達講習会・秋季講習会を必ず受講すること。

⑧ 申込み締切後においては、審査会出席時の審査料の返金は、行わないこととする。

*** 以上の項目が守れない場合は受審できませんのでご注意ください。**

《剣道》

二段以上・称号一覽表

剣 道				居 合 道			
審査日	申込み締切日	審査級位	審査会場	四・五段講習会場日時、会場	審査日	申込み締切日	審査会場
5/27 (日)	5/13 (日)	二段～ 五段	ワノゾイ 武道館	△	5/13 (日)	4/29 (日)	松茂町 第二体育館
9/9 (日)	8/26 (日)	二段～ 五段 (称号)	ワノゾイ 武道館	8/26(日) 中央武道館	9/16 (日)	9/2 (日)	松茂町 第二体育館
11/4 (日)	10/21 (日)	二段～ 五段	松茂町 第二体育館	△	11/11 (日)	10/28 (日)	松茂町 第二体育館
2/17 (日)	2/3 (日)	二段～ 五段 (称号)	ワノゾイ 武道館	△	2/17 (日)	2/3 (日)	松茂町 第二体育館

注意 1. 称号審査については、行事予定表の伝達講習会(6月)または、秋季講習会(10月)を受講の上、1年以内に上記審査会において受審する事。

注意 2. 四・五段受審予定者は、四・五段講習会又は、伝達講習会、秋季講習会いずれかを受審すること。受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。(平成21年3月8日改正)

《剣道審査申込先》		《居合道審査申込先》	
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マツゾウ106号	TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360	〒776-0004 吉野川市鳴島町中島381-3	TEL 0883-24-2457
徳島県剣道連盟 事務局内 藤川 和秋 宛		居合道部事務局 徳山 豊 宛	
申込み先		申込み先	
日程予定	8:45～9:30 受付 8:30～9:25 剣道連盟稽古会 9:25～9:45 受審者稽古 9:50～ 開会式 * 学科試験、実技、形の順で実施	日程予定	13:00～ 開会式

徳島県剣道連盟 審査資格

平成30年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日）平成24年4月1日より 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

平成30年4月1日現在

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料 (消費税8%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税8%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	"	1,500	—	3,500
1 級	"	2,000	—	3,500
初 段	"	3,000	3,000	6,900
二 段	"	4,000	4,000	9,060
三 段	"	5,000	5,000	12,300
四 段	"	6,000	6,000	17,700
五 段	"	8,000	8,000	23,100
六 段	"	10,800	—	45,200
七 段	"	15,120	—	56,000
八 段	"	19,440	—	77,600
錬 士	"	18,360	—	45,200
教 士	"	27,000	—	77,600
範 士	"	—	—	164,000

剣道連盟事務局だより

と専従職員

事務局次長 木下裕康



昨年（二十九年）八月に、急遽熊澤先生から事務局次長の引継ぎを受けました。剣道を再開して五年、約三十年剣道から遠ざかっていたものですから、連盟の運営内容も分からず、初めての事ばかりで面くらい、自分に余裕が無く色々な場面で右往左往している状況で有りますが、お引受けした以上皆様のお役に立てるよう精進して行こうと思っています。

さて、熊澤先生からの次長職の引継ぎを受けた内容につきまして、皆様にも知って頂きたい項目が有りますので、次に列挙させていただきます。

一、事務局の基本的業務内容について

- ・全剣連関係の交渉窓口は理事長
- ・徳島県関係・体協関係・スポーツ振興財団等の関係団体との交渉及び各種補助金申請等交渉の窓口は事務局長
- ・県内各会議の資料作成、県内行事予定の会場申請・使用料支払い、役員・審判員の出欠最終確認、昼食等の手配を事務局次長

二、審査について

昇級・昇段審査の申請について、申請者は自分で申請書を作成し、各支部・各学校・各道場の責任者の方は、必要事項・前回受験日などすべての項目に間違いがないことを確認し、捺印と審査料を添えて期間内に事務局へ申請してください。その後、審査部で受験者名簿を審査会場ごとに作成します。記載内容に間違いがあれば運営に支障がでますので間違いのないようお願いいたします。

各所属の責任者の方は、受審者が昇級・昇段審査を受審することがふさわしい者であるか判断し、申請手続きをして下さい。

なお、段位合格者の免状は、事務局が全剣連に申請内容を入力し送付した後、約一ヶ月半後に全剣連から事務局に送られて来ます。免状は個別に送付しておりません。免状の受け取りは、各種大会時もしくは、事務局に取りに来て下さい。

高段位昇段者と称号合格者の方も免状は、県内審査と同様です。また、登録料は期日までに事務局へお願いします。徳島県剣道連盟が一括して入金しております。

三、徳島県剣道連盟主催の大会と講習会について

各支部、各学校、各道場の責任者の方は、大会及び講習会の要項を参加希望者に確実に通知して下さい。特に、全国大会出場に繋がる予選会等については、周知徹底をお願い致します。各種大

会等について、個別に事務局への問い合わせや大会要項の送付依頼等は効率的な運営に支障を来しますのでご容赦ください。

大会・講習会ともに多数の参加をお願いします。試合の抽選、プログラムや参加者名簿作成に時間を要するため申込みは期日を守り、参加費は期日内に納付頂き、円滑な運営にご協力ください。

四、役員の手配と連絡について

連盟関係者の訃報を知った場合、事務局と関係者に連絡をお願い致します。

五、徳島県剣道連盟ホームページ掲載について

剣道連盟のお知らせ、各種大会、講習会、県外審査会等の結果を掲載しております。写真撮影等技術的な問題で見苦しい写真で有ったり、不適切な表現等がありましたら、ご容赦のうえご指摘願えればと思います。

六、書籍販売等について

『徳島の剣道』は、編集者のボランティア精神とたゆまぬ努力の上に発行することが出来ています。投稿依頼があった場合、期日に積極的な投稿をお願い致します。期日に遅れますと発行も遅れてしまいます。

また、発行した『徳島の剣道』が完売できますようご協力をお願い致します。

七、徳島の剣道人口の維持・増加について

少子化のため、他のスポーツとも同じですが、剣道人口も減少傾向にあります。剣道人口を維持・増加させるために、会員の皆様が一人でも多くの方にお声掛けをいただきたいと思えます。

特に少年剣道人口を増加させること。また多くの子供が中学・高校と進学し、剣道を続けていけるよう育てて行く必要があります。会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、事務局として経費の節約に努めるとともに、円滑な運営を心掛けていきたいと思えますのでご支援のほど宜しくお願い致します。



支部会員の皆さんからの情報提供のお願い

会員の表彰や訃報・ニュース等々、事務局が把握できていないと思われる事柄について、電話連絡でもかまいませんが、以下をコピーし、ファックスでお送り下さい。

徳島県剣道連盟 事務局 TEL 088-652-2337 FAX 088-682-2360 (24時間OK)

会 長	副会長	理事長	事務局長		
賞揚、報告	(支部行事予定、行事結果、会員の表彰、訃報、怪我等、ニュース 支部役員変更報告等、その他)				
件 名					
年 月 日	平成	年	月	日	
支 部 名	支部				
支 部 長 名					
役員名・会員名					
添 付 資 料	有 ・ 無				
内 容					

徳島県剣道稽古場所一覧（平成30年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00-19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00-21:00 少年（日）18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00-19:45 少年（日）17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00-19:00 一般（水・土）19:00-21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30-21:30 一般（火・土）21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00-21:00 少年（木・土）19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00-19:00 少年（日）9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00-20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30-20:30 少年（土）17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00-20:00 少年（土）9:00-11:00 一般（月）20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年（月・木）19:00-20:30 一般（月）20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00-20:30 一般（木・土）20:30-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00-22:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原 多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00-21:00
	土成町 剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年（火・木・土）19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般（水）19:30-21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	柳谷照男 0883-42-6936	川島中学校体育館	少年・一般（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	柳谷照男 0883-42-6936	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	三木 毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金） 19:00-21:00 一般（火・金） 21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土） 18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木） 18:30-20:30 一般（水） 21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土） 19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川B&G体育館（水・金）	少年（火・水・金） 19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金） 19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金） 19:00-21:00 一般（水） 19:30-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金） 19:00-21:00 一般（水・金） 21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年（火・木・土） 16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年（月・水） 18:00-19:30 （金） 18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木） 19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金） 19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（火・金） 19:00-21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木） 19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日） 18:30-20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金） 19:00-21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水） 19:00-21:00 少年・一般（土） 18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木） 16:30-18:00 一般（水・第2金・第4金） 18:00-20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土 19:30-21:30
	久 武 館	瀬部克好	久武館道場	水・土 19:30-21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
			警察学校体育館	一般 土 9:30-12:00
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00

居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 五段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大瀧道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	錬士・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日 9:30～12:00 (第1・3土曜を除く) 日曜日 9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

編集後記

この編集後記を書く時期になると、「徳島の剣道」発行遅れを叱責する自分と、本来の仕事の合間にしているのだから、しかたないと自分を正当化する自分の葛藤がいつも起こっています。客観的にみると原稿依頼を十二月に行っていますので、六月はじめには余裕をもって発刊できる見通しなのですが、年度末・年度初めは職場業務が立て込んでおり、編集作業がままならないのが実情です。

私の大学時代の先輩に雑誌編集をしている方がおり、編集作業を迅速に進めるために何が必要かと尋ねた事があります。先輩曰く、「お前が本当に好きで、その編集をしているのか」と問われました。二十数年に渡って「徳島の剣道」編集作業をしている中で、どこか気持ちがマンネリ化し、「自分のやりたいうこと」への情熱が薄くなっている自分に気づいた感があります。

私自身、ここまで来たら、次の編集長へのバトンタッチまで、「徳島の剣道」の編集を自分の生きがいにして、使命を全うしたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

『徳島の剣道』第三十四号

編集委員会

西	井	柴	久	別	中	藤	西	三	木
本	内	田	保	宮	村	川	谷	木	原
浩	勝	宗	隆	憲	稔	和	肇		資
章	則	忠	司	治	裕	秋	一	毅	裕

『徳島の剣道』第34号

平成30年 7月30日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 三 木 毅

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360